









細後述スル處アルベシ。

序ニ沿海ノ狀況ニツキ附言センニ茶吳以南ノ沿岸ハ概ネ高サ35m 餘ノ斷崖ニシテ其脚部ニ僅少ノ砂地ヲ殘シ東間串岬附近ニハ砂地ニ岩塊多ク散在スル、泊岸茶吳間ハ4~7mノ崖ヲ爲シ海邊砂地稍々廣ク平時20~50mノ幅アリ、漁業用倉庫等ガ建設セラレテ居ル（演習林設定當時ハ泊岸ノ部落ハ總テ此砂地上ニ在ツタ）泊岸以北ニ於テ砂地狹ク崖高クナリ岩塊ヲ交ヘ終ニハ滿潮時ノ徒歩ヲ妨グルニ至ル、海深ニツキテハ測量ノ結果下ノ如シ。

海岸ヨリノ距離(間)	50	100	150	200	250
古丹岸川口	10	15	20	20	20
泊岸漁業組合事務所下	10	15	18	20	23
	300	350	400	450	500
	25	25	30	35	35
	23	25	25	28	30

海深如斯小ナルモ暗礁無ク海岸ヨリ150間迄ハ砂地ニシテ尙古丹岸河口ノ如キハ海深稍々大ニ且5月乃至8月ノ主風タルSW、9月乃至11月ノ主風タルNEハ夫々古丹岸岬及東間串岬ニ遮ラル、ヲ以テ波浪高カラズ、木材ノ汽船積載ニ對シテハ東海岸中馬群潭ト並ビ稱セラル、適良ノ個所デアル、木材積取船ノ碇泊スル個所ハ下ノ如シ。

積取船噸數	1500	3000	6000
空船	100~150	250~300	400
海岸ヨリノ距離(間)			
滿船	250~300	400	

### 第三章 林 況

#### 第一節 植物調査

林況ノ徹底的調査ヲ行フ爲ニハ先ヅ植物調査、植生調査等ヲ行ハネバナラス、而シテ此事タル一朝一夕ニ調査シ得ル處デ無イ古丹岸園地ニ就キテハ山ノ高キ處ヲ除キタル部分即海岸ヨリ中腹迄ニ關シテハ大體ノ調査ヲ終ヘタ、之ハ目下獨立セル一冊子トシテ發行スベク編輯中ニ屬スルガ故ニ以下タゞ其大要ヲ摘記スルニ止メテ置ク。

##### 第一、常綠針葉樹林

主トシテ洪積層ノ比較的濕潤ナラザル所ニ成立シ演習林ノ大半ヲ占メテ居ル、「エゾマツ」ト「ト



「マツ」トノ混交林ヲ純林ト認ムベキモノハ殆無ク上内藏之助澤ニ於テハ「エゾマツ」特ニ著シク優勢ニシテ極メテ僅ノ「トマツ」ヲ混ズル區域アリ畝富内川下流境界線外ニハ殆ト「マツ」ノ純林ニ近キモノアルモ之等ハ極端ナル例デアツテ多クハ混交歩合一定セザルカ又ハ小群落的ニ相集ツテ居ルモ常ニ「エゾマツ」ノ方ガ樹齡高ク大木ニシテ其量モ多キヲ例トスル。

此種ノ森林モ山地ト平地トデハ趣ヲ異ニシ山地ニ於テハ例ヘバ見晴山及別小走山腹ニ於テ見ル如ク屢々「ガンビ」ヲ群狀又ハ團狀ニ混ジテ居ル、之蓋シ斜面ニ於テ崩壞又ハ風ノ作用ニヨリ一部森林破壊セラレテ土地ノ暴露シタル時ニ其程度ガ小ナレバ「エゾマツ」「トマツ」ガ再ビ其地ヲ占領スルデアラウガ其程度大ナル時ニハ「ガンビ」ガ先ヅ其地ヲ占領スル爲デアラウ、岩壁地ニ於テハ又特殊ノ狀況ヲ示ス事ガアル、例ヘバ見晴山北面ニ於テ「ミヤマハンノキ」ヤ「ナ、カマド」ガ混生シテ居ル「ミヤマハンノキ」ハ概シテ高山頂及海岸ノ崖地ノ如キ比較的水分ノ少ナイ所ニ發見セラル、モノデアルカラ此場合ニ於テハ偶々斯カル暴露セラレタル地ニ山頂附近カラ種子ガ飛來シタモノデアラウ尙コノ種ハ不動澤中流ノ沿岸又ハ古丹岸川中流ノ沖積地ニモ上流カラ下降シテ稀ニ生育スルノヲ見ルコトガアル。

平地ニ於テハ比較的乾燥セル洪積土以外ニ尙濕地ニ於テモ此種森林ヲ見ルガ之蓋シ倒木上ニ生ジタル稚樹ヨリ成立セシモノデアラウ、「エゾマツ」ト「トマツ」トニハ各々種々ノ異レル外觀ヲ示スモノガアル。武田久吉博士ノ新タニ注意セラレタル處デアツテ目下同博士ガ研究中ニ屬スルガ「エゾマツ」ニ於テハ毬果ニ黄綠色ヲ呈スルト極端ナル濃紅色ヲ呈スルト其間數種ノ階程ヲ示スモノトアリ、其樹皮ニモ平滑ナルモノト然ラザルモノトアリ、毬果ノ細部ノ構造、大サ等ニモ各様アリ。而シテ類似ノ事實ガ「トマツ」ニ於テモ同様ニ認メラレタ。之等ノ外觀ノ差違ハ材ノ性質ニモカナリノ關係ヲ有スル様デアル、之等ガ標本的ニ自然ニ配列セルハ上内藏之助澤ノ準保存林ヲ最トスル。

此種森林内ニハ下草ノ生ズル事少ク種類モ僅少ニシテ生ゼルモノモ發育旺盛ナラザルヲ常トスル蓋シ樹冠ノ鬱閉密ナルガ爲デアラウ、寅川トきばらり川トノ合流點附近ノ如キ下草全然無ク一面ニ藓苔ノミガ絨氈ノ如ク布カレテ居ル、多少疎林ヲ爲セル地ニ在リテハ「ミヤマワラビ」「ウサギシダ」「オクヤマシダ」「ナガハノシラネワラビ」等ヲ生ジ或ハ「マルバシモツケ」「ツルツゲ」「ムラサキツリバナ」「ヒロハツリバナ」「オホバスノキ」等ヲモ見ル、尙「エゾマツ」「トマツ」ノ幼樹ト雖灌木狀ニ生育シテ之等ノ所謂下草類ト類似ノ狀態ヲ示セルコトハ特ニ注意ヲ要スル點デアル。

此種森林内ノ植物トシテ著シキハ

- ミヤマワラビ
- ウサギシダ
- オクヤマシダ
- ナガハノシラネワラビ

- ホソバメシダ
  - ウチハマシネスギ
  - アスヒカヅラ
  - タカネスギカヅラ
  - マヒヅルサウ
  - クマバツクバネサウ
  - ウスバサイシン
  - カラフトオホケマン
  - イハツ、ジ
  - ミヤマタニタデ
  - コミヤマカタバミ
  - ゴビンタチバナ
  - リンネサウ
  - エゾノヨツバムグラ
  - ジンエフイチヤクサウ
  - エゾバウフウ
- 等デアリ○印ヲ附セルモノハ針葉樹林内ノ特存植物トモ云フベク其特種ノ景觀ヲ呈セシムル所以ノモノデアラウ。

第二、落葉針葉樹林

「グヒマツ」ヲ主トシ固有ノ下草ト共ニ特異ノ景觀ヲ示ス森林デアツテ邦領樺太ニ殘存セル此種森林ハ今既ニ極メテ少ク演習林ニハ比較的多ク之ヲ保存シテ居ルガ學術上(實用上ニ於テモ)頗貴重ニシテ注意ヲ要スル林相デアル、熊ノ澤附近ニ最優レタル此種森林ヲ見ルガ殆「グヒマツ」ノ純林デシカモ巨大ナルモノ、一齊林デアル、之ニ似タルモノハ古丹岸川右岸ニモアル、概シテ所謂「ツンドラ」地帯即「ミヅゴケ」ノ堆積セル濕地ヲ占領シテオリ林下ニ矮小ナル「エゾマツ」「トマツ」等ガ被歴セラレテ生ゼルヲ見レバ此林相ノ成立當初ニ於テハ之等3種ノ針葉樹ハ孰レモ發生ノ機會ヲ得タルモ立地狀態「グヒマツ」ニ最適當シ他ノ2種ニ不適當ナリシ爲ニ現在ノ如キ林相ニ至レルカヲ思フ、然レドモ泊岸部落背後一面ノ森林ニ見ルガ如ク之等3種ガ混交シテ其間大ナル優劣ノ差ヲ見ザルガ如キ個所モアル、此附近ノ「グヒマツ」ハ概シテねぢれ多ク材ニモ割れガ多イガ前記熊ノ澤附近ノモノハ極メテ良好ナル材質ヲ有シテ居ル、尙上記セル如ク「グヒマツ」ハ「ミヅゴケ」ノ生ゼル如キ水濕地ヲ占領シテ居ルガ必ズシモ好水性ノ植物デハナク唯斯カル土地ニモ其適應性ノ大ナルヲ示シテ居ルモノト考ヘラレル。

下生セル植物ヲ見ルニ泊岸部落背後ノ「グヒマツ」林ニ於テ其最特徴アルハ「ホロムイツ、ジ」「エゾクロウスゴ」「イソツツジ」「ホソバイソツバジ」「ホロムイイチゴ」等ノ群落狀ニ密生セルコトデアアルガ熊ノ澤ノ此種林下ニ於テハ鬱閉甚シキ爲メニ之等ヲ見ル事極メテ少イ、熊ノ澤ニハ「アイヌボウズ」比較的多ク「ヤマドリゼンマイ」ハ少數デアアルガ泊岸部落背後ニ於テハ全然之ニ反シ「ヤマドリゼンマイ」ノ量多ク、殊ニ疎開セル所ニハ夥シク生ジテ獨特ノ光景ヲ示ス。

概言スルニ此種森林下ニ發見セラル、特徴的の植物ハ下記ノ如キモノデアル。

- ヤマドリゼンマイ
- ミツバワウレン
- トナカイリウ
- ホロムイイチゴ
- エゾリウキンクワ
- ミヅバセウ
- オホタカネナカマド
- エゾクロウスゴ
- ホロムイツ、ジ
- ホソバイソツ、ジ
- イソツ、ジ
- ヤチボウズ



ウタスゲ	マヒヅルサウ	ゴゼンタチバナ
○リンネサウ	コケモモ	○イハツ、ジ
フサスギナ等	○印ハ此種林内ノ特存植物トモ云ヘヤウ。	

之等ノ内「ヤマドリゼンマイ」ガ主トシテ濕潤ナル陽地ヲ好ム性質アルニ對シ「トナカイサウ」ハ特ニ「グヒマツ」林内ノ多濕ノ地ヲ好ミ生ジテ居ル、尙此「トナカイサウ」ハ元來北樺太及幌内原野ニノミ存スルモノトセラレテ居タノデアアルガ今回初メテ本演習林内ニ於テ武田久吉博士ニヨリテソノ多量ニ産スルコトヲ發見セラレタノデアアル。

第三、闊葉樹林

河畔ノ沖積土ニ於テ見ラル、モノデ「エゾクロヤナギ」「ドロヤナギ」「ケヤマハンノキ」等ノ混交林デアアルガ往々ニシテ「サウシカンバ」ヲ交ヘル、處ニヨリテ同ジカラズ或ハ疎林ヲ爲シ時ニハ密林ヲ作ル、本流ト藤本川トノ合流點附近ノ如キハ「ケヤマハンノキ」ノ老大木多クシテ「ヤナギ」ノ比較的小ナルモノ混入シ、上内藏之助澤附近ニテハ河岸ニ沿ヒ狭長ナル線狀ニ小ナル「ケヤマハンノキ」密生シ點々「トカチヤナギ」ノ大木ヲ混ジ、楠山附近ニハ「ヤナギ」類ノ純林ヲナシ、其附近農耕地間其他ニ於テハ闊葉樹林内ニ「エゾマツ」「トバマツ」ノ混入ヲ見ルガ之ハ沖積土ガ洪積層ニ接續セル部分ニ當ツテ殊ニ普通デアアル、此附近最近ノ堆積土上ニハ「キヌヤナギ」「ヲノヘヤナギ」ノ稚樹密生シテ將來其純林ノ形成スベキヲ示シテ居ル個所モアル。

「ヤナギ」類ハ「トカチヤナギ」「キヌヤナギ」「ヲノヘヤナギ」「バツコヤナギ」ノ外ニ「エゾクロヤナギ」夥シク生ジ邦内コノ種ヲカク迄多ク生ズル地ハ稀デアラウトサヘ思ハレル。ソノ大ナルモノハ胸高直徑1mニ近く高サモ20mヲ超エルモノガ少クナイ、此外主要ナルモノハ「ケヤマハンノキ」「クロミサンザシ」「エゾニハトコ」「オヒヨウ」「カラフトウハミヅヅクラ」等デアリ下生ニ至リテハ其種類極メテ多ク發生狀態亦頗複雑デアアルカラ別ニ項ヲ設ケテ河畔植物トシテ次ニ記ス。

第四、河畔植物

河岸ニ沿ヘル沖積層上ニ於テ發見セラル、植物中其代表的ナルモノヲ舉グレバ次ノ如シ。

エゾノカハヂサ	アキカラマツ	トクサ	エゾオホヤマハコベ
エゾオホバセンキウ	ヒロハノドジョウツナギ	ハンゴンサウ	ボロナイブキ
エゾムラサキニガナ	エゾノハナウド	ウラジロタデ	トリカブト
ホザキナ、カマド	コンロンサウ	チシマダイコンサウ	オニシモツケ
ハヒキンボウゲ	エゾリウキンクワ	アイヌワサビ	エゾニハトコ
イハノガリヤス	クサヨシ	オホタカネバラ	エゾイラクサ

オニオタカラカウ	ヨブスマサウ	ウラゲヨブスマサウ	オホダイコンサウ
シヤク	カラフトアカバナ		

以上ノ内「エゾリウキンクワ」ハ溪流中ニ生育シ、水邊ニ沿ウテハ「エゾオホバセンキウ」「エゾニハトコ」「ヒロハノドジョウツナギ」「ボロナイブキ」「オニシモツケ」等アリ、所々湧水ノ中ニハ「アイヌワサビ」ノ繁茂スルヲ見ル、開放地ヲ好ミテ繁殖スルモノニ「エゾイラクサ」「ハナウド」「ウラジロタデ」アリ、殊ニ「エゾイラクサ」ノ生ズル所ハ肥沃地ニシテ農耕ニ適シ「オニシモツケ」ノアル處ハ肥沃ニシテ比較的多濕地ナルコト多ク、一般ニ之等植物ノ丈高く繁茂セル處ハ肥沃地ニシテ其生育貧弱ナル處ハ瘠薄地ト見テ差支ナキモノ、ヤウデアアル「カラフトモメンヅル」「イハノガリヤス」ハ楠山附近ノ河原ニ見ルガ此附近及ビ上内藏之助澤申流沿岸ノ斜面ニ於テ從來海岸岩壁ニノミ生ズト認メラレタル「カラフトキングルマ」ヲ發見シタル事ヲ特記シテ置ク、但シ古丹岸川ノ磯ニ生ジタルモノハ上流ノ崖地カラ流下シ來ツテ根着イタモノナルコト論ヲ俟タナイ。

尙熊ノ澤ニオケルガ如ク比較的平坦ナル河岸ニ於テハ往々ニシテ濕潤地ヲ作りカ、ル部分ニハ次ノ如キ濕性植物ノ繁茂ヲ見ル。

カラフトオホナミキサウ	ミラゲイヌゴマ	アザミ類
モミヂカラマツ	ホソバノヨツバムグラ	ヒアブギアヤメ

第五、山火跡地

演習林内ノ山火跡地ハ火災後5年ニ過ギズシテ未ダ多クノ植物ノ發生ヲ見ザルモ最初ニ侵入スルモノハ「エゾイチゴ」及「ヤナギラン」デアリ之ニ續キテ「バツコヤナギ」「ガンビ」ガ來ル。

第六、海岸植物

演習林ノ直接海ニ接シテハ居ラヌガ之ト距ツル事僅々900間ニ過ギヌノデアアルカラ参考ノ爲ニ海岸植物ニ就キテモ記スコト、スル。

泊岸部落ト古丹岸河口トノ間海岸砂地ニ於テ採集シタル海岸ノ特有植物中主要ナルモノハ

ハマハコベ	ハマエンドウ	ハマベンケイサウ	エゾナグルマ
エゾハマアカザ	テンキ	シカギク	シロヨモギ

之ヨリ漸次陸地ニ近付クニ從ヒ

センダイハギ	ヒロハウラジロヨモギ	カラフトキングルマ	ツルキンバイ
--------	------------	-----------	--------

等ヲ見崖地ニハ「ミヤマハンノキ」「カラフトイハナヅナ」「マルバタウキ」「チシマイチゴ」等ヲ生ズルニ至リ鹽生植物ハ漸次ニ減少スル。

第二節 演習林及其附近植物目録



昭和3年7月實習ノ際武田久吉博士指導ノ下ニ學生ガ採集シ作製シタル標品中名稱ノ判明セルモノ  
ノミヲ次ニ舉ゲル、勿論短時間ノ採集デアリ且ツ局部的ノ調査デアルカラ向後漸次追加ヲ必要ト  
スルモノデアル。

羊齒植物 PTERIDOPHYTA.

ノキシノブ科 Polypodiaceae.

- ホソバメシダ *Athyrium filise-femina* Roth.  
産地 樹林 採集地 熊之澤
- オクヤマシダ *Dryopteris amurensis* Crist.  
産地 針葉樹林内陰地 採集地 楠山
- ナガハシラネワラビ *Dryopteris dilatata* A. Gray var. *oblonga* Takeda.  
産地 針葉樹林内 採集地 楠山
- ウサギシダ *Dryopteris Linnæana* C. Christ.  
産地 針葉樹林地 採集地 熊之澤樹林内
- ミヤマワラビ *Dryopteris Phegopteris* C. Christ.  
産地 針葉樹林内陰地 採集地 熊之澤
- クサツテツ *Matteucia Struthiopteris* Todaro.  
産地 湿地 採集地 古丹岸河本流畔林内

ゼンマイ科 Osmundaceae.

- ヤマドリゼンマイ *Osmunda cinnamomea* L.  
産地 湿潤ナル陽地 採集地 泊岸附近ダイマツ林内

トクサ科 Equisetaceae.

- トクサ *Equisetum hiemale* L.  
産地 河畔 採集地 古丹岸河畔林内沖積地
- フサスギナ *Equisetum sylvaticum* L.  
産地 針葉樹林内 採集地 泊岸附近ノ湿地、熊之澤

ヒカゲノカブラ科 Lycopodiaceae.

- タカネスギカブラ *Lycopodium auloninum* L. var. *pungens* Desv.  
産地 針葉樹林内、山地、ツンドラ 採集地 楠山針葉樹林内
- アスヒカブラ *Lycopodium complanatum* L. var. *anceps* Milde.  
産地 樹林内 採集地 古丹岸河畔針葉樹林下
- ウチハマネスギ *Lycopodium obscurum* L. f. *flabellatum* Takeda.  
産地 針葉樹林 採集地 楠山
- タチマンネスギ *Lycopodium obscurum* L. f. *juniperoideum* Takeda.  
産地 開放セル湿地 採集地 泊岸附近湿地

裸子植物 GYMNOSPERMAE.

マツ科 Pinaceae.

- ダイマツ *Larix kamschatka* Carr.

- 産地 湿地、ツンドラ 採集地 泊岸附近
- ハヒマツ *Pinus pumila* Regel.  
産地 山岳、ツンドラ 採集地 泊岸海岸附近、敷香ツンドラ上
- エゾマツ *Picea jesoensis* Carr.  
産地 山地 採集地 楠山
- トママツ *Abies sachalinensis* Masters.  
産地 湿地、高山頂ヲ除ク外一般 採集地 楠山
- リシリビヤクシン *Juniperus nana* Willd.  
産地 島内各所 採集地 榮濱

被子植物 ANGIOSPERMAE.

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae.

- フヒルムシロ *Potamogeton natans* L.  
産地 湖沼低湿地 採集地 敷香網場

禾本科 Gramineae.

- クサヨシ *Phalaris arundinacea* L.  
産地 湿潤ナル草原地 採集地 楠山附近ノ草原地
- オホアハガヘリ *Phleum pratense* L.  
産地 草原 採集地 上内蔵之助澤
- イハノガリヤス *Calamagrostis villosa* Mutel.  
産地 草原地 採集地 古丹岸河畔草原地
- ヤマスカボ *Agrostis perennans* Tuckerm.  
産地 草原 採集地 熊之澤
- カラスムギ *Avena sativa* L.  
産地 路傍、栽培種 採集地 藤本澤上流
- カモガヤ *Dactylis glomerata* L.  
産地 草原 採集地 楠山草原
- ヒロハノドチャウツナギ *Glyceria aquatica* Wahlb.  
産地 河畔、草原、沼地 採集地 楠山草原
- スマメノカタビラ *Poa annua* L.  
産地 村落附近路傍 採集地 楠山路傍
- ミノゴメ *Peckmannia erucaeformis* Host.  
産地 湿地 採集地 熊ノ澤
- カモジグサ *Agropyrum repens* Beauv.  
産地 農作物種子ニ混入シテ來レルモノナラン  
採集地 古丹岸河畔開放地



- テ ン キ *Elymus mollis* Trin.  
産地 海岸砂地 採集地 泊岸海濱
- ス ゲ 科 Cyperaceae.  
サ キ ス ゲ *Eriophorum gracile* Koch.  
産地 泥炭地 採集地 敷香ツundra上
- ウ タ ス ゲ *Eriophorum vaginatum* L.  
産地 泥炭地 採集地 敷香ツundra上、熊之澤グイマツ林下藤本川畔
- ミ ネ ハ リ キ *Scirpus caespitosus* L.  
産地 湿地 採集地 熊之澤湿地
- ハ ク サ ン ス ゲ *Carex canescens* L.  
産地 湿地 採集地 上内蔵之助澤
- カ サ ス ゲ *Carex dispalata* Boott.  
産地 沼澤 採集地 熊之澤
- オ ホ カ サ ス ゲ *Carex laevirostris* Blytt.  
産地 湿地、溪流 採集地 古丹岸河下流域草原
- カ ラ フ ト ミ ヤ マ ク ロ ス ゲ *Carex macrochaeta* C. A. Mey.  
産地 湿地 採集地 泊岸軌道
- ク ロ ス ゲ (ホ ロ ム イ ス ゲ) *Carex Middendorffii* Fr. Schm.  
産地 泥炭地 採集地 藤本澤畔泥炭地
- オ ホ ツ ル ス ゲ *Carex pseudo-loliacea* Fr. Schm.  
産地 湿地 採集地 熊之澤
- シ ユ ミ ッ ツ ス ゲ *Carex Schmidtii* Meinsh.  
産地 河畔卑湿ノ地 採集地 楠山
- オ ニ ナ ル コ ス ゲ *Carex vesicaria* L.  
産地 沼澤草原地 採集地 熊之澤
- テ ン ナ ン シ ヤ ウ 科 Araceae.  
ミ ツ バ セ ウ *Lysichiton camtschaticense* Schott.  
産地 湿地 採集地 熊之澤グイマツ林内
- ザ ゼ ン サ ウ (ダ ル マ サ ウ) *Symplocarpus foetidus* Salisb.  
産地 樹林中湿地 採集地 幌内河本流網場、楠川畔湿地
- ヒ メ カ イ ウ (ミ ツ ザ ゼ ン) *Calla palustris* L.  
産地 湿地 採集地 敷香網場
- キ 科 Juncaceae.  
ハ マ キ (オ ホ イ ス キ) *Juncus balticus* Willd. var. *Haenkei* Buch.  
産地 郡道路傍 採集地 泊岸グイマツ林縁

- ヒ メ カ ウ ガ イ ゼ キ シ ヤ ウ *Juncus bufonius* L.  
産地 湿地 採集地 辨慶澤畔
- キ *Juncus effusus* L. var. *decipiens* Buch.  
産地 湿地 採集地 熊之澤
- ク ロ ボ シ サ ウ *Luzula rufescens* Fisch. var. *macrocarpa* Buch.  
産地 草原地 採集地 泊岸海岸草原
- ユ リ 科 Liliaceae.  
バ イ ケ イ サ ウ *Veratrum album* L. var. *Lobelianum* Reichb.  
産地 湿地 採集地 楠川畔草原湿地
- ギ バ ウ シ *Hosta japonica* Aschers. et Graebn. var. *coerulea* Makino.  
産地 幌内川ツundra 採集地 敷香
- ニ ッ カ ウ キ ス ゲ *Heimerocallis Middendorffii* Trautv. et Mey.  
産地 草原地 採集地 泊岸ヨリ楠山=至ルグイマツ林内湿地熊之澤
- ギ ヤ ウ ジ ヤ ニ ッ ク *Allium Victorialis* L.  
産地 草原地 採集地 楠川畔エゾマツ、トママツ混生林内
- ク ル マ ユ リ *Lilium medeoloides* A. Gray.  
産地 樹林内 採集地 楠川畔林地
- ク ロ ユ リ *Fritillaria camtschaticensis* Ker-Gawl.  
産地 湿潤ナル草原地 採集地 楠川畔ノ草原地
- ツ バ メ オ モ ト *Clintonia udensis* Trautv. et Mey.  
産地 樹林陰地 採集地 古丹岸河畔エゾマツ、トママツ林内、楠山
- ト ナ カ ヒ サ ウ *Smilacina trifolia* Desf.  
産地 原野湿地 採集地 泊岸附近グイマツ林下湿地、熊之澤グイマツ林
- オ ホ マ ヒ ツ ル サ ウ *Majanthemum dilatatum* Nels. et Maabr.  
産地 樹林地 採集地 楠川畔針葉樹林内
- オ ホ ア マ ド コ ロ *Polygonatum officinale* All. var. *Maximowiczii* Maximo.  
産地 草原地 採集地 楠川畔草原地
- ク ル マ バ ッ ク バ ネ サ ウ *Paris quadrifolia* L. var. *obovata* Rgl. et Til.  
産地 山地 採集地 楠川畔草原地
- オ ホ バ ナ ノ エ ン レ イ サ ウ *Trillium kamtschaticum* Pall.  
産地 山野肥沃地 採集地 楠川畔ノ草原地
- ア ヤ メ 科 Iridaceae.  
ヒ ア フ ギ ア ヤ メ *Iris setosa* Pall.  
産地 湿地 採集地 泊岸ヨリ楠山=至ル湿地、熊之澤
- ラ ン 科 Orchidaceae.



- ホツバノキノコドリ *Platanthera tipuloides* Lindl.  
産地 湿地 採集地 敷香ツンドラ上、楠山附近樹林内
- コフタバラン *Listera cordata* R.Br.  
産地 樹林陰地 採集地 楠川上流針葉樹林内
- ヒメミヤマウツラ *Goodyera repens* R.Br.  
産地 樹林溪流附近ノ陰地 採集地 見晴山下
- コイチエフラン *Ephippianthus Schmidtii* Rehb. f.  
産地 針葉樹林陰地藓苔類湿地 採集地 幌内河網場林内陰地
- ヤナギ科 *Salicaceae.*
- ドロヤナギ *Populus Maximowiczii* A. Henry.  
産地 河岸濕潤ノ沃地 採集地 古丹岸河畔
- バツコヤナギ *Salix Bakko* Kimura.  
産地 島内各所 採集地 古丹岸河畔
- フノヘヤナギ(ナガハヤナギ) *Salix sachalinensis* Fr. Schm.  
産地 河岸 採集地 古丹岸河畔
- キノヤナギ *Salix viminalis* L. var. *yezoensis* C. K. Schm.  
産地 河畔 採集地 古丹岸河畔、楠山附近
- トカチヤナギ *Toisusu cardiophylla* var. *Schneideri* Kimura.  
産地 河岸ノ沃地 採集地 古丹岸河畔附近沖積地
- エゾノクロヤナギ(カラフトクロヤナギ) *Chosenia macrolepis* Komarov.  
産地 河畔ノ沖積地 採集地 古丹岸河畔
- ヤマモ、科 *Myricaceae.*
- ヤチヤナギ *Myrica Gale* L. var. *tomentosa* C. DC.  
産地 湿地ツンドラ 採集地 敷香ツンドラ上
- カバノキ科 *Betulaceae.*
- サウシカンバ *Betula Erucani* Cham. var. *genuina* H. Winkl.  
産地 開放地及ビ針葉樹林内 採集地 古丹岸河畔、見晴山
- ヒメカンバ *Betula glandulosa* Michx.  
産地 幌内河畔ツンドラ 採集地 敷香ツンドラ
- シラカンバ *Betula latifolia* Komarov.  
産地 開放地 採集地 熊之澤
- ミヤマハンノキ *Alnus Maximowiczii* Callier.  
産地 山地 採集地 泊岸海岸、見晴山北肩、不動澤
- ケヤマハンノキ *Alnus tinctoria* Sarg.  
産地 山野河岸、溪流附近 採集地 泊岸附近湿地

- ニレ科 *Ulmaceae.*
- オヒヨウ *Ulmus laciniata* Mayr.  
産地 肥沃ナル湿地 採集地 古丹岸河畔
- イラクサ科 *Urticaceae.*
- エゾイラクサ *Urtica platyphylla* Wedd.  
産地 肥沃ナル湿地 採集地 楠山
- タデ科 *Polygonaceae.*
- ヒメスイバ *Rumex Acetosella* L.  
産地 荒蕪地圃場 採集地 楠山
- ミチヤナギ *Polygonum aviculare* L.  
産地 村落、草原地、路傍 採集地 楠山路傍
- ソバカヅラ *Polygonum Convolvulus* L.  
産地 村落附近、荒蕪地 採集地 泊岸海岸
- ケタデ *Polygonum lapathifolium* L. var. *incanum* Ledeb.  
産地 濕潤草原地 採集地 藤本澤沿岸路傍
- ウナギツカミ *Polygonum sagittatum* L. var. *sibiricum* Meisn.  
産地 湿地 採集地 楠山
- ウラジロタデ *Polygonum Weyrichii* Fr. Schm.  
産地 山野 採集地 楠川畔路傍
- アカザ科 *Chenopodiaceae.*
- アカザ *Chenopodium album* L.  
産地 荒蕪地 採集地 古丹岸川附近
- ホツバノハマアカザ *Atriplex litoralis* L. var. *angustissima* Moq.  
産地 海濱 採集地 泊岸海濱
- エゾハマアカザ *Atriplex patula* L.  
産地 海濱 採集地 泊岸海濱
- セキチク科 *Caryophyllaceae.*
- エゾハコベ *Stellaria humifusa* Roth. var. *oblongifolia* Fenzl.  
産地 海岸 採集地 泊岸海濱
- エゾミノフスマ *Stellaria longifolia* Muhl.  
産地 樹林中 採集地 敷香
- ハコベ *Stellaria media* Vill.  
産地 村落附近 採集地 泊岸海岸
- エゾオホヤマハコベ *Stellaria radians* L.  
産地 各地草原地 採集地 古丹岸河畔向陽草原



- エゾフスマ *Stellaria yezoensis* Maxim.  
産地 樹林内陰地ノ溪流附近 採集地 楠川畔針葉樹林内
- ハマハコベ *Ammodenia maior* Kudo.  
産地 海岸砂地 採集地 泊岸海濱
- オホヤマフスマ *Moehringia lateriflora* Fenzl.  
産地 草原、海岸傾斜地 採集地 泊岸海岸
- シラタマサウ *Silene vulgaris* Garcke.  
産地 村落附近 採集地 熊之澤
- マツヨヒセンノウ *Lychnis alba* Mill.  
産地 圃場、農産種子ト共ニ輸入セラレタルモノナラン  
採集地 熊之澤
- ウマノアシガタ科 *Ranunculaceae.*
- ベニバナヤマシヤクヤク *Paeonia obovata* Maxim.  
産地 山野樹林高燥ノ沃地 採集地 上内蔵之助澤ノ崖地
- エゾリウキンクワ *Caltha palustris* L. var. *gigas* Lével.  
産地 湿地溪流ノホトリ 採集地 楠山附近ノ湿地
- ミツバウレン *Coptis trifolia* Salisb.  
産地 湿润ナル針葉樹林中 採集地 泊岸ヨリ楠山ニ至ルグイマツ林内
- アカミノレキエフシヨウマ *Actaea spicata* L. var. *erythrocarpa* Turcz.  
産地 山中樹林中 採集地 見晴臺下針葉樹林中
- サラシナシヨウマ *Cimicifuga simplex* Wormsk.  
産地 山野樹林中 採集地 見晴臺下樹林
- オホチシマトリカブト *Aconitum maximum* Reichb.  
産地 闊葉樹林疎開地 採集地 楠山
- エゾノレイジンサウ *Aconitum pallidum* Reichb.  
産地 湿润ナル半陰地 採集地 見晴山北麓
- ヒメイチゲサウ *Anemone debilis* Fisch.  
産地 針葉樹林下藪類中 採集地 見晴臺下針葉樹林内
- ハヒキンバウゲ *Ranunculus repens* L.  
産地 湿地 採集地 古丹岸河畔路傍
- アキカラマツ *Thalictrum Thunbergii* DC.  
産地 草原地 採集地 楠山
- モミヂカラマツ *Trautvetteria japonica* S. et Z.  
産地 溪流附近ノ陰地 採集地 楠川畔、古丹岸川上流ノ沿岸、熊之澤上流湿地
- ケシ科 *Papaveraceae.*

- クサノワウ *Chelidonium majus* L.  
産地 村落附近ノ路傍 採集地 楠澤路傍
- カラフトオホケマン *Corydalis gigantea* Trautv. et Mey. var. *amurensis* Rgl.  
産地 針葉樹林中ノ陰地 採集地 楠山附近針葉樹林縁
- 十字花科 *Cruciferae.*
- スカシタゴバウ *Nasturtium palustre* DC.  
産地 溝中等 採集地 楠山
- コンロンサウ *Cardamine dasyloba* Miq.  
産地 山野、樹林ノ陰地 採集地 古丹岸川畔
- アイヌワサビ *Cardamine yezoensis* Maxim.  
産地 山間清澄ナル溪流附近 採集地 藤本澤湧水地
- カラフトイハナツナ *Draba borealis* DC. var. *genuina* Rgl. et Til.  
産地 海岸岩壁 採集地 泊岸海岸
- マウセンゴケ科 *Droseraceae.*
- ナガバノマウセンゴケ *Drosera anglica* Huds.  
産地 北方湿地 採集地 敷香、ウンドラ
- マウセンゴケ *Drosera rotundifolia* L.  
産地 湿地 採集地 楠山附近ノ低湿地
- ベンケイサウ科 *Crassulaceae.*
- ホソバノキリンサウ *Sedum Aizoon* L.  
産地 草原地 採集地 楠川畔
- ホソバイハベンケイ(ナガバノイハベンケイ) *Sedum Rhodiola* DC. var. *elongatum* Maxim.  
産地 岩上 採集地 別小走山岩壁
- カラフトミセバヤ *Sedum Telephium* L. var. *pluricaule* Maxim.  
産地 岩上 採集地 楠川上流ノ崖地
- ミツバベンケイサウ *Sedum verticillatum* L.  
産地 草原地 採集地 上内蔵之助澤
- ユキノシタ科 *Saxifragaceae.*
- シコタンサウ *Saxifraga bronchialis* L. var. *cherlerioides* Engl.  
産地 岩上 採集地 古丹岸河上流崖地
- エゾスグリ *Ribes latifolium* Jancz.  
産地 山野樹林中 採集地 藤本川畔疎開地
- カラフトスグリ *Ribes rubrum* L. var. *pubescens* Swartz.  
産地 島内一般 採集地 古丹岸河畔疎開地
- トガスグリ *Ribes sachalinense* Nakai.  
産地 山野樹林中 採集地 楠川畔松林中



## イバラ科 Rosaceae.

- マルバシモツケ *Spiraea betulaeifolia* Pall.  
産地 山地、ツンドラ 採集地 泊岸ヨリ楠小屋=至ル湿地
- ホザキシモツケ *Spiraea salicifolia* L. var. *lanceolata* Torr. et Gr.  
産地 低湿地 採集地 古丹岸河下流ノ湿地
- ヤマブキシヨウマ *Aruncus sylvester* Kostel var. *americana* Michx.  
産地 東部各地 採集地 古丹岸河畔路傍
- ホザキナナカマド *Sorbaria sorbifolia* A. Br. var. *stellipila* Maxim.  
産地 闊葉樹林中 採集地 古丹岸河畔
- ナナカマド *Sorbus japonica* Koehne.  
産地 闊葉樹林中 採集地 見晴臺下
- オホミヤマナナカマド *Sorbus sambucifolia* Roem.  
産地 山地 採集地 楠山
- クロミサンザシ *Crataegus chlorosarca* Maxim.  
産地 湿地 採集地 古丹岸河畔
- チシマイチゴ *Rubus arcticus* L.  
産地 湿地、ツンドラ及ビ乾燥原野 採集地 泊岸海岸ノ傾斜地
- ホロムイイチゴ *Rubus Chamaemorus* L.  
産地 湿地、ツンドラ 採集地 泊岸ヨリ楠山=至ル落葉樹林内、湿地
- エゾイチゴ *Rubus Idaeus* L. var. *aculeatissimus* Rgl. et Til.  
産地 低湿地ヲ除キ山野特ニ山燒跡地 採集地 燒千山
- クロバナラウゲ *Comarum palustre* L.  
産地 湿地及ビ湖沼ノ水邊 採集地 泊岸海岸湿地
- ウルキンバイ *Potentilla Anserina* L.  
産地 砂地、海岸 採集地 數香チヨロナイ川河原
- キジムシロ *Potentilla fragarioides* L. var. *Sprengeliana* Maxim.  
産地 海岸 採集地 泊岸海岸
- ツルキジムシロ *Potentilla fragarioides* L. var. *stolonifera* Maxim.  
産地 海岸 採集地 泊岸海岸
- エゾノミツモトサウ *Potentilla monspeliensis* L.  
産地 村落、市街附近ノ路傍 採集地 數香
- コキンバイ *Waldsteinia ternata* Fritsch.  
産地 針葉樹林中ノ陰地 採集地 楠山
- オホダイコンサウ *Geum aleppicum* Jacq.  
産地 山野 採集地 燒千山山麓

- チシマダイコンサウ *Geum Fauriei* Lével.  
産地 南部一帯 採集地 楠川畔ノ路傍
- オニシモツケ *Filipendula kamtschatica* Maxim. f. *typica* Koidz.  
産地 溪流附近、樹陰低湿地 採集地 楠川畔疎開地
- ウラジロシモツケサウ *Filipendula palmata* Maxim.  
産地 溪流河岸、闊葉樹林地 採集地 燒千山山麓
- ナガボノシロワレモコウ *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. var. *alba* Trautv. et Mey.  
産地 湿地 採集地 泊岸海岸
- オホタカネバラ *Rosa acicularis* Lindl. var. *Gmelini* C. K. Schu.  
産地 山野 採集地 泊岸附近
- カラフトバラ *Rosa davurica* Pall.  
産地 原野 採集地 泊岸村附近開放地
- ハマナシ *Rosa rugosa* Thunb.  
産地 海岸 採集地 海岸
- カラフトウハミツザクラ *Prunus Padus* L. var. *pubescens* Rgl.  
産地 河岸闊葉樹林帯 採集地 楠澤
- エゾノウハミツザクラ *Prunus Padus* L. var. *typica* Koehne.  
産地 河畔闊葉樹林中 採集地 楠山
- マメ科 Leguminosae.
- センダイハギ *Thermopsis fabacea* DC.  
産地 海岸隨所 採集地 數香チヨロナイ川畔
- アカツメクサ *Trifolium pratense* L.  
産地 市街地附近 採集地 古丹岸河下流農耕地附近路傍
- クサフヂ *Vicia Cracca* L. var. *japonica* Miq.  
産地 開放草原 採集地 古丹岸河原
- ハマエンドウ *Lathyrus maritimus* Bigel.  
産地 海岸砂地 採集地 泊岸海岸
- ベニザラサ *Lathyrus palustris* L. var. *pilosus* Ledeb.  
産地 河岸ノ湿地、草原地 採集地 焼内河本流網場
- カラフトモメンヅル *Astragalus paragyocyphyllos* Boiss.  
産地 河岸、砂地及ビ山地 採集地 古丹岸河原
- カタバミ科 Oxalidaceae.
- コミヤマカタバミ *Oxalis Acetosella* L.  
産地 針葉樹林中ノ陰地 採集地 楠山
- ガンカウラン科 Empetraceae.



- ガンカウラン *Empetrum nigrum* L.  
産地 海岸砂地ツンドラ上 採集地 楠山附近電信線路上
- モチノキ科 *Aquifoliaceae*.  
ツルツグ *Ilex rugosa* Fr. Schm.  
産地 針葉樹林中 採集地 泊岸ヨリ内路ニ至ル針葉樹林縁
- ニシキマ科 *Celastraceae*.  
ヒロハツリバナ *Euonymus macroptera* Rupr.  
産地 針闊混生林中 採集地 別小走山
- ムラサキツリバナ *Euonymus sachalinensis* Maxim.  
産地 針葉樹林 採集地 (見晴山北麓)? 上内蔵之助澤
- カヘデ科 *Aceraceae*.  
ヲガラバナ *Acer ukurunduense* Trautv. et Mey.  
産地 針、闊葉樹林中 採集地 泊岸ヨリ楠山ニ至ル棧道附近
- ホウセンクワ科 *Balsaminaceae*.  
キツリフネ *Impatiens Noli-tangere* L.  
産地 湿地 採集地 楠山附近ノ路傍
- サルナシ科 *Dilleniaceae*.  
ミヤママタビ *Actinidia Kolomikta* Maxim.  
産地 樹林中 採集地 上内蔵之助澤
- アカバナ科 *Oenotheraceae*.  
ヤナギラン *Epilobium angustifolium* L.  
産地 草原地特ニ山燒跡地 採集地 泊岸附近
- カラフトアカバナ *Epilobium glandulosum* Lehm.  
産地 湿地 採集地 敷香
- ヒメソバアカバナ(新稱) *Epilobium lineare* Muehl.  
産地 濕原 採集地 泊岸グイマツ皆伐地
- ソバアカバナ *Epilobium palustre* L.  
産地 濕原 採集地 泊岸グイマツ皆伐地
- ミヤマタニタデ *Circaea alpina* L.  
産地 山中樹林陰地 採集地 楠山林内
- 繖形科 *Umbelliferae*.  
シヤク *Anthriscus sylvestris* Hoffm.  
産地 山野草原地 採集地 楠山附近ノ路傍
- ドクゼリ *Cicuta virosa* L.  
産地 沼澤瀧水中 採集地 熊ノ澤湿地
- エゾパウフウ *Aegopodium alpestre* Ledeb.

- 産地 林内陰地 採集地 古丹岸河畔林内陰地
- マルバタウキ *Ligusticum scoticum* L.  
産地 海岸 採集地 泊岸海岸
- ホソバセンキウ *Angelica Maximowiczii* Benth.  
産地 針葉樹林内ノ陰地(最南部ヲ除ク) 採集地 古丹岸河畔路傍開放地
- エゾオホバセンキウ *Angelica refracta* Fr. Schm.  
産地 湿地 採集地 藤本澤路傍ノ湿地
- エゾニウ *Angelica ursina* Maxim.  
産地 山野草原 採集地 楠山
- ハナウド *Heraclium lanatum* Michx.  
産地 山野 採集地 楠川畔
- エゾノハマウド *Coelopleurum Guelini* Ledeb.  
産地 海岸 採集地 泊岸海岸
- ミヅキ科 *Cornaceae*.  
ゴゼンタチバナ *Cornus canadensis* L.  
産地 針葉樹林内 採集地 楠川畔林内
- エゾゴゼンタチバナ *Cornus suecica* L.  
産地 湿地、ツンドラ、山頂 採集地 敷香ツンドラ
- イチヤクサウ科 *Pyrolaceae*.  
ジエフイチヤクサウ *Pyrola renifolia* Maxim.  
産地 針葉樹林内 採集地 見晴臺下
- シヤクナゲ科 *Ericaceae*.  
イツツ、ジ *Ledum palustre* L. var. *dilatatum* Wahlb.  
産地 湿地、ツンドラ 採集地 泊岸ヨリ楠山ニ至ル樹林中
- ホソバイツツ、ジ *Ledum Palustre* L. var. *vulgare* Ledeb.  
産地 北部ノ湿地、ツンドラ 採集地 泊岸附近、針葉樹林中
- ヒメシヤクナゲ *Andromeda polifolia* L.  
産地 湿地、ツンドラ 採集地 敷香ツンドラ上
- ホロムイツ、ジ(ヤチツ、ジ) *Chamaedaphne calyculata* Moench.  
産地 湿地、ツンドラ 採集地 楠山附近ノグヒマツ林下
- ヒメツルコケモモ *Oxycoenus microcarpus* Turcz.  
産地 湿地、ツンドラ 採集地 敷香ツンドラ上
- ツルコケモモ *Oxycoenus vulgaris* Hill.  
産地 湿地、ツンドラ 採集地 敷香ツンドラ上
- エゾクロウスゴ *Vaccinium Chamissonis* Bong.  
産地 山地、湿地 採集地 楠川畔林内一般



- オホバスノキ *Vaccinium hirtum* Thunb. var. *Smallii* Maxim.  
産地 山野 採集地 楠山樹林中
- イハツツジ *Vaccinium praestans* Lamb.  
産地 山中樹林中 採集地 泊岸附近落葉樹林内
- クロマメノキ *Vaccinium uliginosum* L.  
産地 湿地、ツンドラ 採集地 泊岸附近ノ林内
- コケモモ *Vaccinium Vitis-Idaea* L.  
産地 山地、湿地、海岸 採集地 泊岸附近
- サクラサウ科 *Primulaceae.*  
サクラサウモドキ *Cortusa Matthioli* L.  
産地 溪流附近 採集地 見晴臺下、古丹岸川上流
- ヒロハクサレダマ *Lysimachia vulgaris* L. var. *typica* R. Knuth.  
産地 稍湿润ナル草原地 採集地 数 香
- ヤナギトラノヲ *Naumburgia thyrsoflora* Reichb.  
産地 山地、沼澤 採集地 鏡内川本流網場トマツ林下
- ツマトリサウ *Trientalis europaea* L. var. *eurasiatica* R. Knuth.  
産地 樹林地内草原 採集地 泊岸ヨリ楠山ニ至ル樹林地内
- ハナシノブ科 *Polemoniaceae.*  
カラフトハナシノブ *Polemonium coeruleum* L. var. *laxiflorum* Miyabe et Kudo.  
産地 斜面 採集地 上内蔵之助澤沿岸ノ斜地、別小走山
- ムラサキ科 *Borraginaceae.*  
ミヤマワスレナサウ *Myosotis sylvatica* Hoffm.  
産地 湿润ナル樹林地 採集地 楠川河畔
- ハマベンケイサウ *Mertensia maritima* G. Don subsp. *asiatica* Takeda.  
産地 海濱砂地 採集地 泊岸海岸
- シソ科 *Labiatae.*  
カラフトオホナミキサウ *Scutellaria galericulata* L. var. *genuina* Rgl.  
産地 湿地 採集地 熊之澤湿地
- ヲドリコサウ *Lamium album* L. var. *barbatum* Fr. et Sav.  
産地 草原地(中央以南) 採集地 楠川畔路傍
- シラゲイモゴマ *Stachys aspera* Michx. var. *baicalensis* Maxim.  
産地 草原 採集地 熊之澤湿地
- ゴマノハグサ科 *Serophulariaceae.*  
ウンラン *Linaria japonica* Miq.  
産地 海岸 採集地 泊岸海岸
- エゾノカハヂサ *Veronica americana* Schwein.

- 産地 湿地、小河流(东北部ヲ除ク) 採集地 藤本川畔疎開地
- ルリトラノヲ *Veronica longifolia* L. var. *subsessilis* Miq.  
産地 海岸 採集地 楠川畔
- キクバクハガタサウ *Veronica Schmidtiana* Rgl.  
産地 海岸又ハ山地岩石上 採集地 上内蔵之助澤
- シホガマキク *Pedicularis resupinata* L.  
産地 草原地 採集地 泊岸海岸
- ハマウツボ科 *Orobanchaceae.*  
オニク *Boschniakia glabra* C. A. Mey.  
産地 ミヤマハンノキ及ビケヤマハンノキノ根ニ寄生  
採集地 藤本澤畔ケヤマハンノキ林下
- オホバコ科 *Plantaginaceae.*  
オホバコ *Plantago major* L. var. *asiatica* Deene.  
産地 路傍市街地 採集地 楠山
- アカネ科 *Rubiaceae.*  
エゾキメタサウ *Galium boreale* L. var. *kamtschaticum* Maxim.  
産地 草原地 採集地 楠山附近ノ路傍
- エゾノヨツバムグラ *Galium kamtschaticum* Stell. var. *hirsutum* Takeda.  
産地 島内一般 採集地 見晴臺下エゾマツ、トマツ林内
- ホソバノヨツバムグラ *Galium trifidum* L.  
産地 湿地 採集地 熊之澤湿地
- クルマムグラ *Galium trifloriforme* Komarov.  
産地 林中、路傍 採集地 楠川畔林内
- スヒカツラ科 *Caprifoliaceae.*  
エゾニハトコ(コブノキ) *Sambucus Buergeriana* Blume.  
産地 湿地 採集地 楠山附近疎開地
- リンネサウ *Linnaea borealis* L.  
産地 樹林内 採集地 楠川畔、エゾマツ林内
- チシマヘウタンボク *Lonicera Chamissoi* Bunge.  
産地 山野樹林地 採集地 別小走山頂
- ネムロブシダマ *Lonicera chrysantha* Turcz.  
産地 樹林地 採集地 古丹岸川畔ノ林縁
- ベニバナヘウタンボク *Lonicera sachalinensis* Nakai.  
産地 山野 採集地 楠川畔ノ路傍
- ウコンウツキ *Diervilla Middendorffiana* Carr.  
産地 山間溪流附近 採集地 見晴臺下、古丹岸川畔



- レンブクサウ科 Adoxaceae.  
 レンブクサウ *Adoxa Moschatellina* L.  
 産地 樹林陰地、草叢 採集地 泊岸海岸
- ウリ科 Cucurbitaceae.  
 ミヤマニガウリ *Schizopepon bryoniaefolius* Maxim.  
 産地 南部一般、闊葉樹林ノ陰地 採集地 楠川畔
- キキヤウ科 Campanulaceae.  
 サハギキヤウ *Lobelia sessilifolia* Lamb.  
 産地 濕地 採集地 敷香
- キク科 Compositae.  
 アキノキリンサウ *Solidago Virga-aurea* L.  
 産地 乾燥セル山野 採集地 泊岸海岸
- エゾムカシヨモド *Erigeron kamtschaticum* DC. var. *hirsutum* Fr. Schm.  
 産地 草原 採集地 上内蔵之助澤
- ヤマハハコ *Anaphalis margaritacea* Benth. et Hook.  
 産地 乾燥セル開陽草原地 採集地 古丹岸河畔開放地
- エゾノコギリサウ *Achillea Ptarmica* L. var. *speciosa* Herd.  
 産地 開放セル濕潤ナル草原地 採集地 泊岸海岸
- ノコギリサウ *Achillea sibirica* Ledeb.  
 産地 島内一般 採集地 幌内河本流細揚川岸
- シカギク *Matricaria ambigua* Miyabe.  
 産地 海岸 採集地 泊岸海岸砂地
- オロシヤギク(コシカギク) *Matricaria discoidea* DC.  
 産地 村落附近 採集地 楠山路傍
- コハマギク *Chrysanthemum arcticum* L.  
 産地 海邊ノ砂石岩上、潮水ノ來ル草原濕地  
 採集地 チヨロナイ川河原
- ヒロハウラジロヨモド *Artemisia samamisia* Bess.  
 産地 海岸 採集地 泊岸海岸
- シロヨモド *Artemisia Stelleriana* Bess.  
 産地 海岸砂地 採集地 泊岸海岸
- ホソバエゾヨモド *Artemisia vulgaris* L. var. *coarctata* Bess.  
 産地 海岸砂地 採集地 敷香市街地
- エゾヨモギ *Artemisia vulgaris* L. var. *kamtschatica* Bess.  
 産地 草原 採集地 古丹岸川沿岸、楠山
- ボロナイブキ *Petasites palmatus* A. Gray.

- 産地 濕地、河岸 採集地 古丹岸河畔
- オホウサギギク(カラフトキングルマ) *Arnica sachalinensis* A. Gray.  
 産地 海岸、草原、傾斜地 採集地 上内蔵之助澤、古丹岸河嶺
- ミミカウモリ *Cacalia auriculata* DC. var. *kamtschatica* Maxim.  
 産地 山野草原地 採集地 見晴臺下
- ヨブスマサウ *Cacalia hastata* L. var. *glabra* Ledeb.  
 産地 河岸、草原地 採集地 楠山
- ウラゲヨブスマサウ *Cacalia hastata* L. var. *pubescens* Ledeb.  
 産地 多濕ナル草原地 採集地 古丹岸河畔
- キロン *Senecio nemorensis* L. var. *octoglossus* Koch.  
 産地 海岸及び河岸 採集地 上内蔵之助澤
- ハンゴンサウ *Senecio palmatus* Pall.  
 産地 山野草原 採集地 楠山附近開放地
- エゾラグルマ *Senecio Pseudo-Arnica* Less.  
 産地 海濱 採集地 泊岸海岸
- オノフタカラコウ *Ligularia speciosa* Fisch. et Mey.  
 産地 草生地 採集地 藤本澤
- トナカイアザミ *Saussurea acuminata* Turcz.  
 産地 樹林地陰地 採集地 見晴山下
- ヒロハヒメヒゴタイ *Saussurea japonica* DC. var. *latifolia* Maxim.  
 産地 草原 採集地 熊之澤
- エゾアザミ *Cirsium Weyrichii* Maxim.  
 産地 濕潤ナル草原地 採集地 熊之澤
- カラフトヤマボクチ *Serratula atriplicifolia* Benth. et Hook. var. *incislobata* (DC.)  
 産地 乾燥セル草原地 採集地 泊岸海岸
- カウゾリナ *Picris japonica* Thunb.  
 産地 山野草原 採集地 泊岸海岸
- エゾムラサキユガナ *Lactuca sibirica* Benth.  
 産地 山野草原 採集地 古丹岸河畔開放地

### 第三節 林況ノ概要

#### 第一、古丹岸園地

樺太ノ主要林木タル「エゾマツ」及「トドマツ」ハ其原生林々相所ニヨリテ同ジカラズ、混交歩合、林齡、樹高、直徑、單位面積ノ材積、腐朽程度、他樹種ヲ混ズル歩合其他ノ點ニ於テ各地ノ森林孰レ



モ著シク異ツテ居ル。而シテ之ヲ極メテ概括的ニ云フ時ハ古丹岸園地ニ於テハ其單位面積ノ材積樺太ノ他ノ地方ニ比シ多ク直徑亦平均シテ大ニシテ即島内稀ニ見ル美林ト稱スルヲ妨グズト雖腐朽ノ程度ニ至リテハ決シテ僅少ニ非ズ、他樹種ヲ混ズル歩合ニ於テハ他地方ニ於ケルト大差ナク即河川沿岸ニハ針葉樹少ク闊葉樹多クシカモ針葉樹中ニハ「グヒマツ」著シク存シ、山腹ニ於テハ殆「エゾマツ」ト「トドマツ」トノ2種ノミニシテ他樹種ヲ混ゼズ、山頂ニ近付クニ從ツテ「ガンビ」其他ノ闊葉樹ヲ混ズルニ至ルコト前節ニ於テ詳細ニ説キタル如クデアアル。

(1) 山頂ノ針闊混交林ハ大凡海拔550m以上ノ地ヲ占メ比較的短小ナル「エゾマツ」「トドマツ」「ガンビ」ヲ主トシ「ガンビ」ハ南面陽燥ノ地ニ多クシテ甚シキハ60%ノ混交度ヲ有スルコトモアルガ北面陰濕ノ地ニハ少ク20%ヲ出デス、而シテ「エゾマツ」ト「トドマツ」トノ混交歩合ハ處ニヨリ異ルモ「エゾ」60—65%「トド」35—40%ナルヲ通例トスル、針葉樹多キ地ハ鬱閉完全ニシテ蘚苔類厚ク地表ヲ被ヒ濕氣ニ富ムモ闊葉樹多キ地ハ疎開シテ小灌木多ク龜ノ澤上流新開川分水線附近、別小走山頂東南面ニハ雜草著シクシテ小面積宛ノ無立木地ガアル、本帶ニ於ケル1ha當リノ材積ハ大凡下ノ如キモノデアラウ。

地位	エゾマツ及トドマツ(m <sup>3</sup> )	其他(m <sup>3</sup> )
上	85	28
中	58	25
下	40	17

但此内20—30%ハ腐朽木ニシテ健全木ト雖次帶ノモノニ比スレバ樹幹短小利用價值劣ル

(2) 山腹ノ針葉樹林ハ本園地ノ大部分ヲ占メ材積ニ於テ「エゾマツ」80—85%「トドマツ」15—20%本數ニ於テ前者ハ60%後者ハ40%ナルヲ平均トスル、稚樹ニ於テハ「トドマツ」著シク多ク幼時ノ生長ニ於テモ亦「トドマツ」ハ「エゾマツ」ニ比シ旺盛ナレドモ現在林相(樹齡100—120年)ニ於テハ兩樹種ノ混交上記ノ如ク尙「トドマツ」ノ150年以上直徑30cm以上ナルモノ極メテ乏シキニ拘ハラズ「エゾマツ」ノ200年生以上直徑60cm以上ナルモノ決シテ稀デ無イ。鬱閉完全ナル地ニハ蘚苔類地表ヲ被フテ其深サ10—20cm一面ニ絨氈ヲ敷ケル如ク疎開地ニハ下草、灌木ノ發生ヲ見ル、本帶ニ於ケル1ha當リ材積ハ次ノ如キヲ平均トスル。

地位	「エゾマツ」及「トドマツ」(m <sup>3</sup> )
上	360
中ノ上	280
中	220

中ノ下	170
下	140

但此内20—25%ハ腐朽木デアアル。

(3) 平地ノ森林ハ洪積層ニ於テハ「エゾマツ」及「トドマツ」林、沖積層ニ於テハ闊葉樹林、所謂つんどら地帯ニハ「グヒマツ」林ト大凡3種ニ區別シ得ルガ之等ガ多少推移シテ混交セルモアリ、闊葉樹林ノ如キハ河畔ト然ラザルトニヨリテ大ニ其種ヲ異ニスレドモ便宜上次ノ4種ニ分チ記セバ

a. 「エゾマツ」及「トドマツ」林ハ前者80%後者20%ノ混交ヲ普通トシ林相概シテ山腹ノモノニ劣ツテ居ル、泊岸部落背後ヨリ續キテ別小走山ノ東麓ニ擴ガリ共1ha當リ材積ハ

地位	「エゾマツ」及「トドマツ」(m <sup>3</sup> )
上	220
中	180
下	110

但此内15—20%ハ腐朽木デアアル。

b. 「エゾマツ」「トドマツ」「グヒマツ」林ハ概シテ之ヲ云ヘバ泊岸部落背後ヨリ南ニ古丹岸川下流ヲ經テ演習林ノ南界ニ及ビ常線ト落葉トノ針葉樹ガ相競フテ優越セントシ立地ノ關係上其競争結果ハ或ハ(a.)ニ記シタル常線針葉樹林トナリ又ハ(c.)ニ記サントスル落葉針葉樹林トナルノデアラウガ其中間各階程ノモノヲ纏メテ此處ニ述ブレバ現在ニ於テハ「グヒマツ」尙一般ニ優勢ニシテ40—70%ヲ占メ「エゾマツ」ハ20—50%、「トドマツ」ハ0—10%ヲ平均數トスル、蓋シ漸次常線樹ガ優勢トナルニ非ザルヤト思考セラレ(勿論今後ノ研究ニ俟ツ所多ク現在ニ於テハ單ナル想像ニ過ギザルモ)斯クノ如キハ學術上將又實用上貴重ナル「グヒマツ」ノ爲ニ惜ムベキ事ナルヲ思フノデアアルガ現存林木ニツキ之ヲ見レバ「エゾマツ」「トドマツ」ニハ良幹乏シク稚樹ハ處ニヨリ一様デ無イ。

c. 「グヒマツ」林ハ前記ノ(b.)ノ森林中ニ塊團狀ニ介在シ古丹岸本流以南ニ於テ優良ナルモノ多ク蓄積亦多キモ本流以北ニ於テハ腐朽多ク單位面積ノ蓄積亦少イ。

d. 闊葉樹林ハ河畔ニ接シテハ「ヤナギ」類多ク之ト離レテ所謂野地ニ於テハ「ハンノキ」ノ類ヲ多シトスル、林相一樣ナラズ材積亦所ニヨリ大差アルモ

地位	闊葉樹(m <sup>3</sup> )
上	85
中	55
下	15



ト思ヘバ大體トシテ大差ハアルマイ。

(4) 未立木地ハ火災跡地ヲ除ケバ沼地ニ之ヲ見ルノミデアリ分水線附近極小面積宛ノ未立木地ハ殆問題トナラヌ。

次ニ本圃地内各種ノ林相ヲ呈セル個所ニツキ標準地ヲ撰ビテ調査セル結果ヲ舉ゲル。

1. 山頂針闊混交林、寅川東股、地位上、面積0.992ha

直徑	エゾマツ		トヤマツ		白樺		合計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	16	1.380	12	1.035	3	0.234	31	2.649	2.671
6"	12	1.803	18	2.705	8	1.024	38	5.532	5.578
7"	10	2.393	8	1.914	9	1.728	27	6.035	6.085
8"	18	6.211	12	4.141	12	3.339	42	13.691	13.805
9"	16	7.658	9	4.308	10	3.812	35	15.778	15.909
10"	12	7.480	2	1.247	8	4.096	22	12.823	12.930
11"	24	19.033	2	1.586	14	9.350	40	29.969	30.218
12"	9	8.790	2	1.953			11	10.743	10.833
13"	7	8.198					7	8.198	8.266
14"	2	2.799					2	2.799	2.822
計	126	65.745	65	18.889	64	23.583	255	108.217	109.117

2. 山腹針葉樹林、寅川南股、地位中、面積0.992ha

直徑	エゾマツ		トヤマツ		合計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	28	2.571	31	2.847	59	5.418	5.463
6"	26	4.196	20	3.228	46	7.424	7.486
7"	24	6.077	28	7.090	52	13.167	13.277
8"	32	11.576	17	6.150	49	17.726	17.874
9"	31	15.441	15	7.471	46	22.912	23.103
10"	41	26.583	0	0	41	26.583	26.805
11"	16	13.134	7	5.735	23	18.869	19.026
12"	28	28.205	4	4.029	32	32.234	32.503
13"	24	28.784			24	28.784	29.023

直徑	エゾマツ		トヤマツ		計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
14寸	8	11.531			8	11.531	11.627
15"	9	15.202			9	15.202	15.328
計	267	163.300	122	36.550	389	199.850	201.515

3. 山腹針葉樹林、寅川北股中間、地位中ノ下、面積0.992ha

直徑	エゾマツ		トヤマツ		合計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	7	0.643	17	1.561	24	2.204	2.222
6"	4	0.646	9	1.453	13	2.099	2.116
7"	13	3.292	26	6.583	39	9.875	9.957
8"	15	5.426	17	6.149	32	11.575	11.671
9"	15	7.471	26	12.950	41	20.421	20.591
10"	16	10.374	30	19.451	46	29.825	30.074
11"	20	16.418	4	3.284	24	19.702	19.866
12"	36	36.263			36	36.263	36.565
13"	23	27.584			23	27.584	27.814
14"	7	10.090			7	10.090	10.174
15"	16	27.025			16	27.025	27.250
16"	3	5.852			3	5.852	5.901
計	175	151.084	129	51.431	304	202.515	204.201

4. 山腹針葉樹林、キバラリ川東西股附近、地位中、面積0.992ha

直徑	エゾマツ		トヤマツ		合計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	2	0.206	15	1.544	17	1.750	1.765
6"	6	1.052	16	2.805	22	3.857	3.889
7"	11	2.969	17	4.589	28	7.558	7.621
8"	17	6.433	18	6.812	35	13.245	13.355
9"	10	5.176	16	8.281	26	13.457	13.569



直 徑	エゾマツ		トママツ		計		1ha 當り 材積(m <sup>3</sup> )
	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	
10寸	20	13.412	12	8.047	32	21.459	21.638
11"	17	14.381	3	2.538	20	16.919	17.060
12"	19	19.721	4	4.152	23	23.873	24.072
13"	18	22.590	1	1.255	19	23.845	24.044
14"	10	14.943			10	14.943	15.067
15"	11	19.223			11	19.223	19.383
16"	7	14.141			7	14.141	14.259
17"	7	16.206			7	16.206	16.341
18"	7	18.446			7	18.446	18.600
19"	4	11.821			4	11.821	11.919
20"	1	3.306			1	3.306	3.333
21"	1	3.668			1	3.668	3.699
22"	1	4.024			1	4.024	4.058
23"	1	4.424			1	4.424	4.461
24"	1	4.847			1	4.847	4.887
計	171	200.989	102	40.023	273	241.012	243.020

5. 山腹針葉樹林、キバラリ川支流音ノ澤、地位下、面積0.992ha

直 徑	エゾマツ		トママツ		合 計		1ha 當り 材積(m <sup>3</sup> )
	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	21	1.636	20	1.558	41	3.194	3.220
6"	17	2.318	24	3.272	41	5.590	5.636
7"	22	4.836	26	5.716	48	10.552	10.640
8"	20	6.567	18	5.910	38	12.477	12.581
9"	22	10.101	7	3.214	29	13.315	13.426
10"	20	12.021	6	3.606	26	15.627	15.757
11"	13	9.948	5	3.826	18	13.774	13.889
12"	21	19.576	1	0.932	22	20.508	20.679
13"	17	19.253			17	19.253	19.413
14"	8	10.863			8	10.863	10.953

直 徑	エゾマツ		トママツ		計		1ha 當り 材積(m <sup>3</sup> )
	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	
15寸	6	9.567			6	9.567	9.647
計	187	106.686	107	28.034	294	134.720	135.841

6. 常緑及落葉針葉樹林、楠山舊軌道附近、地位下、面積20.43ha

直 徑	エゾマツ		トママツ		グヒマツ		合 計		1ha 當り 材積(m <sup>3</sup> )
	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	本 數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	885	68.954	489	38.100	393	30.620	1,767	137.674	6.739
6"	480	65.448	120	16.362	266	36.269	866	118.079	5.780
7"	350	76.940	15	3.297	271	59.574	636	139.811	6.843
8"	127	41.701	3	0.957	262	86.028	392	128.686	6.299
9"	68	31.221	4	1.837	340	156.106	412	189.164	9.259
10"	43	25.845	1	0.601	293	176.108	337	202.554	9.915
11"	9	6.887			243	185.950	252	192.837	9.439
12"	5	4.661			167	155.675	172	160.336	7.848
13"	0	0			162	183.471	162	183.471	8.981
14"	1	1.558			96	130.361	97	131.719	6.448
15"					76	121.179	76	121.179	5.931
16"					39	71.408	39	71.408	3.495
17"					16	33.347	16	33.347	1.632
18"					17	40.540	17	40.540	1.984
19"					7	18.758	7	18.758	0.918
20"					12	35.629	12	35.629	1.744
21"					0	0	0	0	0
22"					4	15.138	4	15.138	0.741
23"					0	0	0	0	0
24"					1	4.502	1	4.502	0.220
25"					1	4.934	1	4.934	0.242
計	1968	323.015	632	61.154	2,666	1545.597	5,266	1929.766	94.458



7. 楠山舊軌道附近落葉針葉樹林、地位下、面積1.924ha

直徑	グヒマツ		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )	直徑	グヒマツ		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )			本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	6	0.467	0.234	14寸	12	16.295	8.469
6''	7	0.954	0.496	15''	4	6.378	3.315
7''	9	1.978	1.028	16''	2	3.662	1.903
8''	9	2.955	1.536	17''	5	10.421	5.416
9''	9	4.132	2.147	18''	1	2.385	1.240
10''	22	13.223	6.873	19''	3	8.039	4.178
11''	19	14.539	7.557	20''	2	5.938	3.086
12''	11	10.254	5.330	21''	1	3.361	1.747
13''	12	13.590	7.064	計	134	118.571	61.619

8. 辨慶川流域落葉針葉樹林、地位下、面積1.785ha

直徑	グヒマツ		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )	直徑	グヒマツ		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )			本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	15	1.169	0.655	14寸	17	23.085	12.931
6''	10	1.363	0.764	15''	13	20.728	11.611
7''	12	2.638	1.478	16''	5	9.155	5.129
8''	27	8.866	4.967	17''	2	4.168	2.335
9''	29	13.315	7.459	18''	2	4.769	2.672
10''	45	27.047	15.151	19''	0	0	0
11''	33	25.253	14.146	20''	2	5.938	3.326
12''	47	46.317	25.946	計	296	235.715	132.044
13''	37	41.994	23.474				

9. 楠山布施小屋附近河畔闊葉樹林、地位下、面積1.190ha

直徑	楊柳科木		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )	直徑	楊柳科木		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )			本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	140	13.635	11.457	11寸	3	2.287	1.922
6''	69	10.752	9.035	12''	4	3.851	3.236
7''	66	15.243	12.808	13''	0	0	0
8''	42	13.791	11.588	14''	1	1.464	1.230
9''	18	8.014	6.734	計	354	75.526	63.463
10''	11	6.489	5.453				

第二、亞屯園地

概括的ニ之ヲ述ブレバ本園地ノ林相ハ古丹岸園地ノ林相ニ數等劣ル、樹種混交ニ就キテハ人體ハ古丹岸ト大差ナキモ山頂林ニ於テ著シク異ルハ或ハ緯度ノ關係ニヨルノデアラウ。即

(1) 山頂林ハ大凡海拔550m以上ノ地ヲ占ムル森林ヲ稱スルコト、スレバ其下部ニ於テハ「エゾマツ」15%「トドマツ」85%ニシテ闊葉樹殆無キモ700—800mニ於テハ「エゾマツ」殆無ク短小ナル「トドマツ」ノ中ニ「ガンビ」「カヘデ類」「ナ、カマド」類ヲ混生シ900mニ至リテ「ハヒマツ」優勢トナリ特ニ山稜ニ於テハ「ハヒマツ」獨リ生育シ根元ノ直徑30cmヲ超エ側枝ハ3m以上垂下スル。山頂ニ至リテハ處々ニ小面積宛ノ未立木地ガアル、本帶ニ生ズル處ノ「エゾマツ」及「トドマツ」ハ平均直徑10cm樹高10m以下ニシテシカモ樹齡120—130年其利用價值ハ頗乏シイ、1ha當リノ材積ハ

地位	「エゾマツ」及「トドマツ」(m <sup>3</sup> )	其他(m <sup>3</sup> )
上	85	1
中	55	2
下	28	5

但此内約30%ハ幹形著シク不良ナルカ又ハ腐朽セルモノデアル。

(2) 山腹林ハ材積ニ於テ「エゾマツ」90%、「トドマツ」10%、本數ニ於テハ80對20ヲ平均數トスル種樹ハ「トドマツ」多ク幼時ノ生長亦「トドマツ」ハ旺盛ナレドモ直徑30cmニ及ブモノ稀ニシテ樹齡150年ヲ越ユルハ少イ、之ニ反シ「エゾマツ」ハ200年ヲ越ユルモ尙盛ニ生育スル、若干ノ標準木ニツキ調査シタル結果ヲ示セバ

樹種	樹齡(年)	樹高(尺)	胸高直徑(寸)	材積(石)
エゾマツ	176	48	5.7	0.60
同	141	54	8.0	1.30
同	161	71	10.0	2.49
同	不詳	89	23.0	15.47
トドマツ	140	48	5.0	0.46
同	162	62	7.7	1.35
同	154	63	10.0	2.33

但材積ハ樺太廳所定形數ニヨリ計算シタ。

地表ノ灌木蘚苔等ニ就キテハ古丹岸ニツキ述ベタル處ト殆同ジキモ蘚苔ハ一般ニ一層深キヲ常トスル、本帶森林1ha當り平均材積ハ



地位	「エゾマツ」及「トドマツ」(m <sup>2</sup> )
上	335
中ノ上	280
中	220
中ノ下	195
下	140

但此内約10%ハ腐朽木デアル。

(3) 平地林ハ古丹岸圍地ト同ジク4種ニ分テバ

a. 「エゾマツ」及「トドマツ」林ハ最大ノ面積ヲ占メ前者80後20ノ混交ヲ平均トスル、山腹林ニ比シ林相一般ニ劣リ其毎haノ材積ハ

地位	「エゾマツ」及「トドマツ」(m <sup>2</sup> )
上	220
中	170
下	140

内約10%ハ腐朽シテ居ル。

b. 「エゾマツ」「トドマツ」「グヒマツ」林ハ(a)ト(c)トノ中間ニ僅カニ存スルノミニシテ古丹岸ノ場合ト異リ「グヒマツ」著シク劣勢ニシテ即其混交歩合ハ「エゾマツ」80%、「トドマツ」15%、「グヒマツ」5%ヲ平均數トスル。

c. 「グヒマツ」林亦古丹岸ノ場合ニ比シ著シク林相劣リ一般ニ老齡ニシテ疎開シ「ヒメシヤクナゲ」「クロウスゴ」等ノ小灌木密生シ地表ニハ蘚苔厚ク敷キテ汚水浸潤シ所謂つんどら地帯ハ古丹岸ノ場合ヨリモ遙ニ典型的ノモノニ近ヅク。

d. 潤葉樹林ハ河畔ニ沿フテ其幅相當ニ廣イ、元來本圍地ノ河畔ハ廣漠タル平地ヲ爲シ河心常ニ移動スル事多キヲ以テ沖積土ノ範圍廣ク其永ク洪水ヲ蒙ラザル地域ニ對シテハ漸次常綠針葉樹ガ侵入シテ來ル、其侵入著シキ部分ニ於テハha當リ

地位	「エゾマツ」及「トドマツ」(m <sup>2</sup> )	其他(m <sup>2</sup> )
上	110	3
中	82	5
下	55	15

但此内約30%ハ腐朽又ハ不良木デアル。

純然タル潤葉樹林ガ其位置ニヨリ樹種ヲ異ニスルコト古丹岸ノ場合ト同ジキモ全體的ニ見レバ楊柳科植物60%樺木科植物30%其他10%ト見テ大差ナクha當リ材積ハ

地位	潤葉樹(m <sup>2</sup> )
上	82
中	40
下	15

(4) 未立木地ハ約30年前ノ火災跡地ニシテ漸次「ガンビ」ヲ生ジ次テ「グヒマツ」發生シ終ニ「トドマツ」「エゾマツ」ヲ混生シテ原始ノ林相ニ復歸セントスル状態ニ在リタルニ大正9年再ビ火災アリテ茫漠タル草原ヲ呈スルニ至リシモノデアル、其一部分ハ爲ニ表土ヲ露出スルニ至リタルモアルガ一方局部的ニハ前述ノ道程ニ着ケル個所モアル、山頂附近小面積宛ノ裸地及岩石地ハ多ク問題トスルノ要ハアルマイ。

次ニ本圍地内各種ノ林相ヲ呈セル個所ニツキ標準地ヲ撰ビテ調査セル結果ヲ舉ゲル。

1. 山腹針葉樹林、日暮澤上流左岸氣屯分水嶺、地位中ノ下、面積1.061ha

直徑	エゾマツ		トドマツ		計		Iha當リ材積(m <sup>2</sup> )
	本數	材積(m <sup>2</sup> )	本數	材積(m <sup>2</sup> )	本數	材積(m <sup>2</sup> )	
5寸	21	1.928	23	2.112	44	4.040	3.807
6"	31	5.003	51	8.231	82	13.234	12.471
7"	39	9.876	47	11.901	86	21.777	20.522
8"	37	13.385	37	13.385	74	26.770	25.227
9"	36	17.931	19	9.464	55	27.395	25.816
10"	20	12.967	8	5.187	28	18.154	17.108
11"	19	15.597	2	1.642	21	17.239	16.245
12"	7	7.051	1	1.007	8	8.058	7.594
13"	9	10.794	1	1.199	10	11.993	11.302
14"	4	5.766			4	5.766	5.434
15"	2	3.378			2	3.378	3.183
16"	2	3.901			2	3.901	3.676
17"	1	2.260			1	2.260	2.130
計	228	109.837	189	54.128	417	163.965	154.515
5寸未満及腐朽木ヲ包含セルIha當リ材積(10%増加)							172.757



2. 山腹針葉樹林、田栗澤河口ヨリ南方約1.5軒千輪山山腹、地位中ノ上、面積1.194ha

直徑	エゾマツ		トバマツ		計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	123	12.664	29	2.986	152	15.650	13.107
6''	88	15.427	15	2.630	103	18.057	15.122
7''	81	21.863	7	1.889	88	23.752	19.892
8''	51	19.300	7	2.649	58	21.949	18.382
9''	32	16.562	5	2.588	37	19.150	16.038
10''	36	24.142	2	1.341	38	25.483	21.342
11''	21	17.764	2	1.692	23	19.456	16.294
12''	20	20.759	2	2.076	22	22.835	19.124
13''	20	25.099	1	1.255	21	26.354	22.071
14''	8	11.954			8	11.954	10.011
15''	12	20.970			12	20.970	17.562
16''	3	6.061			3	6.061	5.076
17''	7	16.206			7	16.206	13.572
18''	3	7.906			3	7.906	6.621
19''	4	11.821			4	11.821	9.900
20''	8	26.446			8	26.446	22.148
21''	0	0			0	0	0
22''	2	8.047			2	8.047	6.739
計	519	282.991	70	19.106	589	302.097	253.001
5寸未満及腐朽木ヲ包含セル1ha當リ材積(5%増加)							265.929

3. 山腹針葉樹林、一ノ澤上流右岸、地位上、面積2.8165ha

直徑	エゾマツ		トバマツ		計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	34	3.784	24	2.671	58	6.455	2.292
6''	58	10.813	54	10.068	112	20.881	7.414
7''	71	19.954	62	17.425	133	37.379	13.271
8''	77	30.425	54	21.337	131	51.762	18.378

直徑	エゾマツ		トバマツ		計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
9寸	86	46.186	46	24.704	132	70.890	25.169
10''	87	60.280	28	19.401	115	79.681	28.290
11''	75	65.531	23	20.096	98	85.627	30.402
12''	54	57.701	9	9.617	63	67.318	23.901
13''	42	54.111	3	3.865	45	57.976	20.584
14''	38	58.263	3	4.599	41	62.862	22.319
15''	20	36.007	3	5.401	23	41.408	14.702
16''	24	49.954			24	49.954	17.736
17''	15	35.813			15	35.813	12.715
18''	18	48.785			18	48.785	17.321
19''	14	42.541			14	42.541	15.104
20''	9	30.553			9	30.553	10.848
21''	3	11.320			3	11.320	4.019
22''	4	16.562			4	16.562	5.880
23''	3	13.574			3	13.574	4.819
24''	3	14.784			3	14.784	5.249
25''	6	32.340			6	32.340	11.482
26''	0	0			3	0	0
27''	1	12.572			1	12.572	4.464
28''	0	0			0	0	0
29''	1	7.310			1	7.310	2.595
計	743	759.163	309	139.184	1,052	898.347	318.954
5寸未満及腐朽木ヲ包含セル1ha當リ材積							332.111

4. 山腹針葉樹林、鴨ノ澤上流左岸、地位中ノ下、面積0.992ha

直徑	エゾマツ		トバマツ		計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	29	2.259	37	2.883	66	5.142	5.185
6''	24	3.272	26	3.545	50	6.817	6.874
7''	21	4.616	24	5.276	45	9.892	9.974



直徑	エゾマツ		トママツ		計		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
8寸	26	8.537	17	5.582	43	14.119	14.237
9"	20	9.183	22	10.101	42	19.284	19.445
10"	16	9.617	12	7.212	28	16.829	16.969
11"	11	8.417	8	6.122	19	14.539	14.660
12"	8	7.457	9	8.390	17	15.847	15.979
13"	7	7.928	5	5.663	12	13.591	13.704
14"	4	5.432	2	2.716	6	8.148	8.216
15"	3	4.783			3	4.783	4.823
16"	4	7.324			4	7.324	7.385
17"	4	8.337			4	8.337	8.406
18"	1	2.385			1	2.385	2.405
19"	1	2.680			1	2.680	2.702
20"	1	2.969			1	2.969	2.994
21"	0	0			0	0	0
22"	2	7.569			2	7.569	7.632
計	182	102.765	162	57.490	344	160.255	161.590
5寸未満及腐朽木ヲ包含セル1ha當り材積							182.378

5. 山腹針葉樹林、前ノ澤附近(比較の山頂=近キ所)、地位下、面積0.912ha

直徑	エゾマツ		トママツ		計		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )	雑木		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )		本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	36	2.805	85	6.623	121	9.428	10.333	0	0	0
6"	29	3.954	58	7.908	87	11.862	13.001	1	0.143	0.156
7"	14	3.078	47	10.332	61	13.410	14.698	1	0.211	0.231
8"	15	4.925	29	9.522	44	14.447	15.834	0	0	0
9"	13	5.969	21	9.641	34	15.610	17.109	2	0.762	0.835
10"	5	3.005	1	0.601	6	3.606	3.952	1	0.512	0.561
11"	3	2.296	9	6.887	12	9.183	10.065	0	0	0
12"	2	1.864	2	1.864	4	3.728	4.086	0	0	0
13"	4	4.530	3	3.397	7	7.927	8.688	1	0.865	0.948

直徑	エゾマツ		トママツ		計		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )	雑木		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )		本數	材積(m <sup>3</sup> )	
14寸	2	2.716	2	2.716	4	5.432	5.953			
15"	1	1.594			1	1.594	1.747			
16"	2	4.168			2	4.168	4.568			
17"	1	2.385			1	2.385	2.614			
18"	1	4.135			1	4.135	4.532			
19"	0	0			0	0	0			
20"	0	0			0	0	0			
21"	0	0			0	0	0			
22"	0	0			0	0	0			
23"	1	4.135			1	4.135	4.532			
計	129	51.559	257	59.491	386	111.050	121.712	6	2.493	2.731
5寸未満及腐朽木ヲ包含セル1ha當り材積							131.145			

6. 平地針葉樹林、一ノ澤二ノ澤合流點附近、地位上、面積3.729ha

直徑	エゾマツ		トママツ		計		1ha當り材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
5寸	81	6.987	110	9.489	191	16.476	4.418
6"	99	14.876	123	18.482	222	33.358	8.946
7"	131	31.349	188	44.990	319	76.339	20.472
8"	95	32.779	144	49.687	239	82.466	22.115
9"	92	44.033	97	46.426	189	90.459	24.259
10"	84	52.358	53	33.036	137	85.394	22.900
11"	59	46.790	22	17.447	81	64.237	17.227
12"	46	44.928	12	11.721	58	56.649	15.192
13"	42	49.203	3	3.514	45	52.717	14.137
14"	20	27.993	1	1.400	21	29.393	7.882
15"	16	26.268			16	26.268	7.044
16"	16	30.409			16	30.409	8.155
17"	6	13.006			6	13.006	3.488
18"	6	14.826			6	14.826	3.976
19"	1	2.780			1	2.780	0.746
20"	1	3.080			1	3.080	0.826



直徑	エゾマツ		トママツ		計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	本數	材積(m <sup>3</sup> )	
計	795	441.665	753	236.192	1,548	677.857	181.783
5寸未満及腐朽木ヲ包含セル1ha當リ材積							202.844

7. 河畔闊葉樹林、亞屯川右岸田栗澤口附近、地位下(低濕地)、面積0.099ha

直徑	樹種	白楊	川柳	細葉柳	赤楊	エゾマツ	白樺	計		1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )
								本數	材積(m <sup>3</sup> )	
1寸		20	4	1	12	15	0	52	0.123	1.240
2"		19	10	10	25	5	1	70	0.662	6.675
3"		12	12	10	10	0	0	44	1.090	10.991
4"		7	12	2	7	0	0	28	1.410	14.217
5"		5	1	4	0	0	0	10	0.982	9.902
6"		3	1	1	1	0	0	6	1.020	10.285
計	本數	66	40	28	55	20	1	210		
	材積	1.878	1.274	1.008	1.035	0.083	0.009		5.287	
1ha當リ材積(m <sup>3</sup> )		18.936	12.846	10.164	10.436	0.837	0.091			53.310

第三、既往ノ施業ヨリ得タル結果

既往ノ施業ニ當リ伐木前ニ行ヒタル毎木調査ノ結果ハ林況ヲ説明スル好資料タルベキガ故ニ第一施業期間ニオケル數字ニ基キ計算シタル結果ヲ茲ニ掲ゲル、但毎木調査ノ際ニハ後日カカル材料トナルベキヲ豫想シテ行ハレタルモノデナイカラ之ヲ整理シテ統計的ノ吟味ヲ施サントスルニ際シテハ著シク材料ノ不整頓ナルヲ感ジ從ツテ其大部分ハ割愛シ殘レル僅少ノ材料ヲ使用セネバナラヌコトトナル、尙第一施業期ニ於テハ交通不便ノ爲ニ比較的利用價值ノ乏シキモノハ伐採搬出ヲ喜バズ之更新上ノ見地ヨリ見ルモ便宜ト考ヘ之等林木ノ殘存ヲ許シタルガ故ニ此處ニ掲グル數字ハ嚴密ナル意味ニ於ケル本數、材積ニ非ズシテ「伐出ヲ不利ト認メタルモノヲ除キタル本數及材積」デアリ、同様ニ枯損木及腐朽木モ利用シ得ベキモノノミヲ掲ゲ然ラザルモノハ除外シテアル、直徑ハ實測、樹高ハ多クハ目測、材積計算法ハ樺太廳ノ材積表ニヨル、而シテ直徑4寸以下ハ全然省キ5寸級ノモノモカナリ多ク省カレテ居ル、更ニ注意ヲ要スルハ其伐採個所デアアルガ大體ニ於テ山腹ノ下部平地林ト山腹林トノ中間位ノ處ト見レバ大差ナイ。

(1) 本數

278.674本ノ材料ニヨリ樹種別、健全別ニ其直徑級配分ヲ示セバ次表ノ如シ。

1	2	3	4	5	6	7
中央値	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
5寸	本	本	本	本	本	本
5	9,639	10,201	19,840	0	41	19,881
6	18,032	17,058	35,090	0	49	35,139
7	20,160	17,046	37,206	6	115	37,327
8	22,648	14,415	37,063	60	105	37,228
9	20,572	6,369	26,941	85	157	27,183
10	25,513	4,335	29,848	248	547	30,643
11	18,665	1,582	20,247	233	487	20,967
12	16,130	566	16,696	235	578	17,509
13	15,074	160	15,234	211	663	16,108
14	11,922	70	11,992	222	594	12,808
15	8,535	15	8,550	210	492	9,252
16	5,186	3	5,189	125	276	5,590
17	3,375	2	3,377	97	229	3,703
18	2,164	0	2,164	100	173	2,437
19	1,071	0	1,071	42	89	1,202
20	669	0	669	32	73	774
21	338	0	338	20	35	393
22	198	0	198	15	13	226
23	125	0	125	9	10	144
24	64	0	64	2	3	69
25	47	0	47	3	1	51
26	17	0	17	0	1	18
27	3	0	3	1	0	4
28	6	0	6	1	0	7
29	3	0	3	0	0	3
30	3	0	3	0	0	3
31	1	0	1	0	1	2
32	0	0	0	0	0	0
33	0	0	0	0	0	0
34	0	0	0	0	0	0



1	2	3	4	5	6	7
中央値	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
寸	本	本	本	本	本	本
35	0	0	0	0	0	0
36	0	0	0	0	0	0
37	1	0	1	2	0	3
計	200,161	71,822	271,983	1,959	4,732	278,674

(2) 材積

前表ト同一材料ニヨリ其材積ノ樹種別健全別ノ直径級配分ヲ示セバ次表ノ如クナル。

1	2	3	4	5	6	7
中央値	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
寸	石	石	石	石	石	石
5	3,466	3,678	7,144	0	49	7,193
6	9,957	9,423	19,380	0	80	19,460
7	16,331	13,807	30,138	5	252	30,395
8	25,842	16,465	42,307	68	299	42,674
9	32,564	10,139	42,703	138	533	43,374
10	54,829	9,382	64,211	534	1,586	66,331
11	52,424	4,470	56,894	662	1,782	59,338
12	57,707	2,035	59,742	843	2,595	63,180
13	67,242	719	67,961	950	3,497	72,408
14	65,231	385	65,616	1,222	3,741	70,579
15	54,817	95	54,912	1,369	3,587	59,868
16	37,912	22	37,934	927	2,368	41,229
17	27,953	13	27,966	820	2,218	31,004
18	20,179	0	20,179	946	1,771	22,896
19	11,130	0	11,130	440	1,037	12,607
20	7,733	0	7,733	370	898	9,001
21	4,301	0	4,301	258	513	5,072
22	2,777	0	2,777	212	170	3,159
23	1,919	0	1,919	141	168	2,228

1	2	3	4	5	6	7
中央値	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
寸	石	石	石	石	石	石
24	1,073	0	1,073	33	50	1,156
25	876	0	876	56	19	951
26	336	0	336	0	20	356
27	65	0	65	22	0	87
28	137	0	137	23	0	160
29	69	0	69	0	0	69
30	81	0	81	0	0	81
31	29	0	29	0	29	58
32	0	0	0	0	0	0
33	0	0	0	0	0	0
34	0	0	0	0	0	0
35	0	0	0	0	0	0
36	0	0	0	0	0	0
37	43	0	43	86	0	129
計	557,023	70,633	627,656	10,125	27,262	665,043

(3) 1本當り材積

前2項ニ依リテ1本當り材積ヲ示セバ次ノ如シ。

1	2	3	4	5	6	7
直径	健全木			枯損木	腐朽木	總平均
	エゾマツ	トママツ	平均	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
寸	石	石	石	石	石	石
5	0.4	0.4	0.4	—	1.2 ?	0.4
6	0.6	0.6	0.6	—	1.6 ?	0.6
7	0.8	0.8	0.8	0.8	2.2 ?	0.8
8	1.1	1.1	1.1	1.1	2.8 ?	1.1
9	1.6	1.6	1.6	1.6	3.4 ?	1.6
10	2.1	2.2	2.2	2.2	2.9	2.2
11	2.8	2.8	2.8	2.8	3.7	2.8
12	3.6	3.6	3.6	3.6	4.5	3.7



1	2	3	4	5	6	7
直 徑	健 全 木			枯 損 木	腐 朽 木	總 平 均
	エゾマツ	トママツ	平 均	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
13 寸	石 4.5	石 4.5	石 4.5	石 4.5	石 5.3	石 4.5
14	5.5	5.5	5.5	5.5	6.3	5.5
15	6.4	6.3	6.4	6.5	7.3	6.5
16	7.3	7.3	7.3	7.4	8.6	7.4
17	8.3	6.5	8.3	8.5	9.7	8.4
18	9.3	—	9.3	9.5	10.2	9.4
19	10.4	—	10.4	10.5	11.6	10.5
20	11.6	—	11.6	11.6	12.3	11.6
21	12.7	—	12.7	12.9	14.7	12.9
22	14.0	—	14.0	14.1	13.1	14.0
23	15.4	—	15.4	15.7	16.8	15.5
24	16.8	—	16.8	16.5	16.7	16.8
25	18.6	—	18.6	18.7	19.0	18.6
26	19.8	—	19.8	—	20.0	19.8
27	21.7	—	21.7	22.0	—	21.8
28	22.8	—	22.8	23.0	—	22.9
29	23.0	—	23.0	—	—	23.0
30	27.0	—	27.0	—	—	27.0
31	29.0	—	29.0	—	29.0	29.0
32	—	—	—	—	—	—
33	—	—	—	—	—	—
34	—	—	—	—	—	—
35	—	—	—	—	—	—
36	—	—	—	—	—	—
37	43.0	—	43.0	43.0	—	43.0
平 均	2.78	0.98	2.38	5.17	5.76	2.39

(4) 樹種混交歩合、健全ノ混交歩合、

(1) 及(2)ニ示シタル表ニヨリ之ヲ計算スル時ハ本數及材積ニツキ夫々次ニ示ス如キ表ヲ得ル。

各直徑級ノ本數ヲ100トシタル場合ノ樹種別健全別本數

1	2	3	4	5	6	7
直 徑	健 全 木			枯 損 木	腐 朽 木	合 計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
5 寸	本 48.6	本 51.4	本 99.8	本 0.0	本 0.2	本 100.0
6	51.4	48.6	99.9	0.0	0.1	100.0
7	54.2	45.8	99.7	0.0	0.3	100.0
8	61.1	38.9	99.5	0.2	0.3	100.0
9	76.4	23.6	99.1	0.3	0.6	100.0
10	85.5	14.5	97.4	0.8	1.8	100.0
11	92.2	7.8	96.6	1.1	2.3	100.0
12	96.6	3.4	95.4	1.3	3.3	100.0
13	98.9	1.1	94.6	1.3	4.1	100.0
14	99.4	0.6	93.6	1.7	4.7	100.0
15	99.8	0.2	92.4	2.3	5.3	100.0
16	99.9	0.1	92.8	2.3	4.9	100.0
17	99.9	0.1	91.2	2.6	6.2	100.0
18	100.0	0.0	88.8	4.1	7.1	100.0
19	100.0	0.0	89.1	3.5	7.4	100.0
20	100.0	0.0	86.4	4.2	9.4	100.0
21	100.0	0.0	86.0	5.1	8.9	100.0
22	100.0	0.0	87.6	6.6	5.8	100.0
23	100.0	0.0	86.8	6.3	6.9	100.0
24	100.0	0.0	92.7	2.9	4.4	100.0
25	100.0	0.0	92.1	5.9	2.0	100.0
26	100.0	0.0	94.4	0.0	5.6	100.0
27	100.0	0.0	75.0	25.0	0.0	100.0
28	100.0	0.0	85.7	14.3	0.0	100.0
29	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
30	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
31	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0
32	—	—	—	—	—	—
33	—	—	—	—	—	—



1	2	3	4	5	6	7
直 徑	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
寸	木	木	水	木	木	木
34	—	—	—	—	—	—
35	—	—	—	—	—	—
36	—	—	—	—	—	—
37	100.0	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0
平均	73.6	26.4	97.6	0.7	1.7	100.0

(2) (3)欄ノ数字ハ(4)欄ノ数字ヲ100トシタル場合ノ数字ナリ。

各直徑級ノ材積ヲ100トシタル場合ノ樹種別健全別材積

1	2	3	4	5	6	7
直 徑	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
寸	石	石	石	石	石	石
5	48.5	51.5	99.3	0.0	0.7	100.0
6	51.4	48.6	99.6	0.0	0.4	100.0
7	54.2	45.8	99.1	0.1	0.8	100.0
8	61.1	38.9	99.1	0.2	0.7	100.0
9	76.3	23.7	98.5	0.3	1.2	100.0
10	85.4	14.6	96.8	0.8	2.4	100.0
11	92.1	7.9	95.9	1.1	3.0	100.0
12	96.6	3.4	94.6	1.3	4.1	100.0
13	98.9	1.1	93.9	1.3	4.8	100.0
14	99.4	0.6	93.0	1.7	5.3	100.0
15	99.8	0.2	91.7	2.3	6.0	100.0
16	99.9	0.1	92.0	2.3	5.7	100.0
17	99.9	0.1	90.2	2.7	7.1	100.0
18	100.0	0.0	88.1	4.1	7.8	100.0
19	100.0	0.0	88.3	3.5	8.2	100.0
20	100.0	0.0	85.9	4.1	10.0	100.0
21	100.0	0.0	84.8	5.1	10.1	100.0
22	100.0	0.0	87.9	6.7	5.4	100.0

1	2	3	4	5	6	7
直 徑	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トママツ	計	エゾ・トマ	エゾ・トマ	エゾ・トマ
寸	石	石	石	石	石	石
23	100.0	0.0	86.1	6.4	7.5	100.0
24	100.0	0.0	92.8	2.9	4.3	100.0
25	100.0	0.0	92.1	5.9	2.0	100.0
26	100.0	0.0	94.4	0.0	5.6	100.0
27	100.0	0.0	74.7	25.3	0.0	100.0
28	100.0	0.0	85.6	14.4	0.0	100.0
29	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
30	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
31	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0
32	—	—	—	—	—	—
33	—	—	—	—	—	—
34	—	—	—	—	—	—
35	—	—	—	—	—	—
36	—	—	—	—	—	—
37	100.0	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0
平均	88.7	11.3	94.4	1.5	4.1	100.0

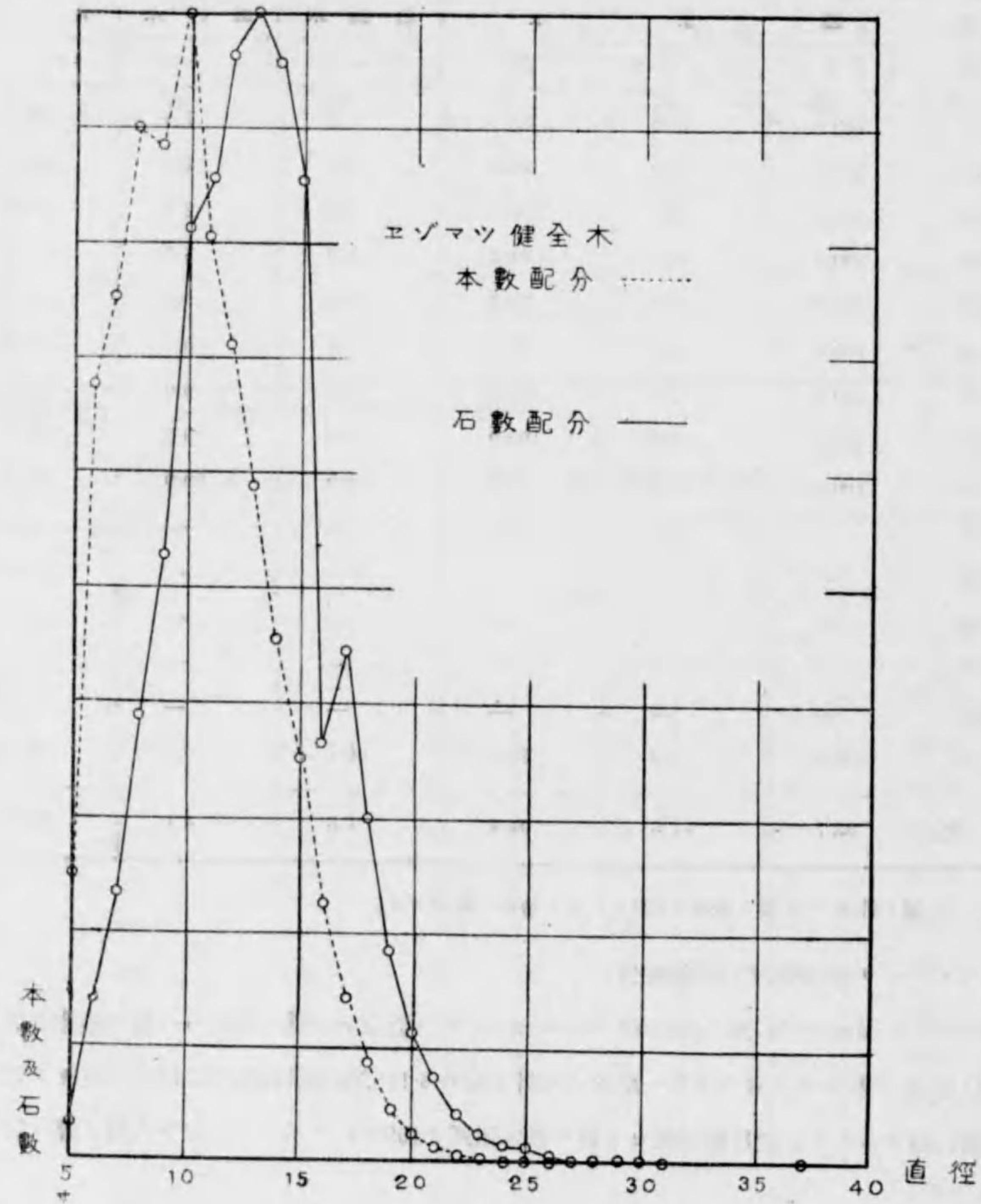
(2) (3)欄ノ数字ハ(4)欄ノ数字ヲ100トシタル場合ノ数字ナリ。

(5) 「エゾマツ」健全木ノ直徑級配分

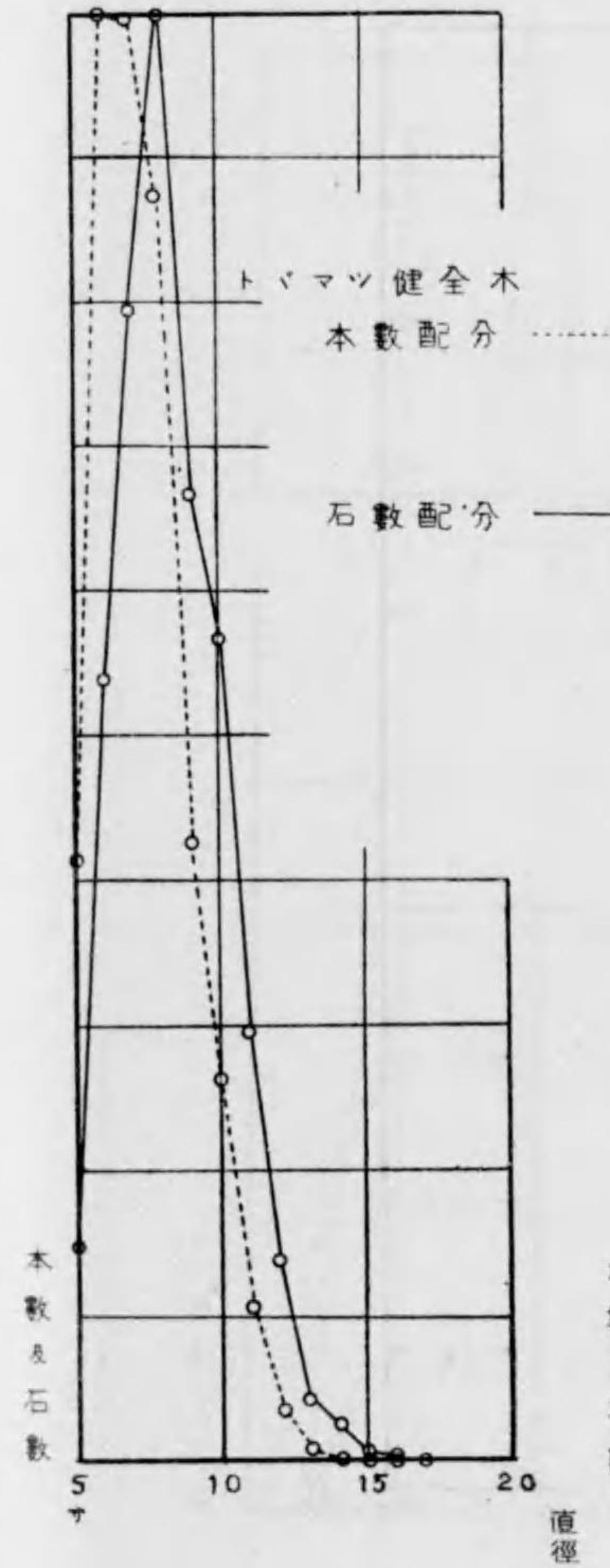
Arithmetical Mean=M 及 Standard Deviation=σヲ計算スル爲ニ材料ニ一層ノ厳選ヲ加ヘタル結果(1)及(2)ニ示シタル表中ヨリ一部分ノ材料ヲ除外シ115266本其材積322306石ニ就キテ之ヲ示セバ第2圖ノ如クニナル、但比較ニ便セン爲ニ最大頻度ヲ100ヲ以テ示シタ、以下六個ノ圖ニ於テ同様デアル。



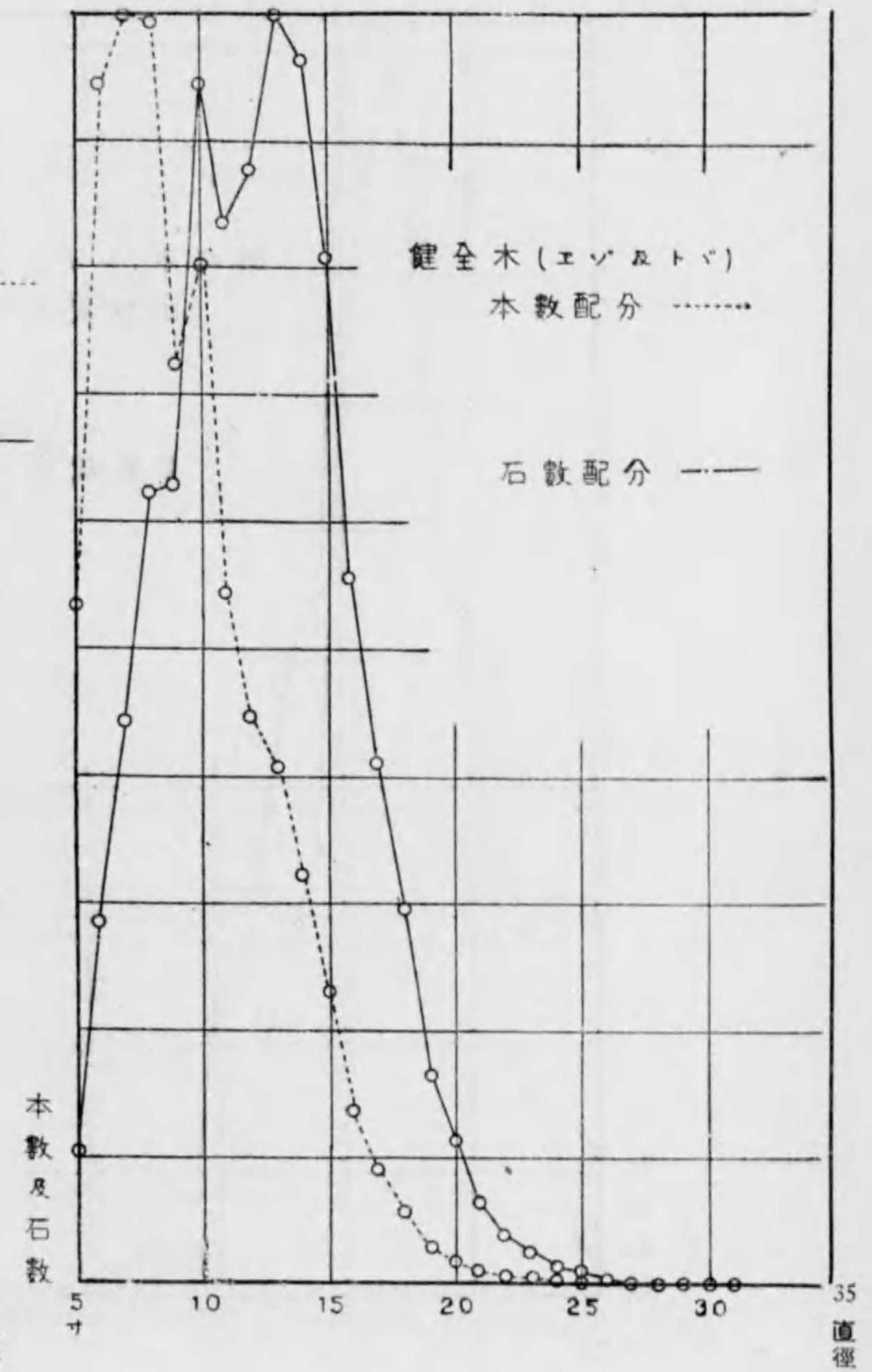
第二圖



第三圖



第四圖



(6) 「トドマツ」健全木ノ直徑級配分

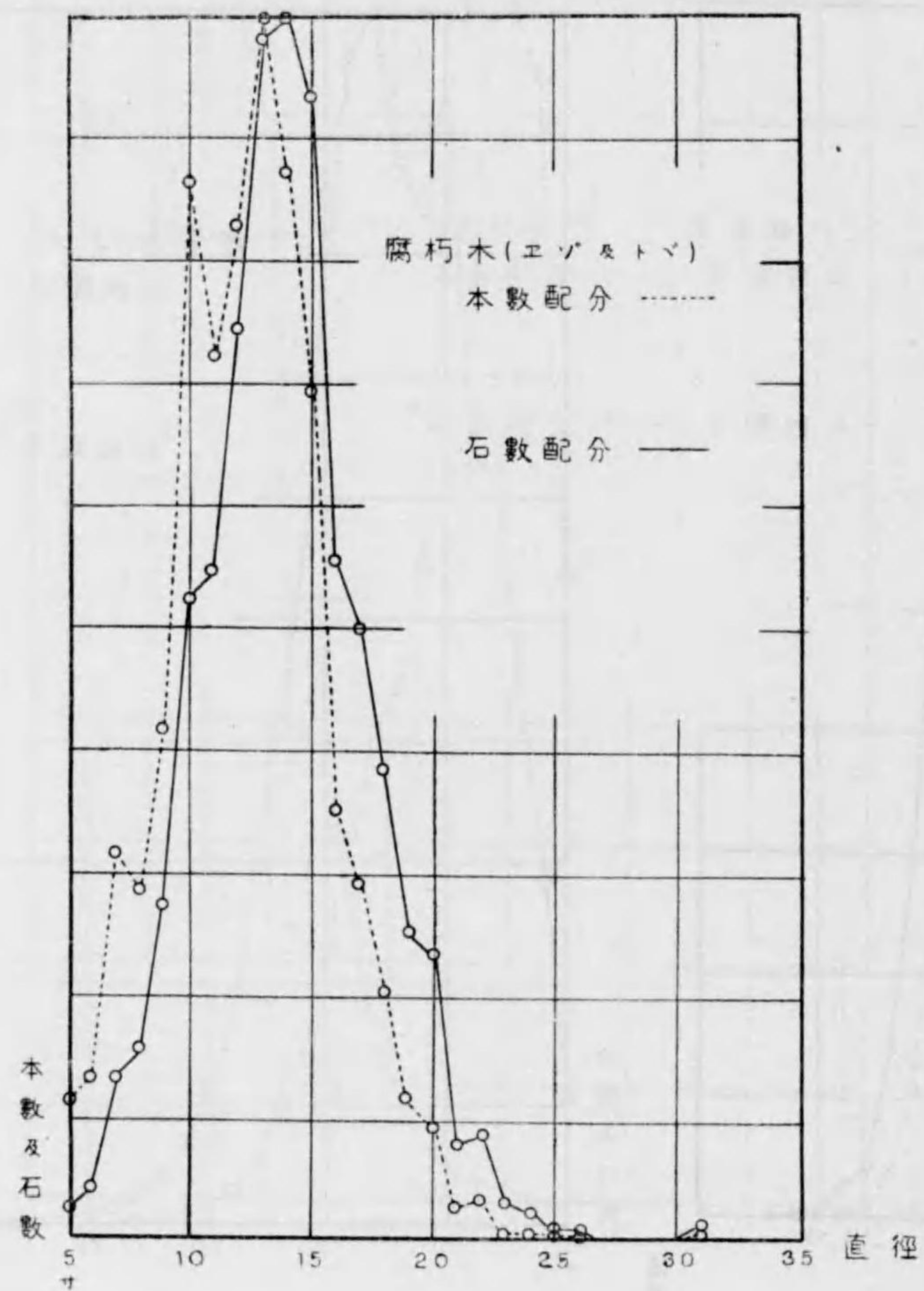
前同様ノ理由ニヨリ38582本其材積39597石ニツキ示ス時ハ第3圖ノ如シ。

(7) 健全木ノ直徑級配分

(1)及(2)ニ示シタル材料ニヨリ之ヲ圖示スレバ第4圖ノ如クナル。



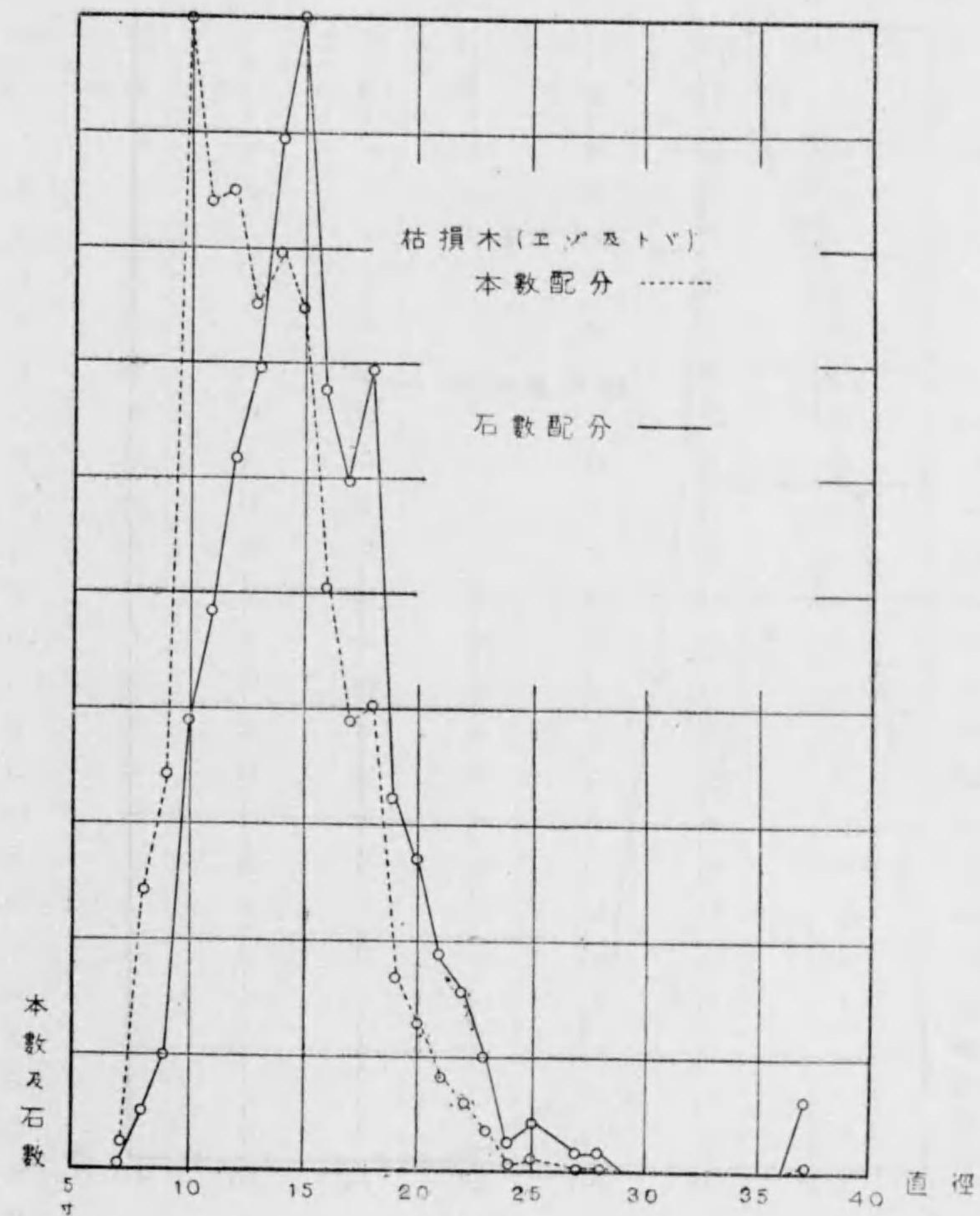
第五圖



(8) 枯損木ノ直径級配分

(1)及(2)ニ示シタル材料ニヨリ之ヲ圖示スレバ第5圖ノ如クナル。

第六圖

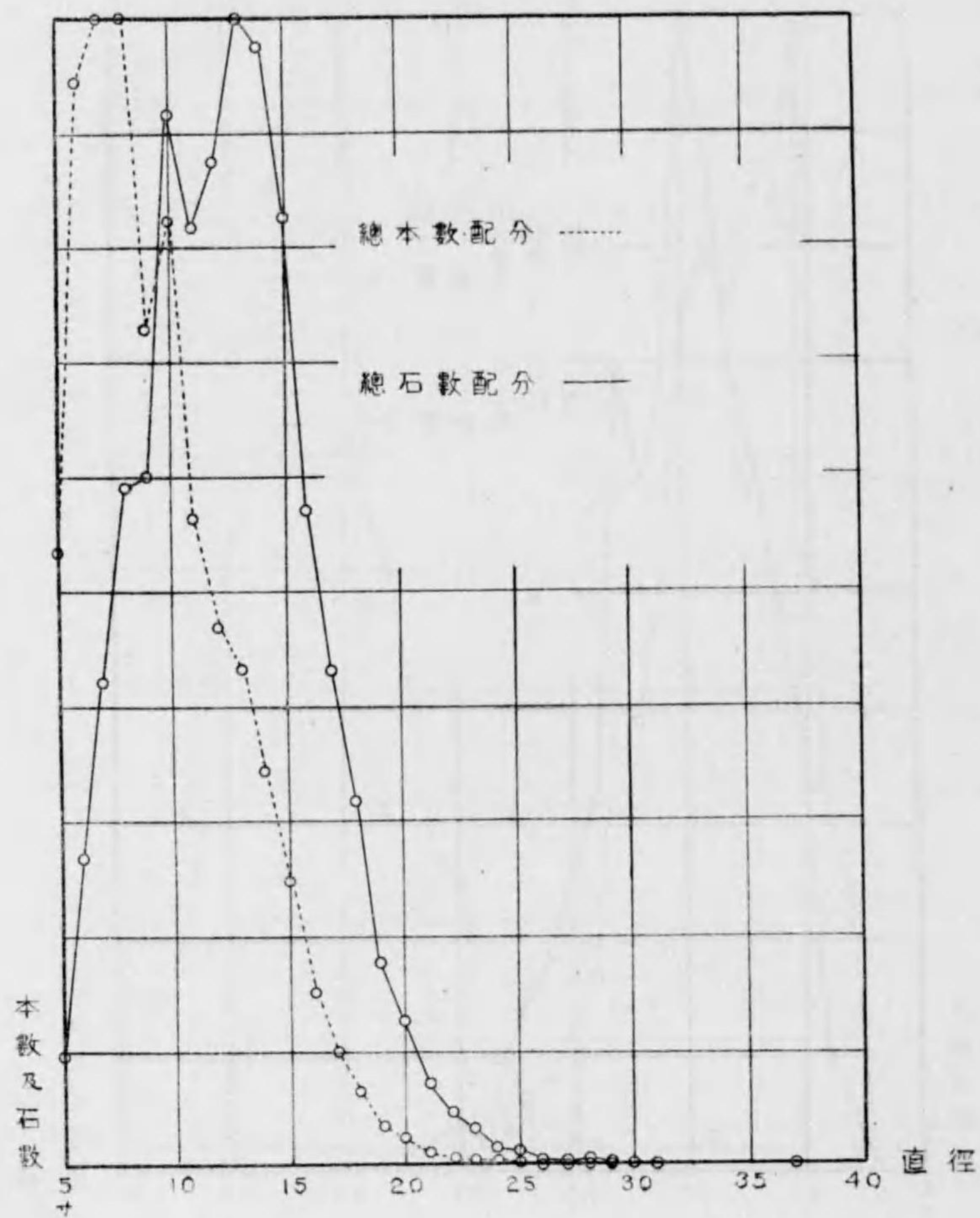


(9) 腐朽木ノ直径級配分

材料ヲ厳選スル爲ニ(1)及(2)ノ表ニ示シタル内ノ一部分ヲ除外シテ2670本其材積14441石ニツキ示セバ第6圖ノ如クニナル。



第七圖



(10) 總本數及總材積ノ直徑級配分

(1)及(2)ニ示シタル材料ヲ用ヒテ之ヲ圖示スレバ第七圖ノ如クニナル。

(11) 腐朽木ノ腐朽率別直徑級配分

腐朽率ヲ30%、50%、70%ノ3種ニ分子之ヲ表示セバ次表ノ如シ。

1	2	3	4	5	6	7	8	9
直徑	腐朽三割		腐朽五割		腐朽七割		合計	
寸	本數	%	本數	%	本數	%	本數	%
5	0	0	6	15	35	85	41	100
6	5	10	17	35	27	55	49	100
7	5	4	30	26	80	70	115	100
8	8	8	42	40	55	52	105	100
9	12	8	56	37	85	55	153	100
10	86	21	226	54	105	25	417	100
11	86	22	210	54	93	24	389	100
12	105	23	261	59	80	18	446	100
13	133	29	227	49	104	22	464	100
14	112	29	204	52	76	19	392	100
15	94	28	189	56	53	16	336	100
16	67	32	101	49	39	19	207	100
17	68	39	80	46	27	15	175	100
18	27	20	79	59	28	21	134	100
19	18	28	33	52	13	20	64	100
20	10	17	28	47	21	36	59	100
21	8	25	17	53	7	22	32	100
22	—	—	2	40	3	60	5	100
23	—	—	7	70	3	30	10	100
24	—	—	1	100	—	—	1	100
25	—	—	—	—	—	—	—	—
26	—	—	—	—	—	—	—	—
27	—	—	—	—	—	—	—	—
28	—	—	—	—	—	—	—	—
29	—	—	—	—	—	—	—	—
30	—	—	—	—	—	—	—	—
31	—	—	—	—	1	100	1	100
計	844	23,4	1,816	50,5	935	26,1	3,595	100



(12) 單位面積ノ材積

前記(1)及(2)ノ表ニ示シタル以外ノ材料ヲモ加ヘ面積1321haニツキ單位面積ノ材積ヲ算出シ其樹種別、健全別ノ割合ガ(4)ニ示シタル表ト同ジトスレバ其單位面積當リ材積ノ樹種別、健全別ハ次表ニ示ス通りデアル、但直徑級4寸以下ハ除外シ5寸級モ或ハ加ヘ或ハ加ヘズ而シテ腐朽70%ヲ超ユルモノガ計算外ナル事ヲ特ニ記シテオカネバナラス。

單位面積當リ樹種別健全別材積

單位	健全木			枯損木	腐朽木	合計
	エゾマツ	トドマツ	計			
石/町	507,14	64,61	571,75	9,09	24,83	605,67
m <sup>2</sup> /ha	142,29	18,13	160,42	2,55	6,97	169,94

第四、稚樹ニ關スル調査結果

以上述べタル所ハ孰レモ稚樹ヲ除外シテ居ツタ、稚樹ニ關スル觀察ハ天然更新上最重要ナル事ニ屬スル、依リテ此處ニ項ヲ改メテ記スコトトシタノデアル。

(1) 「エゾマツ」「トドマツ」林内ノ稚樹

樺太ノ常綠針葉樹林内ヲ一見シテ最特徴アリテ何人モノ注意ヲ惹クハ所謂倒木更新ノ行ハレテ居ル事デアル、即林内ニ倒レタル腐朽木ノ蘚苔ヲ生ゼル上ニ無數ノ稚樹ガ羅列シテオリ時トシテハ堀ヲ建テタルガ如キ狀ヲ呈スル事ガアル、仔細ニ之ヲ觀察スル時之等稚樹ノ多クガ「トドマツ」ナル事ヲ發見スル、而シテ其根ハ倒木ヲ圍リテ生ジ恰之ニ跨レルモノノ如ク漸次成長スルニ從ヒ逐次「エゾマツ」ノ量ヲ増シ「トドマツ」ハ減ジ來リ直徑5-6寸ニ及ベバ既ニ兩種ノ混交度ハ50對50トナリ爾後「エゾマツ」ノ混交度増加シテ終ニ直徑30cm以上ニ於テハ殆「エゾマツ」ノミトナル事ハ先ニ前項ノ(4)ニ於テ記シタル表ニヨリ明カデアラウ。

下ニ稚樹ノ數ニツキ大正15年ニ調査シタル表ヲ掲ゲル、第1調査區ハ未ダ斧鐵入ラザル平地ノ常綠針葉樹林内ニ於テ觀察セル所ニシテ第2調査區ハ大正6年皆伐ニ等シキ強度ノ擇伐ヲ施セル部分デアル、直徑1寸未満ノモノニツキ「エゾ」「トド」トノ區別ヲ爲サザリシハ遺憾トスル所デアル、尙調査區ハ各1haデアル。

直徑	第一調査區				第二調査區			
	エゾ	トド	腐朽	計	エゾ	トド	腐朽	計
高1尺以下				8700				14.100

直徑	第一調査區				第二調査區			
	エゾ	トド	腐朽	計	エゾ	トド	腐朽	計
1寸以下	同1尺以上			1152				1.483
	同3尺以上			640				1.508
	同6尺以上			375				1.397
	計			10.867				18.488
1寸	79	135	0	214	101	158	0	259
2	109	133	0	242	60	93	0	153
3	103	79	0	182	4	63	0	67
4	51	60	0	111	6	31	0	37
5	35	60	0	95	4	34	0	38
6	31	25	0	56	4	20	0	24
7	18	23	1	42	2	1	0	3
8	22	25	1	48	1	5	0	6
9	29	25	2	56	1	0	0	1
10	20	17	0	37	0	0	1	1
11	19	7	0	26	0	0	0	0
12	17	1	0	18	0	0	1	1
13	11	1	1	13	0	0	1	1
14	12	0	0	12	0	0	1	1
15	6	0	0	6	0	0	1	1
16	7	0	0	7	0	0	0	0
17	2	0	0	2	0	0	0	0
18	1	0	0	1	0	0	0	0
枯損木				76				0

此表ハ既往ニオケル更新ノ成績ヲモ示スモノデアル、勿論兩調査區ハ所ヲ異ニシテ伐採前後トノ嚴密ナル比較ヲ爲ス事能ハザルモ第一調査區ヲ撰ブニ際シテハナルバク第二調査區ノ伐採前ノ形ニ似タルモノヲ撰ビタル故大體ノ比較ヲ爲スニハ充分デアラウ、而シテ其結果ハ略々次ノ如キ事ヲ云ヒ得ル、即直徑1寸以上5寸以下ノモノハ反ツテ減少シテ居ル、之蓋シ伐採ニ際シ受クル損傷ニ依ルモノデアラウ、直徑1寸級ノモノハ殆増減ガ無イ、之蓋シ伐採ニ際シ損傷ヲ受ケタルモノト之ヨリ細小ナルモノノ生長シテ此級ニ入レルモノトノ數ガ相殺スルノデアラウ、而シテ直徑1寸以下ノモノハ殆倍加スル、其極メテ微小ニシテ樹高1尺ニ滿タザルモノノ倍加セルハ或ハ伐採後稚樹發生ニ



ヨルカ、観察材料ノ不精確ニヨルカ俄カニ判ジ得ザルモ樹高3尺以上ノモノノ殆3倍ナルヲ見ル時ニ之ハ伐採前ヨリ存シタル稚樹ガ俄カニ生長促進セラレテ10年間ニ6尺前後ノ樹高トナリタルモノト解スベク而シテ其本數ハ毎ha3000本ニシテ略々密植セル人工造林地ノ造林後數年ヲ經タル形ト似ル。

(2) 「グヒマツ」林内ノ稚樹

之ニ關シテハ其數量ヲ未ダ精密ニ調査セル材料無キヲ以テ具體的ニ云フ事能ハザルモ倒木更新ニヨリテ「エゾマツ」ト「ドマツ」ノ稚樹密生シ「グヒマツ」ノ稚樹ト競争シテ居ル。而シテ先ニモ述べタル如ク其立地ノ如何ニヨリテ或ハ常綠ノモノ優勢トナリ又ハ落葉ノモノ優勢トナルガ如シト雖之等ニ關シテハ未ダ適確ナル事ヲ云フ能ハズ今後ノ研究ニ俟ツ。潤葉樹林内ノ稚樹ニ關シテモ同様今後ノ研究問題トシテ興味多キ事項デアル。

第四節 林況調査表

第一施業期末即大正15年度ニオケル樺太演習林ノ林班小班別面積及蓄積ヲ次ニ掲ゲル。括弧内ニ示シタル材積ハ腐朽木ノ材積デアル。

I 第一事業區

A 古丹岸圍地 (林班1-20)

1	2	3	面積 (ha)					林況					
			總	現在林相				樹種混交歩合	林齡	材積 (fm)			計
				針葉樹	針混	潤葉樹	未立地			エゾ・トマツ	グヒマツ	潤葉樹	
1 (小野寺) Onodera.	い	340.45	340.45				エゾ 7 トマツ 3	100	89,233.8 (22,457.0)			89,233.8 (22,457.0)	
	ろ	59.20		59.20			エゾ 5 トマツ 1 潤 4	100	3,481.2 (599.1)		1,920.6 (485.5)	5,401.8 (1,084.6)	
	計	399.65	340.45	59.20					92,715.0 (23,056.1)		1,920.6 (485.5)	94,635.6 (23,541.6)	
2 (辨慶) Benkei	い	330.82	330.82				エゾ 7 トマツ 3	100-120	90,924.8 (20,898.3)			90,924.8 (20,898.3)	
	ろ	36.91		36.91			エゾ 5 トマツ 1 潤 4	120	2,402.1 (592.5)		1,094.8 (370.5)	3,496.9 (963.0)	
	は	25.96	25.96				エゾ 7 トマツ 3	100	(2,899.2)			(2,899.2)	
計	393.69	356.78	36.91					93,326.9 (24,390.0)		1,094.8 (370.5)	94,421.7 (24,760.5)		
3 (内藏之助) Kuranosuke	い	329.16	329.16				エゾ 8 トマツ 2	120	97,188.5 (28,145.6)			97,188.5 (28,145.6)	
	ろ	25.79		25.79			エゾ 5 トマツ 1 潤 4	120	1,102.5 (125.5)		661.5 (288.0)	1,764.0 (413.5)	
	は	44.18	44.18				エゾ 8 トマツ 2	120	(4,934.4)			(4,934.4)	
計	444.06	418.27	25.79					98,291.0 (37,784.1)		661.5 (288.0)	98,952.5 (38,072.1)		
4 (黄金) Kogane	い	265.90	265.90				エゾ 7 トマツ 3	120	83,659.2 (14,708.8)			83,659.2 (14,708.8)	
	ろ	4.87		4.87			エゾ 4 トマツ 2 潤 4	120	164.7 (23.8)		125.0 (54.4)	289.7 (78.2)	
	は	102.35	102.35				エゾ 8 トマツ 2	120	(10,573.1)			(10,573.1)	
計	480.62	475.75	4.87					83,823.9 (36,411.6)		125.0 (54.4)	83,948.9 (36,466.0)		
い	72.66	72.66					エゾ 8 トマツ 2	120	21,733.5 (5,439.7)			21,733.5 (5,439.7)	



林班	小班	面積 (ha)						林況					
		總	現在林相					樹種混交歩合	林齢	材積 (fm)			
			針葉	樹林	針混	潤交	潤葉			未木	立地	エゾ・トマ	グヒマツ
5 (藤本) Fujimoto	ろ	68.77	68.77					エゾ トマ 8) 2)	120	(7,680.0)			7,680.0
	は	88.54					88.54						
	計	229.97	141.43				88.54			21,733.5 (13,119.7)			21,733.5 (13,119.7)
6 (本谷) Hontani	い	183.15	183.15					エゾ トマ 8) 2)	120	55,131.0 (9,779.8)			55,131.0 (9,779.8)
	計	183.15	183.15							55,131.0 (9,779.8)			55,131.0 (9,779.8)
7 (南瀧) Minamitaki	い	378.27	378.27					エゾ トマ 7) 3)	120	88,189.4 (10,099.5)			88,189.4 (10,099.5)
	ろ	60.29		60.29				エゾ トマ 4) 2) 4)	120	2,577.4 (294.6)	1,430.7 (610.2)		4,008.1 (904.8)
	計	438.56	378.27	60.29						90,766.8 (10,394.1)	1,430.7 (610.2)		92,197.5 (11,004.3)
8 (北瀧) Kitataki	い	307.44	307.44					エゾ トマ 7.5) 2.5)	120	79,133.8 (11,741.0)			79,133.8 (11,741.0)
	ろ	63.54		63.54				エゾ トマ 4) 2) 4)	120	2,717.1 (310.5)	1,508.2 (643.2)		4,225.3 (953.7)
	計	370.98	307.44	63.54						81,850.9 (12,051.5)	1,508.2 (643.2)		83,359.1 (12,694.7)
9 (苦心澤) Kushinzawa	い	307.50	307.50					エゾ トマ 7.5) 2.5)	120	76,036.2 (16,849.2)			76,036.2 (16,849.2)
	ろ	65.50		65.50				エゾ トマ 5) 2) 3)	120	3,691.9 (948.7)	1,554.5 (662.9)		5,246.4 (1,611.6)
	計	373.00	307.50	65.50						79,728.1 (17,797.9)	1,554.5 (662.9)		81,282.6 (18,460.5)
10 (東股) Higashimata	い	245.20	245.20					エゾ トマ 7.5) 2.5)	120	56,097.7 (12,280.7)			56,097.7 (12,280.7)
	ろ	29.10		29.10				エゾ トマ 5) 2) 3)	120	1,640.8 (421.6)	690.9 (294.6)		2,331.7 (716.2)
	は	4.92		4.92				エゾ トマ 5) 2) 3)	120	277.8 (71.4)	117.0 (49.9)		394.8 (121.3)
	計	279.22	245.20	34.02						58,016.3 (12,773.7)	807.9 (344.5)		58,824.2 (13,118.2)
	い	350.47	350.47					エゾ トマ 7.5) 2.5)	120	107,397.0 (25,381.4)			107,397.0 (25,381.4)

林班	小班	面積 (ha)						林況						
		總	現在林相					樹種混交歩合	林齢	材積 (fm)				
			針葉	樹林	針混	潤交	潤葉			未木	立地	エゾ・トマ	グヒマツ	潤葉樹
11 (思案) Shian.	ろ	29.80						エゾ トマ 5) 2) 3)	120	3,343.6 (852.8)			681.2 (332.8)	4,024.8 (1,185.6)
	計	380.27	350.47							110,740.6 (26,234.2)			681.2 (332.8)	111,421.8 (26,567.0)
12 (南鴨) Minamikamo	い	268.92	268.92					エゾ トマ 7.5) 2.5)	120	58,521.7 (12,671.1)				58,521.7 (12,671.1)
	ろ	42.62						エゾ トマ 4.5) 3.0) 2.5) 4.5)	120	3,206.6 (558.0)			1,011.8 (431.5)	4,218.4 (989.5)
	は	1.14						エゾ トマ 4.5) 3.0) 2.5)	120	86.2 (15.0)			27.2 (11.6)	113.4 (26.6)
	計	312.68	268.92							61,814.5 (13,244.1)			1,039.0 (443.1)	62,853.5 (13,687.2)
13 (北鴨) Kitakamo	い	317.76	317.76					エゾ トマ 7.5) 2.5)	120	67,260.9 (14,527.6)				67,260.9 (14,527.6)
	ろ	21.83						エゾ トマ 4.5) 3.0) 2.5)	120	1,642.1 (2,857.5)			518.2 (221.0)	2,160.3 (3,078.5)
	計	339.59	317.76							68,903.0 (17,385.1)			518.2 (221.0)	69,421.2 (17,606.1)
14 (南龜) Minamikame	い	265.49	265.49					エゾ トマ 7.5) 2.5)	120	59,070.8 (10,424.3)				59,070.8 (10,424.3)
	ろ	22.81						エゾ トマ 4.5) 3.0) 2.5)	120	1,476.6 (266.7)			577.1 (254.7)	2,053.7 (521.4)
	計	288.30	265.49							60,547.4 (10,691.0)			577.1 (254.7)	61,124.5 (10,945.7)
15 (北龜) Kitakame	い	242.17	242.17					エゾ トマ 7) 3)	120	50,923.3 (9,043.6)				50,923.3 (9,043.6)
	ろ	102.86						エゾ トマ 4.5) 3.0) 2.5)	120	6,659.5 (1,202.7)			2,602.8 (1,148.8)	9,262.3 (2,351.5)
	計	345.03	242.17							57,582.8 (10,246.3)			2,602.8 (1,148.8)	60,185.6 (11,395.1)
16 (徳ノ澤) Tokunozawa	い	368.93	368.93					エゾ トマ 8) 2)	100	99,274.0 (21,696.1)				99,274.0 (21,696.1)
	ろ	50.60						エゾ トマ 4) 2) 4)	100	2,878.0 (317.9)			1,377.5 (591.6)	4,255.5 (909.5)
	は	16.22						エゾ トマ 4) 2) 4)	100	922.6 (101.9)			441.5 (189.6)	1,364.1 (291.5)
	計	435.75	368.93							103,074.6 (22,115.9)			1,819.0 (781.2)	104,893.6 (22,897.1)



林班	小班	面積 (ha)							林況				
		總	現在林相				樹種混交歩合	林齡	材積 (fm)				
			針葉樹	針葉混交林	闊葉樹	未立地			エゾ・トマ	ゲヒマツ	闊葉樹	計	
													5
17 (十津) Totsu	い	422.39	422.39				エゾ 7.5 トマ 2.5	100	121,892.6 (31,179.3)			121,892.6 (31,179.3)	
	ろ	32.49		32.49			エゾ 5.0 トマ 2.0 闊 3.0	100	2,443.8 (618.0)	725.8 (470.6)		3,169.6 (1,088.6)	
	は	31.29		31.29			エゾ 5.0 トマ 2.0 闊 3.0	100	2,353.3 (595.1)	698.9 (453.2)		3,052.2 (1,048.3)	
	に	39.77		39.77			エゾ 5 トマ 2	100	2,991.1 (756.5)	888.3 (576.0)		3,879.4 (1,332.5)	
	計	525.94	422.39	103.55					129,680.8 (33,145.9)	2,313.0 (1,499.8)		131,993.8 (34,648.7)	
18 (楠) Kusunoki	い	115.47	115.47				エゾ 7 トマ 3	100	35,504.3 (6,226.4)			35,504.3 (6,226.4)	
	ろ	19.66		19.66			エゾ 6 トマ 2 闊 2	100	2,356.4 (411.6)	466.5 (198.9)		2,822.9 (610.5)	
	計	135.13	115.47	19.66					37,860.7 (6,638.0)	466.5 (198.9)		38,327.2 (6,836.9)	
19 (羽牛) Haushi	い	108.88	108.88				エゾ 8 トマ 2	120	30,723.0 (8,987.0)			30,723.0 (8,987.0)	
	ろ	4.41		4.41			エゾ 6 トマ 2 闊 2	120	497.4 (124.0)	104.7 (44.7)		602.1 (168.7)	
	計	113.29	108.88	4.41					31,220.4 (9,111.0)	104.7 (44.7)		31,325.1 (9,155.7)	
20 (崎川) Sakikawa	い	247.67	247.67				エゾ 8 トマ 2	100	66,774.9 (13,830.4)			66,774.9 (13,830.4)	
	ろ	31.86		31.86			エゾ 6 トマ 2 闊 2	100	3,591.8 (895.2)	756.2 (322.5)		4,348.0 (1,217.7)	
	計	279.53	247.67	31.86					70,366.7 (14,725.6)	756.2 (322.5)		71,122.9 (15,048.1)	
B. 亞屯圍地 (林班21-27)													
21 (南本谷) Minami-hontani	い	479.55	479.55				エゾ 6 トマ 4	100-150	59,719.2 (11,934.9)			59,719.2 (11,934.9)	
	計	479.55	479.55						59,719.2 (11,934.9)			59,719.2 (11,934.9)	
22 (中ノ澤) Nakano-sawa	い	984.51	984.51				エゾ 6 トマ 4	100-150	86,814.4 (17,344.5)			86,814.4 (17,344.5)	
	ろ	8.58	8.58				ハヒマツ	50-100					
は	12.77	12.77				ハヒマツ	50-100						

林班	小班	面積 (ha)							林況				
		總	現在林相				樹種混交歩合	林齡	材積 (fm)				
			針葉樹	針葉混交林	闊葉樹	未立地			エゾ・トマ	ゲヒマツ	闊葉樹	計	
													5
23 (北本谷) Kita-hontani	い	512.80		512.80			エゾ 7 トマ 2 カバ 1	100-200	33,268.8 (6,644.2)			1,304.9 (267.7)	34,573.7 (6,911.9)
	ろ	18.02		18.02			ハヒマツ カシハ	50-100					
	計	530.82		530.82					33,268.8 (6,644.2)			1,304.9 (267.7)	34,573.7 (6,911.9)
24 (田栗澤) Taguri-zawa	い	380.42	380.42				エゾ 8 トマ 2	150-200	42,445.6 (8,474.9)				42,445.6 (8,474.9)
	計	380.42	380.42						42,445.6 (8,474.9)				42,445.6 (8,474.9)
25 (一ノ澤) Ichino-sawa	い	790.66	790.66				エゾ 8.0 トマ 2.0	100-200	131,259.1 (13,118.1)				131,918.5 (13,118.1)
	ろ	7.94		7.94			エゾ 7.0 トマ 2.0 ザツ 1.0	100-150		617.9 (185.0)		41.5 (20.7)	659.4 (205.7)
	計	798.60	790.66	7.94					131,877.0 (13,303.1)			41.5 (20.7)	131,918.5 (13,323.8)
26 (二ノ澤) Ninosawa	い	341.68	341.58				エゾ 7.0 トマ 3.0	100-150	47,855.5 (4,776.0)				47,855.5 (4,776.0)
	計	341.58	341.58						47,855.5 (4,776.0)				47,855.5 (4,776.0)
27 (日暮澤) Higure-zawa	い	393.61	393.61				エゾ 8.0 トマ 2.0	100-180	58,190.3 (5,833.7)				58,190.3 (5,833.7)
	計	393.61	393.61						58,190.3 (5,833.7)				58,190.3 (5,833.7)
區劃線 A. 古丹岸圍地 (第1號-第20號)													
第1號 區劃線	い	24.22	24.22				エゾ 7 トマ 3	100-120	4,627.6 (1,129.4)				4,627.6 (1,129.4)
	ろ	3.9		3.90			エゾ 5 トマ 1 闊 4	100-120		229.2 (59.4)		121.0 (30.6)	350.2 (70.0)
	計	28.12	24.22	3.90					4,856.8 (1,168.8)			121.0 (30.6)	4,977.8 (1,199.4)
第2號 區劃線	い	44.70	44.70				エゾ 7 トマ 3	100-120	8,509.5 (2,691.0)				8,509.5 (2,691.0)
	ろ	3.13		3.13			エゾ 6.5 トマ 2.0 闊 1.5	100-120		315.2 (50.6)		87.5 (29.2)	402.7 (79.8)



林班	小班	面積 (ha)						林況					
		總	現在林相					樹種混交歩合	林齡	材積 (m)			
			針葉樹	針葉混交林	闊葉樹	闊葉林	未立地			エゾ・トマ	グヒマツ	闊葉樹	計
	い	8.41	8.41					エゾ 7 トマ 3	100-120	1,603.8 (507.2)			1,603.8 (507.2)
	計	56.24	53.11	3.13						10,428.5 (3,248.8)		87.5 (29.2)	10,516.0 (3,278.0)
第3號 區劃線	い	40.80	40.80					エゾ 8 トマ 2	100	5,966.6 (2,200.1)			5,966.6 (2,200.1)
	ろ	6.00		6.00				エゾ 6.5 トマ 2.5 潤 1.0	100	257.3 (29.4)		149.1 (64.1)	406.4 (93.5)
	は	16.26	16.26					エゾ 8 トマ 2	100	2,379.9 (877.6)			2,379.9 (877.6)
	計	63.06	57.06	6.00						8,603.8 (3,107.1)		149.1 (64.1)	8,752.9 (3,171.2)
第4號 區劃線	い	36.44	36.44					エゾ 7 トマ 3	120	8,904.0 (1,348.3)			8,904.0 (1,348.3)
	ろ	10.36		10.36				エゾ 6.5 トマ 2.5 潤 1.0	120	443.5 (50.7)		257.0 (110.4)	700.5 (161.1)
	計	46.80	36.44	10.36						9,347.5 (1,399.0)		257.0 (110.4)	9,604.5 (1,509.4)
第5號 區劃線	い	21.54	21.54					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	6,613.8 (1,853.7)			6,613.8 (1,853.7)
	ろ	13.17	13.17					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	1,014.0 (1,133.9)			1,014.0 (1,133.9)
	計	34.71	34.71							7,627.8 (2,987.6)			7,627.8 (2,987.6)
第6號 區劃線	い	30.36	30.36					エゾ 8 トマ 2	120	9,116.0 (1,945.1)			9,116.0 (1,945.1)
	ろ	10.36			10.36			エゾ 8 トマ 2	120				
	計	40.72	30.36		10.36					9,116.0 (1,945.1)			9,116.0 (1,945.1)
第7號 區劃線	い	42.63	42.63					エゾ 7.5 トマ 2.5	100-120	12,588.5 (2,217.1)			12,588.5 (2,217.1)
	計	42.63	42.63							12,588.5 (2,217.1)			12,588.5 (2,217.1)
第8號 區劃線	い	21.31	21.31					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	3,095.0 (562.3)			3,095.0 (562.3)
	ろ	3.66		3.66				エゾ 5.5 トマ 2.5 潤 2.0	120	156.8 (17.9)		87.1 (37.1)	243.9 (55.0)
	計	24.97	21.31	3.66						3,251.8 (580.2)		87.1 (37.1)	3,338.9 (617.3)

林班	小班	面積 (ha)						林況					
		總	現在林相					樹種混交歩合	林齡	材積 (m)			
			針葉樹	針葉混交林	闊葉樹	闊葉林	未立地			エゾ・トマ	グヒマツ	闊葉樹	計
第9號 區劃線	い	30.60	30.60					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	5,425.4 (1,142.8)			5,425.4 (1,142.8)
	ろ	29.31			29.31			エゾ 5.5 トマ 2.5 潤 2.0	120	1,653.8 (425.0)		696.3 (297.0)	2,350.1 (722.0)
	計	59.91	30.60		29.31					7,079.2 (1,567.8)		696.3 (297.0)	7,775.5 (1,864.8)
第10號 區劃線	い	28.60	28.60					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	3,458.1 (748.5)			3,458.1 (748.5)
	ろ	14.10			14.10			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	120	794.6 (204.2)		334.6 (142.7)	1,129.2 (346.9)
	計	42.70	28.60		14.10					4,252.7 (952.7)		334.6 (142.7)	4,587.3 (1,095.4)
第11號 區劃線	い	10.07	10.07					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	1,406.2 (411.8)			1,406.2 (411.8)
	ろ	69.57			69.57			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	120	7,806.0 (1,991.0)		1,626.8 (704.1)	9,432.8 (2,695.1)
	は	1.82	1.82					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	255.7 (74.9)			255.7 (74.9)
	計	81.46	11.89		69.57					9,467.9 (2,477.7)		1,626.8 (704.1)	11,094.7 (3,181.8)
第12號 區劃線	い	10.88	10.88					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	1,829.7 (397.1)			1,829.7 (397.1)
	ろ	8.76			8.76			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	120	659.4 (114.8)		205.0 (93.3)	864.4 (208.1)
	計	19.64	10.88		8.76					2,489.1 (511.9)		205.0 (93.3)	2,694.1 (605.2)
第13號 區劃線	い	7.74	7.74					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	1,224.5 (214.6)			1,224.5 (214.6)
	ろ	28.19			28.19			エゾ 5.5 トマ 3.0 潤 1.5	120	2,120.5 (369.0)		669.1 (285.4)	2,789.6 (654.4)
	計	35.93	7.74		28.19					3,345.0 (583.6)		669.1 (285.4)	4,014.1 (869.0)
第14號 區劃線	い	12.84	12.84					エゾ 7.5 トマ 2.5	120	1,895.0 (387.6)			1,895.0 (387.6)
	ろ	47.05			47.05			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	120	3,045.9 (550.1)		1,141.2 (500.8)	4,187.1 (1,050.9)
	計	61.61	14.56		47.05			エゾ 7.5 トマ 2.5	120	253.8 (51.9)			253.8 (51.9)
	計	61.61	14.56		47.05					5,194.7 (989.6)		1,141.2 (500.8)	6,335.9 (1,490.4)



林班	小班	面積 (ha)						林況					
		總	現在林相					樹種混交歩合	林齡	林積 (fm)			
			針葉樹	針葉混	闊葉混	闊葉樹	未立地			エゾ・トマ	グヒマツ	潤葉樹	計
第15號區劃線	い	32.21	32.21				エゾ 7 トマ 3	120	5,726.8 (814.9)			5,726.8 (814.9)	
	ろ	27.68		27.6			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	120	1,791.9 (323.6)		700.4 (309.1)	2,492.3 (632.7)	
	計	59.89	32.21	27.68					7,518.7 (1,138.5)		700.4 (309.1)	8,219.1 (1,447.6)	
第16號區劃線	い	16.39	16.39				エゾ 8 トマ 2	100-120	2,554.0 (437.0)			2,554.0 (437.0)	
	ろ	2.29		2.29			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	100-120	117.4 (13.0)		54.0 (23.0)	171.4 (36.0)	
	計	18.68	16.39	2.29					2,671.4 (450.0)		54.0 (23.0)	2,725.4 (473.0)	
第17號區劃線	い	7.62	7.62				エゾ 8 トマ 2	100	1,401.8 (381.7)			1,401.8 (381.7)	
	ろ	30.26		30.26			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	100	2,275.7 (575.5)		749.8 (396.0)	3,025.5 (971.5)	
	計	37.88	7.62	30.26					3,677.5 (957.2)		749.8 (396.0)	4,427.3 (1,353.2)	
第18號區劃線	い	10.20	10.20				エゾ 8 トマ 2	100-120	1,319.0 (380.9)			1,319.0 (380.9)	
	ろ	41.03		41.03			エゾ 6.0 トマ 2.5 潤 1.5	100-120	4,918.9 (859.2)		959.4 (415.3)	5,878.3 (1,274.5)	
	計	51.23	10.20	41.03					6,237.9 (1,240.1)		959.4 (415.3)	7,197.3 (1,655.4)	
第19號區劃線	い	8.94	8.94				エゾ 8 トマ 2	100-120	2,031.1 (421.2)			2,031.1 (421.2)	
	ろ	12.44		12.44			エゾ 7.0 トマ 2.0 潤 1.0	100-120	1,401.8 (349.4)		295.1 (125.9)	1,696.9 (475.3)	
	計	21.38	8.94	12.44					3,432.9 (770.6)		295.1 (125.9)	3,728.0 (896.5)	
第20號區劃線	い	8.54	8.54				エゾ 8 トマ 2	100-120	1,957.9 (455.9)			1,957.9 (455.9)	
	ろ	8.71		8.71			エゾ 7.0 トマ 2.0 潤 1.0	100-120	981.9 (244.7)		206.7 (88.2)	1,188.6 (332.9)	
	計	17.25	8.54	8.71					2,939.8 (700.6)		206.7 (88.2)	3,146.5 (788.8)	
區劃線		B. 亞屯圍地 (第21號-第26號)											

林班	小班	面積 (ha)						林況					
		總	現在林相					樹種混交歩合	林齡	材積 (m <sup>3</sup> )			
			針葉樹	針葉混	闊葉混	闊葉樹	未立地			エゾ・トマ	グヒマツ	潤葉樹	計
第21號區劃線	い	26.39	26.39				エゾ 7.0 トマ 3.0	100-150	2,910.2 (583.0)			2,910.2 (583.0)	
	計	26.39	26.39						2,910.2 (583.0)			2,910.2 (583.0)	
第22號區劃線	い	25.10	25.10				エゾ 7.0 トマ 3.0	100-150	1,302.4 (259.7)			1,302.4 (259.7)	
	計	56.96	25.10		31.86				1,302.4 (259.7)		810.8 (166.3)	2,113.2 (426.0)	
第23號區劃線	い	71.99	71.99				エゾ 7.0 トマ 3.0	100-150	7,750.1 (1,550.0)			7,750.1 (1,550.0)	
	計	71.99	71.99						7,750.1 (1,550.0)			7,750.1 (1,550.0)	
第24號區劃線	い	44.20	44.20				エゾ 8.0 トマ 2.0	100-150	6,134.7 (861.1)			6,134.7 (861.1)	
	計	44.20	44.20						6,134.7 (861.1)			6,134.7 (861.1)	
第25號區劃線	い	23.71	23.71				エゾ 7.5 トマ 2.5	100-200	3,628.8 (3,624.4)			3,628.8 (3,624.4)	
	計	23.71	23.71						3,628.8 (3,624.4)			3,628.8 (3,624.4)	
第26號區劃線	い	38.19	38.19				エゾ 7.5 トマ 2.5	100-200	5,500.2 (555.4)			5,500.2 (555.4)	
	計	38.19	38.19						5,500.2 (555.4)			5,500.2 (555.4)	
第一事業區劃線	施業地	古丹岸地	6,748.41	5,862.39	797.48		88.54		1,487,174.9 (361,098.6)		19,980.9 (8,706.7)	1,507,155.8 (369,805.3)	
	施業地	亞屯地	3,930.44	3,391.68	538.76				460,171.4 (68,311.3)		1,346.4 (288.4)	461,517.8 (68,599.7)	
	計	10,678.85	9,254.07	1,336.24		88.54		1,947,346.3 (429,409.9)		21,327.3 (8,995.1)	1,968,673.6 (438,405.0)		
施業限地(區劃線)	施業限地	古丹岸地	844.81	488.01	346.44		10.36		124,127.5 (28,994.0)		8,340.1 (3,652.2)	132,467.6 (32,646.2)	
	施業限地	亞屯地	261.44	229.58		31.86			27,226.4 (7,433.6)		810.8 (166.3)	28,037.2 (7,599.9)	
	計	1,106.25	717.59	346.44		31.86	10.36	151,353.9 (36,427.6)		9,150.9 (3,818.5)	160,504.8 (40,246.1)		
總計		11,785.10	9,971.66	1,682.68		31.86	98.90	2,098,700.2 (465,837.5)		30,478.2 (12,813.6)	2,129,178.4 (478,651.1)		



II 第二事業區

A. 古丹岸園地 (林班1-19)

林班	面積 (ha)							林況				
	總	現在林相				樹種混交歩合	林齡	材積 (m <sup>3</sup> )				
		針葉樹	針葉混交林	闊葉樹	未立地			エゾ・トマ	グヒマツ	潤葉樹	計	
1	281.76	281.76				エゾ 8 トマ 2	100	73,755.0 (17,652.0)			73,755.0 (17,652.0)	
2	429.49	429.49				エゾ 8 トマ 2	100-120	118,870.7 (27,131.9)			118,870.7 (27,131.9)	
3	273.97	273.97				エゾ 2 トマ 1 グヒ 7	80-150	8,366.8 (903.6)	26,056.5 (11,187.5)		34,423.3 (12,091.1)	
4	187.55	187.55				エゾ 8 トマ 2	80-150	(22,780.1)			(22,780.1)	
5	363.24			363.24		ザ ツ				18,509.9 (17,622.4)	18,509.9 (17,622.4)	
6	26.12				26.12							
7	184.74				184.74							
8	118.21				118.21							
9	113.92				113.92							
10	43.20				43.20							
11	131.68	131.68				エゾ 8 トマ 2	120	(13,420.3)			(13,420.3)	
12	29.00				29.00							
13	326.27	326.27				エゾ 4 トマ 1 グヒ 5	80-150	2,300.4 (9,964.5)	2,345.9 (9,964.5)		4,646.3 (19,929.0)	
14	110.20	110.20				エゾ 7 トマ 3	100	(12,307.2)			(12,307.2)	
15	286.73	286.73				エゾ 7 トマ 3	100	76,160.9 (19,065.2)			76,160.9 (19,065.2)	
16	259.70			259.70		ザ ツ				7,570.1 (11,332.5)	7,570.1 (11,332.5)	
17	228.51	228.51				エゾ 4 トマ 1 グヒ 5	80-150	16,111.5 (6,979.0)	16,430.6 (6,979.0)		32,542.1 (13,958.0)	
18	369.04	369.04				エゾ 7 トマ 3	100	97,888.0 (24,343.2)			97,888.0 (24,343.2)	
19	262.05			262.05		ザ ツ				17,697.5 (7,133.9)	17,697.5 (7,133.9)	
計	4,025.38	2,625.2		884.99	515.19			393,453.3 (154,547.0)	44,833.0 (28,131.0)	43,777.5 (36,088.8)	482,063.8 (218,766.8)	

B. 亞屯園地 (林班20-33)

林班	面積 (ha)							林況						
	總	現在林相				樹種混交歩合	林齡	材積 (m <sup>3</sup> )						
		針葉樹	針葉混交林	闊葉樹	未立地			エゾ・トマ	グヒマツ	潤葉樹	計			
20	279.47					エゾ 5 トマ 2 ザツ 3		92.17	187.30		5,617.9 (1,219.8)	6,877.2 (5,444.5)	12,495.1 (6,664.3)	
21	607.64								607.64					
22	300.71	300.71				エゾ 8 トマ 2	100-180	44,455.6 (4,456.8)					44,455.6 (4,456.8)	
23	4.29					ザ ツ	10-20				55.6 (55.6)	55.6 (55.6)		
24	6.44					ザ ツ	10-20				83.4 (83.4)	83.4 (83.4)		
25	5.36					ザ ツ	10-20				69.5 (69.5)	69.5 (69.5)		
26	192.46	192.46				エゾ 7.5 トマ 2.5					27,717.3 (2,798.6)		27,717.3 (2,798.6)	
27	187.85	187.85				エゾ 7.5 トマ 2.5					28,751.4 (2,871.6)		28,751.4 (2,871.6)	
28	627.91	627.91				エゾ 7.5 トマ 2.5					96,106.3 (9,598.9)		96,106.3 (9,598.9)	
29	984.94	968.80	16.14			エゾ 5 トマ 2 ザツ 3					129,268.5 (20,473.6)	518.5 (281.6)	129,787.0 (20,755.2)	
30	9.66	9.66				エゾ 8 トマ 2					1,252.8 (125.3)		1,252.8 (125.3)	
31	149.01									149.01				
32	222.39													
33	444.79	444.79				エゾ 8 トマ 2					57,712.3 (5,771.2)		57,712.3 (5,771.2)	
計	4,022.92	2,732.18	108.31	203.39	979.04						390,882.1 (47,315.8)	7,604.2 (5,934.6)	398,486.3 (53,250.4)	
第二事業區	古丹岸園地	4,025.38	2,625.20		884.99	515.19					393,453.3 (154,547.0)	44,833.0 (28,131.0)	43,777.5 (36,088.8)	482,063.8 (218,766.8)
	亞屯園地	4,022.92	2,732.18	108.31	203.39	979.04					390,882.1 (47,315.8)	7,604.2 (5,934.6)	398,486.3 (53,250.4)	
	計	8,048.30	5,357.38	108.31	1,088.38	1,494.23					784,335.4 (201,862.8)	44,833.0 (28,131.0)	51,381.7 (42,023.4)	880,550.1 (272,017.2)



總 括 表

1	2	3	面積 (ha)				8	9	材 積 (m <sup>3</sup> )				
			總	現 在 林 相					樹種混 交歩合	林 齡	材 積 (m <sup>3</sup> )		
				針 樹	葉 林	針 混					潤 交	潤 樹	葉 林
事 業 區 別	第 一	11,785.10	9,971.66	1,682.68	31.86	98.90			2,098,700.2 (465,837.5)		30,478.2 (12,813.6)	2,129,178.4 (478,651.1)	
	第 二	8,048.30	5,357.38	108.31	1,088.28	1,494.23			784,335.4 (201,862.8)	44,833.0 (28,131.0)	51,381.7 (42,023.4)	880,550.1 (272,017.2)	
	計	19,833.40	15,329.04	1,790.99	1,120.24	1,593.13			2,883,035.6 (667,700.3)	44,833.0 (28,131.0)	81,859.9 (54,837.0)	3,009,728.5 (750,668.3)	
團 地 別	古丹岸	11,618.60	8,975.60	1,143.92	884.99	614.09			2,004,755.7 (544,639.6)	44,833.0 (28,131.0)	72,098.5 (48,447.7)	2,121,687.2 (621,218.3)	
	亞 屯	8,214.80	6,353.44	647.07	235.25	979.04			878,279.9 (123,060.7)		9,761.4 (6,389.3)	888,041.3 (129,450.0)	
	計	19,833.40	15,329.04	1,790.99	1,120.24	1,593.13			2,883,035.6 (667,700.3)	44,833.0 (28,131.0)	81,859.9 (54,837.0)	3,009,728.5 (750,668.3)	

第四章 施 業

第一節 既往ノ施業概要

本演習林設定ノ當初ニ在リテハ交通甚敷不便ニシテ往々十數日ヲ片道ニ要スルガ如キ状態ニアリ到底完全ナル監督ヲ爲スコト能ハズ殊ニ當時尙優秀ナル技術者ヲ多く得ル事能ハザリシヲ以テ施業案ニヨリ事業ヲ拘束スルノ策ヲ取り成ルベク簡單ニシテシカモ窮屈ナル施業案ヲ編成シ然後初メテ事業ヲ開始スル事トシタ。當時農學部未ダ設立セラレズ依リテ施業ノ根本方針トシテハ農學部設立迄成ルベク完全ニ森林ヲ保存セントスルノガ其眼目デアツタガ林況ノ條下ニ述ベタル如ク老齡又ハ腐朽木頗多ク之ヲ適當ニ除去シテ自然ノ儘ニ林相ノ改良ヲ計ラントシタノデアリ。即大正4年ヨリ5年ニ亘ル當時トシテハカナリ周到綿密ナル調査ノ結果大正5年事業開始前ニ漸ク編成セラレタル施業案ニ於テハ古丹岸、亞屯兩團地ヲ通ジテ一事業區トシタダ亞屯團地ハ當時全然交通ノ便ナク當分ノ間到底事業開始不可能ナルヲ思ヒ第2期以後ニ施業スルコトトシ即古丹岸團地ヲ14個ノ林班ニ區劃シ平均一林班ノ面積837町、最大1131町、最小523町、外ニ40町ノ施業制限地ト758町ノ除地ヲ指定シタ、「エゾマツ」「トドマツ」及「グヒマツ」ノ前更喬林作業ヲ基本體系トシ輪伐齡ヲ100年、面積平分法ニヨレバ古丹岸團地58年、亞屯團地42年ノ伐採年數ヲ得ルモ亞屯團地ノ林相ガ古丹岸團地ニ

比シ劣レル事及事業ノ安全ヲ計ル爲ニ古丹岸團地ノ伐採年數ヲ70年ト定メ當時調査ノ結果面積10,917町、材積9,669,795石ナリシヲ以テ標準年伐面積156町、標準年伐材積138,140石ヲ指定シ生長量ト腐朽量トハ相殺スルモノト假定シタ、更新方法ニ就キテハ現存林相ハ兼伐方法ニオケル豫備伐ト下種伐トノ終了セル状態ニ相當スルモノト認メ即現存林木ノ伐採ニヨリ更新事業ハ殆完成スルモノトシ5寸又ハ6寸以上ノモノノミヲ伐採セシメ稚樹ノ枯損ヲ避クル爲ニハ伐木運材時ノ人爲的損傷ニ注意ヲ要求シ乾燥ニヨル枯損及下草ガ稚樹ヲ壓倒スルガ如キコトハ常態ニ於テハ殆生ゼザルベシト爲シタダ火災ノ害ニ就キテハ特ニ留意シタダニ天然更新ガ其爲ニ不能トナルベキノミナラズ舌タダニ演習林ノ災厄タルニ止マラズ誠ニ地方産業、住民ノ安危、樺太開發ノ事業ニ絶大ノ關係アリト爲シ『誠ニ防火施設ハ森林經營上ノ根本問題ニシテ萬事ヲ措キテ先ヅ實行セザルベカラズ』ト爲シ而シテ防火ヲ爲スハ人間ニ在リ、演習林ヲ眞ニ愛スル者ノ1人ハ路傍ノ者ノ100人ニモ優ルヲ思ヒテ林間植民ノ獎勵ヲ策シ除地トシテ指定シタル758町歩ハ實ニ林間植民地ニ宛ツル爲ニシテ依リテ勞力者ノ定住、食糧ノ自給等ヲ計劃シタノデアツタ。

本案ニヨリ實行シタル10年間(大正5—14年)ノ概略ヲ見ルニ伐採個所ニ就キテハ案所定ノ通りデアアル、但案其者ガ中途ニ於テ一回改訂セラレタ、之最初ハ古丹岸川ニ水運ヲ行フ事不可能ナリシ爲全部陸運ニ豫定シタル所後ニ流送可能トナリタルニヨリ伐採個所ノミヲ變更指定シタノデアアル、之ガ爲反ツテ奥地ヲ伐採シ部落ニ近キ個所ヲ保存スルノ便ヲ得タ、伐採面積、材積等ハ案所定ノモノト2割以内ニオケル増減ヲ許容スルノ一般ノ例ニ倣フタ。而シテ此10年間ニ於ケル伐採面積、材積ハ次ノ如シ。

伐採面積 2,674町1 (案所定標準 1,559町)

伐採材積 1,459,886石57 (案所定標準 1,381,399石)

即面積ニ於テハ約1.7倍、材積ニ於テハ約1.05倍デアリ、材積ハ結局原案通り實行セラレタリト見做スベキモ面積ニ於テ著敷過大デアリ、然レドモ之實ハ次ノ2ノ理由ガアル、即(1)施業案ニ於テハ全樹種ヲ伐採スル如ク計算シタガ實際ハ殆「エゾマツ」「トドマツ」ノミヲ伐採シ他ノ樹種ハ殘存シテ居ル、(2)最初ハ交通不便ノ爲ニ比較的利用價值ノ乏シキモノハ伐採搬出ヲ喜バズ、而シテ更新上ノ見地ヨリスルモ安全ノ爲ニ多少ノ母樹ヲ殘存スルヲ便宜トセザヤトノ考アリシ爲之等林木ノ殘存ヲ許シタルコト、結局原案ハ殆皆伐デアリノヲ實際ニ當リテハカナリノ林木ヲ殘存セシメタ、(其結果ニ關シテハ別ニ造林ノ條下ニ詳細記述スル)此爲ニ材積ハ所定通りニ伐リタルモ面積が増大セルカノ如クニ見ユルノデアツテ結局伐採ハ殆原案ノ精神ガ守ラレタト稱シテ差支無イ。

更新ニ關シテハ詳細ハ造林ノ條下ニ讓リ又一部分ハ林況ノ條下ニモ述ベタル通り火災ノ害ヲ蒙ラ



ザリシ處ニ於テハ略々所期ノ如ク否或ハ當初立案者ノ豫想以上ニ完全ニ行ハレツツアリテ『火サヘ入ラナケレバ更新ハ誠ニ樂觀ニ値スル』ノ感ヲ抱カシメツツアルノデアル。タダ最不幸ニシテ且願遺憾ナルハ大正12年夏季、其年ハ稀有ノ旱魃デ部落内ノ道路モ燃エ住宅ノ庭園ニ於テハ雜草モ枯レテ燃ユルト傳ヘラレタ程デアツタケレドモ演習林内ニ於テ火ヲ發シ伐採跡地ノ内1,072.2haヲ燒盡シテ仕舞フタ、一度燒ケタル伐採跡地ハ到底人力ヲ藉ラザレバ俄ニ更新ヲ期待シ得ヌ、此燒跡地ノ内約50haハ闊葉樹林地ニシテ比較的容易ニ天然生稚樹ノ再發ヲ見タノデ之ガ撫育ニヨリ成林ヲ期待シ其他ノ1,021.6haニ對シテハ直チニ人工播種ニヨリ造林ヲ試ミ比較的裸地ニ適スル「ドイツアカマツ」及「ドイツタウヒ」ヲ氣候關係ノ類似セル芬蘭ヨリ購入シテ播種シタガ其成績ハ極メテ不良ニシテ今日ニ於テハ僅カニ多少ノ殘存セル稚樹ヲ見ルニ過ギヌ、依リテ方針ヲ改メテ專ラ植樹ニヨリ造林セントシツツアル。此火災以後防火施設ヲ更ニ充實セシメ毎年5月乃至10月ノ間ハ毎日巡視人夫ヲ増員シテ林内ヲ警備セシメ又見晴澤上及古丹岸ニ2個所ノ望樓ヲ設ケ電話ヲ通ジ夏期毎日監視人夫ヲ配置セシメテ居ル、防火線工事亦火災後促進シ、農耕地ハ既ニ約165町ヲ區劃シ40戸ニ假リニ割當テタルモ貸付ニ關スル規定制定セラレザルヲ以テ今尙假貸付ノ形式ヲ脱セス。幸ニシテ此火災以後演習林内ニハ火災絶無ニシテ周圍ノ森林ハ前後幾回トナク數回ノ大火災ニ遭ヒ往時附近森林ハ尺寸ノ土地モ剩サズ鬱蒼タル美林ナリシヲ今日ハ黒焦ノ燒木徒ラニ林立シテ其際涯ヲ知ラズ演習林内ニ入りテ初メテ綠色ヲ見ルノ状態ニ在ル、斯クノ如キハ演習林在勤職員ノ忠實慎重ナル警備ニ由ルノ外誠ニ地元部落民ノ演習林ニ對スル愛護心又木材拂受人ノ誠實ナル態度ニ據ルモノデアツテ此機會ニ深く感謝ノ意ヲ表スル次第デアル、茲ニ遺憾ナルハ昭和3年夏林内ニ存スル木材拂受人所管ノ小屋ヨリ火ヲ發シ附近貓額大ノ土地ヲ燒キタル事デアルガ幸ニシテ此地ハ演習林作業所建設豫定地ナリシ爲禍ヲ轉ジテ福トナシ一舉ニシテ開拓工事ヲ爲ストラ得タ。

既往ノ施業ニ關シテハ以上タダ輪廓ヲ述ベタルニ過ギズ、詳細ハ夫々關係ノ條下ニ於テ述ブル事トスル。

## 第二節 施業ノ根本方針

既ニ概況ニ於テ述ベタル如ク本演習林ハ其特質上ヨリ重大ナル任務ヲ帶ビタル森林ニシテ之ガ施業ハ其目的ニ合致スル様行ハレザルベカラザル事勿論デアリ第1施業期ニ於テハ前述ノ如ク農學部設定ヲ見ル迄完全ニ保存スルヲ唯一目的トシタルモ農學部設置後ニ於テハ其目的全然變化シ寒帯林ニ於ケル諸般ノ研究及演習ヲ行フニ適スル様案ヲ改ムル必要ガアル、恰大正14年ヲ以テ第1施業期ヲ終リ案ノ檢訂期ニ至リタルヲ以テ此新目的ニ合致スル様ニ全然新規ニ施業案ヲ建直ホシタ、名ハ

檢訂ナルモ實ハ新編成ト選ブ所ガ無イ。

俗研究及演習ヲ主目的トスル雖之ガ爲ニ要スル經費上ノ制限モアレバ經濟上ノ制肘モアル、例ヘバ研究上ノ必要ヨリ伐採シタル木材ノ拂下ト云フ事モ考ヘネバナラズ、毎年ノ研究事項ニ著シキ差違(主トシテ經費上ノ)ガアルノモ全體ノ仕事カラ考ヘルト不自由デアル。然ルニ研究ニシテモ演習ニシテモ夫自身ガ最初カラスカル妥協ノ立場ヨリ行ハレル様デハ完全ヲ期スル事ガ出来ヌ、演習林ノ施業案ナルモノハ斯クシテ一般ノ施業案トハ全然別個ノモノデアリ從ツテ之ガ編成ハ頗困難ナルト共ニ其間多大ノ興趣ヲ伴フ。

茲ニ本節ニ於テハ研究及演習ノ立場ヨリ考ヘテ本演習林ヲ如何ニ取扱ヒ度ク思フカト云フ施業上ノ根本方針ヲ述ベ次節ニ於テ此理想的ノ根本方針ガ現在ノ状態ニ於テハ實際上如何ニ實現シ得ラルルデアラウ乎ヲ述ベ更ニ其次ノ節ニ於テハ將來如何ニ實現スベキデアアル乎ト云フ問題ニ觸レテ見度ク思フ。

既ニ述ベタル如ク寒帯森林ハ過去及現在ニ於ケル林學、林業ノ對象ノ中樞ヲ爲セルヲ以テ之ニ對スル研究ハ既ニ細微ニ亘ルモノアリ其數亦一々舉グルニ遑無シト雖今日尙解決セラレザル問題ニシテ且重要ナル基本の問題ハ實ニ更新ニ關スル事項デアル、而シテ概シテ寒帯林ハ下木ノ繁茂少クシテ天然更新ニ便ナルコト、養苗困難ニシテ人工更新ニ不利ナルコト等他ノ温帯其他ノ森林ト反對ノ事情アリテ從ツテ天然更新ノ研究ニハ本質的ニ適當シ更ニ既述ノ如ク諸外國トノ比較等ノ爲ニハ必ズヤ本帶林ヲ選バザルベカラズ、又本邦現下ノ林業上最大ノ問題タル更新特ニ天然更新ハ之ヲ内地ニ於テ研究スルコト困難ニシテ樺太ニ於テ容易從ツテ此種研究ハ先ヅ樺太ニ於テ行ハルルノガ順序デアル事等ノ理由ニヨリ本演習林ニ於ケル研究ノ主眼ハ之ヲ更新ニ置ク。

更新ニ關スル研究ヲ爲スタメニ要スル一個所ノ最小面積ハ蓋シ1haデアル、何トナレバ一般ニ森林ニオケル面積ノ單位ハ1haニシテ坪ヲ用フルガ如キハ蓋シ國有財産ノ書類ノミデアラウ、從ツテ1ha以下ノ地ニオケル研究ハ其價値乏シク往々ニシテ誤謬ヲ伴フ、俗此1haガ周圍ノ影響ヲ受クヌト云フ事ガ無イ、研究上殊ニ更新ニ關スル試驗ノ場合ニハ試驗地外ノ事情ガ甚敷影響ヲ試驗地内ニ及ボスガ故ニ如何ニ少クトモ周圍100m位ノ餘地ヲ要求スル、斯クシテ更新試驗區ノ考ヘ得ベキ最小面積ハ1區域ガ9haデアル。

同一試驗ヲタダ一個所ニ於テノミ行フハ危險デアル、林業上ノ諸試驗ハ普通長年月ニ亘ル、殊ニ更新ヲ試驗スルニハ1伐期以上ヲ完全ニ經過セザレバ結論ヲ得ル事能ハヌ、此長年月ノ間タダ1個所デハ萬一何等カノ差障ガ起レバ數十年ノ研究ヲ水泡ニ歸セシメネバナラヌ。依リテ同一試驗ニ對シ少クトモ三個所ニ於テ之ヲ試ミ度イ。



試験ヲ行フ對象ガ同一試験ニ對シテモ澤山アル、之ヲ地況ニツキ云ヘバ山頂、山腹、平地ノ3ニツキ各々北面陰濕ノ地、南面陽燥ノ地即合計6個所、林況ニツキ云ヘバ「エゾマツ」ノ優越セル所、「トドマツ」ノ優越セル所、「グヒマツ」ノ優越セル處、針闊混交セル所、闊葉樹ノ優越セル所等ニツキ夫々比較研究セネバナラヌ。斯クシテ之等ヲ結合シテ唯一ツノ實驗ヲスルニモ普通數十個所ニ於テ爲サレネバ噓デアル。以下研究ノ種類ヲ掲ゲル。

先ツ天然更新ニ關スル試験ノ内

い、擇伐試験 如何ナル方法、如何ナル擇伐率ガ如何ナル地況林況ニ於テ如何ナル結果ヲ生ズルヤ、即方法ニツキ云ヘバ専ラ支配木ヨリ伐ルカ専ラ被壓木ヨリ伐ルカ専ラ直徑大ナルモノヨリ伐ルカ之等ノ中間ヲ取ルカ全體ヨリ少量宛伐ルカ多少集團的ニ伐ルカ擇伐後ノ地表ハ放置スルカ掻起スカ稚樹發生ヲ助長スルカ補植ヲ行フカ毎年擇伐スルカ何年毎ニ擇伐スルカ所謂 Kontrollmethode ハ如何又所謂 Dauerwaldbetrieb ハ如何、擇伐率ニツキテモ少クトモ30%、50%、70%位ノ階梯ハ試ムル要アリ、而シテ之等ヲ適當ニ組合ハセタルモノヲ林況地況ノ差違ニ從ツテ試験セントスル。

ろ、傘伐試験 略々擇伐ト皆伐トノ中間ニ位セル傘伐更新法ハ本演習林ニ於テ第一施業期以來引繼キ採用セルモノニシテ之或ハ本地方森林更新法トシテ基本的ノモノナルヤノ觀ガアル、從ツテ之ハ特ニ詳細ニ研究シ度イ。豫備伐、下種伐、受光伐、後伐等ノ數回ニ亘ル伐採ノ方法、時期等ニ關シテハ無數ノ combination ガ出來ル、之等ヲ林況地況ノ差違ニ關聯シテ考究スル。

は、區劃皆伐試験 種子ノ落下ヲ周圍ノ森林ニ期待スルカ、特定ノ隣接森林ノノミ期待スルカ、伐採後ノ種子落下ハ期待セムカ、皆伐個所ヲ塊狀トスルカ帶狀トスルカ、又ハ特殊ノ形ニスルカ、個所ノ幅、長さ等ハ如何スルカ、伐採地ニ人工ヲ加ヘヌカ、加フルトスレバ如何スルカ、伐採時期ハ如何、結實ノ模様ニヨリ伐採ニ手心ヲ加ヘルカ等々ヲ地況、林況ノ異ルニ從ヒテ研究シ度イ。

次ニ人工造林ニツキ考ヘル。

に、人工播種 現在北半球ノ寒帶林ニ於テ最多キ林相ハ蓋シ「モミ」屬ノ純林、「タウヒ」屬ノ純林、「モミ」屬ノ優越セル森林、「タウヒ」屬ノ優越セル森林、「グヒマツ」ノ純林、「グヒマツ」ノ優越セル森林デアラウ、之ヲ人工播種ニヨリ如何ニスレバ行ヒ得ルヤ、此以外ニ此地方ニ良好ナル林相ヲ形成シ得ベシ思ハルル本邦産、外國産樹種ハ30種ヲ下ラズ、此項ノ試験地ハ1haニテ充分ニシテ天然更新ノ場合ノ如ク周圍ノ影響ヲ避クル事困難ナラズ、但播種方法、時期、地拵ノ方法、播種床ノ形、播種ノ量、播種後ノ手入れ法等頗多様ノ試驗ヲ地況ニ應ジ行フ要アリ、更ニ進ンデハ種子ノ産地、母樹ノ年齢、種子ノ採集期、播種前ニオケル種子ノ取扱法等ノ相違ニツキテモ一々播種シテ其成績ヲ検査スル要ガアル。

ほ、人工植栽 植栽ト播種トノ比較研究、就中根ノ組織ノ差違ニヨル成林狀態ノ相違ヲ見ル爲ニ前記播種ノ試験ト全ク一致スル諸種ノ方法ヲ行フ外植樹其物ノ試験ノ爲ニ地拵ノ方法、植樹數(單位面積ニツキ)、植樹時季、植樹後ノ手入れ等ヲ地況ノ差違ニ應ジテ試験スル外ニ樹苗ノ性質ニ關シテハ苗圃内ニ播種セルカ、天然生幼苗ヲ取リタルカ、苗圃内ニ於ケル養成方法ノ如何、苗ノ大サ、根ノ狀態ノ如何、苗木ノ年齢、其他ヲモ尙考慮ニ入ル、要アリ。

へ、撫育間伐試験 天然更新及人工造林ニヨリ形成シタル森林ニ對シテ撫育方法ノ各種、間伐方法ノ各種ヲ試験ス、尙現在林ニ對シテモ之ヲ行ヒ得ル區域ニハ行フコトトス。

と、植生調査 以上各種ノ更新ニ關スル研究ヲ爲スニ際シ常ニ考慮ヲ要スルハ自然ガ如何ニ之ヲ行ヘルカト云フ點デアル。即各種ノ林地ヲ選ビ之ヲ大切ニ保存シテ其處ニ行ハルル植生ノ變化ヲ見ルト云フ事ガ基本的重要性ヲ有ツ。但單ニ自然ニ放置スル區域ノミニテハ不可ニシテ之ト同時ニ著シク人爲變化ノ加ハル場合ト略々此等ノ中庸ノ場合トヲ見ル爲ノ區域モ必要デアル。植生調査區トシテ設定ヲ要スルハ蓋シ次ノ諸區域デアラウ。

- A 山頂ニ近キ草原地(多少ノ樹木ノ存スルヲ妨グズ)
- B 山頂ニ近キ「ハヒマツ」林
- C 山頂ニ近キ「ハヒマツ」ト他樹種トノ混セル區域
- D 山岳性地「エゾマツ」純林
- E 山岳性地「トドマツ」純林
- F 山岳性地「エゾマツ」優越セル森林
- G 山岳性地「トドマツ」優越セル森林
- H 平地性地「エゾマツ」純林
- I 平地性地「トドマツ」純林
- J 平地性地「エゾマツ」優越セル森林
- K 平地性地「トドマツ」優越セル森林
- L 「グヒマツ」純林
- M 「グヒマツ」優越セル森林
- N 「グヒマツ」ノ漸次劣勢トナリツツアル森林
- O 「グヒマツ」ノ漸次優勢トナリツツアル森林
- P 山岳性地針闊混交林
- Q 平地性地針闊混交林



- R 潤葉樹林(比較的河ヨリ遠キモノ)
- S 潤葉樹林(河畔又ハ濕地ニオケルモノ)
- T 平地性地草原
- U 濕原
- V 山岳性地火災跡地
- W 平地性地火災跡地
- X つんどら地
- Y つんどら地火災跡地
- Z 以上ノ外特殊ノ區域

之等ノ種類ニツキ尙地況ノ異ルニ從ヒ更ニ若干ノ種類ヲ増シテ設定スルヲ要スルモ此種試驗地ハ隣接地ノ影響ヲ絶對ニ遮斷スルヲ要スルガ故ニ一流域ヲ一區域トスル事最理想ノニシテ然ラザルモ少クトモ調査區域外ニ200m幅ノ地帯ヲ置クヲ要シ即一調査區ノ最小面積ハ25haトナル、之ニ取扱法ノ3種、一種類3區域ヲ乘ズレバ植生調査區域ノミニテ6000haノ多キヲ要スル理デアル。

ち、成長調査 天然更新ニヨリ成立セルモノ、人工播種ニヨリタルモノ、人工植栽ニヨリタルモノニ就キ「エゾマツ」ハ1年乃至200年、「トドマツ」ハ1年乃至150年、「グヒマツ」ハ1年乃至200年ノ間ノ年々ノ生長ヲ其取扱方法、地況、其他ノ異ルニヨリ調査スルヲ要スルガ之ハ前述セル諸種ノ試驗地ニ於テ施行シ得ルデアラウ。

り、Loggingノ諸方法比較 伐木、造材、集材、運材等ニ關スル諸方法ノ比較研究ヲ試ミントスルモノデアル。

ぬ、Lumberingノ諸方法比較 防腐其他ノ材質改良、製材其他ニ關スルモノデアル。

る、害蟲菌ノ研究 現存セル林木ノ約25—30%ガ實ニ菌類ノ爲ニ腐朽セルモノデアルコトヲ思フ時ニ、而シテ先年發生シタルまつけむしハ幸ニシテ本演習林ニハ寸毫ノ害ヲ與ヘザリシモ樺太全島ノ約1/3ノ面積ノ森林ヲ蝕害セルヲ思フ時ニ本項ノ研究ハ邦家ノ爲1日モ忽ニナシ得ベキデ無イ。

を、農業調査 極地農業ノ研究ハ夫自身特殊ノ重要性ガアル。更ニ勞力常備、火災防備、農林業ノ比較、混農林業等ノ立場ヨリシテモ此調査ハ重要デアル。

わ、牧畜調査 略々前項ニ同ジ。

か、特殊ノ諸研究 例ヘバ有益鳥獸ノ保護並ニ飼育、食用菌類ノ栽培、藥用植物其他ノ栽培等々。

よ、林業ト漁業トノ調和 特ニ森林ノ取扱ガ漁業ニ及ボス影響ノ調査研究。

た、森林ノ影響ニ關スル調査 例ヘバ森林ノ取扱方法ガ氣象特ニ降水量及流量ニ及ボス影響ヲ試

驗スル爲ニハ地況、林況、更新其他ノ方法等ヲ適當ニ組合ハセ1個ノ試驗地ヲ1流域トシテ研究スルヲ要シ、針葉樹林ガ土壤ニ對シテ特殊ノ作用ヲ爲シ爲ニ寒帶針葉樹林内ノ土壤ハ特別ノ性質ヲ帶ビテ居ルガ之ニ關スル研究ハ世界的ニ尙未ダ進歩セズ此種研究ノ如キハ樺太ヲ措キ他ニ適當ナル研究地ノ無キモノデアルカラ特ニ注意シテ行フ要ガアル。

以上學術ノ研究ヲ主眼トシテ本演習林施業上ノ基礎ノ事項ヲ述ベタ、學生演習ニ關シテハ更メテ説クヲ要セザラ思フ。

演習林經營上ノ基本ノ事項ニ亙リテハ便宜次節ニ於テ記ス。

### 第三節 現在ノ施業方法

先ニ施業ノ根本方針ニ於テ吾人ハ本演習林デ如何ナル事ヲナス希望デアルカト云フ事ヲ述ベタ、之ヲ如何ニ實行シテ居ルカト云フ事ヲ此處ニ記スノデアルガ前節述ベタル事項ダケデモ之ヲ完全ニ實行スル爲ニハ最小限度130,000haガ必要デアル(計算ハ略ス)之ヲ僅々20,000haニ於テ實行セントスルノデアリ其上ニ施業上當然必要ナル多クノ面積(道路、防火線、施業ヲ爲ス能ハザル個所)ガ加ハリ來ル、之ヲ案配スル處ニ演習林施業案編成ノ苦心ト妙味トガアル。

#### 第一、森林區劃

現在ニ於テハ亞屯團地ハ未ダ獨立セル事業區トシテ經營スルニ適セザル狀況ニ在ルヲ以テ古丹岸及亞屯兩團地ヲ合セタル上之ヲ地況、林況等ヲ考慮シテ2ノ事業區ニ分ツ、第1事業區ハ絶對的又ハ永久的ノ林業地デアリ第2事業區ハ農耕、牧畜、苗圃、特殊試驗等ニ宛ツル豫定デアル。

#### 1. 第1事業區

防火ノ關係其他ヲ考慮シ林班界ハ原則トシテ峯通リトシ分水線ノ兩側各75m宛計150mノ幅員ヲ有スル線ヲ區劃線トシテ防火線豫定地トス。

區劃線ニヨリテ普通施業地ハ27個ノ林班ニ分タレ第1—第20ハ古丹岸團地ニ在リ他ハ亞屯團地ニ在ル。

主トシテ林相ニ依リ林班ヲ別チテ小班ヲ作ル、小班數最多キハ第3、4、17林班ニシテ孰レモ4個ノ小班ヲ有シ、1林班1小班ノモノモアル。

區劃線ハ第1號乃至第26號區劃線ニシテ内1—20ハ古丹岸ニ其他ハ亞屯ニ在ル。

林班、小班、區劃線等ノ面積ハ第二章ニ於テ記シタレハ略ス。

#### 2. 第2事業區

事業區ノ性質上區劃線ヲ設ケズ、地況、林況等ニヨリ33個ノ林班ニ分ツ。

本事業區ノ林班ハ孰レモ1林班1小班デアル、尙泊岸村所在演習林附屬地モ便宜本事業區ノ最終番



號ノ林班トシテアル。

第二、伐採量

現存林木ハ殆皆伐期ヲ超エタル所謂過熟林木デアラガ故ニ打算的利用ノ見地ヨリスレバ成ルベク速ニ伐リ去ルノガ利益デアラガ一方收穫ノ保續ト云フ點モ考ヘネバナラズ又研究ノ進捗ノ度モ考フル要ガアル、依リテ結局毎年伐採量ノ最大ト最小トノ限度ヲ定メルコトトシタ。

1. 第1事業區

將來本事業區ノ林相トシテ期待セラルルモノ、内最主要ナルハ「エゾマツ」「トドマツ」ヲ主林木トスルモノデアラウ、之等樹種ヲ現存林ニツキ見ルニ100—150年生ニシテ既ニ腐朽ニ傾キ過熟ニナル、ヨリテ考察スルニ平均100年以上成立セシムルハ不得策デアラウ、現存林木ノ伐採ニハ種々ノ方法ヲ執ルガ其基調ヲ爲スモノハ強度ノ擇伐デアラウ、即平均シテ云ヘバ、直徑級6—7寸以上ヲ多少ノ例外ハ別トシテ皆伐スル形トナル、此殘存セラルル木ハ蓋シ少クトモ20年ノ樹齡ヲ有スベク結局次回ノ伐採ハ80年後ニ行ハレテ寧ロ遲過ギルトモ早キニ過グル事ハ無イ。普通此處デ整理期ト云フモノヲ持出シ現存林ノ過熟ヲ口實トシテ第1回ノ伐採ニ限り短縮シテ行フ事ヲ計畫スル例デアラガ寒帯林ノ濫伐ハ次期森林ノ成立ニ對シ特ニ危險デアリ尙火災蟲害等多クシテ之等ノ災害ニヨル蓄積ノ損耗モ考ヘネバナラズ事デアラカラ此際整理期ヲオク一般例ニ從ハズ80年ヲ其儘伐期トシテ計算シ既ニ10ヶ年ヲ經過セル故檢訂施業案ニ於テハ當時現存林木ヲ70年間ニ伐ル事トシタ（前施業期内ニオケル伐採ハ此標準年伐額ヨリモ少ク即此處ニ多少ノ餘裕ガ殘ルガ安全ノ爲ニ其儘ニシテオク）尙殘存スベキ幼齡樹ハ此計算外ニ置イテアル。腐朽木ハ保護上ノ立場カラ是非迅速ニ伐リ度イガ實行上困難デアラウカラ良木ト共ニ逐次ニ伐ル、此間ニ腐朽ハ愈々進ムデアラウ、此 negative ノ生長量ハ簡單ニ positive ノ生長量ト相殺スルモノト假定スル。

區劃線ハ既述ノ如ク防火線豫定地デアリ成ルベク速ニ伐採搬出ヲ了シテ防火設備ヲ作り度イガ諸種ノ關係上茲ニハ30箇年ヲ要スルモノト假定シテ置ク。

本事業區内現存(第1施業期末)材積次ノ如シ。

第1事業區	エゾマツ、トドマツ (m <sup>3</sup> )	潤葉樹 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )
普通施業地			
古丹岸園地	1,848,274.1	28,686.6	1,876,960.7
亞屯園地	528,483.4	1,634.8	530,118.2
計	2,376,757.5	30,321.4	2,407,078.9

第II事業區	エゾマツ、トドマツ (m <sup>3</sup> )	潤葉樹 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )
區劃線			
古丹岸園地	153,122.0	11,992.2	165,114.2
亞屯園地	34,660.0	977.1	35,637.1
計	187,782.0	12,969.3	200,751.3

依リテ標準年伐額ハ次ノ如クニナル。

「エゾマツ」及「トドマツ」

普通施業地  $2,376,757.5 \times 1/70 = 33,953.7$   
 區劃線  $187,782.0 \times 1/30 = 6,259.4$   
 計 40,213.1

「潤葉樹」

普通施業地  $30,321.4 \times 1/70 = 433.2$   
 區劃線  $12,969.3 \times 1/30 = 432.3$   
 計 865.5

2. 第2事業區

此事業區ハ既述ノ如ク將來ニ於テハ特殊林業地、特殊試験地、苗圃見本林用地、農耕地、牧畜地等ニ充テントスルモノデアリ原則トシテ其大部分ハ速ニ之ヲ皆伐スル必要アルモ上記事業ノ進捗度ニ伴フヲ可トシ又收穫ノナルベク保續スル様ニスル必要モアリ彼此考慮ノ結果30年ヲ最短60年ヲ最長トシ夫々計算ヲ試ミタ。

本事業區内現存(第1施業期末)材積ハ次ノ如シ。

第II事業區	エゾマツ、トドマツ (m <sup>3</sup> )	グヒマツ (m <sup>3</sup> )	潤葉樹 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )
古丹岸園地	548,060.3	72,964.0	79,866.3	700,890.6
亞屯園地	438,197.9	0.0	13,538.8	451,736.7
計	986,198.2	72,964.0	93,405.1	1,152,567.3

依リテ制限年伐額ハ次ノ如クニナル。

「エゾマツ」「トドマツ」



986,198.2 × 1/30 = 32,873.3    " × 1/60 = 16,436.6

「グヒマツ」

72,964.0 × 1/30 = 2,432.1    " × 1/60 = 1,216.0

「潤葉樹」

93,405.1 × 1/30 = 3,113.5    " × 1/60 = 1,556.8

3. 兩事業區合計

上記ノ伐採量ヲ合計シ參考ノ爲ニ石ニ換算シタル數字ヲモ合セテ示セバ次表ノ如クニナル。

標準年伐額	エゾマツ、トマツ (m <sup>2</sup> )	グヒマツ (m <sup>2</sup> )	潤葉樹 (m <sup>2</sup> )	合計 (m <sup>2</sup> )	
第 I 事業區	40,213.1	0.0	865.5	41,078.6	
第 II 事業區	最大	32,873.3	2,432.1	3,113.5	38,418.9
	最小	16,436.6	1,216.0	1,556.8	19,209.4
合計	最大	73,086.4	2,432.1	3,979.0	79,497.5
	最小	56,649.7	1,216.0	2,422.3	60,288.0
	(石)	(石)	(石)	(石)	
合計	最大	262,650	8,740	14,209	285,600
	最小	203,581	4,370	8,705	216,657

四捨五入ノ關係ニヨリ最後ノ數字ハ往々ニシテ±1ノ差違ガアル。

第三、伐採上ノ注意

伐採量ハ上記セル如クニ其標準量ノ上下ノ限界ヲ示シテアル、之ハ單ナル標準デアルカラ毎年必ズ此數量ニ一致スベキ事ヲ要求シテハ居ラス、10年間ノ平均ガ此標準ト2割以内ノ差違ヲ以テ伐採セラルル事ヲ要求シテアルニ止マル、例ヘバ現ニ未ダ亞屯園地ノ伐採ニ着手シテ居ラズシテ古丹岸園地ニ於テ標準量ヨリモ多ク伐ツテ居ルガ之ハ本施業期ノ後半ニ於テ亞屯ニ於テ多ク、古丹岸ニ於テ少ク伐ルコトニヨリテ平均シテ行ク積デアル。

伐採箇所ハ研究ノ區域ト種類トガ確定セザレバ之ヲ定ムルコトガ出来ヌ、研究ハ其年ノ環境ニヨリ前後變化セシムル事項モアルノデ遠キ將來迄悉ク確定スルハ困難デアル、從ツテ伐採箇所ハ近キ將來ニ於ケル大體ヲ指示スルニ止マル、第1事業區ニ就キテハ古丹岸園地ニ於テ林班5, 4, 3, 2, 1, ノ順序ニヨリ伐採スルヲ可トスル旨ヲ指示シテアル。亞屯ニ於テハ着手前ニ之ヲ示ス豫定デアル。而シテ第2事業區ニ就キテハ其目的ガ一般林業以外ノ地ヲ得ルニ在ルヲ以テ其目的ニ添フ箇所ヨリ伐

出スレバ好キ事トシテアル。勿論防火線、林道等ノ豫定地ノ伐採ハ成ルベク速ニスベキデアル事ハ特ニ云フ必要モアルマイ。尙伐採箇所ニツキテハ次ノ諸點ニ留意セネバナラヌ。

(1) 保護ノ關係 伐採箇所ガ徒ニ散逸スルハ一般取締及火災豫防上支障多キヲ以テ避クルヲ要ス然シテ伐採箇所相互間ニ相當面積ノ森林ヲ殘存セシムル事亦火災豫防上卓効ガアル。又境界、事業區界、交通上及防火上必要アル場合ハ其區域ノ伐採年度ヲ早クスルヲ要ス。

(2) 更新ノ關係 1箇所ニ於テアマリニ廣キ伐採跡地ヲ作ルコトハ更新上ヨリ見ルモ望マシクナイ。

(3) 運材ノ關係 運材路ガ幼齡林ヲ通過セヌ様ニスルコト、伐採地ガ點在スルハ運材上不利ナルモ一時ノ利便ノミヲ思ヒテ伐採地ヲ選定スルガ如キ事モ避クルヲ要ス、尙峯通り、境界等ニ僅少面積ノ森林ヲ殘存シテ後ニ到リ之ガ搬出ニ困難ヲ來スガ如キ發生ゼザル様ニスルヲ必要トスル。

第四、其 他

上記以外ノ事項ハ便宜第五章以下第十章迄ニ於テ夫々詳述スル。

第四節 將來ノ施業方法

將來ノ施業上特ニ注意スベキ點ガ2アル即

(1) 施業ノ根本方針ニ示シタル諸事項ヲ完全ニ遂行スル爲ニハ林學教室ノ職員モ演習林ノ職員モ充分ニ備ハル事ガ必要デアリ創設間モナキ現在ニ於テハ未ダ定員モ乏シク且職員サヘモ少カラヌ状態ニアルノデ已ムヲ得ヌ事デアルカモ知レヌガ今後逐次充實スルニ伴ヒ試驗演習共ニ成ルベク精密ナル案ヲ作りテ實行シタイ希望ガアル、此事ハ一般經濟状態ニモ關聯スル處深ク例ヘバ從來ニ於テハ假リニ1個ノ擇伐試驗區ヲ設クルモ試驗ノ目的ニヨク合致セル箇所ガ山奥深キ處デ交通ノ便全然ナク爲ニ一試驗ノ爲ニ莫大ノ經費ヲ要シ其上ニ伐採シタル木材ハ到底賣却ノ途ナクサレバトテ之ヲ林内ニ放置スレバ試驗上ノ妨トナルノミカ火災豫防上ニモ障害ガ起ルト云フ有様デアツタ、幸ニシテ最近附近交通状態頓ニ一變シ之ニ伴フテ演習林内交通路モ後記スル如ク計畫進捗中デアルノデ前述ノ如キ困難ハ漸次減少スルデアラウ。

(2) 現在演習林内林木ハ年期契約ニヨリ立木賣拂ヲ爲シテ居ル、此事タル從來ノ經濟状態ヲ以テシテハ誠ニ已ムヲ得ヌ事ト云フヨリモ寧ろ全然外ニ方法ガ無カツタト云フテモ差支ナイ、然シテ理想トシテハ演習林自ラ伐木以後全事業ヲ行フヲ最可トスルコト勿論デアル、殊ニ或種ノ試驗ニ於テハ自ラ行ハネバ到底成績ヲ擧グル能ハザルモノモアル。即漸次直營ニ向ツテ進行スル事ヲ必要トスル。



以上ノ2項ニ關聯シテ予輩ハ本篇冒頭ニ於テ現施業案ガ其檢訂期ニ至ラザルニ先チ臨時檢訂ノ要アルベキヲ希望的ニ豫告シタノデアアル。

其他ノ事項ニ就テハ次章以下漸次記ス。

## 第五章 造 林

### 第一節 天然更新

#### 第一、伐採跡地

既往ノ伐採跡地ニオケル天然更新ハ火災ノ害ヲ蒙リタル以外ノ個所ニ於テハ略々豫期ノ成績ヲ舉ゲテ居ル、即前ニ林況ノ章ニ於テ述ベタル如ク伐採後9年ニシテ樹高6尺前後ノモノ毎ha3000本以上ヲ算シ既ニ所謂除伐ヲ必要トスル時代ニ入りツツアル、伐採跡地ノ殆全部ハ此通りノ成績ヲ期待シ得ルモ今後必要トスル事業ハ

(1) 撫育 之ハ上述ノ如ク古キ伐採跡地ノ稚樹ガ既ニ除伐ヲ要スル時代ニ入り來リタルヲ以テ施業ノ根本方針ニ基キ區域ヲ定メテ其撫育方法ヲ研究スベク目下區域設定中ニ在ル。

(2) 補植 伐採跡地ノ更新成績ハ概シテ良好ナルモシカモ補植ヲ必要ト認メラルル區域無キニシモ非ズ、依リテ施業ノ根本方針ニ基キ區域ヲ定メテ補植ノ樹種、方法等ヲ試験セントシ區域ハ設定中ニ屬シ補植用苗木ハ林内苗圃ニ於テ育成シテ居ル。

#### 第二、未伐採地

未伐採地ニ對シテハ先ニ施業ノ根本方針ニ示シタル各種ノ更新方法ノ試験ヲ行ハントシ一部ノ區域ハ設定済ニシテ他ハ逐次設定中ニ在リ。

### 第二節 人工造林

山火跡地1072haニ對シテハ第一施業期ニ於テハ成ルベク急速ニ之ニ人工播種ニヨリ造林ヲ完了セントシ大正12年火災ノ年ヨリ大正14年度迄3年間ニ次表ノ如ク846ha1ニ對シテ播種造林ヲ行ツタ。

年度	施業箇所	樹種	播種期	面積	播種量	經費	所要勞力	摘要
				(ha)	(升)	(圓)	(人)	
大正12年度	5林班	ドイツアカマツ	6.13.~6.17.	22.30	0.50	229.40	62.0	
	7 "	ドイツタウヒ	6.17.~6.19.	11.20	0.80	138.75	37.5	
	7 "	ドイツアカマツ	6.20.~7.26.	258.09	2.75	1,905.50	476.0	
	9 "	"	7.10.~7.14.	9.90	0.50	37.00	10.0	1ha當リ播種量1合5勺同經費7.50圓同勞力約2.0人
	合計			301.49	4.55	2,310.65	585.5	

年度	施業箇所	樹種	播種期	面積	播種量	經費	所要勞力	摘要
				(ha)	(升)	(圓)	(人)	
大正13年度	7林班	エゾマツ	6.20.~9.27.	82.30	8.00	1,171.52	285.6	
	井戸澤	トママツ			25.00			
	7林班	ドイツタウヒ	6.7.~7.10.	241.00	23.30	2,747.20	625.0	
	羊見晴澤	ドイツアカマツ	9.20.~9.30.		8.70			
12林班	"	7.1	22.30	0.50	61.00	15.0	1ha當リ播種量1.8合同經費11.44圓同勞力3.0人	
合計				345.60	65.50	3,979.72	925.6	
大正14年度	9林班	トママツ	5.21.~5.29.	64.00	11.00	691.61	187.0	
	猿川澤	エゾマツ						
		ドイツタウヒ						
	9林班	"	5.30.~6.2.	45.00	10.90	568.60	130.0	
	五味澤	ドイツアカマツ						
9林班	ドイツアカマツ	6.3.~6.14.	90.00	14.20	1,147.70	287.4		
豊田澤	ドイツタウヒ						1ha當リ播種量1.8合同經費12.10圓同勞力12.0人	
合計				99.00	36.1	2,407.91	604.4	

其方法ハ6月中旬ヨリ9月上旬迄ノ間ニ散在的ニ約60cm方形地ヲ掘起シテ地拵シ播種後覆土ヲ行ヒ枯草ヲ掩フタノデアリ種子ハ林内産「エゾマツ」「トマツ」及北歐(主トシテ芬蘭及丁抹)産「ドイツアカマツ」「ドイツタウヒ」デアアルガ此播種造林ハ殆失敗ニ了リ發芽モ充分ナラズ發芽後ノ生長ハ極メテ不結果デアアル、依リテ大正15年施業案檢訂後ハ此火災跡地ヲ以テ人工造林試験地ト爲シ略々次ノ如キ試験ヲ行フコトトシタ。

い、現状ノ儘ニ殘存シテ植生ノ推移ヲ調査セントスル箇所。

ろ、播種成績良好ナル箇所ヲ撰ビテ其成績ヲ引繼ギ調査シ必要ニ應ジ補播又ハ補植ノ試験ヲ爲サントスル箇所。

は、人工播種試験地 之ハ「エゾマツ」「トマツ」「グヒマツ」外國産針葉樹、林内及林外産闊葉樹ノ種子ヲ地位、播種方法等ノ諸種類ニツキ行ハントスル。

に、人工植栽試験地 之ハ林内産樹種ト林外産樹種トノ2ニ分チ林内産樹種ニツキテハ種子ヲ苗圃ニ播キテ得タル苗木ト天然生稚苗ヲ苗圃内ニテ育成セルモノト天然生稚苗ヲ直接ニ山出シスルモノトノ3種類ヲ地位ノ如何、植栽方法時季等ノ如何ニヨリ種々ノ combination ヲ作り試験シ又林外産樹種ニツキテハ産地ヲ異ニシテ諸種ノ種子ヲ求メ苗圃ニテ育成シタル上前記同様各々ノ場合ニ



區別シテ施行スル。

ほ、樹種ニヨリテハ挿木造林モ試ムルコトトスル。

依リテ逐次區劃ヲ定メ一方苗圃ニ於ケル事業ヲ之ニ伴ヒ進捗セシメツツアル、即大正15年度ニ於テハ上記ハノ試験ニ宛ツル爲メニ林班7ニ於テ5haヲ撰ビ6月20日—26日「エゾマツ」「トママツ」「グヒマツ」「ドイツタウヒ」「ドイツアカマツ」ノ種子5升ヲ播種シ24人ノ勞力、123圓58錢ノ經費ヲ用ヒタ、而シテ其他ノ造林ヲ爲スタメニハ苗木ヲ要スルノ第一節ニ述ベタル苗木ト共ニ之ヲ苗圃内ニ於テ育成スルコトトシ其實行次ノ如シ。

年 度	種 別	樹 種	面 積	數 量	經 費	勞 力	實 行 期
大正15年度	播 種	エゾマツ、トママツ、グヒマツ、ドイツタウヒ、ドイツアカマツ	82m <sup>2</sup>	5升	82.80	28	6月10日～10月20日
	山苗移植	エゾマツ、トママツ、グヒマツ	79m <sup>2</sup>	8626本	110.50	33	6月14日～19日 9月21日～10月2日
昭和2年度	播 種	エゾマツ、トママツ、ドイツタウヒ、ドイツアカマツ	148m <sup>2</sup>	3885gr	140.80		6月～10月
	床 替	エゾマツ、トママツ、グヒマツ、ドイツアカマツ		10625本	135.00		6月～10月

苗圃ハ事務所附近及林間ニ在ルガ後者ノ方成績良好ナルヲ以テ漸次之ヲ擴張スベク開墾中デアルカラ之ニ伴ヒ苗圃事業ハ逐次増加スルデアラウケレドモ屢々述ベタル如ク天然更新ハ火災ノ害サヘナケレバ完全ニ行ヒ得ル事デアルノデ苗圃ノ擴張ハ實ハ決シテ希望セザルコトト云ハネバナラス。

## 第六章 保 護

### 第一節 火 災

本演習林ノ保護ニ於テ最留意ヲ要スルハ森林火災デアル、之ガ防禦ハ森林經營ノ最根本ヲ爲スコトハ既ニ屢々述ベタル通りデアルガ之ハ關係者ノ一致協力ニヨラザレバ到底完全ニ行フコトガ出来ヌ、依リテ演習林ガ直接諸種ノ方法ニヨリ防火ニ勉ムルト同時ニ地元部落ノ消防隊トモ平素聯絡ヲ執リ尙木材拂受人ニ對シテハ防火上ノ種々ナル義務ヲ負ハシメテ居ル、演習林ガ自ラ行フ處ノ火災防備ノ方法ニ就テハ防火ノ宣傳、諸般ノ取締、防火巡視者ノ警邏、防火器具ノ設置等ハ勿論ニシテ特ニ説明ノ要無カルバク防火線ハ既往ニ於テ次ノ如クニ之ヲ設置シタ。

新設年度	位 置	地 名	延 長	新設經費	修理年度	修理經費	經費合計
12	I. 5. は. ろ界 ヨリ I. 5. 6界ヲ 經テ I. 6. II. 8. 7. 界マデ	白苔名澤、成田 澤峯境經藤本川、 トラ川分水嶺至 本流	7,650 <sup>m</sup>	7,400.00	14	35	7,530.00
					15	35	
					2	60	
計			7,400.00		130		
13	II. 9. 10. 11界ヨ リ I. 3. II. 9界迄	自上内藏之助澤、 藤本川出合至黃 金澤上流	3,150	518.37	14	59.5	615.37
					15	17.5	
					2	20.0	
計			518.37		97.0		
	II. 8. 7界	中ノ澤奥ノ澤分 水線	1,550	256.78	14	66.5	330.28
					15	7.0	
				計			
	I. 4. II. 9界	自藤本川本流經 湯ノ澤豊田澤分 水線、至黃金澤 上部	1,570	313.39	14	24.5	358.39
					15	10.5	
				計			
2	I. 2. 3界 II. 12	下内藏之助、熊 ノ澤界 演習林東境	2,182	586.80			586.80
					3,000	1,228.80	
總 計			19,102	10,304.14		345.50	10,649.64

今後ハ防火線ハ既往ノ方針ヲ繼承シテ必要ノ度大ナルモノヨリ逐次之ヲ設クル豫定デアルガ尙第二期施業案ニ於テ新タニ林班界ニ區劃線ヲ設定シ之ハ一般施業ノ進捗ト關聯シテ防火設備ヲ爲ス計畫デアル、尙最近樺太鐵道ガ本演習林附近ヲ通過スル豫定ヲ以テ工事中デアルノデ之ニ對シテモ適當ノ火災防備策ヲ講ゼネバナラス。

木材拂受人ニ對シテハ大學ニ於テ必要ト認ムル防火設備ノ實施ヲ命ジタル時ハ必ず之ヲ實行セネバナラス事ガ約束シテアル、此約束ニ基キ拂受人ハ林内2箇所ニ望樓ヲ樹テ電話ヲ通ジ巡視ヲ配置スル等其他諸般ノ策ヲ講ジツツアル。

地元消防隊トノ聯絡モ常ニ完全ニ支持サレテ居ルノデ上記各方面ノ協力ニヨリ演習林内ニオケル火災ハ之ヲ他ニ比較スル時ハ著シク少カツタノデアリ即既往ニ於テノ火災ノ全部ヲ表示スレバ次ノ



如シ。

年	月 日	位 置	原 因	面 積	林 相 等	損害額	備 考
9	9.20	亞屯園地内	不 明	不 明	不 明	不明	
10	7.20	Ⅱ. 6.	不 明	13ha	大正7年度 拂下跡地	?	消火出役22人 稚樹焼失ス
	9.1~9.17	Ⅱ. 4.	土人ノ入山シテ 失火セルナラン	43ha	大正6年度 拂下跡地	?	消火出役861人 稚樹焼失ス
12	8.11~8.13	Ⅱ. 6. 9. 10及 7ノ大部	落 雷?	635ha	大正8年度 以許拂下跡地	?	消火出役583人 稚樹焼失ス
	8.25	Ⅰ. 5. は. Ⅱ. 8.7ノ一部	再 燃	484ha	同 上	?	消火出役100人 稚樹焼失ス
14	6.8~6.13	苗 圃 内	煙草吸殻	200坪	播 種 床		消火出役19人

屢々繰り返シ述べタル如ク本演習林經營上ノ最根本最重要ナル事ハ防火ニアルノデ今後一層設備ヲ充實シテ演習林内ニハ今後絶對ニ山火ヲ發生セシメズ他ヨリノ延焼ハ必ズ之ヲ防止スベク最善ノ努力ヲ爲ス事ヲ心懸ケテ居ル。

### 第二節 境 界

境界ハ人工境界線ニ於テハ勿論天然境界ニ於テモ分水線不明等ノ原因ニヨリ不識ノ間ニ之ヲ犯ス者無シト限ラヌ、既往ニ於テハ附近森林ニ入ルモノ稀ナリシ爲境界侵犯ハ絶無ナリシモ漸次附近ニ於テ伐木事業ノ行ハルルニ及ベバ之ガ対策ヲ講ズル必要ガアル、依リテ最紛ハシキ部分及侵犯ノ虞アル部分ヨリ初メテ逐次ニ之ヲ數m幅ニ伐開シテ境界明示ト共ニ一面防火線及道路ノ代用ニモ供シテ居ル、其他ノ部分ニ於テハ不取敢境界線上ノ樹幹ニペンキヲ塗布シテ之ヲ示シテアルガ勿論之ハ一時的ノモノデ結局ハ境界線ハ悉ク伐開スル豫定デアル。

### 第三節 蟲 菌 害

まつけむし其他ノ蟲害ハ幸ニシテ未ダ之ヲ受ケヌ、遠キ過去ニ於テ蟲害ヲ蒙リタリト認メラルル僅少面積ヲ1箇所林内ニ發見シタガ如何ナル種類ノ蟲害ニシテ何年頃被害セルモノナルカハ目下調査中ニ屬ス、こしんくひノ被害ハ往々ニシテ「エゾマツ」ノ過熟林木ニ發見セラル。

菌害ハ頗多イ、先ニ林況ノ章ニ於テ述べタル如ク全林木ノ1/4—1/3ハ程度ニ多少ノ別コソアレ孰レモ所謂「菌木」デ其材部ハ蝕害ヲ受ケテ居ル、之等害菌中ノ主要ナルモノハ

- まつのかはたけ                      Trametes Pini Fr.
- つがのさるのこしかけ              Fomes pinicola Fr.
- ほくちだけ                            F. formentarius Fr.

- こぶきさるのこしかけ              F. applanatus (Pers) Waller.
- ほくちたけもどき                    F. igniarius Fr.
- かいめんたけ                        Polyporus schweinitzii Fr.
- ?うすばしはいたけ                  Irpex lamelliformis Slogd.

等ニシテ就中まつのかはたけノ「エゾマツ」ニ與フル害ハ最著シク、つがのさるのこしかけノ被害亦「エゾマツ」ニ多クほくちだけもどきハ「ソウシカンバ」ヲ犯スモ大害ナクうすばしはいたけト思ハルル菌ハ「トドマツ」ノ邊材ヲ盛ニ犯シテ居ル。

## 第七章 利 用

大正5年以來施業案所定材積ヲ立木賣却シタノミデアル(第四章及第十一章ニ詳シキヲ以テ此處ニ略ス)之ガ伐採、造材、運材等ヲ逐次大學自ラ實行スルヲ可トスベキハ之亦既述セル如クニシテ目下之ガ準備中ニ在ル、而シテ此外ニ利用事業トシテ取立テテ述ベキモノハ無イ。

## 第八章 土 木 及 建 築

### 第一節 道 路

木材ノ搬出路トシテハ河川ガアリ一般交通ノ爲ニハ林内殆平坦ニシテ加フルニ下木ノ繁茂少ク殆孰レノ部分ヲモ往來スルコトヲ得殊ニ冬期積雪スルニ及ベバ目的地點迄一直線ニすき一又ハすと一ヲ以テ滑走シ得ベキヲ以テ道路ノ必要少ク又林内ニ物資ヲ供給スル爲ニハ木材拂受人ニ於テ敷設シタル軌道アリ爲ニ從來演習林ニ於テハアマリ多クノ道路ヲ設ケザリシモ農耕地ノ開發ハ無人ノ境ニ忽ニシテ部落ヲ作り、周圍山林ノ伐木事業開始ハ火災延焼ノ虞ヲ生ゼシメタル等要スルニ本演習林地方ノ一般ニ開拓セラレテ人口ノ増加スルニ伴ヒ交通及保護ノ關係上林内ニ道路ヲ設クルノ要漸次増大シ來リタルヲ以テ最近大體ノ道路計劃ヲ樹立シタ、即

- I. 主林道 自動車(又ハ消防自動車)ヲ通ジ得ベカラシム
  - A. 古丹岸河口附近ヨリ本流ニ沿ヒ湖リニ股ヨリとら川ニ沿ヒ湖リテ其水源ニ達スル線(古丹岸縱斷道路)
  - B. 泊岸部落内演習林事務所敷地ヨリ一直線ニ楠山作業所ニ至リ藤本川ヲ湖リとら川ニ越シテA線ト結ブ線(古丹岸横斷道路)



- C. 古丹岸圍地東境ニ沿ヒ其南端ヨリ北端ニ至ル線(古丹岸境界道路ノ一部)
- D. 亞屯川ニ沿ヒ亞屯圍地ヲ東境ヨリ西境迄貫ク線(亞屯橫斷道路)
- E. 農耕地内區劃線ニ沿フ線(農耕道路)

II. 副林道 ナルバク車道トスルモ勾配關係上困難ナル箇所ハ牛馬道又ハ歩道トス。

- A. 主要ナル各谷筋ニ沿フ線(谷筋線)
- B. 第1事業区内區劃線、多クハ峯筋線ナリ
- C. 境界一周線
- D. 防火線

上記ノ内古丹岸縱斷道路ハ下流ヨリ全長ノ約1/3ハ既ニ歩道トシテ完成シテ居ル、極メテ近キ將來ニ於テ先ヅ延長線ヲ歩道トシテ竣功セシメタル後逐次全線ヲ車道ニ改ムル計劃デアアルガ下流ニ於テハ林外ニ屬スル部分相當ノ延長アルモ其内一部分ハ所謂軍道ヲ利用シ得ル、古丹岸橫斷道路ハ既ニ大部分歩道トシテ完成シテ居ル、之ハ極メテ近キ將來ニ於テ車道ニ改ムル計劃デアリ既ニ一部分ノ測量ヲ終了シタ、古丹岸東境道路ハ殆全長ニ亘リテ伐開ヲ了シテ居ル、鐵道ノ開通其他ニ伴ヒ必要ノ程度大ナル箇所ヨリ工事ニ着手セントスル、亞屯橫斷道路ハ現在デハ歩道スラ出來テ居ラス之ハ近ク先ヅ歩道トシテ下流ヨリ逐次工ヲ進ムル豫定デアアル、農耕道路ハ開墾事業ノ進捗ニ伴ヒ必要ナル部分ヨリ直チニ車道トシテノ工事ヲ初ムル豫定デアリ既ニ其必要迫レル若干部分ニ對シテハ其測量ヲ完了シタ。

副林道中谷筋線ハ既ニ若干開通セルモノアリ木材拂受人ニ於テ設備シタルモノモアル、必要ニ應ジ漸次工事ヲ進ムルデアラウ、區劃線及境界一周線ハ現在殆出來テ居ラス、必要ニ伴フテ工ヲ進メル、而シテ防火線ニ關シテハ既ニ保護ノ章ニ於テ之ヲ述ベタ。

全計劃ニ對スル詳細ナル豫定ハ今尙計劃中ニシテ鐵道ノ開通、附近林野拓植進行ノ模様、林内開墾ノ進捗等ニヨルコト頗大ナルヲ以テ確定的年度割ハ當分尙定メ難カルベキヲ思フ。

道路ニ沿ヒテ部分的ニ電話線設置ノ要アリ、近ク豫定セラルルハ事務所楠山作業所トノ間ニシテ續イテ作業所ト藤本山トノ間、農耕地内等ニ開通セシメ度イ。

### 第二節 建築

演習林ノ諸設備中最不十分ナルハ建築デアリ、建築物ノ不足セル事最甚シキハ本演習林デアル、全計劃ハ前ニ芦生演習林ニ於テ述ベタル如ク目下詳細立案中デアアルガ大體ニ於テ本演習林ハ最近ニ於テ泊岸部落内事務所敷地内ニ學生宿舍、事務所、倉庫ノ新築又ハ増築ヲ必要トシ、楠山作業所敷地内ニ作業所、學生宿舍、學生研究室、同作業室、標本室其他雜建物、人夫小屋、倉庫等ノ

新築ヲ必要トスル、而シテ其一部分ハ既ニ昭和4年度ノ豫算ニ計上シテアル。

既往ニオケル建物ハ次表ニ示ス如シ。

臨時費支辨諸建物

名稱	構造	數量	價格	年度	起工	備考
事務室	木造平家建	建 20.00	2,155.970	大正 7	7. 9. 2. 7. 10. 30.	新築
事務所附屬屋	同	同 32.75	5,245.500	同 8	8. 7. 31. 8. 12. 14.	同
物置	同	同 5.00	524.000	同 10	10. 11. 20. 10. 11. 30.	同
宿舍	同	同 28.00	4,720.000	同 11	11. 9. 2. 11. 11. 30.	同

經常費支辨建物

名稱	種別	數量	工費	施行年度	摘要
藤本山小屋	新設	一棟 10.250	491.800	大正13	設備費ヲ含ム
楠山小屋	同	同 8.750	165.000	同 14	
同	増築	同 4.000	201.000	昭和 2	

## 第九章 演習

農學部ノ創設ハ大正13年度ノ事ニ屬シ大正15年度ニ於テ最初ノ學生演習ヲ計劃シタルモ學生數乏シキ爲ニ實現ヲ見ル事無ク昭和3年夏期ニ於テ初メテ第1回ノ學生演習ガ行ハレタ、參加者教授1、講師1、助手1、大學院學生1、林學科學生11、農林經濟學科學生1、期間ハ滞在3週間デアツタ、今後ハ第二篇ニ於テ述ベタル如ク定期的ニ舉行セラルル豫定デアアルガ交通ノ便増大シタルニヨリ定期的以外ニモ學生ノ往復スルコト漸次増加スルデアラウ、既ニ其傾向ハ本年ヨリ具體的ニ現ハレテ居ル。

演習林ノ材料ヲ大學ニ送附シ教室ニ於テ學生ノ演習ニ供シタルモノハ頗多クシテ一々舉グルノ繁ニ堪ヘヌ、而シテ斯クノ如キハ今後漸次増加スベキコト勿論デアアル。

何分ニモ交通ノ便良シカラズ、附近ニ適當ナル宿泊設備ナキ演習林ニ於テ學生ノ演習ヲ行ハントスレバ先ヅ學生宿舍、研究室、作業室等ヲ設ケネバナラスコト勿論デアアルニ拘ハラズ未ダ其設備ニ缺ケタルハ實ニ遺憾トスル處デアリ本年ノ演習ノ如キ假小屋ヲ用ヒ4坪ニ足ラザル所ニ10名餘ガ宿泊スルガ如キ有様デアツタ、演習用建物ノ建築ガ焦眉ノ急ニ迫レルコト、之ガ對策等ハ前ニ既ニ第



八章ニ於テ述ベタ、其完成ノ曉ニハ演習林設置目的ノ一半タル學生實習ハ初メテ完全ニ行ハレ得ルニ至ルデアラウ。

### 第十章 調 査

演習林ニオケル諸調査ハ夫々其關係スル所ニ從ツテ施業、造林、利用等ノ章ニ於テ述ベ又其纏マリタル結果ハ演習林報告ニ於テ發表スベク特ニ此處ニ記述スルノ要ヲ見ヌガ基本的調査ニ屬スル事項中植生調査ノ一部分トシテ植物調査報告ハ近ク發表ノ豫定デアリ保存木又ハ保存林ハ假指定済ノモノ若干アルモ未ダ正式ニ指定シテオラヌカラ省ク。

### 第十一章 雜

本演習林ニハ現ニ助手主任1名、雇員2名(内1名缺員)、囑託2名、定夫2名アルニ過ギヌガタトヘ現在ノ如ク立木賣却ヲ行フトシテモ新タニ楠山ト亞屯トニ作業所ヲ設ケ事務所ニハ助教主任1名、助手3名(造林及調査1, 施業及利用1, 農業1)書記1名(林務)ヲ置キ作業所ニハ夫々助手ヲ置ク事ニシタイ、若シ夫レ逐次演習林ニ於テ自ラ伐木事業ヲ行フコトスレバ其爲ニハカナリノ増員ヲ必要トスルデアラウ、之等ノ定員増加ニ伴ヒ雇員、定夫等モ夫々増加スル要アル事勿論デアル。

本演習林内河岸肥沃ノ地ヲ撰ビテ開墾シ一面極地農業ノ研究ニ資シ他方勞力ノ自給、防火上ノ効果ヲ集ゲシムル事等ヲ計畫シ既ニ假ニ數十戸ノ農家ヲ容レタガ其成績概シテ良好デアル、昭和3年7月ニ於テ之等ニ關スル詳細ナル具體的調査及計劃ヲ爲シ得タルガ故ニ最近ニ於テ正式ノ契約ヲ爲シ逐次其目的ノ貫徹ヲ期セントスル。

最後ニ本演習林既往ノ收入ヲ表示シテ以テ本篇ヲ終ル。

#### 支 出 (經常部)

年度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合 計
明治 41		0	0	350	0	350
42		0	0	150	0	150
43		0	0	0	0	0
44		0	0	150	0	150
45		0	0	0	0	0
大正 元		0	0	0	0	0

年度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合 計
	2	0	0	799	0	799
	3	0	0	166	0	166
	4	0	0	622	0	622
	5	0	0	2,119	0	2,119
	6	0	0	2,456	0	2,456
	7	0	0	1,288	0	1,288
	8	0	0	5,235	0	5,235
	9	0	0	1,897	0	1,897
	10	0	0	6,342	0	6,342
	11	0	0	191	0	191
	12	0	1,710	10,612	0	12,322
	13	0	1,913	10,879	0	12,792
	14	0	2,337	12,219	419	14,975
昭和	元	0	1,383	8,840	0	10,223
	2	0	1,591	9,925	263	11,779
	計	0	8,934	74,240	682	83,856

農場及演習林費内譯ハ次ノ如シ、但大正11年度以前ハ不明ニツキ省ク。

年度	備品	圖書印刷	消耗品	通信運搬	實驗費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給與	雇員給	備人料	被服費	雜費
大正12	1,463	0	730	118	0	0	0	0	1,321	996	1,060	4,672	228	20
13	1,472	0	557	128	0	0	0	0	484	1,018	2,060	5,035	28	94
14	1,150	0	501	141	0	0	0	0	1,582	800	2,228	5,702	51	60
15	1,248	72	548	209	23	0	0	0	1,312	947	1,397	2,961	89	30
昭和 2	262	66	171	94	34	0	0	0	1,314	776	1,195	5,768	46	193
計	5,595	138	2,507	690	57	0	0	0	6,013	4,537	7,940	24,138	442	399

#### 支 出 (臨時部)

年 度	目	金 額
大 正 7	演習林事務所新築	1,600
8	演習林事務所附屬屋新築	5,245



年 度	目	金 額
10	演習林建物其他新營	524
11	演習林建物新營	4,720
計		12,089

收 入 (經常部臨時部共)

年 度	種 別	數 量	價 格	備 考	
大正 5	エゾ・トマ用材拂下	石 33,553.13	圓 11,743.59	拂受人 布施延太郎外1名	
	同	100,000.00	30,000.00	拂受人 大實正鑿	
	同	60,000.00	18,000.00	同	
	同	120,000.00	42,000.00	同	
	同	120,000.00	60,000.00	同	
	同	103,513.72	57,870.15	同 外1件	
	グヒマツ薪材拂下	數 1,000.94		拂受人 地元民代表	
	11	エゾ・トマ用材拂下	石 223,255.52	122,803.25	拂受人 樺太木材株式會社
		同	229,857.26	135,098.25	同
	13	グヒマツ薪材拂下	2,448.00		拂受人 地元民代表
エゾ・トマ用材拂下		210,718.66	116,344.14	拂受人 樺太木材株式會社	
14	グヒマツ薪材拂下	5,554.42		拂受人 地元民代表	
	エゾ・トマ用材拂下	221,781.74	122,971.42	拂受人 樺太木材株式會社外1件	
15	ガンピ外1用材拂下	514.35		拂受人 樺太木材株式會社	
	グヒマツ薪材拂下	5,177.81	拂受人 地元民代表		
	エゾ・トマ用材拂下	239,558.54	157,171.53	拂受人 樺太木材株式會社外1件	
	ガンピ外1用材拂下	657.20		拂受人 樺太木材株式會社	
	グヒマツ薪材拂下	10,427.07	拂受人 地元民代表		
昭和 2	エゾ・トマ用材拂下	230,210.13	168,625.87	拂受人 樺太木材株式會社外1件	
	ガンピ用材拂下	134.09		拂受人 樺太木材株式會社	
	グヒマツ薪材拂下	6,374.03		拂受人 地元民代表	
合 計	エゾ・トマ用材拂下	石 1,892,448.70	1,042,628.20		
	ガンピ其他用材拂下	1,305.64			
	グヒマツ薪材拂下	數 29,981.33			
		數 1,000.94			



(流)

臥雲洞ノ上流水源地附近ノ林相 (I, 7, 8, 9, 10ヨリ望ム)





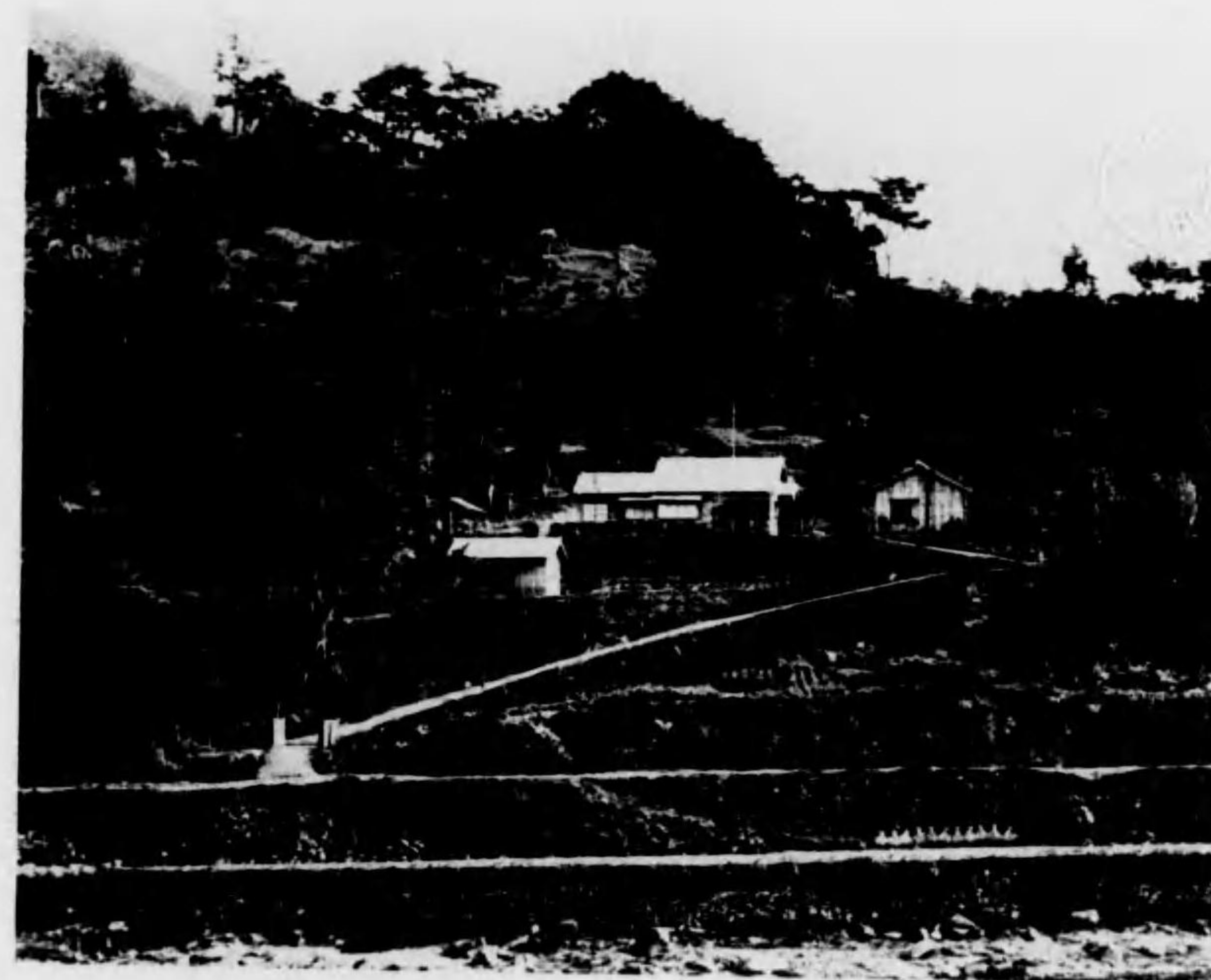
成陽邑外ノ事務所及苗圃 (演)



三峯山遠景 (演)



雲峯作業所 (演)



馬川作業所 (演)





カラマツ造林地(植栽後7年)(事業區Ⅰ 林班6) (演)



ヒノキ造林地(植栽後7年)(事業區Ⅰ 林班6) (演)



カラマツ造林地(植栽後7年)(事業區Ⅰ 林班6) (演)



ヒノキ造林地(植栽後7年)(事業區Ⅰ 林班6) (演)





ケヤキ造林地(植栽後5年)(事業区Ⅰ 林班0)

(演)



クリ造林地(植栽後7年)(事業区Ⅰ 林班0)

(演)



荒廢地復舊播種造林地(事業区Ⅲ 林班24)

(演)



クロマツ、クリ造林地(植栽後5年)(事業区Ⅰ 林班6)

(演)





(左)(右)

椎茸増木寝込 (事業区Ⅱ 林班10)  
 スギ造林地 (植栽後7年) (事業区Ⅰ 林班6)

(演)



(演)



火田 (事業区Ⅱ 林班17ノ内) (演)



霊源寺 (事業区Ⅰ 林班26附近) (演)





## 第八篇 朝鮮演習林

### 第一章 概 況

京都帝國大學農學部附屬朝鮮演習林ハ慶尙南道山淸郡今西面、同道咸陽郡休川面、馬川面、席卜面、全羅北道南原郡山内面、東面、雲峯面、朱川面ノ2道3郡8面ニ亘ル區域ニシテ大體ニ於テ南鮮ノ名山タル智異山ノ北面一帯ノ地域ヲ占メテ居ル、面積推測16,963ha外ニ咸陽ニハ事務所及苗圃敷地、雲峯及馬川ニハ夫々作業所及苗圃敷地アリ之等附屬地ハ合計2ha2194デアル。

林地ハ大正元年12月1日朝鮮總督府ヨリ向フ80年ヲ期限トシテ國有林ヲ借受ケタルモノデアリ當時ノ面積ハ24,256町步デアツタガ當時ハ國有地ノ境界未詳ニシテ上記面積ハ單ナル推定ニ過ギナカツタ、(全羅北道雲峰郡6,913町、同道南原郡2,577町、慶尙南道咸陽郡11,754町、同道山淸郡3,012町)後ニ大正4年ニ於テ國有地區分調査アリ總督府ト大學トノ立會ノ下ニ境界ノ調査ヲ爲シタルニ境界ノ相違ヲ發見シテ一團地ガ東京帝國大學演習林ニ編入セラレタルヲ初メトシ林内各所ニ古クヨリ存シタル部落、私有地等ヲ發見シ面積爲ニ激減シ、更ニ大正7年ニ至リテ再ビ總督府ノ林野調査アリテ境界線ハ三度變更シ演習林ハ再ビ縮小シ尙大正12年4月朝鮮總督府地方模範林ニ充當ノ爲山淸郡内ニ於ケル演習林ノ新植地ヲ含ム1,033町返還ノ申出ニ應ジ之ヲ返付シテ爲ニ境界ハ四度變更シ面積ハ三度縮小スルニ至リ大正15年5月ヲ以テ總督府ヨリ面積更正ノ通知アリ、即合計17,088町8ニシテ當初ノ豫定ニ比シ30%ノ減少ニ當ル、(全羅北道南原郡8,591町01、慶尙南道咸陽郡7,551町76、同道山淸郡346町03、尙雲峯郡ハ南原郡ニ併合セラレタ)之等ノ境界査定中永年禁伐保護ヲ名トシテ係争地トナリタルモノ2-3件アリシモ孰レモ國有ト認メラレ從ツテ演習林ニ編入セラレタ。

附屬地ハ咸陽邑内ニ接近シテ事務所及苗圃敷地トシテ大正7年12月20日ニ1358坪、10年3月4日ニ662坪、10年6月27日ニ1656坪、11年3月11日ニ1438坪、孰レモ民有地ヲ購入シ、馬川ニ於テハ大正15年6月8日ニ603坪ヲ、雲峯ニ於テハ同年6月14日ニ996坪ヲ孰レモ民有地ヲ購入シテ以テ作業所及苗圃ノ敷地ニ充テテ居リ之等ハ孰レモ本學維持資金ニ入レテアル。

大正5年11月以來吏員ヲ咸陽ニオキテ作業ニ當ラシメテ居タガ當初ハ既記ノ如ク專ラ境界ノ確定ニ務メ尙多年盜伐、濫伐頻リニ行ハレテ林地極端ニ荒廢シ全面積ノ約 $\frac{1}{3}$ ハ草地ナリシヲ以テ保護ト荒廢地復舊トニ全カヲ注ギ夫々地方的ニ及事業別ニ施業ノ方針ヲ定メ之ニ準據シテ施業シ以テ今日ニ至ツタノデアルガ、火田、盜伐等ニ對スル取締モ共緒ニ就キ荒廢地ノ造林モカナリノ程度ニ成功シタノデ(當初ノ草地見込面積約6000ha、現在殘存草地約1000ha)從來ノ部分的施業案ヲ取纏



メテ全林ニ對スル施業按ノ編成ニ着手シ本年度内ニハ之ヲ終ル豫定デアル。

朝鮮ノ林政ガ永ク弛廢シ森林爲ニ荒廢ニ傾キタル事ハ世人周知ノ事實デアリ特ニ全羅北道南原郡ニ於ケル林野荒廢ノ甚シカリシ事ハ著明ナルモノデアル、國境附近ニ滿洲西比利亞ニ連ル大森林ノ一端ガ入り來レルコトヲ暫ク別トスレバ朝鮮全土ニ森林ト稱シ得ベキモノハ北鮮ニ於テハ金剛山、南鮮ニ於テハ智異山、濟洲島ニ於テハ漢羅山、即所謂朝鮮ノ三名山ニ於テノミ之ヲ見得ルニ過ギヌト稱スルモ過言デハナイ、金剛山ハ景勝ヲ以テ鳴ル、漢羅山ハ邦人ノ椎茸栽培ヲ爲スモノ夥シクシテ一時ハ之ヲ以テ聞エタ、而シテ智異山ハ之ヲ三分シ東南ハ九州帝國大學演習林、西南ハ東京帝國大學演習林、而シテ北面狹長ナル一帯ノ地ハ京都帝國大學演習林ニ宛テラレタノデアルガ他地方ノ森林荒廢シテ温突燃料又ハ綠肥ノ如キモノニサヘ缺乏シタル鮮人ハ爭フテ智異山ニ入林シ甚シキハ北鮮ヨリ來リ犯スモノサヘアツタト云フ、一步ヲ誤ラバ全山秃兀タルニ至ツタデアラウ、本森林經營ノ第一歩ハ當然荒廢地ノ復舊デアリ林相ノ恢復デアル、多年因襲ノ久シキ林野ノ保護ニハ非常ナル苦心ヲ要スル、生業ナキ者ノ火田耕作ヲ禁ズル能ハズ、シカモ放置スレバ全林ノ蝕マル遠キニアラズ、肥料ヲ有セザル農民ニ綠肥採集ヲ禁ジ、燃料ヲ得ルニ途ナキ人民ニ枝葉ノ採集ヲ禁ズルハ不可能デアルガシカモ之亦放任スレバ山林ノ荒廢ヲ如何センヤト云フコトニナル、朝鮮ノ森林經營ノ第一歩ニシテ直チニ生ズル問題ハ之デアル、シカモ斯クノ如キハ程度ノ差違コソアレ内地ニ於テモ常ニ存スル問題デアル、吾國ノ内外ヲ問ハズ林業ニハ必ズ此種ノ問題ガ伴フ、之等ノ解決ヲ研究シ又ハ荒廢地ノ復舊、林相ノ恢復等ノ仕事ヲ爲スコトハ目前ノ急務ニシテ實利極メテ多キ研究項目デアラネバナラヌ、蓋シ今後尙數十年間本演習林ノ經營ノ根本方針ハ茲ニ置カルルデアラウ、尙本書劈頭ニ於テ述ベタル如ク本邦林木中最普通ニ見ル「アカマツ」ニ關スル研究、砂防工學關係其他ノ特殊ナル林業、純温帶林ノ研究、大陸的氣候ニ支配セララルル土地ノ林業其他ニ關シテ内地ニ適當ナル地ヲ有セザル本學トシテハ之等ヲ實施スルニハ本演習林ヲ措イテ他ニ無イカラ之亦本演習林ノ特徴トシテ舉ゲル要ヲ見ル。

## 第二章 地 況

### 第一節 位置、地形、境界及面積

南鮮ニ於テ漢羅山ヲ除クバ最高且最著名ナルハ智異山デアル、之ハ若干ノ山峯ノ集レルモノヲ總稱スル名ニシテ其峯筋ハ大凡Y字形ヲ爲シテ居リ西ニ走ル脈ト南ニ走ル脈トハ洛東江ト蟾津江トノ分水嶺ヲ成シ東ニ走ル脈ハ洛東江ノ2支流タル廣津川ト小南江トノ分水嶺ヲ成シテ居ル、山系中ノ

最高峯ハ天王峯ト稱シ海拔1916mニシテ傍ニ方丈峯ヲ伴ヒ東脈中ニ聳ヘテ居リ第二ノ高峯ヲ般若峯ト稱シ海拔1751mニシテ西脈中ニ在リ此兩峯ハ東西ニ相對峙シテ居リ孰レモ其周圍ニ本森林内ノ最美林ヲ有シテ居タノデアルガ天王峯ハ登山者ノ多キ爲ニ附近林地ハ漸次劣惡トナルハ遺憾トスル處デアル、般若峯頭ヨリ稍々南方ノ高地ニ於テ全羅北道ト全羅南道ト慶尙南道トガ相接シテ居リ東京、京都、九州ノ三大學ノ演習林亦此點ニ於テ相接シテ居ル、而シテ京都帝國大學演習林ハ實ニ東脈ト西脈トニ亘リテ其北側一帯ノ地ト別ニ獨立シテ存スル小山塊三峯山(1187m4)トヲ占メテ居リ洛東江ノ支流タル瀾川ハ此2圍地ノ間ヲ西ヨリ東ニ横走シテ居ル、即N35°18'ヨリ30'ニ亘リE127°25'ヨリ45'ノ間ニ在リテ南北ニ約19km東西ニ約33kmノ擴ガリヲ有シ最高峯天王峯1916mト最低地朱川面西端部約200mトノ間ノ高距ハ約1700mデアル。

郡別ニ其面積ヲ示セバ

慶尙南道山淸郡内	951ha
同 咸陽郡内	7,656ha
全羅北道南原郡内	8,358ha

ニシテ略々兩道ニヨリ2分セラレテ居ル、事業區、林班別等ノ面積ハ後ニ施業ノ章ニ於テ記スデアラウ、而シテ之等面積タル實ハ地圖上ヨリ計算セルモノニ過ギザラ以テ測量ノ上ハ多少ノ相違ヲ生ズベキハ勿論ノコトデアル。

南界ハ智異山主脈ナルヲ以テ明瞭ニシテ隣地ハ東京及九州兩大學ノ演習林デアル、其他ノ境界ハ悉ク犬牙錯綜シ東方ニ於テ嘗テ大學ヨリ返還シタル地方模範林トノ間ノ境界ガ稍々明瞭ナル以外ハ社寺有林、私有林等トノ界線ハ一般ニ複雜ヲ極メテ居ル、之ニ關シテハ更ニ後ニ保護ノ章ニ於テ説クデアラウ。

地勢ハ天王方丈兩峯頭附近其他ニ於テ部分的ニ絶驗ナル地域アルモ概シテ勾配甚シク急ナラズ、一般ニ北西ニ向ヒ傾斜シ南面セル地ノ殆無キハ極メテ遺憾ニシテ施業上及諸般ノ研究上本演習林ノ最大缺點ノ1タルヲ信ズルモノデアル。

### 第二節 地質及氣象

大部分ハ片麻岩デアルノデ荒廢ノ度著シカラズ地面褐色ニシテ一般ニ林相ハ良好ナルモノヲ期待シ得ル、南原郡ニ於テハ花崗岩多ク風化激シクシテ地表白色ヲ呈シ往々ニシテざらざらト崩レル如キ地方アルモ尙適當ナル保護ニヨリテハ「アカマツ」林ヲ仕立テ得ルヲ思フ、全般ニ亘リテ想像スルニ長年月ニ亘リテ火斧ノ侵入ニヨリ漸次荒廢ニ至リタルモノニ非ズシテカナリ急激ナル人爲ノ加害ニヨリ荒廢シタル林相ト見ルヲ得ベク林相ノ惡化ニ比シ地力ハ尙全ク消耗セルモノニ非ザルベキカ



ト思料セラレル。

氣象ニ就キテハ咸陽ニオケル事務所附近ノ露場ニ於テ觀測シタル結果ヲ次ニ掲ゲル。

### 第三節 交 通

便宜第八章ニ於テ道路ト共ニ記スコトスル。

## 第三章 林 況

(本章ノ記事ハ印刷ノ都合上最近調査ニ係ル分ヲ掲ゲル暇が無クナツタノデ甚不滿ナガラ約10年前ノ調査結果ヲ以テ代ヘルコトシタ、讀者ノ諒承ヲ願フ)

本演習林ヲ假リニ亞寒帶林、温帶上部林、温帶下部林ノ3者ニ分テハ約1300m以上ノ地ト、1300m乃至1100mノ地ト、1100m以下ノ地トガ之ニ該當スル。

温帶下部林ハ最濫伐ノ害ヲ多ク蒙リタル地域デアリ其特征トスベキ「クリ」「コナラ」「エゴ」等ハ著シク減少シ「イヌガヤ」「アカマツ」「ビヤクシン」「ネヅミサシ」「テウチクルミ」「マンシウクルミ」「ヤナギ」類、「サハシバ」「マンシウタラ」「ヤマハンノキ」「クヌギ」「アベマキ」「ニレ」「クヤキ」「エンジュ」「キハダ」「サンセウ」「ヌルデ」「ヤマハゼ」「ニシキギ」「カヘデ」「マタタビ」「グミ」「ナツツバキ」「テウセンミズキ」「マメガキ」「ツツジ」「ニハトコ」「ウツギ」「ウグヒスカグラ」「サルトリイバラ」等ノ一般ニ幼齡矮少ナルモノヨリナレル所謂雜木林地トナレル區域最多ク時ニ或ハ稍々良好ナル繁茂ヲナセル區域無キニ非ザルモ人家ニ近キ部分ニ於テハ甚屢々營生地、裸地、稚松散生地等ヲ爲シ甚シキハ流砂地トナレルモノサヘモ見ル、此地域ニ於テハ林相最良好ナル部分ト雖毎ha 80m<sup>3</sup>前後ニ過ギズ、シカモカカル地域ハ稀デアル。

温帶上部林ハ林相ノ破壊セラレタル程度最少ク往々ニシテ極メテ良好ナル森林ヲ見ルコトアルモ又一方峯筋其他ニ於テハ裸地、營生地、熊笹繁茂地ヲ見ルコト少クナイ、一般ニ温帶下部林ヨリハ高齡ニシテ稍々巨大ナル林木ニ富ム、最多キハ「ミヅナラ」ニシテ之ニ次デ「モンゴリナラ」「ソロ」「マカンバ」「ヤチダモ」「コバノトネリコ」「ハウチハカヘデ」等アリ、外ニ「サハシバ」「イタヤカヘデ」「イヌエンジュ」「アヲハダ」「ハシドイ」「テウセンミズキ」「オノヲレカンバ」「ハリギリ」「クルミ」類等ヲ有シ下木トシテハ「オホバツツジ」「ニハトコ」「アヅキナシ」「ウツギ」「マンシウタラノキ」「ルリミノウシコロシ」等ヲ見ル、上部ニ至ルニ從ヒ「テウセンモミ」「テウセンマツ」ヲ混ジ下部ニ赴クニ從ヒ「アカマツ」ヲ多ク見ル、此地方ニ於テ堅キ材ヲ得ル爲ニ殆唯一ト云フベキ「ナラ」類、器具用材トシテ最適當ナル「クルミ」類「ヤチダモ」類ノ比較的老大ナルモノハ點々又ハ團地狀ニ



統計結果ヲ次ニ掲ゲル。

無クナツタノデ甚不満ナガラ約10年

分テハ約1300m以上ノ地ト、1300m

トスベキ「クリ」「コナラ」「エゴ」等ハ

サシ「アウチクルミ」「マンシウクル

ミ」「クメギ」「アベマキ」「ニレ」「クヤキ」

トキ「カヘデ」「マクタビ」「グミ」「ナ

ツギ」「ウグヒスカグラ」「サルト

トナレル區域最多ク時ニ或ハ稍々

於テハ甚麗々營生地、裸地、稚松散生

ニ於テハ林相最良好ナル部分ト雖毎ha

極メテ良好ナル森林ヲ見ルコトアルモ

ト少クナイ、一般ニ温帯下部林ヨリハ

ニシテ之ニ次デ「モンゴリナラ」「ソロ

」等アリ、外ニ「サハシバ」「イタヤカハ

」「オノヲレカンバ」「ハリギリ」「クル

アヅキナシ」「ウツギ」「マンシウタラ

テウセンモミ」「テウセンマツ」ヲ混ジ

材ヲ得ル爲ニ殆唯一ト云フベキ「ナラ」

較的老大ナルモノハ點々又ハ圍地狀ニ

累年朝鮮演習林概況 (1925-1927)

所在地 (慶尙南道咸陽郡蹄田面栢淵里)

北緯 35° 31' 寒暖計地上ノ高サ 1.3m

東經 127° 44' 雨量計地上ノ高サ 0.2m

海拔 169m

種日	月												年		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
氣	平	1.3	—	1.3	5.9	13.1	18.8	23.1	25.2	27.0	21.6	13.4	8.5	2.0	13.3
	高	3.9	4.6	10.6	20.1	23.5	30.0	29.9	30.3	30.3	25.4	20.3	14.2	6.3	21.1
	低	—	7.2	—	7.1	2.2	9.4	12.9	19.7	20.0	13.9	5.6	0.8	—	5.9
	差	—	11.3	11.7	12.4	14.0	12.8	13.6	10.2	10.5	12.5	13.8	13.4	11.3	11.9
溫	最大	21.8	19.6	22.2	24.6	29.3	21.8	15.0	15.1	18.6	21.3	20.9	17.6	17.6	24.6
	日	25	10	25	12	26	1	26	9	27	11	26	8	25	16
	最高	13.6	11.7	22.2	28.1	28.9	34.6	37.8	35.4	30.7	28.8	20.9	15.5	15.5	37.8
	日	27	6	27	18	27	23	27	21	27	28	27	29	26	12
(°C)	極低	—	14.5	—	15.3	—	11.4	—	7.1	2.4	6.2	13.6	15.9	5.7	—
	日	25	18	20	26	6	25	25	6	27	8	26	14	25	13
	極差	28.1	27.0	33.6	35.2	26.5	28.4	24.2	19.5	25.0	31.0	25.6	28.4	28.4	53.1
	日	27	17	26	15	26	25	25	25	26	27	27	27	26	26
溫度(%)	平	75.7	78.2	61.8	59.1	44.0	56.8	73.6	73.1	69.2	66.1	70.2	71.1	4.5	8.62
	小	31.6	48.0	20.0	3.0	5.2	27.0	41.4	51.0	36.0	31.0	44.8	6.5	3.0	—
地溫(°C)	深サ	1.0	0.8	3.1	6.9	10.2	19.8	23.8	25.8	22.0	15.7	10.1	4.5	8.62	—
	1.2m	4.1	3.1	3.6	6.0	8.5	16.6	20.0	22.7	22.0	18.3	14.1	9.7	8.9	—
降水量(mm)	計	32.6	33.6	50.3	100.9	99.9	99.6	266.4	170.5	189.0	60.1	34.6	33.6	1,179.2	—
	最大(24h)	18.0	18.6	44.0	53.0	82.0	61.0	122.2	70.7	180.5	42.8	11.5	28.3	180.5	—
雲風	量	6	4	5	4	4	5	7	7	4	3	3	—	—	
	向	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
積雪量	最	0.03	0.13	0.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.20	
	日	26	5	26	4	27	13	—	—	—	—	—	—	25	
天	快	12	11	12	12	12	8	6	7	8	13	13	12	124	
	晴	8	6	7	7	9	10	5	9	7	7	7	5	79	
氣	曇	11	12	15	11	13	13	19	15	13	9	12	11	126	
	降水 ≥ 1mm	5	5	6	7	7	7	13	11	8	7	5	5	94	
日	霧	3	3	2	3	2	2	4	4	3	2	3	4	29	
	霧 / 1mm - 0.1mm	1	—	2	2	2	4	7	1	—	3	4	3	5	
數	雪	3	4	3	1	—	—	—	—	—	1	2	4	13	
	雹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
霜	霜	6	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	霜	5	2	6	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
露	露	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	露	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
水	水	28	16	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
吹	吹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	吹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
暴	暴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	暴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
降	降	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	降	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
雪	雪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	雪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
季	季	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	季	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

降霜雪季



朝鮮演習林 (1927)

種日	月												年平均比較				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		年			
氣	平均	0.8	0.4	6.3	14.1	17.9	23.8	28.0	26.2	21.4	14.8	9.7	2.0	13.4	13.3	+ 0.1	
	最高	3.5	4.8	11.0	18.6	22.3	28.9	31.4	29.9	25.4	20.4	16.3	7.1	18.3	21.1	- 2.8	
	最低	-	5.7	-	5.3	9.9	14.7	22.3	21.5	13.5	6.1	1.4	-	7	5.9	+ 1.1	
	平均差	9.3	10.1	11.1	13.2	12.4	14.2	9.1	8.4	11.9	14.3	14.9	10.7	11.6	11.9	- 0.3	
溫 (C°)	最大	14.8	15.0	19.1	21.4	18.3	21.8	14.5	11.4	18.0	20.2	20.9	17.6	21.8	24.6	- 2.8	
	日	3	3	31	21	21	11	20	19	30	18	7	13	11	26	1	
	最高	13.6	11.7	22.2	28.1	28.9	34.6	37.8	32.8	30.4	27.4	20.6	13.2	37.8	37.8	0	
	日	6	18	23	21	28	29	29	16	2	1	5	13	11	27	29	
極 (C°)	最低	-	13.2	-	2.3	2.4	11.1	19.3	17.3	5.7	-	4.1	-	13.2	-	15.3	+ 2.1
	日	30	9	3.4	5.6	8	7.11	16	24	20	14.18	24	20	1	30	26	1
	較	26.8	14.9	28.7	30.4	26.5	23.5	18.5	14.5	14.7	28.5	24.7	26.1	51.0	53.1	-	2.1
	日	17	3	26	21	19	6	3.14	5	25	13	2	17	11	6	23	-
平	均	71.1	80.3	61.5	62.6	50.1	53.7	71.3	73.6	65.9	68.5	69.1	70.8	66.54	67.1	- 0.56	
	小	31.6	54.2	25.8	28.0	39.0	27.0	52.0	51.0	55.0	31.0	49.0	24.4	27.0	3.0	+ 24.0	
深	0.3m	1.4	1.1	4.5	11.2	15.0	19.3	24.9	25.8	22.3	15.9	10.0	5.3	13.05	8.63	+ 4.42	
	1.2m	5.8	4.6	5.2	9.3	12.9	16.3	20.3	23.0	22.2	18.4	13.9	10.1	13.50	8.9	+ 4.6	
計	最大 (24h)	52.2	10.6	67.3	98.4	60.3	53.0	149.5	298.4	82.3	99.7	18.2	21.7	83.46	355.6	-272.14	
	日	18.0	4.0	29.7	53.0	30.7	19.9	28.8	63.8	53.7	42.8	7.0	5.5	63.8	180.5	- 116.7	
雲	量	15	15	8	20	2	30	10	10	2	11	21	28	110	110	7	-
	向	快	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	快	晴	晴	晴	-
積	深	0.02	-	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	0.06	0.09	0.13	- 0.04	
	日	21	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	28	28	4	-	
天	快	18	9	9	13	16	11	7	7	13	17	18	16	133	124	+ 9	
	晴	4	7	9	9	9	8	8	5	9	7	7	3	85	79	+ 6	
	曇	9	12	13	8	7	11	16	19	8	7	5	2	117	126	- 9	
	降水 ≥ 1mm	5	4	9	5	5	6	12	15	7	5	4	6	83	94	- 11	
	1mm-0.1mm	4	2	2	2	3	3	7	3	0	2	2	4	34	29	+ 5	
	霧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	6	5	+ 1	
	雪	3	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	13	+ 5	
	雹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	霰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	霜	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	11	6	21	45	29	+ 16
	露	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
	霜柱	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0
水	27	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	23	61	69	- 8	
吹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
暴	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	
降雪季節																	











本地帯内ニ見ルコトガ出来ル、平均毎haノ材積ハ80m<sup>3</sup>ヲ普通トシ良好ナル個所ニ於テハ140m<sup>3</sup>ニ及ブ。

亞寒帯林ハ山頂ニ近キ地域ヲ占メテ居リ針葉樹ニツキテハ「エゾマツ」「サイシユウシラベ」「テウセンモミ」「テウセンマツ」「アララギ」等ヲ見ルベク此内「テウセンモミ」ハ下部ニ赴クニ從ツテ多ク「テウセンマツ」ハ各所ニ散在シ「アララギ」「ミヤマビヤクシン」ハ部分的ニ相當多量ニアル。闊葉樹ハ上部ニ於テハ僅カニ「ツツジ」「シヤクナゲ」等ノ下生セルヲ見ルノミナルモ下部ニ赴クニ從ヒ「サハシバ」「ハウチハカヘデ」「モンゴリナラ」「ヤチダモ」「オタヤカヘデ」「ミツバカヘデ」「ヤマハノキ」「マカンバ」「シラカンバ」等ガアル、「エゾマツ」「サイシユウシラベ」等ハ最高齡100—200年ニシテ之等ハ直径30—40cm、稀ニ60cmニ及ブト雖樹高ハ20m以下ニシテ其闊葉樹ヲ混ゼザル區域ニ於テモ毎ha140m<sup>3</sup>ヲ最良ナル林相トスル、盜伐跡地、道路附近等ハ林相極メテ劣悪ニシテ岩石露出地、暴溪、墓地周圍ニ於テハ無立木地ヲ見ルベク就中墓地ノ周圍ニ於テハ殆芝生ノ如キ美シキ草生地ヲ呈シテ居ル。

局部的林相ニツキ尙詳細ニ述ブレバ南原郡朱川面(IIIノ31, 32, 33, 34, 35)ニ於テハ南原、求禮ノ荒廢ノ餘波ヲ受ケテ殆無立木地ト稱スルモ過言デ無イ。

南原郡雲峰面(IIIノ26, 27, 28, 29, 30)亦多クハ無立木地ニシテ溪谷、火田跡地等ニ「アカマツ」ノ點ヲ見ル外ハ葎ノ叢生セル状態ニ在ルガ銳意造林事業施行中ニ屬ス(詳細造林ノ章参照)

南原郡東面ニ屬スル土地ノ内IIIノ25ハ雲峰面ト同様ニシテ1ノ10ハ谷筋ニハ若干ノ矮小雜木林ヲ見ル。

南原郡山内面(IIIノ1乃至24)ハ萬福台ヨリ北方ニ環峰、世傑山、徳頭山ヲ連ヌル連嶺ト般若峯ノ東方道界即靈源嶺、横峠ヲ連ヌル連嶺トノ間ニシテ中央ヲ北走スル雲峰川アリ、全羅北道ニ存スル演習林ノ大部分ハ此區域ニ存スルノデアアルガ便宜東西ノ二部ニ分チテ其林況ヲ記スコトトスレバ東半部ニ於テハ般若峰頭ニ於テ殆「エゾマツ」ト「シラベ」トノ純林ヲ見ルベク直径30cm前後ノモノ最多ク毎ha材積ハ最良250m<sup>3</sup>デアアル、降ルニ從ヒ「モンゴリナラ」「マカンバ」等ヲ混ジ西方ニ下レバ海拔1200m附近ニ於テ殆闊葉樹ノ純林トナリ「モンゴリナラ」ノ巨大ナルモノ多ク毎ha170m<sup>3</sup>ノ材積ヲ有スルヲ最良林相トスル、漸次下降シテ林相漸次劣悪トナリ樹種ハ多様トナルモ尙「ナラ」類「ヤチダモ」類ノ相當巨大ナルモノヲ混ジテ居ル、溪底ニ下ルニ及ベバ細小ナル雜木林又ハ岩石ノ磊々タル無立木地ヲ見ルノミデアアル、靈源寺峠、臥雲洞附近ハ一般ニ老大ナルモノニ乏シク万水川本流沿岸ニ及ベバ更ニ矮小ニシテ往々ニシテ「アカマツ」ヲ混ジ屢々火ノ入りタル跡地ヲモ見ルベク斯クシテ終ニ藥水庵、寶相寺背後ノ稚松點在地ニ至ル、西半部ハ大體ニ於テ東半部ニ比シ林相著シク劣



悪ナルハ蓋シ求禮、南原ノ荒廢ノ餘波ト見ルヲ得ベク頂上ニ多く存スル無立木地ハ雲峰面ノ無立木地ノ繼續ニシテ下方ノ峯筋ニハ「アカマツ」多く谷筋ニハ矮少ナル調葉樹林ヲ見ルヲ普通トスル、東半ニ比シテ傾斜緩ナル爲火田ハカナリノ高處迄耕作セラレタルモノノ如ク「アカマツ」ヲ混ズル程度東半部ニ比シ著シク大ナルハ注意ヲ要スル事項デアラウ。

咸陽郡席下面(1ノ7, 8, 9)ハ三峯山北面一帯ノ地ニシテ下半部ハ大部分未立木地ナリシモ既ニ造林ヲ終了シタ(造林ノ章參照)上半部ハ「アカマツ」ト調葉樹トノ混交セル貧弱ナル林相ヲ示シテ居タガ之亦造林ノ章ニ於テ述ブル如ク補植、手入等ニヨリ今日ニ於テハ舊態ヲ全く改メテ居ル。

咸陽郡馬川面(1ノ1, 2, 3, 11ノ7—28)ハ演習林ノ大部分ヲ占メテ居ルガ故ニ便宜上廣岩谷、白武洞谷、七仙洞谷、水基谷及三峯山ニ分チ記スコトトスル。

廣岩谷ノ溪底ニ沿フ道路ハ智異山越ノ道路中最主要ナルモノニシテ馬川面ノ中央堂興ヨリ島村、廣岩ノ諸部落ヲ過ギ碧霄嶺ヲ越シテ花開、河東等ニ至ル全線殆馬ヲ通ズルヲ得ベク爲ニ冬季少許ノ期間ヲ除キテハ通行者ノ跡ヲ絶タズ、從ツテ過失ニヨル火災跡地ハ沿線ニ屢々之ヲ見ルベク盜伐跡地亦乏シカラズ、廣岩ヨリ下流ハ林相劣悪ニシテ谷底ニ若干ノ調葉樹林ヲ有スルニ過ギズ、部落ヲ離ルルニ從ヒテ漸次良好ナル林相ヲ見ルヲ得ベク廣岩ヨリ約2km上流ノ酒幕附近迄ハ矮小ナル調葉樹密生シ之ヨリ上部ニ於テ「テウセンモミ」「テウセンマツ」等ノ針葉樹ヲ混ジ多少峯筋ヲナセル部分ニハ「モンゴリナラ」ノ直徑30cm前後ノモノ往々ニシテ純林ヲナシ谷狀ニ凹メル土地ニハ「ナラ」類、「アベマキ」「ヤチダモ」「ヤマハンノキ」等ノ稍々細小ナルモノ老幼混在スルヲ一般トス、上ルニ從ヒ針葉樹漸次増加シ終ニ純林ヲ見ルモ多クハ梢殺ニシテ枝下短ク樹高モ著シク小デアル、碧霄嶺頭ニ及ベバ少許ノ未立木地アリ、之ヲ越エテ九州帝國大學演習林ニ入ル時林相ハ北面ノ地ニ比シ著シク劣レルヲ發見スベク針葉樹ノ帶域亦智異山ノ北面ニ於テハ南面ヨリモ約100m降下セルヲ見ルノデアル、此谷ハ概シテ林相良好ト稱シ得ベク針葉樹ハ每ha 170—200m<sup>2</sup>「モンゴリナラ」純林ハ每ha 140—170m<sup>2</sup>其他ノ所謂雜木林ハ每ha 100m<sup>2</sup>ヲ最良林相地ノ材積トスル。

白武洞ノ谷ハ廣大ナル事智異山第一デアル、東北側ノ峯筋ニハ白武洞、斗地基ヨリ上峯(智異主峯即天王方丈峯)ニ至ル小徑アリ、西南側ノ峯筋ニハ盜伐者ノ通路ノ跡アリ、谷底ニ沿フテハ山清郡巨谷ニ通ズル途ガアル、東北側ニハ小谷多く西南側ハ高峻デアル、此谷ハ廣岩谷ニ比シ更ニ良好ナル林相ヲ呈シ一般ニ東南即谷ノ上流ニ赴クニ從ヒテ針葉樹多く「エゾマツ」「サイシウシラベ」ハ孰レモ直徑40cm前後ノ巨幹ニ富ミ「アララギ」亦比較的の多量ニ混ジテ居ル、但徳山方面ヨリノ盜伐者ガ往時頻リニ入りテ1447m高地ニ存スル地藏堂ヲ根據トシテ盛シニ附近ヲ荒シタル跡尙歴然タルモノガアル、調葉樹林ハ小高キ場所ニハ往々ニシテ30cm以上ノ直徑ヲ有スル「モンゴリナラ」ノ純

林ヲ爲シ每ha 170m<sup>2</sup>ヲ算スルモノアルモ稍々谷狀ヲナセル地ニ於テハ概シテ「カンバ」「ヤマハンノキ」等ノ劣等樹種ヲ多く混ジ材積モ每ha 80m<sup>2</sup>ヲ平均數トスル。

七仙洞ノ谷ハ天王峯及方丈峯ヨリ直下スル谷デアリ主谷ヲ上峯谷ト云ヒ西ニ右巢亭谷、左巢亭谷アリ、東ニ内谷アリ、此四谷合シテ終ニ七仙洞ノ谷ヲ成スノデアルガ上峯谷ヲ登リ智異主脈ヲ越シテ順坪、中山里ニ出ヅル途ガアル、天王、方丈兩峯ヨリ内谷ノ水源ヲナセル1461m高地ニ至ル一帯ノ馬蹄形地ハ智異全山中蓋シ最良ノ針葉樹林ヲ有セル地域デアリ每ha 200m<sup>2</sup>ノ多キヲ有スル箇所モアル、然ルニ南方九州帝國大學演習林ニ屬スル徳山地方ハ早クヨク開ケタル地ニシテ田畑人家多ク爲ニ此方面ヨリ中山里ヲ經テ入り來レルモノ古來多ク爲ニ斧鉞ノ害ハ年ト共ニ其範圍ヲ擴ゲタルモノノ如クデアル、頂上附近ハ岩石地ナルト風當リ強キト又登山客ノ多キ爲ニ處々ニ無立木地ヲ現出シ點々トシテ「ツツジ」類、「ミヤマビヤクシン」「テウセンマツ」等ノ矮少屈曲シテ盆栽的價値多キモノノ散在スルヲ見ル、其他ノ部分ニ於テハ「エゾマツ」0.6「サイシウシラベ」0.3其他ノ針葉樹(テフセンマツ、テフセンモミ、アララギ等)0.1ノ混交度ヲ有シ樹齡100乃至150、直徑30cm前後ノモノ稍々疎開ニ傾ケル林相ヲ示シテ居ル、漸次下降スルニ伴ヒ先ツ「エゾマツ」減少シ續キテ「サイシウシラベ」ヲ減ジテ調葉樹漸次増加シ針調相半スル頃ニハ「エゾマツ」其跡ヲ絶チ尙下降シテ調葉樹70%トナル頃ニハ「サイシウシラベ」其跡ヲ絶チ「テフセンモミ」ハカナリ低ク迄存シ「テウセンマツ」ハ調葉樹林帶ノ全般ヲ通ジテ其混交度ニハ差違アルモ殆普遍的ニ存在シ終ニ人家ニ近付クニ及ンデ「アカマツ」ト交代スルカノ觀ガアル、調葉樹林ノ鬱閉ハ完全ニシテ谷ニ於テハ直徑10cm前後ノモノヲ普通トシ尾根ニ於テハ徑30cmニ餘ルモノ圍地狀ニ混交スル。

水基谷及巨谷ハ馬川面内ノ最東部ニ位シ地形稍々複雑セルモノガアル、即般若峰、碧霄嶺等略々西東ニ走り來レル智異ノ主脈ハ主峯天王方丈ヲ起シテヨリ急ニ北ニ折レテ其處ニ全山中最幽邃ナル上峯谷ヲ抱キツツ尙北走シ西北ノ方向ニ巨谷ヲ作り五峯山ニ至リテ急ニ低クナルト同時ニ急激ニ東ニ折レル、五峯山ヨリ西ニ派出セル小脈ヲ碧松寺ノ峯トシココニ水基谷ガ作ラレル、巨谷ノ上部ニ於テハ既ニ針葉樹衰ヘテ20%以上ノ調葉樹ヲ混ジ五峯山ニ至リテハ最早針葉樹ヲ見ル事ガ出來ス、調葉樹モ巨谷内部ニ於テハ良好ナル林相ヲ呈スレドモ水基谷ニ入りテハ峯ノ近クニ追ヒヤラレ五峯山附近ニ最後ノ美林ヲ現出シテヨリ後ハ再ビ見ルベキモノガ無イ、カクシテ下部ノ方カラ漸次無立木地ガ侵入シ來ル、蓋シ此附近ハ海拔低キ事及相當海拔高キ處ニ傾斜緩ニシテ火田耕作ニ適スルガ故デアラウ。

馬川面内ニ存スル三峯山ノ部分ニ於テハ調葉樹ハ東側ノ谷ニ若干見ルノミニシテ南腹ニハ圍地狀ニ「アカマツ」林ヲ見ル、此附近ハ演習林設定後ノ造林及林相改良ノ結果ガ著シイ。



咸陽郡休川面ニツキ述ブレバ五峯山ニ於テ智異主脈ガ東折スルニ際シ北ニ小支脈ヲ派シ之ガ咸陽山清ノ郡界ヲ爲スノデアリ茲ニIIノ5, 6ノ林班ガアルガ山頂ヨリ北面ノ谷側ニカケテ僅カニ潤葉樹ヲ存スルモ其他ハ概ネ未立木地デアル、本面内ニ存スル三峯山ノ部分ハIノ4, 5, 6ニシテ法華山ノ周圍デアル、此部分ハ席卜面ニ連リ林相最劣、往々ニシテ流砂地ヲ見タルモ近時施業ノ結果其面目ヲ一新シタ。

山清郡今西面(IIノ1, 2, 3, 4)ニ於テハ殆全部雜木林ニシテ他地方ニ於テ谷底ニ見ル林相ニ類似シテ居ル、五峯山附近ニ稍々良好ナル林相ヲ見ルモ岩石露出地ヲモ同時ニ發見スルデアラウ。

次ニ概略ノ蓄積ヲ表示スル。

事業區	郡	面	林 班	樹 種	面 ha	材 積 m <sup>3</sup> /ha	蓄 積 m <sup>3</sup>	備 考 面 積 比 例
I	咸陽郡	馬 川 面	1, 2, 3	赤 松 林	142.8	8.4	1202.1	45%
				無 立 木 地	174.5	—	—	55%
				合 計	317.3	—	1202.1	
	咸陽郡	休 川 面	4, 5, 6	赤 松 林	200.8	8.4	1689.2	45%
				無 立 木 地	245.4	—	—	55%
				合 計	446.2	—	1689.2	
	咸陽郡	席 卜 面	7, 8, 9	潤 葉 樹 林	367.4	55.7	20,619.0	49%
				無 立 木 地	382.3	—	—	51%
				合 計	749.7	—	20,619.0	
	南原郡	東 面	10	無 立 木 地	224.1	—	—	
II	山清郡	今 西 面	1, 2, 3, 4	潤 葉 樹 林	880.1	83.5	74,089.6	86%
				無 立 木 地	143.3	—	—	14%
				合 計	1023.4	—	74,089.6	
	咸陽郡	休 川 面	5, 6	潤 葉 樹 林	150.7	97.4	14,804.0	33.3%
				赤 松 林	150.7	55.7	8,459.0	33.3%
無 立 木 地				150.7	—	—	33.3%	
合 計				452.1	—	23,263.0		
咸陽郡	馬 川 面	7~28	潤 葉 樹 林	4,950.9	55.7	277,821.3	針葉樹林中「エゾマツ、シラベ」林ハ53ha 其他ハ赤松林ナリ	
			針 葉 樹 林	163.6	27.8	4,591.0		

事業區	郡	面	林 班	樹 種	面 ha	材 積 m <sup>3</sup> /ha	蓄 積 m <sup>3</sup>	備 考 面 積 比 例
II				無 立 木 地	458.1	—	—	
				合 計	5,572.6	—	282,412.3	
	南原郡	山 内 面 (万水川ノ東側)	1~15	潤 葉 樹 林	3,542.6	41.8	149,092.6	針葉樹林中「エゾマツ、シラベ」林ハ37ha 其他ハ赤松林ナリ
				針 葉 樹 林	322.3	27.8	9,044.0	
				無 立 木 地	22.8	—	—	
				合 計	3,887.7	—	158,136.6	
	南原郡	山 内 面 (万水川ノ西側)	16~24	潤 葉 樹 林	844.9	55.7	47,421.3	
				赤 松 林	537.5	13.9	7,541.0	
				無 立 木 地	537.5	—	—	
合 計				1,919.9	—	54,962.3		
南原郡	東 面	25	殆無立木地	287.6	—	—		
南原郡	雲峰面	26~30	殆無立木地	1,140.5	—	—		
南原郡	朱川面	31~35	殆無立木地	926.0	—	—		

本章ノ初メニ記シタル如ク右ハ最近ノ數字ニ非ザルヲ以テ現在ノ林相トハ多少ノ相違ガアル、就中著シキハ無立木地ト記シタルモノ内ニハ現在ニ於テハ新植地ノ多クヲ含ミ尙撫育ニヨリテ相當ノ林相ヲ呈セシムルヲ得ルニ至リシ箇所モ少カラズ存スルノデアルガ之等ニ關シテハ次章以下ニ於テ述ブル事トシヤウ。

## 第四章 施 業

### 第一節 既往ノ施業概要

朝鮮ノ林政ハ古來頗亂レ私有林ニ非ザル山林ハ殆自由物視セララルノ状態ニ在リタルヲ以テ交通相當不便ナル地ニ於テモ濫伐ト燒拂トヲ受ク漸ク稚樹ノ發生スルニ及ンデハ忽チ濫突燃料トシテ採集セラレ又ハ綠肥トシテ濫採ヲ受クルヲ以テ爲ニ世人周知ノ如キ荒廢ヲ來シタノデアル、此内ニアリテ南鮮唯一ノ名山智異山ガ今日ニ至リ尙若干見ルベキノ林相ヲ保持シ得タルハ實ニ交通ノ極メテ不利ナリシヲ唯一ノ原因トスルノデアラウ、從ツテ之ヲ放擲スレバ荒廢ノ度進ミテ終ニ鮮内到處ニ



見ルガ如キ秃山ト成リ終ルベキハ明白ノ事柄デアル、依リテ本演習林經營上ノ最重要ナル事項ノ1ハ即保護デアリ之ニヨリ荒廢ノ進捗ヲ防グヲ得ベク2ハ即造林ニシテ之ニヨリ既ニ荒廢セルヲ復舊セントスル、本演習林ノ設定セラルルヤ直チニ調査ヲ行ヒテ先ヅ火田、盜伐、綠肥採取等ニ對スル取締方針ヲ設ケテ保護ノ實ヲ舉ゲ造林事業ヲ計劃シテ之ヲ實行シ而シテ伐木、利用等ハ原則トシテ之ヲ行ハザルコトトシタ、爾後之等ノ方針ハ漸次改良ヲ加ヘタルモ根本ニ於テハ差異ナク今後亦當分然ルベキヲ思フノデアルガ今既往ニツキ少シク精細ニ之ヲ述ブルコトトシヤウ。

火田ニ關シテハ當初ノ方針ヲ其儘踏襲シテ漸次整理ノ實ヲ舉ゲタルコト保護ノ章ニ於テ見ルベク、盜伐ニ關シテハ元來地元鮮人が演習林内立木ヲ歴史的ニ自由物視シテ伐採シ之ニヨリテ生計ヲ立テ居タル者ノ所行ナルヲ以テ之ヲ嚴禁スル能ハザル事情ニ在ルヲ以テ最初ハ附近國有林ノ實行例ニ倣ヒ製品ヲ調査シテ逆ニ原木代ヲ計算シ納付セシムルコトニヨリ之ガ取締ヲ爲シタルモ後ニ至リテハ萬已ムヲ得ズト認メラルル特定ノ貧窮ナル鮮人ニ限リ立木拂下ヲ行フコトトシ之ニヨリテ略々取締ノ實ヲ舉グルヲ得ルニ至レルコト保護及利用ノ章ニ見ルガ如シ、綠肥及温突用燃料ノ採取ヲ取締ル事ハ最苦心ヲ要シタル事項デアル、之ヲ寬ニスレバ森林ノ荒廢眼前ニ在リ之ヲ嚴トスレバ農民、地元民ノ生活上壓迫ヲ加フルノミナラズ又屢々地方官憲トモ疎隔スル虞ガアル、之等ノ關係ハ演習林設置以來苦心シタル所デアツタガ結局綠肥、燃料ヲ要求スル者ニ對シテハ之ヲ供給シ得ルノ途ヲ講ズルコトガ根本的解決策デアルカラ先ヅ人工造林及天然生種樹撫育區域ノミニ對シテハ入林ヲ絶對ニ嚴禁シ其他ニ於テハ採取ヲ默認スルノ方針ヲ執リタルニ入林禁斷區域ハ數年ニシテ地力ヲ恢復シ成林ノ狀顯著タルモノガアル、即漸次此區域ヲ擴大スルト共ニ既ニ地力ヲ恢復シ又ハ成林セル地ヨリハ下草ヲ供給スルコトトスレバ瘦地又ハ原野ニオケルヨリモ多量ノ材料ヲ單位面積ヨリ供給シ得ルコトトナリ即造林事業ノ進捗ハ同時ニ採草問題ノ解決ニ資スベキヲ知ラ得ルニ至ツタノデアル。

積極的造林事業ハ經費ノ關係上最初(大正6年)ニ於テハ未立木地百年造林案ヲ立テ實行シタルモ次ニ大正8年ニ於テハ未立木地三十年造林ニ改メ更ニ大正12年度ニ於テハ其毎年實行量ヲ略々2倍トスルノ案ヲ建テテ直チニ實行ニ移シタ。

如上ノ方針ニヨリ從來ハ施業ヲ繼續シ來リタルモ農學部ノ創設セラルルニ及ンデ眞ノ演習林トシテノ機能ヲ發揮シ得ルニ至リタルヲ以テ逐次諸計畫ヲ部分的ニ改訂シテ其業殆成レルモノアリ本年度内ニ初メテ完全ナル施業案ガ樹立セラルル豫定デアル。

## 第二節 施業ノ根本方針

既ニ屢々述ベタル如ク本森林ハ過去ニ於テ極メテ暴戾ナル取扱ヲ受ケタル結果林相非常ニ惡化シ

一步進メバ即荒廢ニ入ルベカリシモノヲ最後ノ瞬間ニ於テ食ヒ止メタルガ如キ狀態ニ在ルヲ以テ之ヲ正當ナル林相ニ引戻スコトガ今後數十年間ニオケル施業ノ根本方針トナラネバナラス、前節述ベタル如ク演習林トナリテヨリ今ニ至ル施業約10年、其間モ此根本方針ニヨリ專ラ林相ノ恢復ニ勉メタル結果現在ニ於テハ次ノ如キ林況別面積ヲ得ルニ至ツテ居ル。

a. 造林地	968ha
b. 草生地及散生地	1220ha
c. 赤松林地	3826ha
d. 潤葉樹林地	6123ha
e. 針潤混交林地	2192ha
f. 除地	2633ha

現在ハ部分的ニ作ラレタル施業案ニヨリ實行シテ居リ昭和3年度中ニハ之ヲ整頓シテ全施業案ガ成ル見込デアルガ次ニ其大體ヲ記ス事トスル。

### 第一、人工造林地域

昭和2年末迄ノ造林地968ha、今後ノ造林豫定地ハ現在ノ草生地及散生地ニシテ其面積1220ha、合計2188haトナルガ之ハ總督府ノ未立木地造林事業ト步調ヲ合スル爲ニ今後10年ニシテ造林ヲ完了セントスル。

之等ノ區域ハ概シテ海拔高低ク又ハ村里ニ近キ個所ニシテ從ツテ樹種ハ「アカマツ」ニヨリテ代表セラルル種類ガ植栽セラレ又セラレントシツツアル、將來ノ取扱モ伐期ノ低キ皆伐喬林作業ヲ主體トスル。

既往8年間平均毎年121haノ造林ヲ行フタガ今後ハ年平均122ha即從來ト殆同面積ノ造林ニヨリ新植ヲ完了スル、而シテ其時ニ最老齡ノモノハ尙未ダ18年ニ過ギザルヲ以テ伐採ヲ行フ能ハズ從ツテ人工造林ノ新植事業ハ一時中絶シ手入撫育等モ若干ノ年數ヲ後レテ一時中絶スル事トナラウ、假リニ伐期ヲ平均50年トシ35年乃至65年ヲ以テ伐採スルコトトスレバ今後27年ニシテ最初ノ伐採ガ初マリ從ツテ第2回目ノ新植ガ初マルカラ造林事業ノ中絶スルコト約17年トナル、之以上ニ中絶ノ期間ヲ短縮スルコトハ困難デアラウ、而シテ其後ハ永久ニ毎年43ha76ノ伐採造林ガ行ハレル。

本邦ニオケル主要樹種タル「アカマツ」ニ關スル諸般ノ研究ヲナス爲ニ内地ニ適當ナル演習林ヲ有セザル本學ハ「アカマツ」ニ關スル人工造林ノ研究ヲ此年平均43ha餘ニ於テ行ハネバナラス、即チ種子ニツキテハ

い、産地ニヨル相違



ろ、母樹ノ年齢其他ニヨル相違  
 は、其他ニヨル相違ヲ  
 に、山地直播ノ諸方法  
 ほ、苗圃育成ノ諸方法 ニツキ更ニ  
 へ、新植ノ時期  
 と、新植ノ方法等ニツキテ  
 ち、地形、地位等ノ異ルニ從ヒ研究スルヲ要シ、斯クシテ成立シタル「アカマツ」林ニツキ進シテ  
 り、撫育ノ方法  
 ぬ、手入ノ方法等ヲ考究シ夫等諸方法ノ結合シタル各林分ニツキ  
 る、生長ノ調査 ヲ行フ外例ヘバ「ヤシヤブシ」トノ混植等ノ如キ  
 を、特殊ノ試験 ガアリ更ニ  
 わ、「マツダケ」ノ研究 ハ所謂副産物デアルケレドモ其收入ノ點ニ於テハ穀レヲ主トモ副トモ判ジ  
 兼スルモノデアツテ是非共充分ナル研究ヲ施ス必要ガアル、尙又  
 か、「アカマツ」材ノ利用ニ關スル研究 ハ木材ノ有スル使命ハ朝鮮ニ於テハ内地ニ比シ遙ニ重大ナ  
 ルモノガアルカラ朝鮮トシテノ立場ヨリ考フル時ニ極メテ必要ナル研究デアリ尙  
 よ、「マツケムシ」ニ關スル研究 亦「マツ」林ノ多クヲ有シ且有スベキ朝鮮トシテハ其必要ノ度ハ内  
 地ニ比シ餘程大ナルモノガアラウ。

之等ノ諸研究ヲ行フニ際シテ達著スベキ困難ノ一ナル前記新植事業ノ申絶ハ天然林ノ「アカマツ」  
 ヲ材料トスルコトニヨリ或程度迄補ヒ得ベキヲ思フ、尙  
 た、人工林ト天然林トノ比較モ重要ナル研究項目デアル。

更ニ本地域ニ於テハ「アカマツ」ノミナラズ他ノ樹種ニツキテモ人工造林ヲ試ミ度イノデアルガ面  
 積關係上多ク行フ能ハザルベキヲ以テ本地域内ニ於テハ  
 れ、「アカマツ」ト比較スル爲ニ他樹種ノ人工造林ヲ 試ミ他樹種ヲ主體トシテノ研究ハ次ニ第二ニ  
 於テ述ブル區域ニ於テ實行セネバナルマイ。

## 第二、林相改良地域

既記セル赤松林地、潤葉樹林地、針潤混交林地ノ合計 12141haノ地域ハ林相ノ惡化甚シキ所ハ第  
 一ニ述ベタル草地又ハ散生地ニ近似シ然ラザル箇所（蓋シ偶然ノ理由ニヨリ斧鉞ヲ蒙ルコト少カ  
 リシ又ハ古カリシ箇所）ハカナリ良好ナル林相ヲ呈セルモ全體ニツキ總平均スレバ1ha當リ約50m<sup>3</sup>  
 ノ蓄積ヲ有セルコト林況ノ章ニ於テ述ベタル如クデアリ而シテ諸般ノ點ヨリ考慮スルニ1ha平均200

m<sup>3</sup>ノ蓄積ヲ有スベキモノガ多年ノ虐待ノ爲ニ50m<sup>3</sup>ニ低下セルモノト考ヘラレル、從ツテ200m<sup>3</sup>/ha  
 ノ目標トシテ林相ノ改良ヲ計ルコトガ此區域ニオケル森林取扱ノ根本ヲナサネバナラス。今此區域  
 ニ於ケル年生長ヲ考フルニ2%ト見ルハ穩當デアラウ、之ニ對シテ negativeノ生長即枯死等ガアル、  
 現在ノ森林ハ老幼各種ノモノヨリナルモ概シテ云ヘバ老年ニ近キモノガ多イノデアルカラ毎年カナ  
 リノ過熟木ヲ伐採セザレバ之等ヲ枯死ニ導クノ不利ガアルガナルベク早く林相ノ恢復ヲ計ランガ爲  
 ニハ0.5%位ノ伐採ニ止メテ置キタイ、差引年生長率1.5%依リテ現在毎ha 50m<sup>3</sup>ノ森林ヲ毎ha 200m<sup>3</sup>  
 ノモノトスル爲ニハ93年ヲ要スル理窟デアル。

結局此區域ノ森林ニ對シテハ根本ヲ擇伐型ノ更新作業ニオキ毎年ノ生長ヲ2%トシ毎年ノ擇伐ヲ  
 0.5%トシ93年間ニ此土地ガ當然有スベキ正當ト思ハルル林相ニ迄恢復シヤウト云フノデアル。勿  
 論之ハ總平均ノ數字デアリ齊シク林相恢復區域ト稱スルモ其中ニハ既述ノ如ク「アカマツ」林モア  
 リ「エゾマツ」林モアリ「モンゴリナラ」ノ林モアリ所謂雜木林モアリ、老齡林アリ幼齡林アリ、毎ha  
 200m<sup>3</sup>ニ近キ蓄積ヲ有スル箇所モアリ或ハ僅カニ20-30m<sup>3</sup>ニ過ギザル所モアルヲ以テ其取扱ハ局  
 所ノ悉ク異ル、蓋シ次ニ列記スル如キ諸研究ガ行ハルルデアラウ。

「エゾマツ、シラベ」林ニ於テハ

い、擇伐試験 其内容ハ先ニ樺太演習林ニツキ述ベタル處ニ準ズ

ろ、傘伐試験 前同斷

は、區劃皆伐試験 同上

に、人工播種試験 同上

ほ、人工植栽試験 同上

へ、撫育間伐試験 同上

と、保存林ヲ設定シテ植生調査ヲ行フコト

ち、成長調査

潤葉樹林ニ於テハ

り、擇伐試験 之ハ其試験事項ガ多種類アル上ニ之ヲ施スベキ林相ガ既述ノ如ク千差萬別デアルノ  
 デ實ニ無數ノ試験ヲ施スコトガ出來學術上將又實際上極メテ有益且興味アル結果ヲ舉グルコトガ出  
 事ヤウト信ジテ居ル、此種試験ハ本演習林ノ特色ノ1トシテ是非充分ニ之ヲ實施シタイト心懸ケテ  
 居ル。

ぬ、擇伐以外ノ天然更新 前ニ準ズ

る、人工播種試験



を、人工植栽試験  
 わ、撫育及間伐試験  
 が、保存林ヲ設定シテ植生調査ヲ行フコト  
 よ、成長調査

赤松林ニ對シテハ

た、天然更新ニ關スル諸般ノ研究

れ、撫育間伐等ニ關スル試験

そ、保存林ヲ設定シテ植生調査ヲ行フコト

つ、成長調査

ね、人工造林區域ニ於ケル諸試験ノ補助的試験

更ニ全區域ニ亘ル共通の事項トシテハ

な、利用ニ關スル諸研究

ら、害虫菌ノ研究

む、特殊ノ諸研究 例ヘハ有益鳥獸ノ保護並ニ飼育食用菌草ノ栽培、藥用植物其他ノ栽培等々

う、森林ノ影響ニ關スル調査

ゐ、朝鮮特有ノ事情ニヨリ生ズル諸研究 例ヘハ綠肥、燃料、火田等ニ關スル研究、等々

第三、除 地

之ハ2633haノ廣キニ亘ツテ居リ普通林業ヲ營ムニ適セザル土地デアリ、即國土保安ニ關係多キ地、岩石地、河川敷其他デアルガ經濟上ヨリ云ヘバコソ所謂除地ト稱スルモノノ學術研究上ノ立場ヨリ云ヘバ之亦多クノ試験ト研究トヲ行フニ適スル土地デアリ即チ

い、砂防植栽ニ關スル研究

ろ、砂防工事ニ關スル研究

は、森林ノ影響ニ關スル試験

に、保存林ヲ設定シテ植生調査ヲ行フコト

等ハ是非此區域ニ於テ行フヲ要シ殊ニ之等ヲ研究スベキ土地ノ多クヲ有セザル本學トシテハ之亦朝鮮演習林ノ特色ノ1トシテ是非充分ナル研究ヲ行ハネバナラス。

第三節 現在ノ施業方法

第一、森林ノ區劃

主トシテ管理ノ都合上全演習林ヲ3ツノ事業區ニ分ツ第I事業區ハ三峯山デアリ、智異山圍地ノ

内慶尙南道ニ屬スル部分ヲ第II事業區トシ全羅北道ニ屬スル部分ヲ第III事業區トシタ、各事業區ノ有スル林班數、林班別面積等ハ次表ニ示ス。

事業區	推測面積 (ha)	林班數	備 考
I	1,659.0107	11	咸陽苗圃及事務所地(11)ヲ含ム
II	7,150.9394	29	馬川苗圃及作業所地(29)ヲ含ム
III	8,155.2693	36	雲峰苗圃及作業所地(36)ヲ含ム
合 計	16,965.2194	76	

I 事 業 區

林 班	面 積 (ha)	林 班	面 積 (ha)	林 班	面 積 (ha)
1	78.78	5	130.63	9	233.96
2	106.49	6	130.63	10	202.29
3	99.60	7	238.70	11	1.6907
4	171.01	8	265.23		

II 事 業 區

林 班	面 積 (ha)	林 班	面 積 (ha)	林 班	面 積 (ha)
1	227.82	11	164.40	21	216.14
2	238.90	12	209.02	22	322.02
3	175.76	13	252.80	23	372.10
4	308.89	14	275.64	24	281.15
5	162.50	15	273.15	25	247.02
6	251.77	16	328.46	26	252.09
7	274.42	17	264.35	27	160.72
8	301.89	18	377.25	28	173.68
9	256.84	19	207.03	29	0.1994
10	222.71	20	352.22		



III 事業區

林 班	面 積 (ha)	林 班	面 積 (ha)	林 班	面 積 (ha)
1	230.13	13	226.41	25	269.96
2	230.43	14	287.39	26	309.15
3	274.55	15	332.90	27	193.16
4	266.24	16	157.26	28	153.57
5	277.48	17	276.29	29	233.58
6	166.24	18	163.59	30	225.46
7	320.62	19	238.80	31	197.63
8	321.02	20	154.09	32	199.10
9	246.72	21	178.24	33	183.86
10	269.17	22	149.73	34	322.83
11	233.93	23	221.27	35	210.60
12	222.57	24	210.97	36	0.3293

第二、施業ノ一般

本演習林ノ施業ハ今將ニ過渡時代ニ在ル、勿論既ニ屢々述ベタル如ク今後數十年間ハ林相ノ恢復ヲ主眼トシテ施業セネバナラスノデアルケレドモ之ガ實行ハ決シテ一律ニ行ハルルモノデハナク其間自ラ緩急アリ、既往10年餘ハ専ラ無立木地ノ造林ト著シキ荒廢地ノ復舊トニ力ヲ注ギ其間立木地ノ林相恢復ニ對スル基礎的ノ調査ヲ行ツタノデアルガ今ヤ既往ノ繼續事業タル無立木地造林及荒廢地復舊ハ既ニ其業ノ半ヲ終ヘ前途モ頗見易クナリタルモノアルニヨリテ進ンデ立木地ノ林相恢復ヲ積極的ニ着手セントシテ居ルノデアル。

立木地ノ林相恢復ハ前節述ブル如ク總平均ニ於テ2%ノ生長アリト見做シ0.5%ノ過熟木伐採ヲ行ヒ差引1.5%宛ヲ蓄積ニ加ヘテ行カウトスルノデアルガ從來地元民授産ノ必要上不得已伐採シタルモノハ毎年平均0.15%位ニ相當シテ居リ此數ニシテ今後増加ノ必要ナシトスレバ毎年平均0.35%ヲ伐採利用セネバナラス、然ルニ從來ニ於テハ例ヘ之ヲ伐採シタルトスルモ適當ナル利用方法ガ無カツタノデ數年前ヨリ試驗的ニ製炭、椎茸栽培等ヲ行ヒ漸ク多少ノ成績ヲ見ルヲ得ルニ至リ尙交通狀態モ漸次改良セラレタノデ今後ハ逐次積極的ニ立木地ノ林相恢復事業ヲ行ハントシ上記諸利用方法ノ研究ヲ進メ一方林道網モ計劃シテ居ル。

第四節 將來ノ施業方法

人工造林區域ハ今後10年ニシテ新植ヲ完了シ其後17年間新植事業ハ中絶シ今後27年ニシテ最初ノ伐採アリ從ツテ第2回目ノ新植ヲ伴ヒ其後ハ毎年伐採ト新植ト併ビ行ハルルモ年ニヨリ面積ニ多少ノ異動アリ、其平均數ハ43 ha 76ニシテ永久ニ此數字ハ變ルコトナク之ニヨリテ人工造林ニ關スル諸般ノ研究ガ行ハルルデアラウ。

林相恢復ノ仕事ハ新タニ初マル、最初ハ此區域ノ總蓄積約 607,050m<sup>3</sup> デアルカラ最大共 0.5%即 3,035m<sup>3</sup>ヲ除却スルヲ要シ此約1/3ハ地元民授産ニ絶對必要ニシテ剩餘ハ其利用方法ニツキ慎重ナル研究ヲ必要トスルガ之ガ爲ニハ路網其他ノ諸計劃ガ實現セララルル事ヲ要スル、而シテ今後93年ニシテ林相恢復ノ事業ハ一段落ヲ告グベク其時ニ此區域ノ總蓄積ハ實ニ 2,428,200m<sup>3</sup>ニ上ルベク爾後毎年其生長量ニ等シキモノヲ伐採トスルモ其量ハ最小ニ於テ年48,564m<sup>3</sup>デアラウ。

第五章 造 林

荒廢地ノ復舊ヲ主眼トシタルガ故ニ本演習林ノ造林事業ハ一日モ早く之ヲ開始スルノ要ガアルノデ境界未ダ定マラザル大正7年ニ既ニ造林計劃ヲ樹立シテ實行シ爾後前章述ブル如ク漸次其事業ヲ擴張シテ今日ニ至ツタ、年度別面積ハ次ニ示ス如クデアル。

年度	種 別	天然更新	人工播種	人工植栽	合 計
		ha	ha	ha	ha
大正 7 年		39.34	—	—	39.34
" 8 "		—	—	—	—
" 9 "		—	—	—	—
" 10 "		—	—	14.96	14.96
" 11 "		21.82	—	41.65	63.47
" 12 "		39.67	9.92	68.53	118.12
" 13 "		49.59	69.41	52.13	171.13
" 14 "		69.42	49.58	49.38	168.38
" 15 "		69.42	65.45	50.44	185.31
昭和 2 "		49.59	49.69	58.31	157.59
計		338.85	244.05	335.40	918.30

天然更新ハ大正7年ヨリ開始シタルノデアルガ主トシテ「アカマツ」ニ對シ行ヒ表土ニ多少ノ手入ヲ爲シテ稚樹ノ發生ニ適スル様ニシ發生シタル稚樹ハ注意シテ撫育シ其足ラザル箇所ニハ補植ヲ行フ



タノデアルガ成績ハ極メテ良好ニシテ地元民ノ入山禁止サヘ充分ニ行ヒ得レバ此種更新法ハ蓋シ最良ナル更新法ノ一デアラウ。

天然更新ノ成績ニ鑑ミ母樹ニ乏シキ地域ニ對シテハ人工播種造林ヲ行フコトトシタルハ大正12年度以降ニシテ其方法、樹種等ハ多數ノ場合ヲ結合シ各々ノ比較研究ヲ爲シテ居リ其成績ハ未ダ發表ノ時機ニ到達セズト雖大體ニ於テ云フ時ハ2—4m 毎ニ平均1m<sup>2</sup>ノ土地ヲ深サ10cm 位ニ床拵シ即1haニ約1500ノ床ヲ作り1床中ニ30—50粒ノ播種ヲ爲シタルモノ及毎ha 3000ノ床ヲ作り床ハ直徑70cmノ圓形トシ土地ヲ掘起シ之ニ20粒宛ノ播種ヲ爲シタルモノ等ガ成績概テ良好ナルモノノ如クデアル次ニ樹種別年度別播種造林ノ實行面積ヲ舉ゲル。

樹種	年度	大正12年	大正13年	大正14年	大正15年	昭和2年	計
内地赤松	ha	9.92	19.83	35.70	23.80	13.88	103.13
同 黒松	—	—	29.75	13.88	28.76	3.97	76.36
朝鮮赤松	—	—	19.83	—	—	—	19.83
カラマツ	—	—	—	4.96	—	—	4.96
歐洲赤松	—	—	—	7.93	—	—	7.93
カラマツ混播 アカマツ	—	—	—	—	—	31.84	31.84
計		9.92	69.41	49.58	65.45	49.69	244.05

尙大正12, 13, 14年度ニオケル内地赤松及内地黒松ノ發芽率及上長生長ヲ調査シタル結果ハ次表ニ示ス通りデアル。

	大正12年		大正13年		大正14年	
	アカマツ	クロマツ	アカマツ	クロマツ	アカマツ	クロマツ
發芽率%	50.0	60.0	60.0	65.0	60.0	55.0
上長生長cm	52.4	23.6	34.8	14.6	4.4	5.1

人工植栽ハ大正10年ニ開始シナルベク多數ノ樹種ヲナルベク地形地況ノ異ル箇所ニ植栽シテ比較研究ノ資料トナシテ居ル、其成績亦未ダ發表ノ機ニ至ラスト雖意外ニ多數ノ樹種ガ朝鮮ノ林野ニ植栽シテ有利ナルベキヲ知り得タル事ハ尙ニ愉快ヲ感ゼザル能ハヌモノガアル、次ニ年度別樹種別植栽面積ヲ表示スル。(單位 ha)

樹種	年度	大正10年	大正11年	大正12年	大正13年	大正14年	大正15年	昭和2年	計
クロマツ		9.92	26.78	33.72	27.73	19.83	38.74	27.27	183.99
アカマツ		—	—	4.96	—	9.92	—	16.86	31.74
カラマツ		3.27	11.90	11.90	3.97	—	—	—	31.04
スギ		0.16	—	—	—	—	0.79	—	0.95
ヒノキ		0.13	0.99	—	—	—	—	—	1.12
クリ		0.29	1.98	4.96	5.95	16.86	10.91	14.18	55.13
ケヤキ		0.69	—	12.89	12.50	0.49	—	—	26.57
クヌギ		0.50	—	—	—	—	—	—	0.50
シロジ		—	—	—	0.99	—	—	—	0.99
ヤマハンノキ		—	—	—	0.99	—	—	—	0.99
テウチグルミ		—	—	—	—	0.30	—	—	0.30
ヒバ		—	—	—	—	—	—	0.20	0.20
モミ		—	—	—	—	—	—	0.40	0.40
ドイツアカマツ		—	—	—	—	—	—	2.58	2.58
計		14.96	41.65	68.43	52.13	47.40	50.44	61.49	336.50

之等造林ニ要スル苗木ノ多クハ咸陽事務所周圍ノ苗圃ニ於テ育成シ最近馬川、雲峰ニ作業所ノ開設ニ伴ヒ夫々苗圃ヲ附設シテ養苗ノコトニ當ツテ居ル、此外本部試験地ニ於テ栽培シタル苗木ヲ用フルコトモアリ或ハ苗木ヲ購入シタル場合モアツタ、既往ニオケル苗圃ノ産苗數ノ大體ヲ示セバ次表ノ如シ。

樹種	年度	大正9年	大正10年	大正11年	大正12年	大正13年	大正14年	大正15年	計
クロマツ		—	51,000	77,000	81,900	45,000	90,000	82,500	427,400
アカマツ		—	—	—	—	45,000	—	104,900	149,900
カラマツ		—	12,000	21,600	12,000	—	—	—	45,600
スギ		500	—	200	—	6,000	—	—	6,700
ヒノキ		400	3,000	—	—	—	2,600	1,300	7,300
クリ		900	6,000	18,000	15,000	51,000	33,000	43,000	166,900
ケヤキ		2,000	—	23,400	38,000	1,500	—	—	64,900
シロジ		—	—	—	3,000	—	—	—	3,000



樹種	年度							計
	大正9年	大正10年	大正11年	大正12年	大正13年	大正14年	大正15年	
ヤマハンノキ	—	—	—	300	—	—	—	300
テウチゲルミ	—	—	—	—	900	—	—	900
ヒバ	—	—	—	—	—	—	440	440
モミ	—	—	—	—	—	—	260	260
ドイツアカマツ	—	—	—	—	—	—	1,900	1,900

## 第六章 保 護

古來本演習林地方ハ人民殆自由ニ入山シ之ヲ使用シタル慣習アル爲ニ之ニ對スル保護ハ決シテ容易ノ業ニ非ズ、造林ト保護トハ本林經營上ノ二大眼目デアリ、即境界ノ明示、火田耕作者ノ取締、盜伐ノ取締、綠肥採集者ノ取締、燃料採取者ノ取締、惡戯又ハ不注意ニヨル火災ノ取締（往々ニシテ野生食用植物ノ繁茂ヲ促ス等ノ爲ニ故意ニ放火スルモノモアル）墓地設置ノ禁止等々々、本林ノ保護ハ實ニうるさいガ其一々ガ極メテ重要ナルモノデアリカラ以下節ヲ追フテ述べネバナラス。

### 第一節 境 界

前ニ述べタル如ク大正4年度ニハ國有地區分調査アリ大正8年度ニハ民有地査定調査アリ其度毎ニ境界ハ移動シ其都度標識ヲ設置セル爲頗混雜ヲ來セルニヨリ大正13年度ヨリ之ヲ整理シテ石標（多クハ天然石ニ彫刻ス）ヲ設クル事トシタ、其事業ノ進捗程度ハ次表ニ見ル如シ。

事業區	演習林境界標設置				殘標見込數	備 考
	年度別	境界標	間 標	計		
I	大正13年	99	39	138	0	境界標ハ總督府ニ於テ標示シタル箇所ニ設ケ間標ハ境界標間ノ距離大ナル時其間ニ挿ム。總督府ノ標示シタル箇所ハIニ於テハ143點、IIニ於テハ256點、IIIニ於テハ254點ニシテ標示洩ト察セラル、箇所ニ境界標ヲ作レル結果左ノ如ク多少ノ増標ヲ見タノデアリ。
	大正14年	11	0	11		
	大正15年	0	0	0		
	昭和2年	34	9	43		
	合 計	144	48	192		
II	大正13年	132	25	157	0	境界標ハ總督府ニ於テ標示シタル箇所ニ設ケ間標ハ境界標間ノ距離大ナル時其間ニ挿ム。總督府ノ標示シタル箇所ハIニ於テハ143點、IIニ於テハ256點、IIIニ於テハ254點ニシテ標示洩ト察セラル、箇所ニ境界標ヲ作レル結果左ノ如ク多少ノ増標ヲ見タノデアリ。
	大正14年	145	85	230		
	大正15年	0	0	0		
	昭和2年	10	0	10		

事業區	演習林境界標設置			殘標見込數	備 考
	年度別	境界標	間 標		
	合 計	287	110	397	0
II	大正13年	0	0	0	173
	大正14年	24	16	40	
	大正15年	0	0	0	
	昭和2年	12	29	41	
	合 計	36	45	81	
總 計		467	203	670	173

即大正13年度ニ295點、14年度ニ281點、昭和2年度ニ94點合計670點ヲ設置シ了リ殘レル約200點ハ昭和4、5年度ニ於テ完成セシムル計畫デアリ。

### 第二節 火 田

火田ハ山間住民ノ重要ナル産業デアリ演習林設定前ヨリ之ヲ營ミ居タル者ニ對シテ俄カニ之ヲ禁止スルコトハ事實不可能デモアリ不都合デモアラウト考ヘタノデ次記ノ方針ヲ以テ之ヲ整理スルコトトシタ、即

1. 現存(大正6年)火田ニ就キ一々其箇所、面積、耕作者ノ姓名ヲ調査スルコト、(此調査ハ大正6年ニ終了シタ)
2. 調査ノ結果最近他地方ヨリ入込メル者ハ退去セシメ、他業ニ轉ジ得ルモノハ轉業セシメ斯クシテ處分シ得ザル者ニ對シテノミ火田耕作ヲ認ムルコト、
3. 右ノ者ガ現ニ耕作セル火田ハ其存續期間内使用ヲ許ス、但演習林經營上支障アル場合ハ此限ニアラズ、
4. 火田耕作者ノ現ニ經營セル火田ガ養分缺乏シテ之ヲ廢止シ新タニ他ニ火田ヲ開墾セントスル要アル場合ニハ當時耕作セル火田ヨリモ大ナラザル地積ヲ新タニ選定シテ耕作セシム、但
  - a. 土地崩壊ノ虞ナキ地
  - b. 新墾ノ際延燒ノ憂ナキ地
  - c. 監督ニ便ナル地
  - d. 演習林經營上支障ナキ地

ニ於テ選ブベク尙開墾ニ先ダチ其地域ニ生ゼル樹木ハナルバク伐採利用スルコト



5. 新クニ火田耕作ヲ認メザルコト
6. 既ニ認メタル火田耕作者ト雖許可ヲ取消ス必要アル場合又ハ許可ヲ必要トセザル場合ニハ之ヲ取消シ爾後再ビ之ヲ許可セザル事
7. 火田耕作者ニ對シテハ森林ノ保護等ノ義務ヲ負ハシム

此方針ニヨリ整理ニ勉メタル結果嘗テ存セシ火田總面積33ha 餘ノ内既ニ4ha 5ヲ整理スルヲ得タガ新火田ノ開墾等ハ容易ニ其跡ヲ絶タズ恰蠅ヲ追フガ如キ狀況ニアツタガ近時ハ略々理想ニ近キ整理ヲ爲ス事ガ出來ル様ニナツタ。

火田ト關聯シテ演習林内ニ無斷デ家ヲ建ツル者ガアル、之亦火田ト略々同方針デ取締ニ勉メテ居リ此方ハ近時全く其跡ヲ絶ツニ至ツタ。

### 第三節 盜 伐

從來演習林区域内ノ林木ヲ伐採加工シテ之ニヨリ生計ヲ立テ居タル者ニ對シテハ演習林設定ノ際其姓名、性質、伐採ヲ爲ス事情等ヲ取調べ萬已ムヲ得ズト認メタルモノニハ入山證ヲ交付シ其伐採搬出スル加工品ヨリ逆ニ原木代金ヲ計算シテ之ヲ納付セシムルコトトシ入山證ヲ有セズシテ入山シタル者ノ伐採ハ容赦ナク之ヲ告發スルコトニヨリテ大正6年當時既ニ其取締ノ實ヲ舉ゲル事ヲ得タ、其後上記方法ニヨリ原木代金ヲ計算スル便法ヲ改メ入山證所有者ヲシテ組合ヲ作ラシメ諸組合ニ豫メ所要數量ノ立木ヲ拂下グル方法ヲ執リ爾後拂下方法ハ漸次改良シタルモ盜伐ハ略々完全ニ取締リ得ルニ至ツタ。

既往ニオケル誤盜伐次ノ如シ。

年	月日	種類	場所	原因	面積	被害物件等	被害額等
大13	自11, 至12, 7	盜伐	II, 24	貧困ノ爲金納年、金在成ノ兩人		カヘデ 9本 シヲカバ 7本 エゴノキ 9本	圓 亡失 10本 5.28 殘存 15本 4.62
大14	2, 5	盜伐	I, 5	落葉採取ト同時ニ稚樹ヲ伐採ス	0 ha 15	直徑 1寸以下ノ稚樹 107本	5.00
大14	3, 9	誤伐	II, 2	鄰相錫ナル者花林庵寺有林ト演習林トヲ誤認ス	0 ha 099	薪材	3.09
大15	5, 15	盜伐	III, 21	無職ニシテ生活ニ窮セル爲金相年ナル者	1 ha 983	雜木 51石50	6.44

### 第四節 綠肥及燃料ノ採取

演習林内ニ入りテ綠肥及溫突燃料ヲ採集スルハ實ニ多年ノ習慣ニシテ之ヲ俄カニ禁ズルハ到底不可能ナルモ之ヲ放任スル時ハ忽ニシテ附近林野同様に荒廢地トナル虞ガアル、單ニ下草ノミヲ採取

スルナラバ其害少キモ綠肥トシテハ草ヨリモ寧ロ潤葉樹ノ新葉ヲ可トシ燃料トシテハ枝及小幹ヲ刈取ルノデアルカラ年々歳々採取セララル時ハ終ニハ草ヲモ生ゼザルニ至ル、演習林設定後モ數年間ハ此取締徹底セズシテ無立木地ハ年ト共ニ増加スル有様デアツタ、依リテ前ニモ述べタル如ク積極的ニ造林事業ヲ行ヒ造林區域ニ對シテハ絶對的ニ入山セシメズ一草モ採取セシメズ其代リ其他ノ區域ニ於テハ寛大ノ措置ヲ爲シ時ニ或ハ全然採取ヲ默認スルノ態度ヲ取リタルニ幸ニシテ地元民モ造林地ヲ犯シテ迄採取ヲ試ムルモノナカリシヲ以テ爾後漸次造林地區ヲ増シ其成林スルニ至レバ同一面積ノ裸地ヨリモ遙ニ多クノ綠肥、燃料ヲ供給シ得ベキヲ以テ斯クシテ此困難ナル問題モ略々解決シ得タノデアル。

### 第五節 火 災

火災ハ遺憾乍ラ頗多イ、其多クハ通行人又ハ無斷入山者ノ煙草ノ吸殻其他過失ヨリ起ルモノデアアルガ尙綠肥採集者ノ放火、入山者ノ焚火、火田耕作者ノ火入レ、附近森林ヨリノ延燒等ニヨル場合モ少クナイ、多クハ無立木地又ハ疎林ガ害ヲ被ルノデ從ツテ被害額ハ比較的少ク燒失面積モ小ナルヲ常トスルモ災害ノ類々タル毎年春季恰モ造林事業多忙ノ際ニ所員ハ東奔西走消火ニ忙殺セララル爲ニ間接ニ受クル被害ハ極メテ大ナリト云ハネバナラヌ、數年前ヨリ林内外各所ニ防火宣傳ノ標示ヲ爲シ或ハ林内ニ喫煙場ヲ設ケ場外喫煙ヲ禁ズル等種々ノ方法ニヨリ其發生ヲ防グベク努力セルモ未ダ其効果顯著ナラズ、今後愈々其取締ヲ嚴ニシテ以テ災害ノ絶滅ヲ期シテ居ル。

既往ニ於ケル火災ノ全部ヲ掲グレバ次ノ如シ。

年	月日	場所	原因	面積 (ha)	林相別面積 (ha)	被害額 其他
大正 7	2, 1	II 20	煙草	3,970	40年生以下赤松林	3 4年生ノモノ枯死 1 8圓 落葉、下草等燒失
大正11	4, 7	I 6	焚火	24,790	7-8年生松、稚樹發生地 7.94 潤葉樹林 1.98 未立木地 14.87	300圓
	自4.13 至4.14	III 3.18, 19, 29	''	119,010	赤松林 49.59 潤葉樹林 29.75 赤松及潤葉樹林 39.67	200圓 150圓 300圓
	4, 14	II 1.2	''	19,830	稚樹發生地 小面積 未立木地 大	僅 少
	4, 19	II 35	失火	29,751	赤松5.6年生以下	200圓
大正13	4, 7	II 34	放火	34,710	赤松15.6年生以下	1,050圓
	4, 10	III 17.31	''	39,670	赤松20年以下天然生林 9,920 未立木地 29,750	300圓



年	月日	場所	原因	面積(ha)	林相別面積(ha)	被害額其他		
大正13	4. 11	■ 32. 33	〃	69,420	未立木地	立木損害無シ		
	4. 11	■ 18. 30	〃	14,880	未立木地	〃		
	4. 18	■ 33	〃	59,500	赤松15.6年生 未立木地	29,750 29,750	900圓	
	4. 18	■ 21. 29	〃	14,880	草生地		立木損害無シ	
	4. 19	■ 31. 33	〃	39,670	赤松15年生以下 (天然稚樹) 草生地	9,920 29,750	イ 300圓	
	4. 19	■ 21. 22. 24. 27. 28	〃	39,670	草生地		立木損害無シ	
	4. 15	I 9	民有林ヨ リ延焼	0,992	大部分草生地 一部赤松林		4.5圓	
	4. 19	I 9	不明	0,992	概々草生地 一部山竹、赤松點在		4圓	
	4. 29	■ 33	放火	12,890	赤松天然疎生地 草生地	1,980 10,910	50圓	
	5. 4	■ 28		7,930	未立木地			
	5. 25	I 9	巖採リ女 ノ所爲	0,092	潤葉樹林 草生地		損害輕微	
	5. 26	I 7	不明	0,190	30年生位潤葉樹點在地 蔭及潤葉樹		10圓	
	5. 27	I 8	〃	0,030	30年前後潤葉樹		下草ノミ焼失	
	5. 27	I 9	〃	0,496	30年前後潤葉樹		〃	
	5. 28	I 7	〃	0,131	3.40年生潤葉樹		〃	
	5. 28	I 8	〃	0,099	10年以下赤松稚樹發生地		12圓	
	大正14	1. 19	■ 19	不明	0,793	赤松6,7年生稚樹		40圓
		3. 27	■ 24. 25. 26		44,630	草生地、芝生		立木被害無シ
3. 27		I 8	煙草	2,975	15年生松		芝生ノミ焼失	
3. 28		I 9	〃	3,967	潤葉樹灌木點在		熊笹、芝生焼失	
4. 10		■ 1. 2		34,711	草生地 天然造林地(15- 35年生)	29,751 4,959	赤松7-8年生ノモノ枯死	

年	月日	場所	原因	面積(ha)	林相別面積(ha)	被害額其他	
大正14	4. 12	I 8	下草増取 ノタメ放 火	4,959		下草灌木ノミ焼失	
	4. 13	■ 4	煙草	6,942	草生地 一部潤葉樹	芝生ノミ焼失	
	4. 14	I 8	不明	5,950	稚樹、發生地 7-8年生赤松林 15.6年生赤松林	850本 全部枯死 255本 枯死 } 各半數位 170本 同	
	4. 15	I 2. 6	火田耕者 ノ火田火 入ヨリ	8,925	潤葉樹林 赤松15.6年生	枯死	
	4. 16	■ 25附近	粉炭=點 火	7,934	15.6年生松發生地	現存セル被害木 7,000本	
	自4. 15 至4. 16	■ 27. 24	煙草	39,669	中腹以上潤葉樹疎林 草生地、20年生ノモノ點在地	落葉芝生ノミ	
	4. 17	■ 26. 27	不明	39,669	6,7年生-15,6年生赤松	被害木 40,000 現存被害木 20,000	
	4. 18	■ 29	煙草	0,992	5,6-12,3年生	2000本 燒損 1500本 燒損	
	4. 19	■ 26	〃	7,934	上部 疎潤葉樹林 中腹 疎松林		
	4. 19	■ 4	〃	1,488	潤葉樹林	灌木、下草ノミ	
	4. 20	I 10	焚火	3,969	ha 播種地 0.992 6-12,3年松	600本燒損 2圓10錢	
	大正15	2. 20	■ 33	煙草	6,942	15-25年生ノ赤松疎林	枯死ノ狀況ナシ
		3. 10	■ 1	〃	0,099	草生地	被害物件無シ
		3. 24	■ 34	〃	0,327	赤松天然生 10-15,16年生	約200本枯死、山元價格12錢
3. 24		I 6	〃	0,099	13年度新植黒松	黒松3本、下草少數	
3. 31		I 6	焚火	0,298	13年度新植黒松	下草、落葉ノ少量	
4. 1		■ 34. 35	煙草	14,876	10-20年生赤松 密生地	被害枯死本數 6,000 山元價格 2.40圓	
4. 11		■ 31	〃	2,975	10-15,6年生赤松 密生 未立木地	0,793 2,182	赤松384本燒損、山元價格 1.53
4. 12		■ 1	不明	9,917		下草ノミ	
4. 13	I 8	煙草	12,397	14年度設定、保育林 潤葉樹林	2,975 9,422	2,250本燒損 500本(補植) 85錢 森林經營上非常ナル損害アリ	
4. 16	■ 1	不明	19,835		雜草ノミ		



年	月	日	場所	原因	面積 (ha)	林相別面積 (ha)	被害額	其他
大正15	4. 18	I 7. 8	煙草		12,306	12,3年生松疎林	2,100本焼損	1.05圓
	4. 25	II 12	''		1,190	針闊混生林		25錢
	4. 26	II 27	''		3,966	11年度人工植栽唐松 13年度植栽黒松	750本焼損 4,000本焼損	
	4. 30	I 7	''		0,992	カラマツ林	下草ノミ焼失	
	5. 8 9	II 20	放火		24,793	潤葉樹 針葉樹 稚樹(20-25年生)		圓 12,500
	5. 9	II 27. 23	煙草		19,835	天然生赤松5-15年生 1,984 14年播種造林地 1,190 未立木地 16,661	1,000本焼損	30錢
	5. 9	II 29. 30	''		17,851	天然生赤松林(7-12,3年生) 未立木地 4,586 13,265	1,500本焼損	45錢
	5. 9	朱川面 II 34	糞肥採取者ノ所爲		0,165	天然生赤松林 本年4月人工植栽セル黒松	約400本	
	5. 9	II 3	九州帝大演習林ヨリ延焼		0,793	草地	無シ	
	6. 5	朱川面 II 31	不明		0,694	''	''	
昭和2	4. 7	雲峰面 II 24. 27	煙草		5,455	天然生赤松(17,8-25年生) 灌木及草地	800本 價無シ	
	4. 5	馬川面 I 3	民有林ヨリ延焼		1,983	天然生赤松ノ一部 灌木、草地		
	4. 9	山内面 II 24	失火		2,975	20-30年生赤松(天然)	200本枯死	
	自4. 11 至4. 12	雲峰面 II 29	''		1,983	天然生赤松(14.5年)ノ密生地	下枝、灌木ノ類焼失 150本枯死	
	4. 24	席卜面 I 9	''		6,942	14年度、黒松播種地 2,971 天然生松林(25,6年生) 灌木、岩石地		70圓
	自4. 24 至4. 26	II 25. 26. 24	焚火		198,346	イ、天然生赤松稚樹(4,5年生) ロ、'' (17,8年生) ハ、潤葉樹灌木 (24年生) 草地	イ、11,000本 ロ、1,000本 損害 赤松苗 120,000-300圓 39,669ha造林費 600圓 造林後下刈手入費 480圓 合計 1,440圓	
	5. 4	II 29	放火		10,909	赤松ノ稚樹 3ha967 幼樹ヨリ20年生ノモノ密生 6ha942	稚樹、幼樹、全部枯死 補植ヲ用セザル見込	
	5. 18	I 8	煙草		2,975	天然生赤松 10-25年生ノ モノ點在 潤葉樹草地	雜草、潤葉樹ノ少數 被害物件無シ	
	5. 19	I 9	焚火		0,496	潤葉樹林	落葉及雜草ノミ焼失 被害無シ	
	5. 20	I 8. 7	放火		1,884	天然赤松 10 14,5年生	''	

年	月	日	場所	原因	面積 (ha)	林相別面積 (ha)	被害額	其他
昭和2	5. 26	I 8	煙草		0.019	天然生赤松 20年生 前後ノモノ		
	5. 27	II 4	不明		0.099	4,5年生赤松稚樹	300本 無價値	
	6. 10	I 6	失火		0.992	イ、灌木及雜草 ロ、10年生前後ノ赤松0.029	雜草ノミ焼失	
	6. 9	II 5	''		0.595	天然生潤葉樹20年生	落葉下草多少ノ稚樹焼失	

第六節 其他

「カバ」ノ樹幹ニ孔ヲ穿テ溢レ出ヅル樹液ヲ藥水ト稱シ之ガ採集ノ爲百里ヲ遠シトセズ來ル者ガアル、「エゾマツ」其他ノ樹皮ヲ傷付ケ洩レ出ヅル樹脂ヲ藥用ニ供スル爲ニ山頂ニ攀ル者ガアル、斯クノ如キハ其害トモ必ズシモ大ナリトセズ、風水ノ説ヲ信ジ山頂山腹到處ヲ伐リ開キテ墓地ヲ設ケ周圍ヲ一面ノ芝生地トシテ祭祀ヲ爲ス者ガアル、其他種々ノ理由ニヨリ入山シテ森林ヲ荒ス者ニ對シテハ單ナル取締ノミヲ以テシテハ好結果ヲ得ル限ラヌ、誠ニ本演習林經營上最困難ナルモノハ實ニ其保護ニ存スルノデアアル。

第七章 利 用

施業ノ章ニ於テ述ベタル如ク本演習林ニ於テハ從來積極的ニ利用事業ヲ行ハナカツタ、其理由ハ森林ノ保護及造林ニ全力ヲ用フル必要ノアリタル爲ニシテ決シテ利用事業ヲ不必要トシタ爲デハ無イ。

利用事業ハ2種類ニ分チ得ル、1ハ即過熟林木ノ伐採デアリ他ハ即地元民授産ノ必要ヨリ起ルモノデアアル、此兩者ガ合致シ得レバ理想的デアリナルベク合致セシムル様ニ勉メテハ居ルガ仲々左様旨ク行カヌ、從來ハ過熟林木ノ伐採ハ殆行ハナカツタ、地元民授産(更ニ適切ニ云ヘバ盜伐取締)ノ爲ニ行フ萬已ムヲ得ザル利用事業(即演習林ヨリ云ヘバ成ルベク行ハザル事ヲ欲スル利用事業)ノミガ行ハレテ居タノデアアル、演習林ノ諸事業ガ着々其緒ニ就クニ至リテ茲ニ初メテ林相改良上必要ナル過熟林木ノ伐採ト云フ事ガ計畫セラルルニ至リタルコト施業ノ章ニ於テ述ベタル如クデアアル、然ルニ之等過熟林木ヲ有利ニ利用スルト云フ事ハ今日ノ状態ニ於テハ尙未ダ甚困難デアアル、然シ年ラ目的ガ林相改良ニアルノデアアルカラ多少ノ不利ハ忍ビテ伐採ヲ要スル場合ガアル、茲ニ於テ共伐採ヲナルベク地元民授産ノ爲ニ用ヒントスル努力ヲ必要トスル、此爲ニハ今ヨリ遺漏ナキ準備ヲ進



メテ居ルガ尙今後ノ研究ニ俟ツベキ所頗多キヲ思ハザラ得ヌ。

既往ニ於ケル伐採中地元民生活ノ必要上拂下ゲタルモノハ後ニ第十一章ニ詳記スルカラ茲ニ之ヲ省略スル、地元民授産ノ立場ヨリ數年前カラ椎茸ノ栽培ヲ開始シタ、即次表ニ示ス如シ。

年 度	種 目	數 量		製品價格	經 費	摘 要
		資材立木	製品重量			
大正十四年度	椎茸栽培	145	69	326.740	926.870	資材ハ當年度、伐採ノ分ヲ掲ゲ製品ハ天然生ノ加工品トス小屋掛費ハ假建物ニ岸上ニ付省ク
大正十五年度 昭和元年度	〃	570	48	223.100	2,772.740	同 上
昭和二年度	〃	363	67	299.870	3,425.650	同 上
計		1,078	184	849.710	7,125.260	

既ニ得タル製品ハ主トシテ天然生ノ加工品デアリ栽培品ハ昭和3年度ヨリ初メテ産出スル豫定デアル、乾燥小屋4ヲ設ケ大分縣ヨリ定夫ヲ召請シテ専ラ栽培、乾燥等ノ事ニ當ラシメテ居ル、今後モ此事業ハ繼續ニ行フ豫定デアルガ主トシテ他ニ用途ナキ資料ヲ用ヒテ實施セントスル。

製炭ハ鮮人ガ一般ニ木炭ヲ使用スルコト少キ爲ニ勢共販路ヲ内地人ノ集團セル都會ニ求メザルベカラズ、從ツテ運搬ノ便否ガ重大ナル影響ヲ及ボス、爲ニ從來ハ多ク此事業ニ期待スル能ハザリシモ逐次交通ノ便開クニ伴ヒ演習林モ製炭ノ準備ヲ進メツツアル、蓋シ近キ將來ニ於テハ小規模ニ之ヲ實施シ得ルデアラウ、其他潤葉樹ノ利用方法ハ目下研究時代ニ在ル、而シテ針葉樹ニ至リテハ當分尙造成時代ニシテ利用期ニ入ルハ遠キ將來デアラウ。

## 第八章 土木及建築

### 第一節 道 路

數千年ノ歴史ヲ有スル朝鮮デアル、殊ニ南鮮第一ノ名山デアル、徑路ハ全山ニ普クシテ徒歩ヲ以テスレバ殆總テノ峯筋、谷底ヲ巡ルコトガ出來ル、但車ヲ通ジ得ル箇所ハ林内ハ勿論林外ト雖最近迄ハ之ヲ缺イデ居タ、即10年前ニ於テハ本演習林ニ赴クニハ鐵道ヲ馬山ニ捨テテヨリ乗合自動車ヲ以テ晋州(當時ノ慶尙南道々廳所在地、今ハ道廳ハ釜山ニ在ル)ニ至リ翌早朝朝鮮馬ニ乗リテ山清ニ至ルニ1日ヲ要シ翌日亦馬脊ヲ以テ咸陽ニ至ルニ更ニ1日ヲ要シタノデアツタガ後年晋州咸陽間及京釜線太田驛ヨリ咸陽迄ノ自動車通ズルニ至リ事務所迄ハ兎モ角容易ニ旅行シ得ルニ至ツタ、咸陽雲峰

南原間モ往時ハ馬脊ニヨル他ニ方法ナカリシモ之亦ヤガテ自動車ヲ通ズルニ至リ咸陽雲峰間ノ小部落引月ヨリ馬川ニ入ル道路ハ逐次ノ改修ニヨリ自動車ヲ通ジ得ル様ニナツタ、茲ニ於テ事務所作業所間ハ悉ク車ヲ以テ聯絡シ得ルニ至リタルモ一步林内ニ入ルニ及ンデハ依然トシテ羊腸タル小徑ニ過ギヌ、從來ノ施業ニ於テハ此種小徑ヲ以テ足レリトシタ、今後ノ諸事業ヲ行フニ當リテハ到底此程度ノ交通ヲ以テ忍ブ事ハ出來ヌ、即本年度施業按ノ編成ニ際シテ道路ノ計畫モ樹立セラルル管デアルガ其内重要ナルモノハ蓋シ咸陽事務所ヨリ三峯山ヲ超エテ直チニ馬川作業所ニ至ル道路ヲ改修シテ自動車ヲ通ジ得ベカラシムルコト、山清馬川間ニモ自動車路ヲ設クルコト、林内主要地點ニ赴ク細徑ヲ改修シテ自轉車ノ通行シ得ル様スルコト等デアラウ。

既往ニオケル施工ハ次ノ如キモノガアル。

達宮臥雲歩道改修、延長 5891m.

工費 433圓02

施行 昭和2年度

### 第二節 建 築

近ク馬川及雲峰ノ兩作業所ヲ設ケタガ本演習林ノ建築モ他演習林同様貧弱ノ憾ガアル、近キ將來ニ於テ施工スベク豫定セラルルハ咸陽ノ現事務所ノ増築、學生宿舍同研究室同作業室等ノ新設、附屬家屋ノ増新築等デアリ其具體的設計及年度割等ハ目下立案中ニ屬ス。

既往ニオケル諸工事次ノ如シ。

臨時費支辨建物

名 稱	構 造	數 量	價 格	年 度	起 工 竣 工	備 考
事 務 室	木造平家建	建 21.000	3,400.000	大正 8	8. 8. 22 8. 12. 21	新 築
事務所附屬物置	〃	〃 3.000	666.000	〃 8	8. 10. 22 8. 12. 21	〃
事務所附屬屋	〃	〃 29.500	7,665.000	〃 9	9. 10. 25 10. 3. 24	〃
宿 舍	〃	〃 17.250	4,100.000	〃 10	10. 12. 8 11. 3. 31	咸 陽
〃	〃	〃 14.250	3,450.000	〃 10	10. 12. 8 11. 3. 31	〃
材 料 小 屋	〃	〃 6.000	540.000	〃 10	10. 12. 8 11. 3. 31	事 務
門		1	50.000	〃 10	10. 12. 8 11. 3. 31	新 設
圍 障		間 35	355.000	〃 10	10. 12. 8 11. 3. 31	〃



名 稱	構 造	數 量	價 格	年 度	起 工	竣 工	備 考
池 井		1	250.000	" 10	10.12.8	11.3.31	"
橋 梁		1	200.000	" 10	10.12.8	11.3.31	"
雜 工 作 物		2	80.000	" 10	10.12.8	11.3.31	"
宿 舍	木造平家建	22.750	3,319.250	大正15	15.9.17	15.11.12	新 築
"	"	10.670	1,491.130	昭和元	15.9.7	15.11.12	"
池 井		1	138.000	" 15	15.9.7	15.11.12	新 設
宿 舍	木造平家建	25.500	3,306.190	昭和2	2.9.29	2.12.22	新 築
"	"	13.500	1,535.350	" 2	2.9.29	2.12.22	"
門		1	91.960	" 2	2.10.13	3.1.10	雲 峰 新 設
池 井		1	118.000	" 2	2.10.13	3.1.10	作 業
橋 梁		1	96.070	" 2	2.10.13	3.1.10	所
圍 障		29.8	220.705	" 2	2.10.13	3.1.10	"
雜 工 作 物		1	52.650	" 2	2.10.13	3.1.10	井 戸 家 形

・ 經常費支辨建物

名 稱	種 別	數 量	工 費	施行年度
白武洞人夫小屋	新 設	13 <sup>坪</sup>	251.400	大正 14
三丁里人夫小屋	"	13	238.800	" 14
臥雲人夫小屋	"	13	239.700	" 14
達宮人夫小屋	"	13	241.500	" 14
三丁里椎茸乾燥小屋	"	6	190.200	" 14
達宮椎茸乾燥小屋	"	6	179.100	" 14
咸陽苗圃假小屋	"	8	120.600	" 14
白武洞椎茸乾燥小屋	"	6	192.900	大正 15
臥雲椎茸乾燥小屋	"	6	188.100	昭和 15
咸陽苗圃假小屋	"	10	289.560	" 15

名 稱	種 別	數 量	工 費	施行年度
同	"	7	202.230	" 15
咸陽假倉庫	"	6	240.150	昭和 2
馬川木炭貯藏小屋	"	6	234.640	" 2

第三節 雜 工 事

事務所ト作業所トノ間ニハ専用電話線ヲ設ケントシ即既設ノモノハ次ノ如シ。

自咸陽至馬川専用電話線路 延長9,176間

工費 2,303圓45 外ニ事務費 82圓01

竣工 昭和2年8月30日 竣工 昭和2年11月10日

極メテ近キ將來ニ於テ此電話線ハ更ニ延長シテ完全ニ咸陽、雲峰、馬川間ノ相互ノ通話ニ支障ナカラシムル様工事スル計畫デアル。

本演習林内ニハ荒廢地多シト雖幸ニシテ未ダ砂防工事ヲ施工スル必要ガアル程ニ荒廢ハ進ンデ居ラヌガ隣接民有林内ニオケル崩壞地ガ漸次擴大シ來リテ演習林内ニ侵入シ來リタルモノ最近數ヶ所ヲ數フルニ至ツタノデ其崩壞著シクナラザル内ニ之ヲ防止セントスルモ其爲ニハ隣接民有地ヨリ工事ヲ初メネバナラヌ關係上今尙實施ノ運ニ至ツテ居ラヌガ最近ニ於テ是非此問題ハ解決セネバナラヌ。

第九章 演 習

農學部ノ創設ハ大正13年度ニシテ大正15年度ニ本演習林ニ於テ最初ノ學生演習ヲ計劃シタルモ學生數ノ乏シキ爲ニ實現スルコト能ハズ、越エテ昭和3年度再ビ之ヲ計劃シタルモ學生未ダ多カラズ加フルニ樺太、朝鮮、臺灣ノ3演習林ニ於ケル演習ヲ計劃シタル爲ニ樺太、臺灣ニ赴ク者多クシテ本演習林ニオケル演習ハ再ビ實現セラレザルコトトナツタ、今後ハ第2篇ニ於テ述ベタル如ク各演習林ノ演習ヲ按配シ且學生數モ漸次増加スルニ從ツテ定期的ニ實習ヲ行ヒ得ルニ至ルデアラウ。

演習林ノ材料ヲ大學ニ送附シ教室ニ於テ學生ノ演習ニ使用シタルモノハ頗多ク一々舉グル邊モ無イ、而シテ斯クノ如キハ今後尙逐次増加スベキコト勿論デアル。

交通ノ便ニ乏シク附近ニ適當ナル宿泊箇所ナキ本演習林ニ於テ學生ノ演習ヲ行フニハ先ヅ學生宿舍、研究室、作業室等ヲ設クルヲ要スルコト勿論ニシテシカモ未ダ其設備ナキハ誠ニ遺憾トスル所



デアル、之等ノ點ニ關シテハ前ニ第八章ニ於テ述ベタガ其完成スル迄ハ已ムヲ得ズ假小屋、天幕等ニヨリ行フ豫定デアル、而シテ上記諸建物ノ完成ノ曉ニ於テ初メテ演習林設置ノ目的ノ一半タル學生演習ハ完全ニ行ヒ得ルニ至ルノデアル。

### 第十章 調 査

演習林ニオケル諸般ノ調査ハ孰レモ造林、利用又ハ一般ニ演習林ノ施業ニ關係スルモノニシテ既ニ夫等ノ章ニ於テ述ベ又纏マリタル結果ハ演習林報告トシテ發表スベキガ故ニ特ニ此處ニ記述ノ要アルヲ見ズ、保存林トシテ假指定セラレタルモノアルモ未ダ正式ノ指定ヲ爲サザル故省キテ記サズ。

### 第十一章 雜

本演習林ノ管理ハ現在ニ於テハ咸陽ノ事務所ニ主任助手1名アリ之ヲ補佐スル雇員4名アリ尙第1事業區ノ施業ハ直接此事務所員ガ當ツテ居ル、馬川及雲峰ニハ夫々作業所アリ前者ニハ雇員1名後者ニハ定夫1名駐在シテ夫々第2及第3事業區ノ直接施業ニ當ツテ居ル、近キ將來ニ於テハ咸陽ノ事務所ニハ主任助教授1名ヲ置キ之ヲ補佐スル助手3名(施業及保護1, 造林1, 利用及調査1)書記1名(林務)、而シテ兩作業所ニハ孰レモ主任トシテ助手ヲ配置シ之等ヲ補助スル爲ニ相當ノ數ノ雇員以下ヲ配屬セシメネバナラスト思フテ居ル。

既往ノ收支一覽表ヲ掲ゲテ本篇ノ記事ヲ終ルコトトスル。

支 出 (經常部)

年度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合 計
明治	45	圓	圓	圓	圓	圓
大正	元	0	0	910	0	910
	2	0	0	133	0	133
	3	0	0	717	0	717
	4	0	0	748	0	748
	5	0	0	1,295	0	1,295
	6	0	0	2,151	0	2,151
	7	0	0	1,394	0	1,394

年度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合 計
	8	圓	圓	圓	圓	圓
		0	0	8,054	0	8,054
	9	0	0	10,117	0	10,117
	10	0	0	4,015	0	4,015
	11	0	0	2,355	0	2,355
	12	0	1,519	9,621	0	11,140
	13	0	1,680	10,705	132	12,517
	14	0	2,330	14,995	427	17,752
大正	15	0	2,330	18,732	236	21,298
昭和	元	0	2,448	18,826	245	21,519
	2	0	2,448	18,826	245	21,519
	計	0	10,307	104,768	1,040	116,115

農場及演習林費ノ内譯ハ次ノ如シ、但大正11年度以前ハ不明ニツキ省略ス。

年度	備品	圖書印刷	消耗品	通信運搬	實驗費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給與	雇員給	傭人料	被服費	雜費
大正	12	343	0	842	120	0	0	0	1,205	800	1,040	5,083	86	100
	13	546	0	880	135	0	0	0	1,380	870	1,876	4,797	93	126
	14	1,534	0	972	210	0	0	0	1,859	272	2,094	7,672	116	263
	15	2,603	96	1,047	261	30	59	551	1,973	821	2,017	8,973	173	120
昭和	2	2,287	84	573	389	78	18	572	2,116	985	3,177	8,292	93	157
	計	7,313	180	4,314	1,115	108	77	1,123	8,533	3,748	10,204	35,670	561	766

支 出 (臨時部)

年 度	目	金 額
大 正	7	圓
		260
	8	3,400
		666
	9	8,186
	10	10,022
	10	1,119
	15	5,855
昭 和	2	2,385
	計	31,893



收 入

年 度	種 別	數 量	價 格	備 考
大正 5	用材拂下	石 1,472.83	圓 147.27	
	用材拂下	石 5,664.96	576.36	
7	用材拂下	石 963.63	1,302.19	
	薪材拂下	1,832.00		
8	用材拂下	石 1,290.77	933.36	
	薪材拂下	598.92		
9	用材拂下	石 583.17	573.27	
	薪材拂下	133.43		
10			0.00	
11	用材拂下	石 592.47	468.71	
	薪材拂下	205.92		
12	用薪材拂下	石 2,700.12	719.82	
13	用薪材拂下	石 10,630.73	4,058.75	
	薪材拂下	139.66		
14	用薪材拂下	石 4,830.80	1,549.67	
15	用薪材拂下	石 5,121.96	1,084.42	
昭和 2	用材拂下	石 1,372.39	391.77	
	用材拂下	本 2,284		
合 計	用薪材拂下	石 35,223.83 本 2,909.93 2,284	11,805.59	



横断道路中ノ大断面 (流)



日之出駐在所附近横断道路 (流)





見晴駐在所ヨリ見タル雲海 (演)



見晴駐在所ヨリぱりきん方面ヲ見ル (演)



檜山駐在所附近ヨリ卑南主山方面ヲ見ル(ツガ及ベニヒ林) (演)



石山駐在所ヨリ石山ヲ望ム(白ク見ユルハ「ツガ」ノ立枯木ナリ) (演)





(左)  
 檜山駐在所附近林相  
 (ツガ、ベニヒ、五葉松)

(演)



(右)  
 瀧見駐在所附近

(演)

三合溪扇平苗圃ノ  
 「キナ」



(演)



(演)



三合溪扇平苗圃

(演)



## 第九篇 臺灣演習林

### 第一章 概 況

京都帝國大學農學部附屬臺灣演習林ハ臺灣高雄州屏東郡内蕃地ニ屬シ荖濃溪ト臺灣中央山脈トノ間ニ在リ面積約83,834ha、外ニ六龜ニ事務所及苗圃敷地1ha5088ガアル。

林地ハ明治42年11月臺灣總督府ヨリ本學基本財産林トシテ交付ヲ受ケタルモノデアリ事務所及苗圃敷地ハ大正15年12月買収シ昭和2年3月本學維持資金ニ編入シタモノデアル。

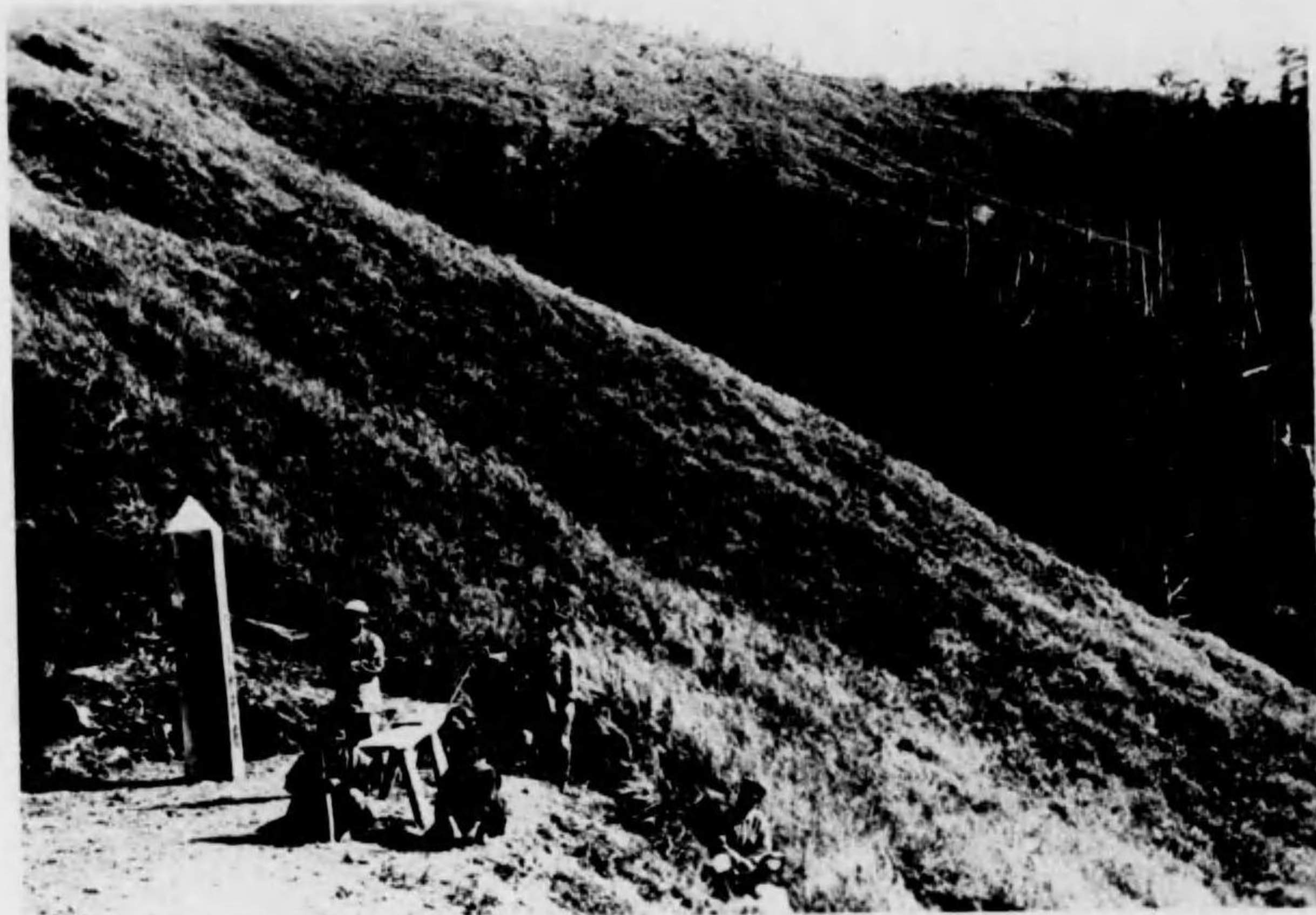
本演習林ハ全部蕃地ニ屬シシカモ臺灣全土ニ於テ最瘠猛ヲ極ムル生蕃ノ根據地ニシテ今尙鹹首ノ行ハルル狀況ニアル。昭和2年迄ハ總督府ハ本演習林内ニ於テ臺灣ノ他ノ地方ニ於テハ殆其跡ヲ絶ツニ至リタル完全ナル警備線ヲ設置シ蜿蜒々數里ニ亘リ山ヲ越エ谷ヲ亘レル大道路ヲ作り之ニ沿ヒ200乃至300m毎ニ家屋ヲ設ケ巡查及補助員ヲ配置シ道路外側ニハ鐵條網ヲ張り強力ナル電流ヲ通ジ觸ルルモノ悉ク即死スル様ニシテ巡查ハ武裝シテ常ニ道路上ヲ往來シ以テ生蕃ノ襲撃ニ備ヘテ居タ、此警備線内ニ存スル演習林ノ面積ハ全面積ノ約10%デアリ線外區域ハ約90%ニ當ル、警備線内ノミハ地方官憲ノ許可證ヲ携帶スレバ兎モ角出入シ得タノデアルガシカモ往々ニシテ線ヲ越エテ襲撃シ來レル蕃人ノ鹹首沙汰ガアツタ、況ンヤ線外ハ軍用飛行機上ヨリ瞰下スル以外ニ絶對ニ視察ノ方法ガ無カッタノデアルガ幸ニシテ警備線ハ逐次進出シ(警備ノ方式ニモ多少ノ變化アリ)爲ニ最近ニ於テハ吾人ノ出入シ得ル區域多少ノ増加ヲ見タルモ尙演習林ノ約80%ニ對シテハ生蕃以外ノ人類ハ出入スルコトガ出來ヌ。演習林ノ職員ハ總督府ノ警備ノ下ニ僅カニ線内區域ニ於テノミ施業ヲ繼續シ時々蕃情ヲ察シ武裝シテ線外ノ偵察ニ赴クコトガアルノミデアル。

本演習林ハ北回歸線以南ニ在リテ海拔200mヨリ3700m迄ノ地ヲ含ンデ居ルカラ著シキ特徴トシテ

- (1) 熱帶林、垂直的暖帶林、垂直的温帶林、垂直的寒帶林ヲ有セルコト
- (2) 夏期高温期間ノ陽光ヲ北面ニ受クルコト
- (3) 本邦ニオケル最大最高ノ山麓ヲ含メルコト

等ガアリ之等ハ本演習林ノミノ有スル特徴デアル。

抑々熱帶ハ林木ノ生長期間長クシテ年ノ大半又ハ其全部ヲ通ジテ植物ハ生長シ臺灣ニオケル生長期間ハ蓋シ北海道樺太等ニオケル夫ニ2-4倍スル、温度高キコト、湿度一般ニ大ナルコト、陽光ノ



蕃人ノ山燒跡(從是西高雄州)

(演)



パリスン社蕃人

(演)



強烈ナルコト等ノ爲ニ同一面積上ニオケル生長量ハ他帶ニ數倍スルコトアリ、此事既ニ貴重ナル研究材料ニシテ將又有利ナル産業ノ一タルヲ證明シテ居ルガ更ニ北半球北部ノ森林ガ現在林産物供給ノ最大資源トシテ盛ニ利用セラレ世界的ニ其餘命幾何モ無キヲ思フ時ニ將來ノ林業林學ノ中心ハ當然熱帶ニ移ルモノト見ネバナラス。此意味ニ於テ嘗テ基本財産林トシテ交付ヲ受ケタル本森林ヲ農學部創設ト同時ニ演習林トシテ經營スルコトトシ前記ノ諸特徴ニ從ヒ之ニ適合スル施業ヲ爲シツツアル。

## 第二章 地 況

### 第一節 位置、地形、境界、面積

新高山ニ源泉シテ臺灣脊梁山脈ノ西側ヲ一路南流スル大河ヲ稱シテ老濃溪ト云フ。老濃溪ヲ西境トシ脊梁山脈ヲ東境トシ水源ヨリ初マリテ南北ニ約76km、東西ニ約18kmニ亘ル區域即老濃溪左岸ノ幾多ノ支流々域ヲ合セタルモノガ大體ニ於テ本演習林ノ區域デアアルガ詳細ニ境界ヲ辿レバ先ヅ脊梁山脈中ノ秀姑巒山絶頂ヨリ僅カニ西ニ之ニ隣スル3700mノ峯頂ヲ原點トシ脊梁山脈分水線ヲ南進シ大水窟山(3645m)尖山(3222m)南双頭山(3333m)關山(3667m)ハイノーナン山(3157m)小關山(3254m)雲水山(3010m)卑南主山(3305m)等ヲ經テ卑南主山ノ南方約5kmニシテ脊梁山脈ヲ辭シ西南ニ分岐スル支脈上ヲ辿リ尾寮山附近ヨリ北進スルモ老濃溪トハ1—4kmノ間隔ヲ東方ニ保チツツ或ハ支流ヲ横ギリ支脈ヲ越エ或ハ之ニ等ニ沿フ等境界線ハ此部分ニ於テ相當複雜ノ極メテ居ル、頭剪山ノ東方ヨリ美壠山頂ヲ通り透仔火山ヨリ約2kmニ於テ西折シ初メテ老濃溪本流ニ出デ以後本流ヲ湖リテ新高山ノ東方約2kmノ地點ニ至リ此處ニテ溪ヲ離レ直チニ八通關ノ西隣約2900mノ峯ニ登リ之ヨリ東折シテ脊梁山脈ト新高山トヲ連ヌル支脈上ヲ走り原點ニ歸着スル。

脊梁山脈ハ上記ノ如ク3000—3700m級ノ幾多ノ峻峯ノ連鎖ニシテ東ニ一大峭壁ヲ爲シテ居ルガ老濃溪ノ左岸支流ハ孰レモ之等ノ峻峯ヲ水源トシテ多ク西南ニ向ヒ流レル、林内ニ於ケル主ナルモノハ南ヨリ算ヘテ濁口溪、寶來溪、ラツクス溪、ウキキン溪、ラツクーイン溪等、南方ノモノ程流程長ク北方ノモノ程短イ、此他ニ支流夥多アルモ多クハ名稱ヲ明ニセズ。濁口溪ト寶來溪トノ分水嶺ハ卑南主山ヨリ出デ石山(2877m)溪南山(2642m)等ヲ連ネ其末ハ數岐シテ濁口溪ト寶來溪トノ中間ニ三合溪、邦復溪等ヲ作ル、本支脈ノ分水線ニ沿フテ林内警備線ハ設置セラレテ居ル、北方小關山ヨリ出ヅル支脈ハ西境透仔火山ニ連リラツクス溪ト寶來溪トノ分水ヲ爲シテオルガ此分水嶺以北ハ溪短ク支脈亦小ナルヲ例トスル。上記以外2000mヲ越ス山岳ハ蓋シ數十座アリ溪亦無數ニ存スト雖

大部分ハ名稱ヲ明ニセズ。

N22°50'ヨリ N23°30'、E120°40'ヨリ121°10'ニ亘リ面積ハ總督府ノ輯製セル地圖ニヨリ圖上計算スレバ實ニ83,834haノ廣キニ達スルガ如シト雖前述セル如ク其大部分ハ飛行機上ヨリ瞰下スル以外ニ調査方法絶無ナル事情ニアルヲ以テ面積ハ勿論地形其他孰レモ多分ノ想像ヲ交フルニ非ザレバ記載ヲ爲シ難イ。

### 第二節 地 質、氣 象

東半ハ古生層、西半ハ中生層ニ屬シ到ル所地質時代ノ著シキ褶曲ハ向脊斜層ヲ現出シ爲ニ地勢一般ニ急峻、絶嶮地ニ乏シクナイ。露出基岩トシテハ主トシテ粘板岩及砂岩デアアルガ線外區域ニ就キテハ觀フ事ガ出來ヌ。

六龜ノ演習林事務所ニオケル氣象觀測ハ昭和2年5月ニ開始シタルモノナレバ未ダ年表トシテ示スニ足リヌ故省略ス。

### 第三節 交 通 其 他

臺灣縱貫鐵道楠梓驛ヨリ六龜迄ハ自動車ノ便アリ、距離ハ楠梓、旗山間約32km旗山六龜間約23kmニシテ旗山迄ハ私設鐵道ニヨリテモ到達スルコトガ出來ル。旗山六龜間ハ雨季ニハ自動車ヲ通ズル能ハズ其他ノ交通モ往々ニシテ杜絶勝デアアル。別ニ私設鐵道ニヨリ里港ニ出デ以後約39kmヲ自動車及若干ノ徒歩ニヨリ六龜ニ達スル事モ出來ルガ之亦雨季ノ交通ハ往々ニシテ困難ヲ伴フ。

六龜ヨリ演習林ニ入ルニハ演習林ノ略々西境ニ平行シテ老濃溪ニ沿フ南北ノ道路ニヨリ進ミタル後之ト分岐シテ入ル蕃路、警備線路又ハ林道ニヨルデアアルガ詳細ハ後章土木建築ヲ記ス際ニ述ブルコトトスル。

## 第三章 林 況

警備線内ニ於テ調査シタル事項、東西横斷線ニ沿ヒ旅行スル時限ニ觸ルル事項ヲ基トシ他地方ノ例ヲ參考トシテ全林々況ヲ記セバ其概況次ノ如シ。

環境ノ差違ニ從ツテ三部ニ分ツ、(1)ハ下部帶ニシテ即大略海拔高600m以下ノ地デアアル。多分ニ熱帶林ノ特性ヲ帶バル森林デ原産林木トシテハ「フウ」「オホバタブ」「トキハイヌビワ」「カシハイヌビワ」等ガアリ「アカウ」「黄藤」「ランシン木」「タイワンシネム」「タイワンケヤキ」等ヲ主要ナルモノトスル。比較的降水量多ク檳榔樹、檸檬、龍眼等ノ人工林又ハ刺竹林ノ生長良好ナルヲ期待シ得ラレル。(2)ハ中部帶ニシテ本演習林ノ大部分ヲ占メ大凡600m以上2000m以下ノ區域デアアル。降



水量多ク樹種亦豊富ナルモ主トシテ常緑闊葉樹ヨリナル森林デアリ垂直的暖帯林ニ相當スル。「カシ類」「シヒ類」「クリカシ」「タブ類」「クス」「モクコク」「オガタマノキ」等ヲ主ナルモノトスル。

(3)ハ上部帯ニシテ2000m以上ノ區域デアリ大體ニ於テ垂直的温帯ノ特性ヲ示スモ下部ニ於テハ尙垂直的暖帯林ノ特徴ヲ見ルベク上部ニ於テハ垂直的寒帯林ヲ見ル。本帯ノ下部ニ於テ既ニ「ベニヒ」「ヒノキ」等混ジテ針闊混交ノ林相ヲ呈シ、登ルニ從ヒ漸次之等樹種ノ數ヲ増スト共ニ「ツガ」「タカネゴエウ」等ヲ加ヘ來リテ針葉樹純林トナリ3000m以上ニ於テハ寒帯林トナリテ殆「ニイタカトドマツ」ノミヲ見ルベク更ニ高キニ及ベバ「ニイタカビヤクシン」ノ散生スル原野又ハ岩石地トナル。本帯ノ下部ハ降水量多キモ上部ニ到ルニ從ヒ漸次減少シ樹種亦下部ニ其數多クシテ上部ニ至レバ急激ニ減少スル。

以上ハ全演習林ニ亙ル林況ノ一般ナルガ施業可能區域内ニ就キテハ近ク植生調査ヲ開始スル計劃デアル。

## 第四章 施 業

### 第一節 既往ノ施業

基本財産林トシテ交付ヲ受ケタル時ニハ林内ニ於ケル「クス」ハ除外セラレ居タルモ大正3年8月林内及其附近ニオケル製腦ノ承諾ヲ受ケ其實行ヲニ井合名會社ニ委託シテ製腦事業ヲ開始シ爾來險惡ナル蕃情ノ裏ニ作業ヲ繼續セシガ大正7年12月總督府ニ於テ島内製腦業統一ノ企劃アルニ際シ同會社ニ其業主權ヲ讓渡シタ、其後ハ蕃情ノ不穩、交通ノ不利等ニ災セラレテ殆何等ノ施業ヲ行フコト能ハズ、タダ地元民及蕃人授産ノ見地ヨリシテ林産物拂下出願アリタル場合ニハ地方當局ノ意見ヲ求メ必要止ムヲ得ザルモノニシテ且少額ナル場合ニ限り之ヲ許可スルコトアリシノミデアル。其後警備線ノ發達ニ伴ヒ蕃情順次平穩ニ傾キタルヲ以テ農學部ノ創設ト共ニ積極的施業ヲ開始スルニ至リシモ當初ハ諸種ノ調査、林道ノ築設、苗圃ノ設置、若干ノ造林事業ニ止マリ（詳細ハ造林、利用等ノ章ニ在リ）施業方針ノ確立ト共ニ漸次其施業ヲ進メツツ今日ニ及ンダ。

### 第二節 施業ノ根本方針

屢々述ブル如ク現在ニ於テ施業可能ナルハ全林ノ2割弱ニ過ギズシテ殘餘ノ區域ハ出入サヘモ不可能ノ狀況ニ在ルガ然シテ乍ラ斯クノ如キハ結局ハ時ノ問題ニシテ各種林業試驗及施業ノ永遠性ニ比スレバ誠ニ一瞬間ノ狀態タルニ過ギヌデアラウ。即施業ノ根本方針ヲ定ムル事次ノ如シ。

#### 第一、下部帯

熱帯林ニ關スル研究ハ總テ本演習林ノ下部帯ニ於テ行ハナケレバ外ニ之ヲ行フ所ガ無イ。即

#### (1) 熱帯樹種樹木園

内外ノ熱帯低地ノ樹木ヲ蒐集培養シテ植物地理學的分類學的ニ排列シ熱帯低地樹種ノ一大索引トシテ諸般研究ノ基礎ヲラシム。之ニ要スル土地トシテ30—50haヲ豫定スルヲ要ス。

#### (2) 熱帯有用樹種見本林及生育試驗地

樹木園ニ於テハ個々ノ樹木ヲ類別植栽シテ樹木各個體ノ研究ニ資スルヲ目的トスルモ見本林ニ在リテハ集團セル有機體ノ林分トシテ其特性又ハ生長關係等ノ研究ニ資セントスル。各樹種林分面積0.5乃至5ha、平均1haトシテ樹種300種トセバ300haヲ要スル理ナルモ全面積ノ關係上止ムヲ得ザレバ若干樹種ヲ減少スル等ノ方法ニヨリ150ha前後デモ宜シイ。

#### (3) 保存林

本帯ハ人爲ノ影響ヲ受ケタル事最大ナル區域ニシテ就中甚シキハ狩獵ヲ目的トシテ蕃人ノ行フ山燒ノ爲ニ隨所ニ原野ノ擴大シツツアル事デアル。現在森林トシテ存スル區域モ多クハ之等ノ原野ガ再ビ固有ノ森林ニ還ラントスル過渡期ニアルモノト見ル事ガ出來ル。勿論殆原生ニ近キ天然林モ存在セヌ事ハ無イ。依リテ此3種ノ林況(原生林、原野、原野ヨリ森林ニ復歸ノ過程ニ在ルモノ)ニツキ適當ナル區域ヲ定メ之ヲ保存林トシテ嚴密ナル監督ノ下ニ生態變化ノ過程ヲ考究スルハ單ニ臺灣ノ林業ノ爲ノミナラズ又以テ廣ク森林生態學上ノ好研究資料デアル。理想ヲ云ヘバ之等保存林ハ1箇所100ha前後(地形ニヨリテ異ル事勿論トス)ナルヲ可トスルモ止ムヲ得ザル場合ニハ約30haヲ以テ最小限度トスル。

#### (4) 人工造林試驗地

既ニ臺灣南部ニ於テ相當ノ成績ヲ收メタルモノ及ビ見本林ノ造林試驗ニヨリ林學上有利ト認メラレタルモノニ關シテ保線的ノ林業試驗ヲ行ヒ撫育ノ程度、其他ノ適否ヲ決定シ進ンデ經濟試驗ニ及ブベキデアルガ此内容ヲ詳記スレバ次ノ如クニナル。

い、竹類、東洋ノ特産トモ稱スベキ竹ハ印度、馬來ヨリ支那、臺灣内地ニ亙リテ分布スルモ日本及其領土中ニテハ臺灣ヲ最トスル。印度地方ニ於テハ既ニばるぶ原料トシテ相當ノ成績ヲ擧ゲ又本邦ニ於テハ所謂竹製品トシテ歐米ニ多クノ需要アリ、竹ノ研究ハ蓋シ世界的ニ見テ臺灣ヲ絶好ノ適地トスベク況ンヤ内地ニ於ケル竹ノ中心ハ京都デアリ之ヲ研究スルハ吾人ノ責務ナルヲ感ズル。本帯ニ於テハ最適當ナルヲ刺竹トスト雖尙籐竹、桂竹等ヲモ併セ造林スベク其造林ハ植栽ニ於テハ其密度、挿木ニ於テハ其方法及密度ノ如何、手入ノ種類、間伐ノ度合、造林前ノ地況ノ如何、現在ノ地況如何、他樹種ト混交ノ關係等ニツキ各種ノ異レル場合ヲ施行スルヲ必要トスル。而シテ1種又



ハ1箇所ノ試験地ハ少クトモ1ha以上ナル様計劃スル事方必要デアル。

ろ、植樹造林、臺灣赤松、チーク、相思樹其他數種ニツキ各々次ノ事項即地況、植樹ノ密度、撫育ノ程度、間伐ノ程度、間伐回歸ノ年數、他樹種トノ混交關係等ノ各種ノ異レル場合ヲ試驗スルヲ必要トスル。而シテ少クトモ各樹種別ニ保續作業ヲ營ミ得ルニ足ル面積ヲ欲スルモ本帶ハ本演習林内ニ面積僅少ナルヲ以テ如上ノ希望ハ蓋シ實現セラレス。但如何ニ少クトモ1種1箇所ノ試験地ガ1ha以下ナルハ周圍ノ影響ノ爲諸試驗結果ヲ混亂セシムル虞アルヲ以テ避ケネバナラス。

は、播種造林、前項記載ノ樹種ニツキ前項ノ事業ト比較シ易カラシムル様ニ諸般ノ狀況ヲ一致セシメテ播種造林ヲ試ム。特ニ注意シテ播種ノ時期、方法、地拵方法等ノ諸種ノ場合ヲ施行スベク其他ハ前項記載セル處ヲ準用ス。

に、在來林ノ撫育、往々ニシテ在來林ノ樹種ヲ劣惡ナリトシ濫リニ樹種改良ト稱シテ或種ノ樹種ト置換セントスルノ傾向アルハ單ニ臺灣ノミナラス内地ニ於テモ亦見ル處ナルガ之實ハ甚數危險ナル施業ト云ハネバナラス、殊ニ臺灣ノ如ク樹種豊富ニシテ其一々ニツキ特質用途等ノ研究未ダ不充分ナルニ當リテハ在來林ヲ保存シ之ヲ撫育スルハ必要ノコトデアル。本項ノ森林ハ先ニ述ベタル保存林トハ全く趣ヲ異ニシ本森林ニ於テハ目的ヲ在來樹種ノ撫育ニオキテ立木分配ノ不良ナル部分、過熟林木等ヲ整理シ跡地ニハ天然更新又ハ人工造林ニヨリテ更新ヲ行ヒ以テ在來種ノ撫育ニ關スル研究ヲ爲サントスルノデアル。

ほ、特殊林木ノ人工造林、極メテ特殊ナル林木ニシテ本帶ニノミ其造林試驗ヲ爲シ得ベク他ノ地方ニ於テ殆不能ナルモノアリ、之等特殊樹種ニ對シテハ特別ノ注意ヲ加ヘテ之ヲ研究スル、例ヘバ油脂、單寧、精油、香料、果實等ノ生産ヲ目的トスル「バラゴム」、橡果、龍眼、「カボック」、肉桂、古柯、白瓊、檳榔樹等ノ如キハ其主目的トスル處異ルニ從ヒ伐期栽培法等類レモ特殊ノ研究項目デアル、而シテ從來之等樹種ニ對スル研究ハ單木トシテノ研究ニ過ギザリシ感アル故ニ1箇ノ林分トシテ造林、撫育等ニ亘リ考究スル必要ガアル。

#### (5) 天然更新試驗地

人工造林ノ研究ヲ爲スニハ之ガ比較ノ爲ノミニテモ天然更新ノ試驗ヲ必要トスル。又前記ノ在來林ノ撫育問題ハ結局天然更新ノ問題ニ關聯シ來ルデアラウ、本帶ハ面積極メテ小ナル故如上ノ程度ノ研究ヲ以テ暫ク足レリト爲ス外致方ナイ。若シ面積ノ餘裕アラバ樹種、立地、伐採率、伐採順序、伐採年數、伐採面積等ノ異レル各種ノ方法ヲ帶狀間伐、擇伐、傘伐等ニ就キ研究スレバ熱帶林業ノ發展ニ資スルコト極メテ大ナルベキヲ思フ、本帶面積ノ小ナルハ此點ニ於テ特ニ遺憾トスル處デアル。

## 第二、中部帶

本帶ハ樹種ノ數豊富ニシテ本演習林總樹種數推定約 480 種ノ内略々60%以上ハ本帶ニ屬スルモノデアル、從ツテ將來ノ造林有望樹種モ其數多ク又他ノ亞細亞熱帶又ハ中米南米ノ熱帶ノ高所ニ育生セル諸種ノ有要植物中本帶ニ栽培スルニ適スルモノ少クナイ。例ヘバ規那ハ原產地南米ニテハ殆冬季結霜ヲ來スガ如キ高所ニ生ジ水平的帶域ハ暖帶ニ相當スルモノナレドモ水平的ノ暖帶ニハ他ノ因子ノ關係上培養不可能ニシテ本演習林附近ノ垂直的暖帶地ニ於テハ之ヲ培養スルコトガ出來ル。又本邦南部例ヘバ九州四國又ハ屋久島等ノ高地ニ生ズルモノ亦本帶ニ於テ其高度ヲ昂メタル所ニ生育セシムルヲ得ルコト例ヘバ屋久島ニ生ズル杉ノ如キモノガアル。尙本帶ハ雨量相當多量ニシテ氣候温和ナル爲多少森林ノ破壞アルモ之ヲ中心トシテ更ニ擴大スルコト稀ニシテ多クハ數年ナラズシテ復閉閉ヲ鎖ス帶域ノ高キ事ハ交通ノ不利ヲ因シ爲ニ一般ニ原生林ノ狀態ヲ維持スル所ガ多イ、下ニ本帶ニオケル施業ノ根本方針ヲ示セバ

### (1) 高地熱帶樹木園

臺灣及臺灣以外ノ熱帶高地產樹木ヲ蒐集培養シテ下部帶ニオケル熱帶樹木園ト共ニ樹木個體ノ研究ノ基礎トナサントス、樹種ハ注意シテ蒐集スレバ1000ニ近キモノヲ得ベク時ニ生態學上ノ見地ヨリ草本類ヲモ培養スルヲ必要トスルコトアルベク之等ニ要スル面積ハ少クトモ50haヲ超スデアラウ。

### (2) 熱帶高地產有要樹種見本林並ニ生育試驗地

之亦下部帶ニオケル見本林ト同様ノ目的ニ出ヅルモノニシテ樹種ハ500ノ多キニ達スベク1樹種0.5—1haトスルモ數百haヲ必要トスル。

### (3) 保存林

本帶ハ既述ノ如ク高差1400m、降水量ハ下部ヨリ上部ニ大ニ、地形ハ東西ニ狭ク南北ニ長ク古生層及中生層ヲ以テ縱斷セラレテ居ル、依リテ等シク常綠闊葉樹林ト云フト雖立地關係ハ複雑ニシテ森林ノ形相ハ部分的ニ著差アリ、是等ノ原生林ヲソノ儘保存スルハ本演習林ノ施業及造林學、生態學上極メテ必要ノコトニシテ出來得ベクンバ主林木ヨリ觀察シテ林種ノ異ルモノ約20ニツキ各々30乃至100haノ森林ヲ保存セント欲スルモ面積關係上不能ナリトセバ林種ヲ制限シ面積ヲナルベク小トスルノ外方法ナシ。

### (4) 林地保安上施業ヲ著シク制限スル林分

本帶ハ降水量多クシカモ其降水量タル70%以上ハ6月—9月ノ所謂雨期ニ降水スルモノニシテ從ツテ1回ノ降水量ハ非常ニ多量デアル、加フルニ地形峻峻谷地ニ添フテ多數ノ崩壊地アリ、斯クノ如キ



箇所ニオケル森林ハ其施業ニ多大ノ制限ヲ加フルニ非ザレバ國土保安上又本演習林内諸般施業上大害ヲ生ズル虞ガアル、是等施業制限地ハ今日到底之ヲ知悉スルヲ得ザルモ之ヲ推定スルニ2000haヲ下ラス、(勿論此面積中ニハ現在未ダ荒廢セザルモ將來其虞アル箇所ヲ含ム)、之ガ施業方法ハ個々ノ場合ニツキ定ムルヲ要スルモ蓋シ甚シキハ禁伐又ハ土木ノ施工ヲ必要トスベク然ラザルモ擇伐撫育等ニ特殊ノ方法ヲ講ズルヲ要スルデアラウ、是等地域ニ於テハ荒廢地復舊、砂防植栽等ノ諸研究ヲナスベキコト勿論デアル。

#### (5) 人工造林試験地

本帯ニ人工造林ヲ試ントスル樹種ハ極メテ多ク今共一斑ヲ例示スルモ尙針葉樹ニ在リテハ「ランゲイシギ」「カウエウザン」「スギ」「ベニヒ」「タイワンアカマツ」闊葉樹ニ在リテハ「クス」「ケヤキ」「タイワンギリ」「ココノヘギリ」「センダン」「アブラギリ」「サンマワウ」竹類ニ在リテハ「マチク」「クイチク」「モウソウチク」特種樹種トシテハ規那、藤、蓖麻等アリ。

(イ) 竹類、上記三種ニツキ海拔高ノ差違、立地ノ相違、地形、土性等ノ異ルニ從ヒ他樹種トノ混交程度、植栽ノ密度、手入ノ方法、間伐ノ度合等ヲ異ニシテ各種ノ combination ヲ作り各種面積最小0.5ha以上、ナルベク1—2haトシ其人工造林方法ヲ研究スル。

(ロ) 植樹造林、上記セル諸樹種中ニハ本帯ノ上部ニ適シ下部ニ適セス又ハ其反對ナルモアリ、或ハ本帯ノ殆上下ヲ通ジテ適スル見込メモノモアル、之等適地多キモノハ如何ナル地帯ヲ特ニ適當トスルヤヲ研究スルヲ要ス、是等ノ問題ヲ別トシ立地ノ位置其他ニヨル變化、地形ニヨル相違等ニツキ夫々植樹ノ密度、手入撫育ノ方法、間伐ノ程度及回歸年數、混交歩合等ノ異ル各種ノ方法ヲ研究スベク共1種ノ施業ヲ爲ス單位面積ハ1ha以下ナル時ハ試験結果ヲ混亂セシムル虞アル故特殊ノ場合ヲ除キ之ヲ避ケネバナラス。

(ハ) 播種造林、播種造林ヲ試ムル樹種ハ植樹ノ場合ヨリモ少カルベキヲ思フ、勿論小規模ニ試験的ニ行フニハ多種類ニツキ之ヲ試ムル要アルモ稍々大面積ニ亘ル播種造林ハ蓋シ若干種ニ限り適當デアラウ、地形、地位ノ異ルニ從ヒ播種ノ種類、密度、時期、地拵ノ程度、手入ノ方法其他ノ各種ノ異レル方法ヲ講ズベク1種ノ施業面積ハ前同様1ha以下ハ避ケネバナラス。

(ニ) 在來有用樹種ノ撫育、其目的ハ下部帯ニツキ述ベタルト同様ナルモ海拔高、地位、地形ノ異ルニ從ヒ主林木ヨリ觀察シテ林種ノ異ルニ從ヒ1箇所30—50haヲ理想トスル、蓋シ海拔高ニ於テハ上中下ノ3種以上、地位ニツキテハ2—3種、地形ニ在リテハ少クモ峯、谷ノ2種、而シテ林種ニツキテハナルベク多キヲ可トスルモ最小3種以上ニツキ之ガ研究ヲ行フヲ可トスルモ實狀ニヨリ適宜縮少スルハ止ムヲ得ヌコトデアラウ。

#### (6) 天然更新試験地

目的方法等ハ下部帯ニツキ述ベタルト同ジキモ下部帯ニ於テハ面積ノ甚數不足ノ爲天然更新ノ試験ヲ爲ス餘地極メテ乏シカリシヲ以テ本帯ニ於テハナルベク之ヲ補ヒ得ル様計畫スルヲ必要トスル更ニ本帯ハ高距ノ大ナルコト、樹種ノ豊富ナルコト等ノ關係上試験種目ハ本來著シク多數ナルヲ期セネバナラス、而シテ兼伐ニ於テハ高距、立地、地形等ノ相違ニ對シ林種ノ特徴的ナル數種ニツキ伐採順序、伐採率、伐採齡、更新期等ノ異レル方法ヲ試ムベク、擇伐ニ於テモ之ト殆同様ニシテ帶狀劃伐ハ主トシテ本帯上部針葉樹ノ混交セル部分ニ於テ之ヲ行フ。

#### 第三、上部帯

最低ハ2000mヨリ最高ハ即本邦ノ殆最高地點タル3700mニ及ビ實ニ臺灣脊梁山脈ノ頂部ヲ包含セル故本帯ニオケル最高最大ノ山嶽トシテ研究スベキ事項ガ多ク無數ニアル、山岳氣候ハ元來、弧峯、小山塊、大山塊ニヨリ其狀態ヲ異ニシ大山塊ニ在リテハ一般ニ氣候頗荒ク又種々ナル樹木限界ノ高マル特徴ガアル、高山頂上附近ニ於ケル氣候其他諸種ノ關係ハ今尙不明ナル處頗多ク研究對象トシテ絶好ノモノデアリ本邦ノ如ク林業地ノ多クガ高山ニ存スル國ニ在リテハ之ガ研究ハ最必要ナル事デアルガ本學ハ遺憾ニシテ内地ニ於テ高山ニ演習林ヲ有セザルニヨリ之ガ研究ハ是非本演習林ノ本帯ニ於テ之ヲ爲サネバナラス。

#### (1) 保存林

前記ノ如ク本帯ハ其上部ニ赴クニ從ヒ獨特ノ荒キ氣候ヲ明瞭ニ示シ降水量ハ下部ヨリ上部ニ至ルニ伴ヒ少クシテ中部帯トハ正反對ノ現象ヲ呈シ風ハ下部ニ和ニシテ上部ニ荒ク蒸發ハ上部ニ至ルニ從ヒ大デアアル、結局上方ニ赴クニ從ヒ植物生育ニ不利ナル状態トナルノデアツテ本帯下部ニ常綠闊葉樹ト針葉樹トノ混交セル美林ヲ呈シ熱帶高地ノ降雨林ノ形相ヲ多分ニ有セルニ拘ラス上部ニ到レバ立木度疎トナリ灌木帶、原野地ノ續出スルハ此理ニヨルノデアアル、本帯ノ上下其高距1700mナルモ氣候及之ニ從ツテ森林組成上ノ相違ハ實ニ大ナルモノガアル、シカモ之等地域上部ニ於テ一旦森林ヲ破壊スルヤ再ビ原形ニ復セシムル事ハ殆絶對ニ望ミ得ラレス、之等ヲ思フ時ニ之等森林ヲ永久ニ保存シテ以テ植物學上、林學上殊ニ植物生態學上、造林學上ノ參考トスルハ極メテ必要ナル事項トス。依リテ本帯ニ比シ遙ニ多クノ保存林ヲ殘存セシメントス、理想ヲ云ヘバ主林木ヨリ觀察シテ約4種ノ林種ニツキ海拔高ノ上中下ニ從ヒ位置ノ峯ト谷トニ從ヒ傾斜ノ緩急ヲ加ヘ之等ノ combination 48種ニツキ1種約100ha、總計4800haノ保存林ヲ殘スヲ可トスルモ他ノ施業トノ關係上幾分之ヲ縮少スルハ止ムヲ得ヌ事デアラウ。

#### (2) 林地保安上施業ヲ著シク制限スル林分



本帯ノ地層ハ主トシテ中生層ニシテ粘板岩及砂岩ノ互層ヲ爲シ、氣候ハ既述ノ如クニ荒イ、此兩者相俟テ風化作用其シク行ハレ地勢亦峻嶒ニシテ隨所ニ大崩壊地ヲ見ル、谷地ノ如キハ雨期ニ當リ激流ノ盛ニ崩壊作用ヲ爲スヲ見ルデアラウ、一般ニ之等崩壊地及其生ズル感アル箇所ハ森林地被ノ乏シキ所デアリ彼ノ中部帯ニ在リテハ氣候溫和ニシテ森林ノ破壊セララルコトアルモ之ガ恢復ヲ期シ得タルニ反シ本帯ニ於テハ一日鬱閉ノ破ルコトアラハ植物生育ニ不利ナル環境ヲ有スルニヨリ容易ニ之ガ恢復ヲ期シ得ザルノミカ反ツテ崩壊地ハ逐次擴大波及スル、依リテ本帯ニ於テハ保安上施業ヲ制限スルヲ要スル區域ハ極メテ廣大デアル、而シテ其方法ハ或ハ砂防工事ヲ要シ砂防植栽ヲ要シ或ハ絶對禁伐ヲ必要トシ又ハ擇伐ヲ唯一ノ伐採法トスルデアラウ、斯カル施業ハ蓋シ3000m以上ノ區域(其推定面積3460ha)ヲ殆全部ニ亘リ必要ニシテ其以下ニ於テモ推定面積6000haニ之ヲ必要トスルデアラウ、兩者ノ合計ハ9500haニ近イガ臺灣中央山脈3000m以上ノ木邦有數ノ峻峯數座ヲ有スル本演習林トシテハ之蓋シ止ムヲ得ザルコトデアラウ、然レドモ之等地域ノ植物學上及林學上ノ價值莫大ニシテ到底他ニ比スベキ地域ノ存セザルヲ思ハバ此區域ノ廣大ナルハ寸毫モ遺憾トスル要ハ無イノデアル。

### (3) 人工造林試驗地

本帯ノ如ク氣候荒キ地方ニ於テハ縱令小面積ナリト雖之ヲ皆伐スルハ危險ナルガ故ニ更新ハ主トシテ天然更新ヲ行フベク從ツテ人工造林ハ天然更新ノ補助トシテ行フノミトスル、從ツテ當初ヨリ人工造林地ヲ豫定セザルヲ可トスル。

### (4) 天然更新試驗地

前述ノ如ク本帯ノ更新ハ天然更新ニヨルヲ要シ其特異ノ地形及氣候ヲ考慮シテ充分慎重ニ行ヒ且常ニ林地ノ保安ヲ考ヘテ施行スルヲ要シ到底自由ニ各種ノ研究的方法ヲ執ルヲ許サス。從ツテ施業ハ幾分制限セララルモノト云ハネバナラス、即全力ヲ擇伐更新ニ注ギ現存林ノ主林木ヨリ觀察シテ約3種ノ林種ニ對シ海拔高ヲ3種ニ分チ地形ニ就キテハ傾斜ニ於テ3種、峯ナルカ谷ナルカニヨリ2種擇伐率ハ數種(少クトモ多中少ノ3種)回歸年數亦少クモ長中短ノ3種トシ之等ノcombinationヲ單位面積10—20haトシテ實行シ以テ主トシテ其保安上ノ効果ニ就キ研究スル所アラントスルノデアルガ面積關係上多少ノ縮少ハ止ムヲ得ヌ、兼伐更新亦研究ヲ要シ大凡擇伐ニ準ジ行フ希望アルモ保安關係上ノ多少ノ不安及面積關係上大々的ニ縮小シテ施業スル、帶狀割伐ハ本帯ニ於テ極メテ有意義ナルヲ信ズルモ之亦主トシテ面積關係上縮少ヲ餘儀ナクセラレル然レドモ之等ヲ擇伐ト比較研究スル爲ニ許シ得ル範圍内ニ於テナルバク擇伐ノ場合ト對比セシメテ諸種ノ研究ヲ行フ事が必要デアル。

上記(1)乃至(4)ハ之ヲ都合ヨク案排スルコトニヨリ同一地ニ於テ若干項目ヲ併セ研究スルコトガ

出來ル場合アラウカト信ゼラレル。

### 第四、各帯共通事項、其他

上ニ掲記セルハ専ラ各林分ノ作業種、更新方法等ヲ示セルニ過ギズ、而シテ上記セル各林分(其合計ハ即本演習林ノ全部デアル)ニ對シ共通のニ又ハ其若干林分ニ對シテ施行セントスル研究事項中最普通のナルモノ又ハ本學ノ他ノ演習林ニオケル施業ト比較ノ必要上施行スルモノ等ハ一々茲ニ掲記セズ専ラ特質的ノモノニツキ其重要ナル若干ノモノヲ例示スレバ

#### (1) 潤葉樹利用ニ關スル事項

本演習林産潤葉樹ノ種類ハ其數450ヲ超ユ、而シテ其大部分ガ本邦他地方ニ於テ見ルコト稀ナルモノナルガ爲ニ之ガ性質及利用方法ニ關シテハ研究セラレタル所多カラズ、一方木材利用ノ趨勢ヲ考察スル時又一般林學上ノ共通の問題トシテ潤葉樹ノ利用方法ハ大イニ研究ノ必要アル問題デアル、本林産潤葉樹材ノ物理學的及化學的性質ノ試驗及之ニ伴フ利用方法ノ研究ハ實ニ刻下ノ急務デアル。

#### (2) 林産物特殊成分ノ採取及之ガ利用試驗

熱帶林木ハ屢々種々ノ特殊成分例ヘバごむ、たんにん、油脂、香料、藥用物質等ヲ含有シテ居ル之ガ採取及利用ハ實益多ク且研究上ノ價值大ナル問題デアル。

#### (3) 森林氣象ノ觀測

現ニ本演習林ニ於テハ事務所々在地ニ於テ氣象ノ觀測ヲ行ヒ居レルモ海拔高其他ヲ著シク異ニスル箇所ヲ多ク含ムガ故ニ能フ限リ各所ニ觀測所ヲ設置シテ以テ觀測網ヲ完成シ林木生育ノ外的因子中最重大ナル氣象ノ徹底的調査ヲ行ハネバナラス、又屢々説ケル如ク高山地方ノ氣象ハ現今ノ科學上未解決又ハ未觀測ノ點頗多ク之ヲ測定スルハ單ニ林學上ノミナラス實ニ地球物理學上極メテ必要ノ事項ニシテ内地ニ於テハ屢々寒冷ノ爲ニ冬季ノ觀測ヲ不可能ナラシムルニ反シ臺灣ニ於テハ此事情ハ餘程緩和セララルヲ以テ萬障ヲ排シテ此研究ヲ爲サントスル、其單ナル1個ノ觀測ト雖蓋シ學界ニ與フル貢獻ハ大ナルモノガアラウ。

#### (4) 降水量ニ關スル研究

之亦臺灣ニハ特異ノ點ガアル、勿論前記ノ氣象觀測中ニ含マレルノデアルガ降水後ノ水分ノ動態ヲ觀察スルハ單ニ學術上ノ必要ノミナラス國土保安ノ實効上ヨリ見ルモ忽緒ニ附スルコトハ出來ヌ。

#### (5) 其他

例ヘバ蕃地ナルガ故ノ特殊ノ施業、植民地ナルガ故ノ特殊ノ施業等政策的の方面ニ亙ル事項、光線



温度ノ充分ナル爲植物生育ノ著シキコト其他ニ起因スル經理學的事項ノ特殊ナル研究、氣候其他ニ起因スル砂防學上ノ興味アル問題、特殊林産物ノ研究等々諸般ノ事情ガ内地ト異リ、諸般ノ事情ガ植物生育ニ適シ、更ニ諸般ノ特殊ノ關係アルニ起因シテ臺灣演習林ニ於テ研究ヲ要スル事項ハ實ニ舉ゲテ數フベカラザルモノガアルガ之等ハ一々具體的ニ掲記セズトモ施業ノ根本方針ニ對シテハ影響スル處少カルベキヲ思ヒテ總テ茲ニ之ガ記載ヲ省略スル。

第三節 現在ノ施業方法

第一、施業案編成前決定ヲ要スル事項

施業方針ニ基キ施業案ヲ樹立シ之ニヨリテ施業ヲ爲スベキデアルガ施業案ハ一旦之ヲ確立シタル上ハ濫リニ之ヲ變更スルヲ許サズ、而シテ本演習林ニ於テハ施業案編成前決定ヲ要スベキ次ノ諸事項ガアル。

(1) 蕃人居住地ノ決定

臺灣總督府ニ於テハ警備線外ノ蕃人ハ歸順ノ上ハ順次之ヲ警備線内ニ移住セシメ相當ノ面積ヲ許シテ生活ヲ營マシム、警備線内ニ於テ蕃人ノ居住ニ適スル區域ハ必ズシモ演習林内ノミナラズ林外ニモ多クアリト雖シカモ林内ニモ尙若干面積ヲ要スベキハ既往ノ移住成績其他ヨリ見ルモ之ヲ知ルヲ得ベク之等ノ地域ハ名ハ演習林ナリト雖之ガ施業ニハ根本的ノ著シキ制限ヲ受クルカ又ハ事實上全然何等ノ施業ヲモ爲シ得ザル場合モアラウ。永遠性ヲ帶ブル演習林ノ施業ヲ開始シタル後ニ於テ之ヲ蕃人ニ與フルハ研究ヲ水泡ニ歸セシムルモノナルヲ以テ豫メ移住地ヲ定メオキ諸區域ニ對シテハ一時的ノ施業ヲ爲ス外ニ致方ナイ、依リテ蕃人居住地ノ決定ハ最初ニ必要トスル問題ナルモ理蕃上ノ事項ハ大學ニ於テ之ヲ任意ヲ行フヲ得ザルヲ以テ目下總督府ニ對シ之ガ決定ニ關スル協議中デアリ之實ニ第一ノ先決問題デアル。

(2) 理蕃設備ノ方針決定

警備線ノ内外ヲ問ハズ理蕃目的ヲ以テ諸般ノ設備ヲ爲スヲ要スルハ勿論ニシテ之亦大學ガ任意ニ行フベキモノデナク專ラ總督府ノ方針ニ從ハネバナラス、永遠性ヲ帶ブル試驗地區ガ後年理蕃道路トナルガ如クンバ研究ノ目的ハ達セラレヌノミカ時トシテ最早同様ノ研究ヲ行フ餘地無キニ至ルヤモ保シ難イ、勿論理蕃ノ方法ハ蕃情ニ應ジテ變化スベク到底其全班ノ計劃ヲ最初ヨリ知ル能ハザルハ勿論ノ事デアラウガシカモ出來得ル限リ將來ノ方針ヲ知リテ之ニ適合スル施業ヲ爲サネバナラス。

(3) 州當局ト施業上ノ合議

理蕃ノ政策上拂下其他諸種ノ問題ハ施業前州當局ノ意向ヲ尋ヌル必要ガアル、勿論施業案ノ編成セラレテ精密ナル豫定ノ樹立スルニ及ベバ該案ニ就キ豫メ州當局ト合議スレバ可ナルベク或ハ又實行久シキニ及ベバ相互ノ諒解ニヨリ事實上ニ一々協議ヲ要セザルニ至ルベシト雖現在ノ事情ニ於テハ州當局ト隔意ナキ諸種ノ交渉協議ヲ爲シタル上ニアラザレバ決シテ精密ナル施業案ヲ樹立スルコト能ハズ、強ヒテ樹立スルモ實行上多クノ不便ヲ生ズルデアラウ。

上記ノ諸點ニツキ總督府ト充分ナル打合ヲ爲シ其確定ヲ見タル上ハ個々ノ區域ニツキ精密ナル案ヲ編成スベキデアル、其編成セララル迄ハ當分前記ノ施業方針ニ基キ支障無キ區域、支障ナキ事業ヨリ逐次實行スル。

若シ夫レ警備線外ノ區域ニ對シテハ當分施業案ヲ編成スルコト不可能ナルヲ以テ施業方針ニ基キ施業可能ノ區域ヲ求メテ漸次實行スルノ外途ナシ。

第二、森林ノ區劃

全林ヲ3個ノ事業區ニ分ツ、第I事業區ハ濁口河流域、第II事業區ハ寶來溪、邦腹溪及三台河流域ニシテ第III事業區ハ殘餘ノ區域デアル、事業區内ヲ顯著ナル峯及谷ニヨリテ多クノ林班ニ分ツ、但第III事業區ハ最奧地ニシテ地形ヲ明ニスル事能ハザルニヨリ入口ニ近キ部分ニ多少ノ林班別ヲ施シタルノミニシテ其他ハ未ダ區劃シテ居ラス。

林班別ノ面積ヲ圖上ニ於テ推測シタル結果ハ次ノ如クデアル。

事業區	推測面積 (ha)	林班數	備考
I	35,507.8500	80	事務所及苗圃地(46)ヲ含ム
II	16,495.7088	46	
III	31,832.5000	12以上	
合計	83,836.0588	138	

I 事業區

林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)
1	347.50	5	313.25	9	324.94
2	295.00	6	315.00	10	300.75
3	406.50	7	610.00	11	410.80
4	315.00	8	444.00	12	500.80



林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)
13	358.00	36	287.50	59	436.60
14	429.10	37	485.00	60	435.00
15	372.50	38	365.00	61	667.50
16	400.00	39	480.00	62	521.60
17	236.50	40	400.00	63	481.60
18	337.50	41	525.00	64	420.00
19	375.00	42	517.00	65	440.80
20	325.00	43	449.10	66	652.50
21	385.00	44	419.10	67	646.60
22	360.00	45	384.10	68	609.10
23	318.25	46	350.00	69	467.50
24	495.00	47	552.50	70	360.80
25	425.00	48	645.00	71	346.60
26	617.50	49	700.80	72	268.30
27	494.10	50	582.50	73	394.40
28	681.60	51	370.80	74	515.00
29	291.60	52	616.60	75	486.60
30	480.00	53	580.00	76	390.80
31	559.10	54	485.00	77	309.10
32	580.00	55	354.10	78	337.50
33	490.00	56	299.10	79	338.30
34	602.50	57	482.50	80	258.30
35	708.30	58	487.50		

## II 事業區

林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)
1	322.50	6	432.50	11	437.50
2	305.80	7	490.00	12	500.00
3	300.80	8	507.50	13	395.00
4	491.60	9	310.00	14	489.10
5	420.80	10	412.50	15	564.10

林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)
16	457.50	27	418.30	38	379.10
17	383.30	28	392.50	39	312.50
18	495.00	29	375.00	40	242.50
19	412.50	30	300.00	41	285.00
20	448.30	31	250.00	42	237.50
21	330.00	32	274.10	43	385.00
22	287.50	33	279.10	44	225.00
23	424.10	34	284.10	45	225.00
24	274.10	35	242.50	46	1,508.8
25	585.00	36	214.10		
26	270.00	37	425.80		

## III 事業區

林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)	林班	面積 (ha)
1	786.30	5	797.00	9	437.50
2	490.00	6	441.50	10	627.40
3	417.40	7	447.50	11	644.90
4	860.08	8	510.00	12	723.00

## 第三、施業ノ一般

施業ノ根本方針ニ基キテ逐次施業ヲ進メテ居ルノデアルガ面積、立地等ノ關係上將又蓄人使用地ノ決定ニ伴フ完全施業地ノ縮小等ノ結果到底希望通りノ施業ヲ其儘行フ事ガ出来ヌ、爲ニ夫々ノ事業ニ對シテ其面積ヲ縮少スルノ止ムヲ得ザル場合ガアルガ面積ノ縮少ハ周圍ノ影響ヲ敏感ニ受ケル事トナリ到底満足ナル結果ガ得ラヌノミカ時トシテハ反ツテ誤レル結果ヲ生ズル虞ガアル、依リテ恐ラクハ最後ノ窮策トシテ比較的重要性ノ少キ事業ノ若干ヲ放擲セネバナラヌコトトナラウ。

之等諸事業ヲ行フニ必要ナル場合、理蕃上必要止ムヲ得ザル場合其他公益保安上ノ必要アル場合ニ限り伐採ヲ行ヒ其他ハ當分ノ間伐採ヲ行ハザルコトトスル。而シテ事業ハ蓄人ノ狀況ヲ察シテ差支ナキ區域カラ着手シテ居ルガ其狀況ハ次章以下ニ述ベル。



### 第五章 造林

昭和2年度ニ初メテ苗圃地ヲ開クコトヲ得タノデ(購入ハ大正15年度) 其以前ニハ僅少ノ借地ヲ爲シテ漸ク造林事業ノ端緒ヲ開キタルハ大正14年度アル、既往ノ事業概略次表ノ如シ。

年 度	場 所	種 別	實 行 期	樹 種	數 量	面 積
大正15年度	三合溪尾上	播 種	5 月	相 思 樹	10升	0ha92
	同	同	同	黃 藤	5升	
	同	新 植	同	ク ス	6,000本	2ha66
	同	手 入	8 月	相 思 樹		0ha92
	六 龜	苗圃播種	3 月	クス、チーク、其他		
	六龜土壟灣	苗圃床替	同	ク ス、其 他	7,000本	
昭和2年度	三合溪扇平	苗圃播種	同	ベニヒ、ヒノキ、タイワンアカマツ、ラングアイスキ	4升	
	土 壟 灣	苗圃播種	4 月	クス、油桐、相思樹		0ha225
	扇 平	同	同	スギ、ヒノキ、ラングアイスキ、ケヤキ	3kg2	0ha0163
	同	苗圃床替	同	ベニヒ、ヒノキ、タイワンアカマツ、ラングアイスキ	123,000本	0ha146
	三合溪尾上	手 入	6 月	ク ス、相 思 樹		2ha80
	マ ガ	播 種	3 月	相 思 樹	24kg	4ha0
	三合溪尾上	植 栽	同	ク ス	6,000本	3ha0
	同	挿 木	同	桂竹、麻竹、刺竹	130本	0ha1
	同	補 植	同	ク ス	600本	2ha0

之等ノ苗木ヲ育成スル爲ニ事務所ニ連接セル苗圃ト林地内三合溪扇平ノ林間苗圃トガ定置的ニ在リ尚必要ニ應ジテ隨時一時的ノ林間苗圃ヲ設クルコトニシテアル。

林内ニ施業スル者ノ身命ガ生蕃ノ襲撃ニ脅カサル以上ニ造林地ハ生蕃ノ放火ノ延焼ニ脅カサレテ居ルノデ其周圍ニハ常ニ防火線ヲ施ス事トシテ居ル、將來ノ造林ハカカル姑息ノ防禦ニヨラズ廣ク安全ナル地域ヲ確定シテ施行シタキ希望ヲ有スルモ前ニ屢々述べタル如キ多クノ難關ヲ突破シタル後ニ非ザレバ實現困難デアラウ、依リテ暫クハ燒跡地ノ成林ノ爲ニスル荒廢地復舊造林ト之ニ對シテ他方ノ極端タル諸貴重樹種ノ小規模ニシテ且細メ、集約的ナル試驗的造林トヲ試ムルヲ造林事業ノ主體トナスデアラウ。

### 第六章 保 護

本演習林ノ保護上最重要ナル事項ハ對蕃人關係デアルガ故首ハ暫ク措キ蕃人が狩獵ノ爲ニ、開墾ノ爲ニ、交通ノ爲ニ或ハ又不明ノ理由ニ依リテ森林ヲ燒クガ如キハ全ク數千年前ノ林業以前ノ時代ヲ思ハシムルモノガアル、シカモ警備線外ニ於テ行ハル、之等ノ所爲ニ對シテハ殆ど適當ナル對策ノ施スベキモノアルヲ知ラス。

警備線内區域ニ於テハ保護ハ殆ど完全ニ行ハレテ記述ヲ要スルコトモ無イガ一造林地毎ニ其周圍ニ防火線ヲ設クルニ非ザレバ何時蕃人ノ山燒ガ延燒シテ來ルカモ知レヌト云フ危險ニ曝サレテ居ル事ハ誠ニ慨歎ニ堪ヘヌコトデアアル。

### 第七章 利 用

大正3年製腦ヲ開始シ同7年ニ至リテ其業主權ヲ讓渡シタル以後ハ本演習林ニオケル産物處分ハ製腦業附帶用材及地元ニオケル日常必需ノ用薪材ノ賣拂及蕃人授産上已ムヲ得ザル少量ノ賣拂ニ過ギナカツタノデアアル、其數量等ハ第十一章ニ掲記スベキヲ以テ茲ニ記サヌ。

造林事業ノ開始ニ伴ヒ障害木除却ノ必要生ジ又蕃人ノ開墾ニ先子山野ヲ燒拂フヲ以テ燒拂以前ニ之ヲ伐採利用スルノ必要ヲ感ジタルモ之亦先決問題トシテ林道ノ設備ヲ必要トスル、依リテ次章記ス如ク逐次林道ノ開墾ヲ行ヒテ諸種ノ利用方法ヲ講ゼントシ椎茸栽培ハ昭和2年度ニ於テ試驗的ニ50m<sup>2</sup>ヲ157個ノ經費ヲ以テ資材ニ作り今後繼續的ニ研究ノ豫定デアリ其他ノ利用方法ニ就キテハ今尙研究調査中ニ屬ス。

### 第八章 土 木 及 建 築

#### 第一節 道 路

臺灣總督府ガ理蕃ノ目的ヲ以テ施工シタル所謂警備線ハ本演習林南半ニ於テ縱横ニ各1條アリ、峯ヲ超エ谷ヲ下リテ完全ナル道路ヲ爲シ本演習林經營上絶大ノ便宜アル事ハ茲ニ改メテ説ク要モナイ。

演習林ニ於テハ目下主要ナル谷筋ニ林道ヲ開墾シ漸次隣接スル兩谷ノ谷筋線ヲ界線ヲ超エテ聯絡セシメツツアル、此林道ハ最初ハ歩道トシ逐次車馬道ニ改修スル豫定ヲ以テ最初ヨリ勾配、半徑等



ヲ緩トシ單ニ路幅ノ擴大ノミヲ以テ車道ヲラシメ得ル様ニ設計シツツアル、警備線ノ進出ト蕃情ノ平定トニ伴ヒ漸次危險ノ度ノ少キ場所ヨリ工事ヲ進メルノデアルカラ將來ノ豫定ヲ爲スコト困難ナルモ近キ數年間ノ施工區域ニ對シテハ具體的設計ヲ立案中デアル、既往ニオケルモノハ次表ノ如シ但悉ク經常費支辨デアル。

名 稱	種 別	數 量	工 費	施行年度	摘 要
三合溪歩道	新 設	4,451.0 <sup>m</sup>	824.350 <sup>圓</sup>	大正14	十四年度新設歩道ヲ改修シ車道ト爲ス、側溝ヲシ九尺幅
三合溪車道	改 修	955.0	1,202.040	大正15 昭和元	
扇平歩道	新 設	1,636.0	95.770	"	
マガ社歩道	"	2,727.0	300.030	"	
尾上歩道	"	5,245.0	733.980	"	
バリサン歩道	"	2,036.0	386.990	"	
三合溪車道	改 修	900.0	75.640	昭和 2	
扇平歩道	"	5,100.0	47.550	"	
尾上歩道	"	5,250.0	65.340	"	

第二節 建 築

大正15年度ニ初メテ事務所及宿舍ヲ設ケタガ今後尙學生宿舍同研究室同作業室、標本室倉庫其他雜建物等將來施工ヲ要スルモノガ少クナイ、之等ハ屢々述ベタル如ク全演習林ヲ通ジテ最近數年間ノ具體的設計、年度割等目下立案中ニ屬シテ居ル。

既往ノ施工概略次ノ如シ。

臨時費支辨建物

名 稱	構 造	數 量	價 格	年 度	起 竣 工 工	備 考
廳 舍	木造平家建	18.750 <sup>坪</sup>	3,718.880 <sup>圓</sup>	大正15 昭和元	2. 1. 11 2. 3. 31	新 築
宿 舍	"	20.500	4,430.170	"	2. 1. 11 2. 3. 31	"
"	"	19.000	4,300.950	"	2. 1. 11 2. 3. 31	"
水 道	"	1	288.910	"	2. 1. 11 2. 3. 31	"
"	"	1	330.100	"	2. 1. 11 2. 3. 31	"
"	"	1	318.990	"	2. 1. 11 2. 3. 31	"

經常費支辨建物

名 稱	種 別	數 量	工 費	施行年度
扇平苗圃小屋	新 設	15.75 <sup>坪</sup>	542.95 <sup>圓</sup>	昭和2年
中庄堆肥小屋	"	3.75	226.34	"
事務所物置	"	8.00	622.00	"

第九章 演 習

農學部ノ創設ハ大正13年度ノ事ニ屬シ本演習林事務所建物ノ落成シタルハ昭和2年デアル、即從來ニ於テハ學生ノ演習ハ之ヲ行フ術ガ無クツタ、昭和3年度ニ始メテ第1回學生實習ヲ計劃シタガ其實行セラルルハ昭和4年1月デアル、今後ハ先ニ第二篇ニ於テ述ベタル如ク定期的ニ舉行ノ豫定デアル。

演習林ノ材料ヲ大學ニ送附シ教室ニ於テ學生ノ演習ニ使用シタルモノハ頗多クシテ一々舉ゲルニ違モ無イ、而シテ斯クノ如キハ今後尙漸ク追フテ増加スベキ事勿論デアル。

交通ノ便ニ乏シク附近ニ適當ナル宿泊箇所ナキ本演習林ニ於テ學生ノ演習ヲ行フニハ先ヅ以テ學生宿舍、研究室、作業室等ヲ設クル要アルコト勿論ニシテシカモ未ダ其設備ヲ爲スニ至ラザルハ實ニ遺憾トスル處デアル、之等ニ關シテハ前ニ第八章ニ於テ述ベタガ其完成スル迄ハ假小屋、天幕等ヲ用フル豫定デアル、而シテ上記諸建物完成ノ曉ニ於テ初メテ演習林設置ノ目的ノ一半タル學生演習ハ完全ニ行フコトヲ得ルニ至ルデアラウ。

第十章 調 査

演習林ニ於ケル諸般ノ調査ハ夫々其關係スル處ニ從ツテ施業、造林、利用等ノ章ニ於テ述ベ又其纏マリタル結果ハ演習林報告ニ於テ之ヲ發表スベキガ故ニ特ニ此處ニ記述ノ要アルモノヲ見ス。

第十一章 雜

本演習林ニハ現ニ助手(主任) 1、雇員 2、定夫 2、小使 1アルニ過ギヌガ少クトモ助教(主任) 1、助手 2 (造林及調査1、施業及利用1)書記 1(林務)ヲ必要トス、若シ夫レ警備線ノ進出ニ伴ヒ施業面積ノ増大スルニ及ビテハ助手ハ各業務毎ニ1名計4名ヲ要スベク雇員以下之ニ伴ヒ雇員ヲ要スルハ勿論ノコトデアル。

既往ニ於ケル收支關係ヲ示セバ次表ノ如シ。



支出 (經常部)

年度	目	高等官俸給	判任官俸給	農場及演習林費	各所修繕	合計
明治40		0	0	207	0	207
41		0	0	1,456	0	1,456
42		0	0	2,578	0	2,578
43		0	0	1,563	0	1,563
44		0	0	175	0	175
明治45		0	0	225	0	225
大正元		0	0	158	0	158
2		0	0	1,116	0	1,116
3		0	0	346	0	346
4		0	0	691	0	691
5		0	0	266	0	266
6		0	0	0	0	0
7		0	0	114	0	114
8		0	0	50	0	50
9		0	0	50	0	50
10		0	0	0	0	0
11		0	0	80	0	80
12		0	0	496	0	496
13		0	1,068	3,082	0	4,120
14		0	2,003	8,516	0	10,519
昭和元		0	2,068	7,758	0	9,826
2		0	2,068	7,758	0	9,826
計		0	5,109	28,927	0	34,036

農場及演習林費ノ内譯ハ次ノ如シ、但大正12年度以前ハ不明ニツキ省ク、

年度	備品	圖書印刷	消耗品	通信運搬	實驗費	動物費	肥料購買	種苗購買	内國旅費	給與	雇員給	備人料	破服費	雜費
大正13	221	0	160	13	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0
14	720	0	181	121	0	0	0	0	609	659	0	602	0	187
15	701	96	32	231	0	0	0	21	1,060	738	0	5,351	0	283
昭和2	674	97	450	127	44	0	0	170	810	391	550	4,228	56	157
計	2,316	193	823	402	44	0	0	191	2,479	1,888	550	10,181	56	627

支出 (臨時部)

年度	目	金額
大正15	演習林建物新築及苗圃地買収	14,121圓
昭和		
計		14,121

收入

年度	種別	數量	價格	備考
大正4	製腦業主利益金		圓 2,502.82	
5	同上		4,097.34	
6	同上		8,341.62	
7	同上			
	製腦權賣拂		206,588.22	
	黄藤拂下	510,000斤		
8	製腦用材拂下	97尺×5 487欄3	194.93	
9			—	
10	製腦用材拂下	4石80	398.10	
	黄藤拂下	130,000斤		
11	製腦用材拂下	20石00	430.95	圓 (内47.58ハ延期料)
	黄藤拂下	70,000斤		
	搬出延期料			
12	製腦用材拂下	27石00 112欄6	645.03	
13	同上	19石20 80欄5	737.66	(内5.49ハ延期料)
	黄藤拂下	70,000斤		
	搬出延期料			
14	製腦用材拂下	552石59 54欄71	1,267.73	(内8.84ハ延期料)
	黄藤拂下	20,000斤		
	搬出延期料			
15	製腦用材拂下	354石53 55欄04	1,189.33	(内5.65ハ延期料)
	黄藤拂下	50,304斤		

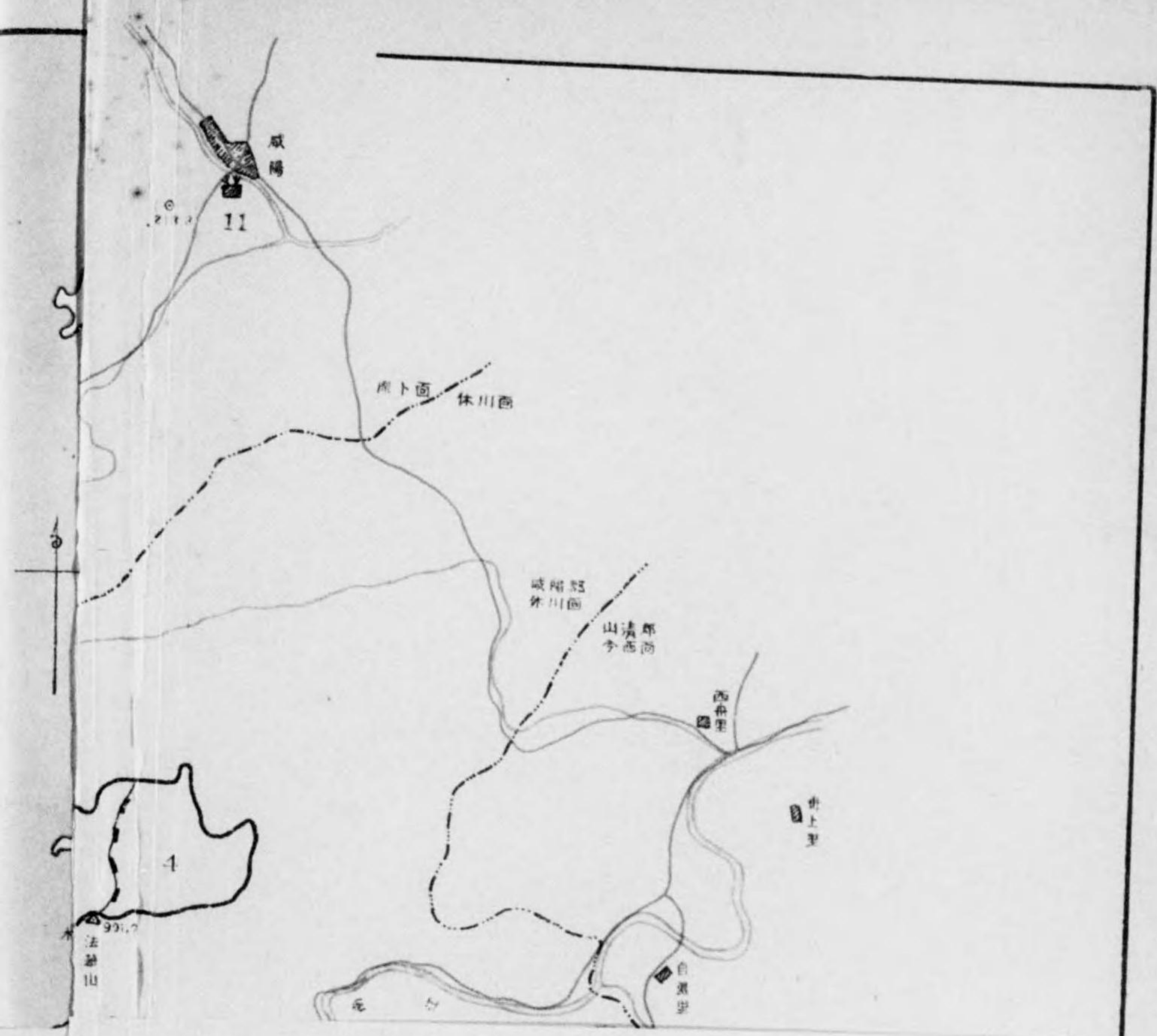


年 度	種 別	數 量	價 格	備 考
大正 15 昭和 2	搬出延期料 製腦用材拂下 搬出延期料	196立方米56	圓 248.35	圓 (内6.94ハ延期料)
合 計		978石12 790桶15 97尺×5 196立方米56 850,304.00斤	226,642.08	

## 附 圖

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 本部 試驗 地  | 2 上賀茂 試驗 地 |
| 3 芦 生 演習 林 | 4 和歌山 演習 林 |
| 5 樺 太 演習 林 | 6 朝 鮮 演習 林 |
| 7 臺 灣 演習 林 | 8 演習 林 圖 式 |







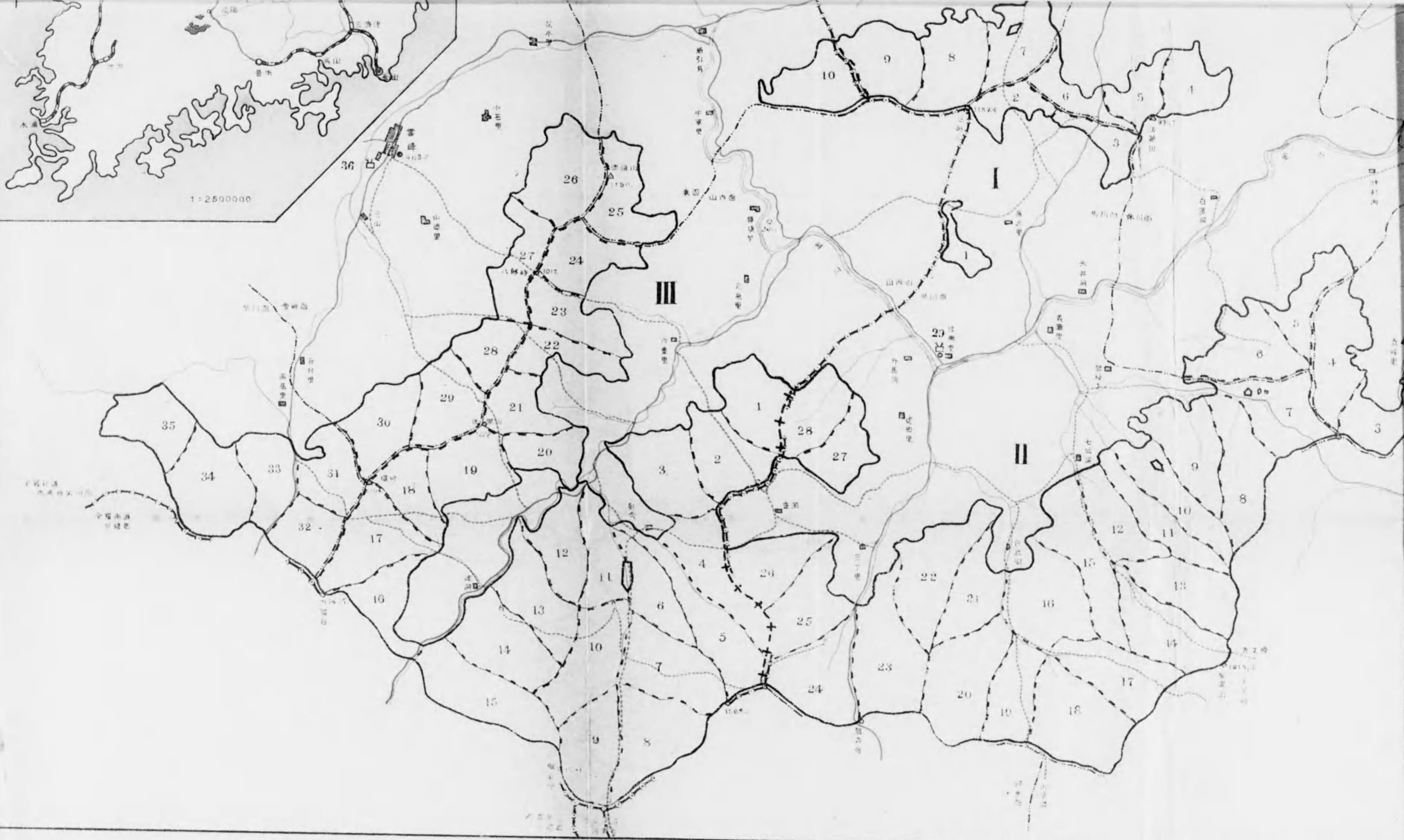
# 朝鮮演習林











1:2500000

III

II

I

平遥县  
介休县  
沁源县

襄汾县  
洪洞县

临汾县  
曲沃县  
翼城县

侯马市  
曲阳县

洪洞县  
襄汾县

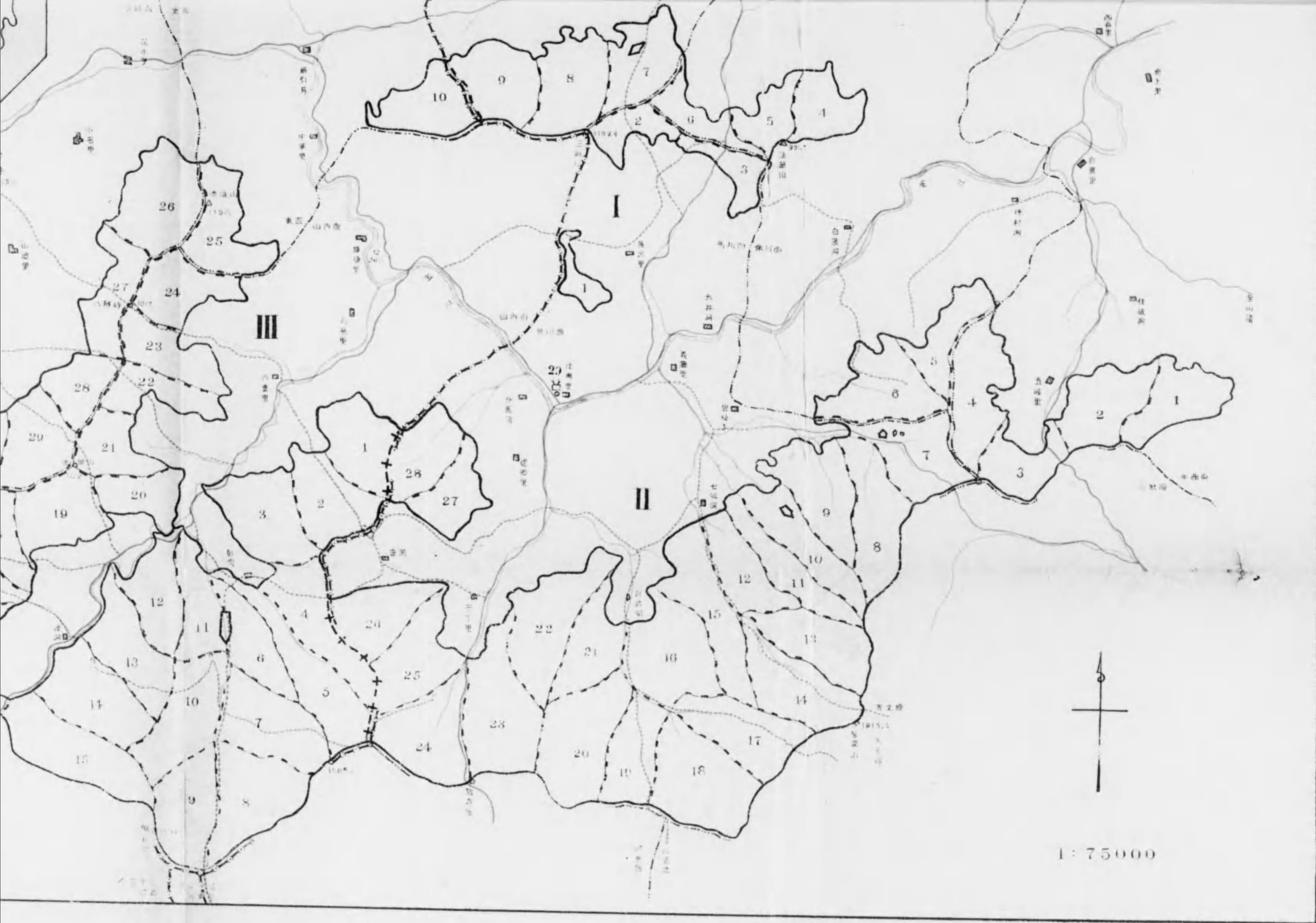
侯马市  
曲阳县

临汾县  
曲沃县

临汾县  
曲沃县

侯马市  
曲阳县



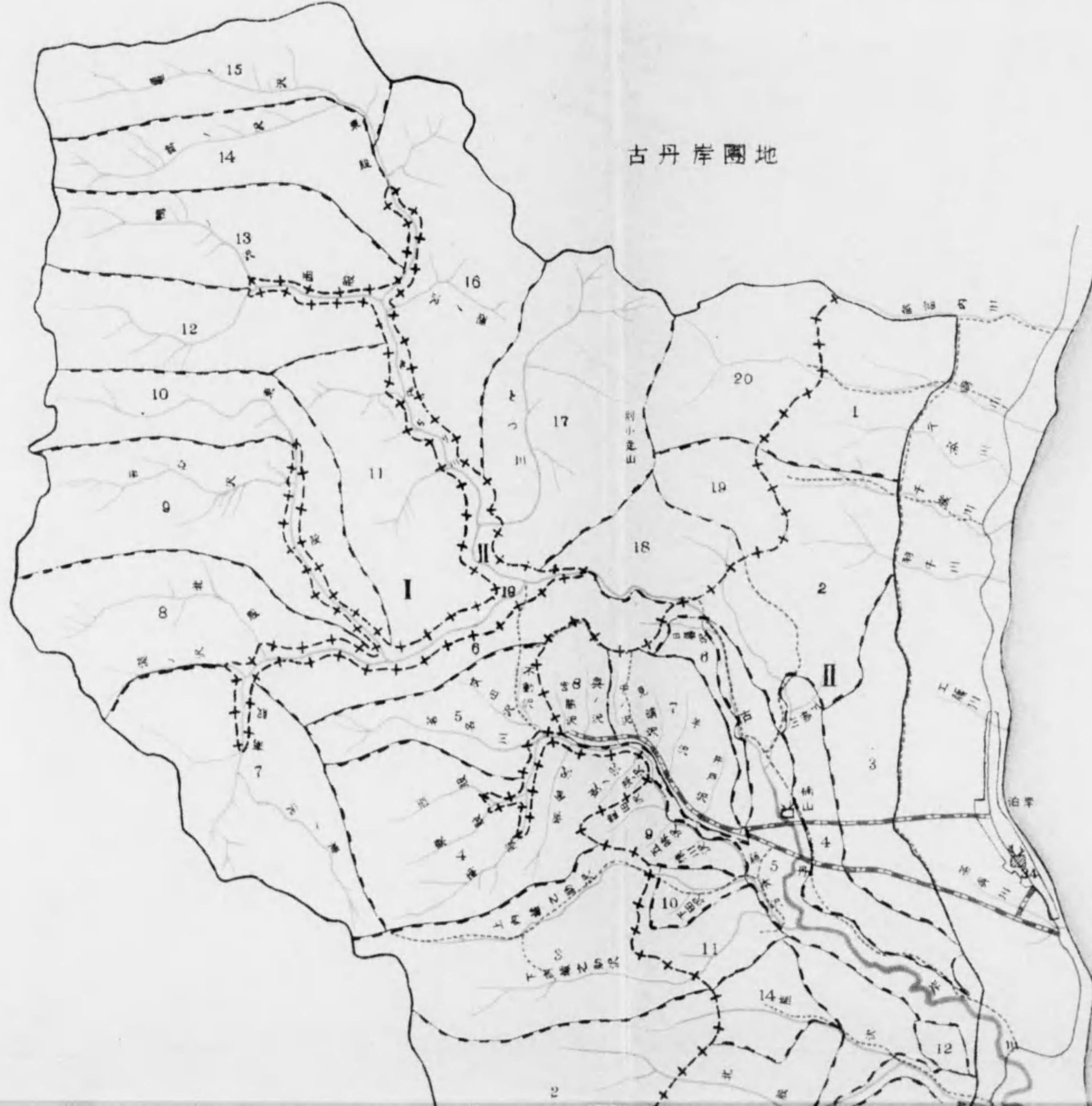




# 樺太演習林

古丹岸團地

1:80,000





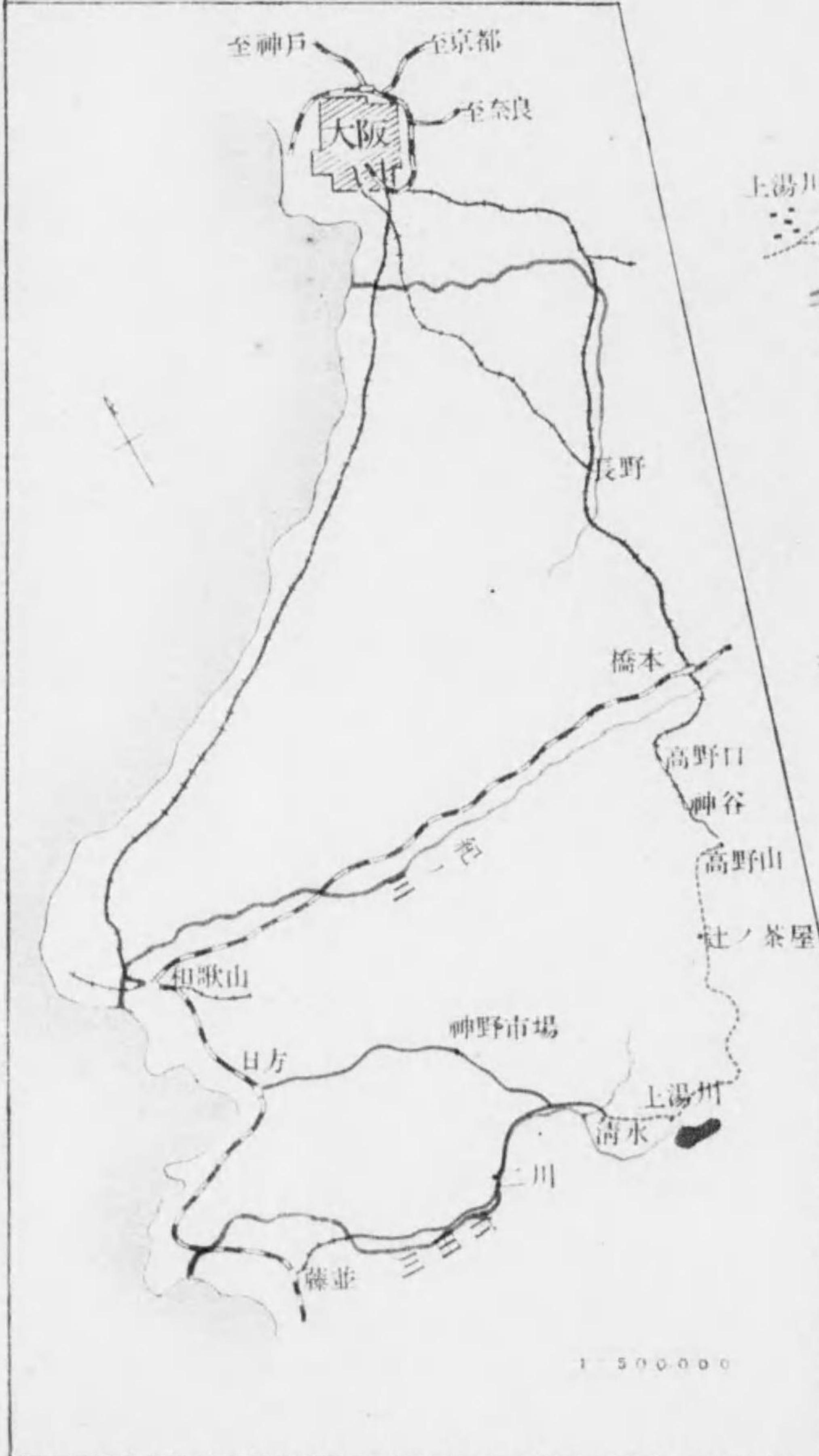




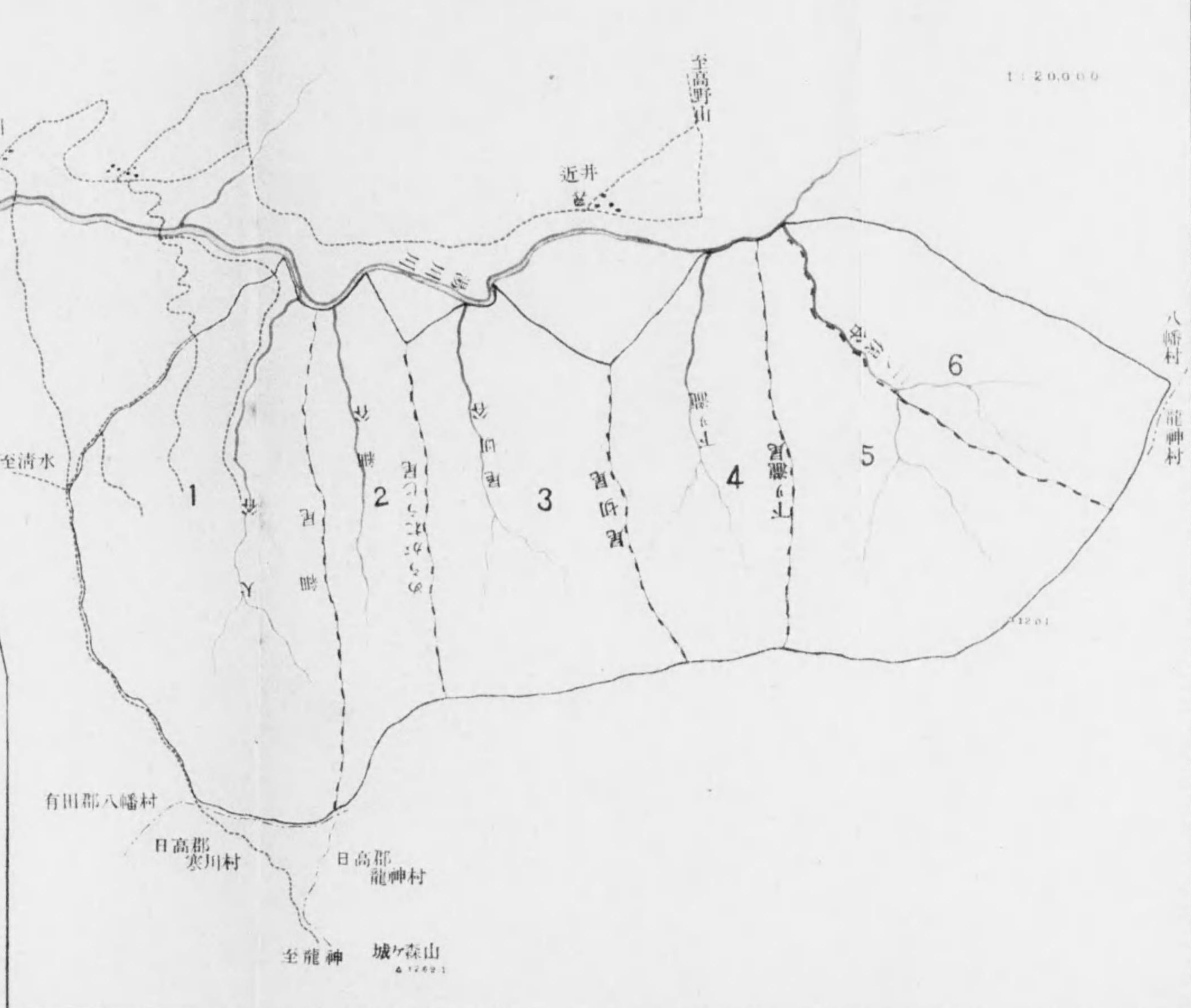
# 和歌山演習林



1:20,000



1:50,000

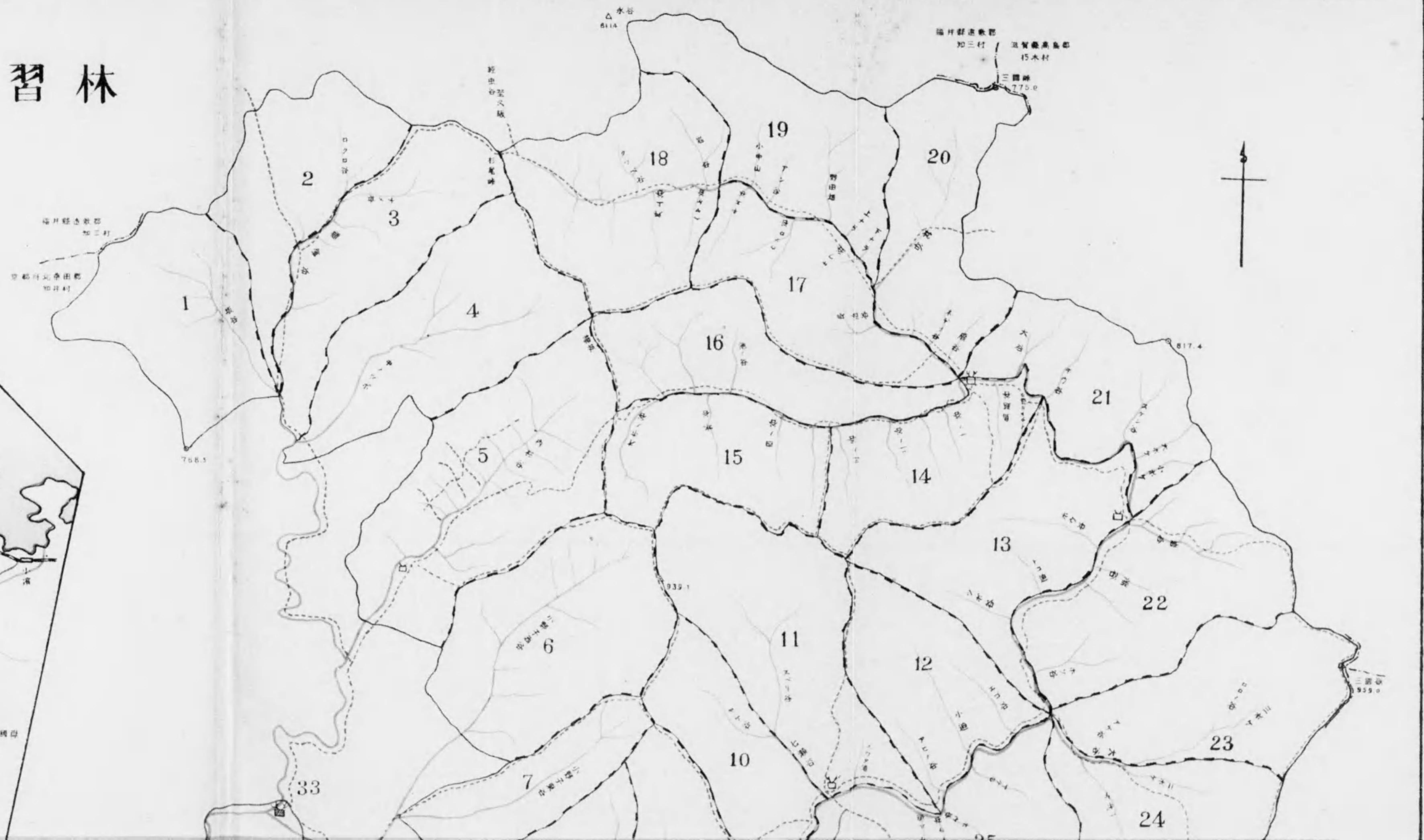




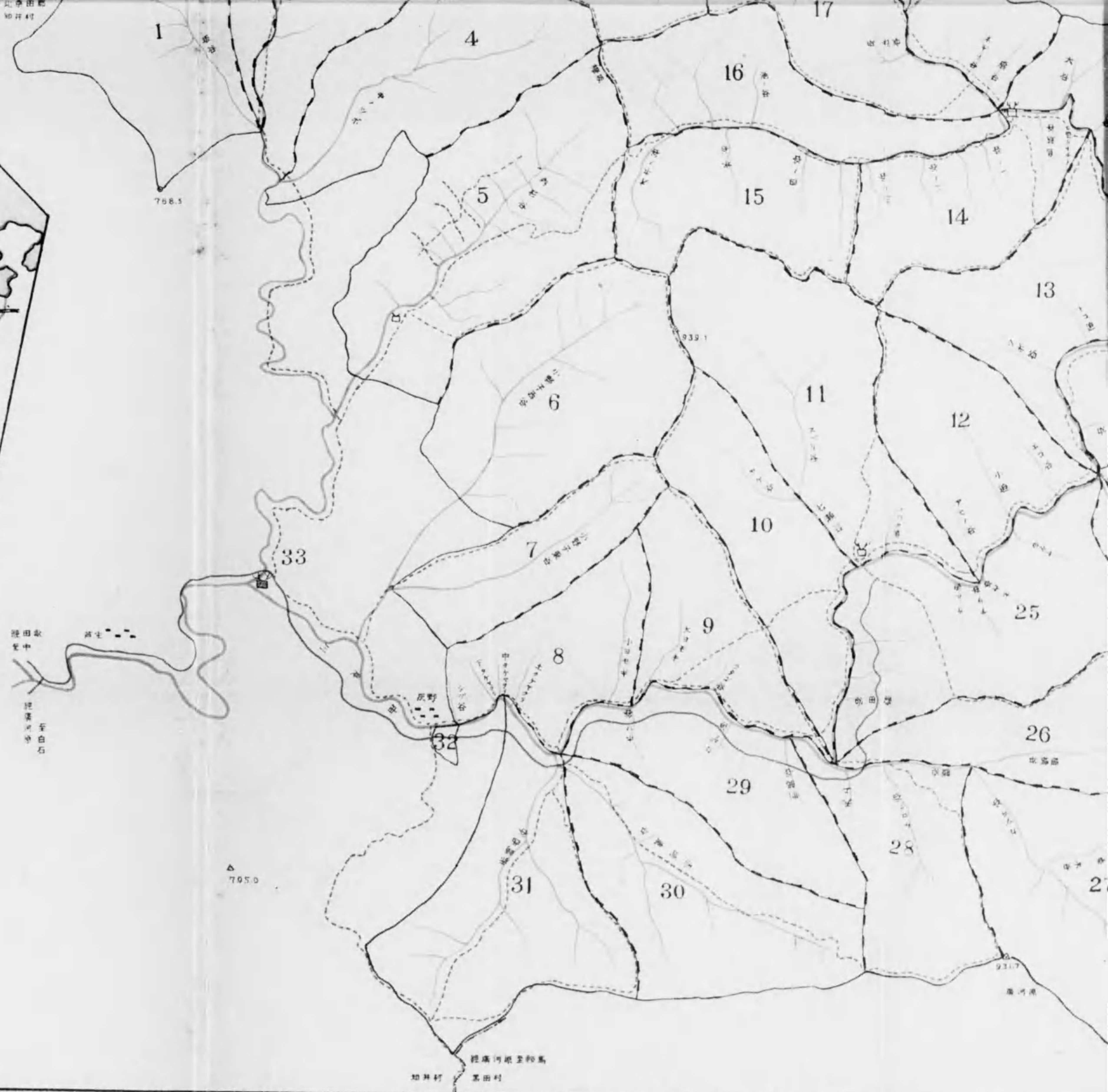
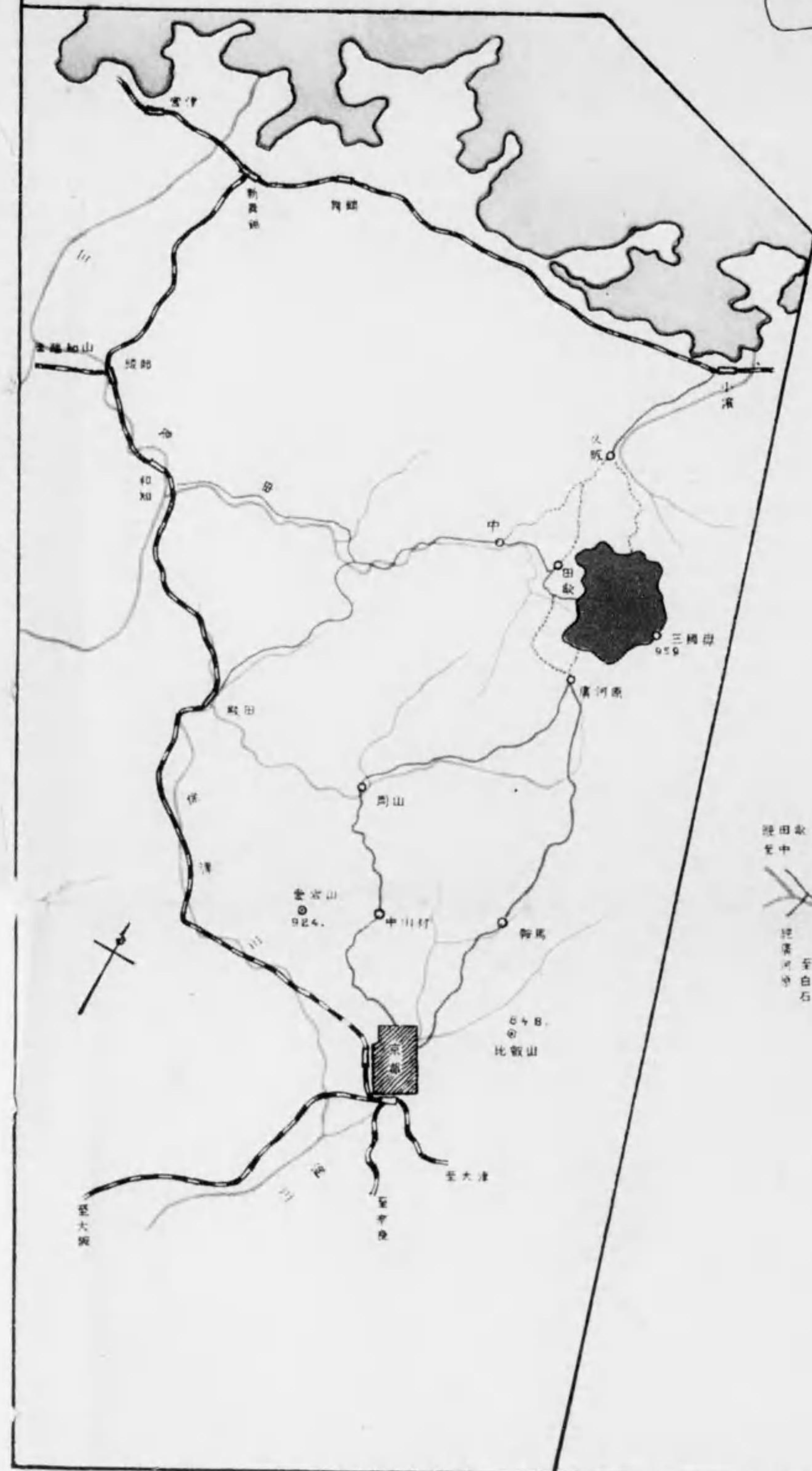




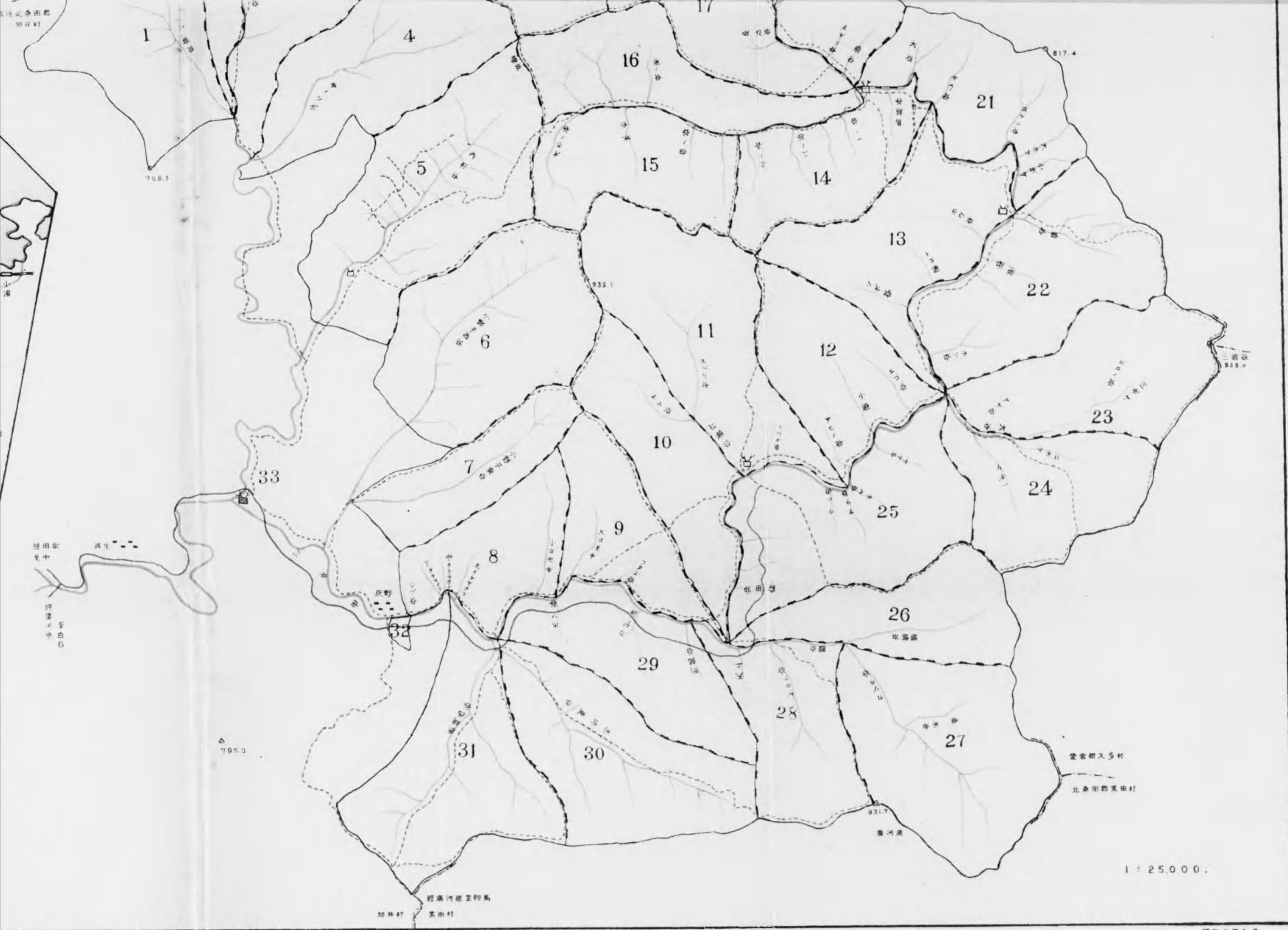
# 習林













# 上賀茂試験地



1:1,000